يابانـي

聖クルアーン 最後の１０分の１ 解説

そして

ムスリムの人生における重要な諸問題について

www.tafseer.info

まえがき

慈悲遍く慈愛深きアッラーの御名において。

全ての称賛はアッラーに属します。我々の指導者であるアッラーの使徒と彼の家族、教友たちにアッラーによる平安と祝福がありますように。

さて私のムスリム兄弟・姉妹よ。アッラーがあなた方に慈悲深くあられますように。我々にとって、次の四つの事柄を知ることは義務です。

❶第一に知識です。その知識とは、全知全能にして荘厳であるアッラーについての知識であり、預言者についての知識であり、イスラームの教えについての知識です。無知の中でアッラーを崇拝することは認められず、誰であれそうする者は逸脱しており、キリスト教徒を彷彿とさせます。

❷第二に行動です。知識を持ち合わせてはいてもそれを履行しない者は、ユダヤ教徒を彷彿とさせます。なぜなら彼らは知識を持ち合わせてはいても、それに応じて行動しなかったからです。無知であれば、アッラーが見逃してくれるであろうという思い込みを抱くよう欺き、その知識を得ることに関して思いとどまらせることは悪魔の誘惑の一つです。もしも彼にその能力があるにも関わらず、故意に知識から離れるのであれば、それは彼に対する(罰の)証拠が確立されるということです。これは、悪魔がノアの民に対して仕掛けた罠であり、アッラーはそのことをクルアーンの中で記述しています。彼らは証拠が彼ら自身に対して確立されることのないよう嘆願するため、"...自分たちの耳に指を突っ込み、衣服で彼ら自身を覆った"のです。

❸第三は、イスラームの知識と実践を呼びかけ、伝道することです。学者と伝道者たちは、預言者の後継人なのです。至高なるアッラーが古代イスラエル人を呪われたのは、彼らが、"彼ら自身で行なっている悪行を他者に禁じ"ていたからなのです。

イスラームへと呼びかけ、それを教えることは集団義務であり、その集団の一部でもこの義務を果たすのであれば、誰も咎められることはありません。しかし集団内の一人もそれを行なわなければ、その集団に属する全員にその責任があることになります。

❹第四には、知識の習得、実践、他者への教育と呼びかけに伴うかも知れぬ危害に対しての辛抱、そして、忍耐心を持つことです。

知識を広め人々を無知から解放し、彼らにとって義務である知識の探求への道を容易にするという高潔な行為にあずかるため、我々はこの簡明な本に全ての人々に必要なイスラームに関する最低限の知識と共に、聖クルアーンの最後の三部(ジュズ)の解釈を収集しました。何かにおいて全てを学ぶことは出来なかったとしても、そのことがその多くを放棄してしまう言い訳には繋がりません。

我々はこの本全体において、正確かつ簡明であることを心がけ、預言者ﷺの伝承に関しても真正な物のみを記載しました。しかしながら、決して我々がこの小冊子を完璧なものにしたなどという主張はしません。というのもそれは預言者ﷺの特性の一つであるからです(アッラーは、彼がアッラーとイスラームについて語ることに関し、彼を理解と判断に誤りがないとされています)。もしも我々の主張が正しければ、それはアッラーによるものであり、我々の主張が間違っていれば、それは我々自身によるもの、または悪魔によるものです。そしてアッラーとかれの使徒はそういったことから無縁かつ潔白です。建設的な批評により、我々の過ちを正してくれる者たちにアッラーのご慈悲がありますように。

我々は至高なるアッラーに、この作品の準備、出版、配布に関わった全ての人々が報われるように祈ります。そしてアッラーが彼らの善行をお受け入れになり、彼らへの祝福を倍増されることを切に願います。

全ての知識はアッラーにあります。我々の指導者である預言者ムハンマドﷺと彼の家族、教友たちに平安と祝福あれ。尚この本は世界各国の、多数のムスリム学者により推奨されています。

クルアーン朗誦の徳

アッラーにこそすべての称賛あれ。私たちの指導者であるアッラーの使徒、そして彼のご家族全員と教友たちにアッラーの祝福がありますように。

さて:

聖クルアーンはアッラーの御言葉であります。被創造物の言葉に対する聖クルアーンの優越性は、創造物に対するアッラーの優越性に類似します。聖クルアーンの朗誦に費やされる舌の動きは、舌によって行なうことの出来る最もよい行ないでしょう。

聖クルアーンの教習、そして朗誦には、多くの徳があります。以下はそのうちの一部です。

教えることに対する報奨:預言者ﷺはこのように言われました。“あなたがたの中、最も優れた者とは、クルアーンを学び、それを教える者である” (アル=ブハーリー)。

朗誦に対する報奨:預言者ﷺはこのように言われました。“誰であれ、アッラーの書から一文字を読む者には一つの善行があるだろう。そしてその善行は十倍に増加されるだろう。”(アッ=ティルミズィー)。

聖クルアーンの学習、暗記、そして朗誦に秀でていることの報奨:預言者ﷺはこのように言われています。“暗記をした上でクルアーンの朗誦をする者には高貴で従順な天使たちが付き添うであろう。そして暗記に苦心しながらもクルアーンを朗誦する者は、二つの報奨を受けるであろう。”(アル=ブハーリーとムスリム)また、彼はこうも言われています。“その教えを実践した上でクルアーンを朗誦する者は、(楽園において)こう言われるだろう。あなたが現世でそうしたように読め、昇れ、そして美化するのだ。実に、あなたが最後に読んだ節、そしてあなたの地位は同じなのだ”(アッ=ティルミズィー)。

アル=ハッタービーは述べています。伝承によれば、楽園における階級の数はクルアーン中の節の数と同じであり、朗誦者はこう言われるであろうとされています。あなたがクルアーンで朗誦していた数と同じ数の階級を昇りなさい、と。クルアーンを完全に朗誦した者は、来世においては最上階へ昇り、一部のみを朗誦した者は、彼らが最後に朗誦した節とその報奨が同じになるまで、それに応じて昇るのです。

自分の子供にクルアーンを教える報奨:預言者ﷺはこのように言われています。“クルアーンを読み、学び、その教えを実践する者は、自らの両親の頭上に太陽のように明るい光の冠を被せるのだ。彼は現世における全てのものよりも価値のある衣服を自らの両親に着せる。彼らは尋ねる。‘なぜ私たちはこのような衣服を着せられたのですか?そして彼らはこう言われるであろう。‘あなたがたの子供がクルアーンに払った敬意のためである。’”(アル=ハーキム)。

来世における、朗誦者に対するクルアーンの執り成し:預言者ﷺはこのように言われています。“クルアーンを朗誦するのだ。それは復活の日にその朗誦者を執り成すであろう”(ムスリム)。彼ﷺはこのようにも言われています。“斎戒とクルアーンの朗誦は、それを行なった敬虔なしもべを復活の日に執り成すであろう”(アハマド、アル=ハーキム)。

クルアーン朗誦と学習のために集う者たちの報奨:預言者ﷺは言われています。“アッラーの家(モスク)に集い、アッラーの書を朗誦し、自分たちでそれを学ぶ者たちには安楽が彼らに降り、慈悲が彼らを覆い、天使たちが彼らを囲む。そしてアッラーはかれの取り巻

きに、彼らのことを触れるのである。” （アブー・ダーウード）。

クルアーン朗誦の作法：イブン・カスィールはその作法に触れており、以下はそれらの一部です。

* 清浄の状態にない限り、クルアーンに触れること、また朗誦をすべきでない。
* 朗誦前はスィワークを用いて歯を磨くべきである。
* 朗誦時には最善の衣服を着用すべきである。
* 礼拝の方向（キブラ）を向くべきである。
* あくびの際には朗誦を中断すべきである。
* 必要でない限り、朗誦を中断して会話をすべきではない。
* 朗誦の内容に注意を払うべきである。
* 報奨に関する節では休止し、その報奨をアッラーに求めるべきである。
* 懲罰に関する節では休止し、それからの御加護をアッラーに求めるべきである。
* クルアーンを開いたままで放置、または上に何かを乗せるべきではない。
* 朗誦時に声を張り上げ、近隣の朗誦者たちを困惑させるべきではない。
* 市場や騒音の激しい場で朗誦すべきではない。

朗誦の作法：アナス﷛が預言者ﷺの朗誦に関して尋ねられた際、彼はこう答えています。 彼は発声を延ばしていました。彼がビスミッラーヒッ＝ラフマーニッ＝ラヒームと読んだ際には、アッラー、アッ＝ラフマーン、そして、アッ＝ラヒームの箇所を引き延ばしました（アル＝ブハーリー）。

報奨の増大：純粋にアッラーのためにクルアーンの朗誦を行なうすべての者は報奨を受けますが、朗誦に対する注意、熟慮、理解が伴うとその報奨は増大します。このようにして行うことにより、それぞれの文字を朗誦するにあたって、10倍から700倍の報奨があるのです。

日々の朗誦：預言者ﷺの教友たちはクルアーンを日々朗誦しており、１週間以内にクルアーン全体の朗誦を終わらせるという習慣を持つ者はいませんでした。実際、３日以内に完了させることは禁じられていました。親愛なる兄弟姉妹の皆様。クルアーンの朗誦に時間を費やしてください。決められた量の朗誦を日課として心がけ、何が起きてもそれを止めるべきではありません。なぜなら日課として朗誦される少しの量は、時折朗誦される多くの量よりも良いからです。もしもそれを忘れた場合、または眠りに落ちた場合、翌日にそれをやり直すべきです。預言者ﷺはこう言われています。 “誰であれ、眠りに落ちてクルアーンの一部を朗誦出来ず、翌日のファジュルとズフルの間にやり直した者は、それを前夜に読んだと記録されるであろう。”（ムスリム）。

開端章
(アル=ファーティハ章)

سورة الفاتحة

1慈悲遍く慈愛深きアッラーの御名においてこの章はクルアーンの冒頭に位置づけられていることから「クルアーンの開端」とも呼ばれる。また礼拝の各ラクアで読まれることから「繰り返されるもの」との別名もあるが、その他にも様々な名称がある。この節の意味は、私はアッラーにご援助を乞いつつ、かれの御名においてクルアーン読誦を始める、というもの。「アッラー」は至高なる主の固有名詞であり、真に崇拝されるべき唯一の存在のことを指す。この名称はアッラーの数多い美名の中でも特別なものであり、かれ以外のいかなるものもこの名称で呼ばれることはない。「慈悲遍き御方(アッ=ラフマーン)」とは全ての創造物に向けられる広い意味での慈悲を有する御方で、「慈愛深き御方(アッ=ラヒーム)」は信仰者のみを対象とした限定的な慈悲を有する御方、という意味。これら二つはアッラーの美名であり、アッラーにはその荘厳さにふさわしい形における慈悲という属性があることを示している。

2万有の主アッラーに讃えあれ。(万の主アッラーに讃えあれ)とは、かれの全ての完全な属性と、その目に見える恩恵と隠された恩恵、そしてその現世での恩恵と来世における恩恵ゆえにかれを讃美すること。またここにはしもべに対し、かれを讃美することを命じる意味も含まれている。かれこそは唯一真の讃美に値する創造主であり、全ての創造物をその恩恵でもって司り養育される御方である。またかれはかれに近しい敬虔な者たちに、信仰心と善行を授けられる。

3慈悲遍く慈愛深き御方。「慈悲遍き御方(アッ=ラフマーン)」とは全ての創造物を包含する慈悲を有する御方で、「慈愛深き御方(アッ=ラヒーム)」は信仰者のみを対象とする慈悲を有する御方、という意味。いずれも至高のアッラーの美名。

4審判の日の王。行為に対する報奨の日である審判の日、アッラーこそは唯一かつ真の主宰者である。ムスリムはこの節を礼拝の全ラクアにおいて読むが、ここには最後の日の想起を始め、善行でもってその日に準備することへの勧めと、アッラーへの不服従と悪行の抑制といった効果が潜んでいる。

5私たちはあなたをこそ崇拝し、あなたにこそ御助けを請い願う。私たちはあなた(アッラー)のみを崇拝行為の唯一の対象として服従し、全ての事柄において援助を乞う唯一の対象とする。というのも全ての物事はかれの御手に委ねられているのであり、そこにおいてはかれ以外のいかなる者も、蟻一匹の重さほどの権威も有していないからである。この節には祈願や、かれのみが権威を有することに関しての援助の懇願、崇拝行為としての犠牲の屠殺や周回行為などのいかなる崇拝行為も、かれ以外のものに対して行ってはいけないという法的根拠が含まれている。またこの節にはアッラー以外のものへの執着や、見栄や自惚れ、驕慢さなどの病に対する癒しがある。

6私たちを、正しき道へお導き下さい。あなたと謁見するその日まで、私たちに真っ直ぐな正しい道-イスラーム-を示し、私たちをそこへと導き、またそこにおいて堅固にして下さい。それこそはアッラーのご満足とその天国へと続く明白な道であり、最後の使徒であるムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)が示した道。しもべの幸福達成の道は、それでもって身を正し、かつそれを実践・体現することによってのみしかありえないのである。

7あなたが恩寵を授けられた者たちの道へ。あなたのお怒りを受けた者たちや、迷い去って

سُورَةُ المُجَادلَة

ترتيبها ٥٨ — آياتها ٢٢

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

قَدْ سَمِعَ اللَّهُ قَوْلَ الَّتِي تُجَادِلُكَ فِي زَوْجِهَا وَتَشْتَكِي إِلَى اللَّهِ
وَاللَّهُ يَسْمَعُ تَحَاوُرَكُمَا ۚ إِنَّ اللَّهَ سَمِيعٌ بَصِيرٌ ﴿١﴾ الَّذِينَ يُظَاهِرُونَ
مِنْكُمْ مِنْ نِسَائِهِمْ مَا هُنَّ أُمَّهَاتِهِمْ ۖ إِنْ أُمَّهَاتُهُمْ إِلَّا اللَّائِي
وَلَدْنَهُمْ ۚ وَإِنَّهُمْ لَيَقُولُونَ مُنْكَرًا مِنَ الْقَوْلِ وَزُورًا ۚ وَإِنَّ
اللَّهَ لَعَفُوٌّ غَفُورٌ ﴿٢﴾ وَالَّذِينَ يُظَاهِرُونَ مِنْ نِسَائِهِمْ ثُمَّ يَعُودُونَ
لِمَا قَالُوا فَتَحْرِيرُ رَقَبَةٍ مِنْ قَبْلِ أَنْ يَتَمَاسَّا ۚ ذَٰلِكُمْ تُوعَظُونَ
بِهِ ۚ وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ﴿٣﴾ فَمَنْ لَمْ يَجِدْ فَصِيَامُ شَهْرَيْنِ
مُتَتَابِعَيْنِ مِنْ قَبْلِ أَنْ يَتَمَاسَّا ۖ فَمَنْ لَمْ يَسْتَطِعْ فَإِطْعَامُ سِتِّينَ
مِسْكِينًا ۚ ذَٰلِكَ لِتُؤْمِنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ ۚ وَتِلْكَ حُدُودُ اللَّهِ ۗ
وَلِلْكَافِرِينَ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٤﴾ إِنَّ الَّذِينَ يُحَادُّونَ اللَّهَ وَرَسُولَهُ كُبِتُوا
كَمَا كُبِتَ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ ۚ وَقَدْ أَنْزَلْنَا آيَاتٍ بَيِّنَاتٍ ۚ وَلِلْكَافِرِينَ
عَذَابٌ مُهِينٌ ﴿٥﴾ يَوْمَ يَبْعَثُهُمُ اللَّهُ جَمِيعًا فَيُنَبِّئُهُمْ بِمَا
عَمِلُوا ۚ أَحْصَاهُ اللَّهُ وَنَسُوهُ ۚ وَاللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ شَهِيدٌ ﴿٦﴾

しまった者たちのそれではなく。預言者たち、信仰深い者たち、アッラーの道における殉教者、正しい者たちといった、あなたが特別に恩恵を授けられた者たちの歩んだ道へ。彼らこそは正しく導かれ、正しい実践を達成した者たちである。そしてユダヤ教徒や彼らと同様の状態にあるような、真理を知りつつもそれに則って実践をしなかったことで、アッラーのお怒りを買った者たちや、またキリスト教徒や彼らに倣った民のように正しく導かれなかったために迷い去ってしまった者たちの道を歩ませないで下さい。この節には不信仰や無知や迷妄などに対するムスリムの心の癒しや、イスラームの恩恵こそが最大の恩恵であるという根拠などが含まれている。それで真理を知り、それに追従する者こそは真っ直ぐな正しい道にある者なのであり、預言者ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の教友たちこそは、諸預言者に次いで最もそのような状態に近かった人々であったことに疑念の余地はない。ゆえにこの節は教友たちの徳と高い位階をも表している。またこの章を読誦し終えた後に、「アーミーン」と唱えることが推奨される。その意味は「アッラーよ、私たちのお祈りをお聞き届け下さい」というもので、これが章の一部でないことは学者の見解で一致している。この言葉がクルアーンの中に書面上記入されていないのは、こういう理由があるためである。

議論する女章
(アル＝ムジャーディラ章)

1アッラーは、その夫アウス・ブン・アッ＝サーミトにズィハールされたことに関して相談をした、ハウラ・ビント・サァラバの言葉を聞かれた。ズィハールとは、夫が妻に「あなたは私の母の背中のようだ。(つまり婚姻が合法でない関係)」という表現を用いて、離婚すること。彼女はその苦悩が解消されるべく至高のアッラーに必死に祈ったが、アッラーは彼らの間で交わされた会話や相談事をお聞きになられている。かれは全ての言葉をお聞きになり、全ての物事をご覧になられる御方。かれの知識を免れるものは何一つとしてない。

2妻をズィハールをする者たち、つまり妻に対して「あなたは私の母の背中のようだ。(つまり婚姻が合法でない関係)」という表現でもって離婚しようとする者たちは、アッラーに逆らい、またイスラーム法に背いている。彼らの妻が彼らの母親であるなどということはなく、彼女らは彼らの妻なのである。そして母親とは彼らを生んだ女性たちに他ならない。彼らズィハールをする者たちは何の根拠もない、ひどい嘘をついている。アッラーは、ある種の違反行為を犯した後に真摯に改悛をする者たちに関しては、非常にお赦し深い御方である。

3ズィハールによって妻を離婚し、その後にそれを撤回して以前通りの夫婦関係に戻ろうとする場合、夫は贖罪行為を行わなくてはならない。つまり彼女と肉体関係を取り戻す前に、性別を問わず、信仰者の奴隷一人を解放しなければならない。信仰者よ、これを戒めとするのだ。これが妻をズィハールした者に関する定め。これはあなた方がズィハールを犯したり、虚言を吐いたりしないようにするためのもの。そしてもしズィハールをしてしまったら、それを再び犯してしまわないよう、贖罪をするのだ。アッラーはあなた方の全ての行いをご覧になられており、そしてそれでもってあなた方にお報いになられる。

4しかし解放するための奴隷がいないような場合、妻と交わる前に連続して二ヶ月間のサウ

أَلَمْ تَرَ أَنَّ ٱللَّهَ يَعْلَمُ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلْأَرْضِ مَا يَكُونُ
مِن نَّجْوَىٰ ثَلَٰثَةٍ إِلَّا هُوَ رَابِعُهُمْ وَلَا خَمْسَةٍ إِلَّا هُوَ سَادِسُهُمْ
وَلَآ أَدْنَىٰ مِن ذَٰلِكَ وَلَآ أَكْثَرَ إِلَّا هُوَ مَعَهُمْ أَيْنَ مَا كَانُوا۟ ثُمَّ يُنَبِّئُهُم
بِمَا عَمِلُوا۟ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ إِنَّ ٱللَّهَ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿٧﴾ أَلَمْ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ
نُهُوا۟ عَنِ ٱلنَّجْوَىٰ ثُمَّ يَعُودُونَ لِمَا نُهُوا۟ عَنْهُ وَيَتَنَٰجَوْنَ بِٱلْإِثْمِ
وَٱلْعُدْوَٰنِ وَمَعْصِيَتِ ٱلرَّسُولِ وَإِذَا جَآءُوكَ حَيَّوْكَ بِمَا لَمْ يُحَيِّكَ
بِهِ ٱللَّهُ وَيَقُولُونَ فِيٓ أَنفُسِهِمْ لَوْلَا يُعَذِّبُنَا ٱللَّهُ بِمَا نَقُولُ حَسْبُهُمْ
جَهَنَّمُ يَصْلَوْنَهَا فَبِئْسَ ٱلْمَصِيرُ ﴿٨﴾ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ إِذَا
تَنَٰجَيْتُمْ فَلَا تَتَنَٰجَوْا۟ بِٱلْإِثْمِ وَٱلْعُدْوَٰنِ وَمَعْصِيَتِ ٱلرَّسُولِ وَتَنَٰجَوْا۟
بِٱلْبِرِّ وَٱلتَّقْوَىٰ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ ٱلَّذِيٓ إِلَيْهِ تُحْشَرُونَ ﴿٩﴾ إِنَّمَا ٱلنَّجْوَىٰ
مِنَ ٱلشَّيْطَٰنِ لِيَحْزُنَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَلَيْسَ بِضَآرِّهِمْ شَيْـًٔا
إِلَّا بِإِذْنِ ٱللَّهِ وَعَلَى ٱللَّهِ فَلْيَتَوَكَّلِ ٱلْمُؤْمِنُونَ ﴿١٠﴾ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ
ءَامَنُوٓا۟ إِذَا قِيلَ لَكُمْ تَفَسَّحُوا۟ فِي ٱلْمَجَٰلِسِ فَٱفْسَحُوا۟ يَفْسَحِ
ٱللَّهُ لَكُمْ وَإِذَا قِيلَ ٱنشُزُوا۟ فَٱنشُزُوا۟ يَرْفَعِ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟
مِنكُمْ وَٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْعِلْمَ دَرَجَٰتٍ وَٱللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ﴿١١﴾

ム（斎戒）を行わなければならない。もし正当な理由ゆえにそれが出来ない場合は、60人の貧者に十分な食事を振舞う。これがズィハールの規定に関して、あなた方に明らかにされたもの。そしてこれはあなた方がアッラーを信仰し、その使徒に追従し、アッラーが定めたものに則って行い、イスラーム以前の無明時代の慣習を放棄するためのものなのである。ここに述べられた法規定はアッラーのご命令であり定めなのであるから、違反してはならない。そしてそれを認めない者には痛ましい懲罰が待っている。

5アッラーとその使徒に敵対し、その命令に反する者は屈辱と不名誉の憂き目を見る。それはちょうど、アッラーとその使徒たちに敵対した彼ら以前の民が辱めを受けたことと同様である。アッラーは、その法と定めの真実性を示す明瞭な証拠を下した。そしてそれらのみしるしを否定する者たちには、地獄における屈辱的な懲罰がある。

6預言者よ、審判の日を想起するのだ。その日全人は蘇らされ、昔の者も後世の者も、皆一つの台地に召集される。そこでアッラーは現世での全ての善行と悪行をお告げになり、全てを数え上げられる。彼らはそれを忘れてしまっているが、それらのことは既にアッラーが定命の碑板に書き込まれ、更に行いの帳簿に記録されたことである。アッラーは全てをご覧になられ、何もかれから免れる事が出来るものはない。

7あなたは至高のアッラーが天地にある全ての物事をご存知であられることを、知らないのか？かれの創造物である三人の者が内緒話などしたところで、かれがその知をもってその四人目としてそこにおられないことはない。それが五人であれ六人であれ、あるいはそれ以上であれ以下であれ、また彼らがいかなる場所にあろうとも、彼らの密談は全てご承知なのである。そして審判の日には彼らが行っていた善事や悪事を告げ聞かせられ、それでもってお報いになられる。かれの御知識は全てを網羅しているのだ。

8預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）よ、信仰者の心に疑念を抱かさせる目的で内緒話をすることを禁じられたにも関わらず、再びその行為を犯すユダヤ教徒らを見ないのか？彼らは使徒に関する諸事における罪や敵対意識、不服従と見なされることを秘密裏に話し合っているではないか？そして彼らが何かの用事であなたのもとにやって来る時には、アッラーがあなたに命じられた挨拶ではないものでもって挨拶する。つまり「あなたにサラーム（平安）があるように」と挨拶するように見せかけて、「あなたにサーム（死）があるように」と言う。そして彼らの間で、こう言っているのだ。「もしムハンマドが本当に預言者であるなら、私たちの言葉ゆえに、アッラーに私たちに対する懲罰を下させてみるがよい。」彼らは地獄の業火に放り込まれ、その灼熱を味わわせるだけで十分なのである。それは何と悪い帰りであることか。

9アッラーとその使徒を信じ、その法に沿って行う者たちよ。あなた方の間で密談する際には、罪深い話や同胞に対する敵対心、使徒への不服従などに関して話し合うのではない。しかし良いことやアッラーとその使徒への服従、慈善について話し合うのだ。そしてアッラーのご命令を遂行し、かれが禁じられることを回避することによってかれを畏れよ。あなた方の還り所はかれの御許の他にはあらず、かれこそはあなた方の全ての言葉と行為を数え上げられる御方であり、そしてそれでもってあなた方の行いに報われるのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِذَا نَٰجَيۡتُمُ ٱلرَّسُولَ فَقَدِّمُواْ بَيۡنَ يَدَيۡ نَجۡوَىٰكُمۡ
صَدَقَةٗۚ ذَٰلِكَ خَيۡرٞ لَّكُمۡ وَأَطۡهَرُۚ فَإِن لَّمۡ تَجِدُواْ فَإِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٞ رَّحِيمٌ
﴿١٢﴾ ءَأَشۡفَقۡتُمۡ أَن تُقَدِّمُواْ بَيۡنَ يَدَيۡ نَجۡوَىٰكُمۡ صَدَقَٰتٖۚ فَإِذۡ لَمۡ تَفۡعَلُواْ
وَتَابَ ٱللَّهُ عَلَيۡكُمۡ فَأَقِيمُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتُواْ ٱلزَّكَوٰةَ وَأَطِيعُواْ ٱللَّهَ
وَرَسُولَهُۥۚ وَٱللَّهُ خَبِيرُۢ بِمَا تَعۡمَلُونَ ﴿١٣﴾ ۞ أَلَمۡ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ تَوَلَّوۡاْ قَوۡمًا
غَضِبَ ٱللَّهُ عَلَيۡهِم مَّا هُم مِّنكُمۡ وَلَا مِنۡهُمۡ وَيَحۡلِفُونَ عَلَى ٱلۡكَذِبِ
وَهُمۡ يَعۡلَمُونَ ﴿١٤﴾ أَعَدَّ ٱللَّهُ لَهُمۡ عَذَابٗا شَدِيدًاۖ إِنَّهُمۡ سَآءَ مَا كَانُواْ
يَعۡمَلُونَ ﴿١٥﴾ ٱتَّخَذُوٓاْ أَيۡمَٰنَهُمۡ جُنَّةٗ فَصَدُّواْ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ فَلَهُمۡ
عَذَابٞ مُّهِينٞ ﴿١٦﴾ لَّن تُغۡنِيَ عَنۡهُمۡ أَمۡوَٰلُهُمۡ وَلَآ أَوۡلَٰدُهُم مِّنَ ٱللَّهِ
شَيۡـًٔاۚ أُوْلَٰٓئِكَ أَصۡحَٰبُ ٱلنَّارِۖ هُمۡ فِيهَا خَٰلِدُونَ ﴿١٧﴾ يَوۡمَ يَبۡعَثُهُمُ
ٱللَّهُ جَمِيعٗا فَيَحۡلِفُونَ لَهُۥ كَمَا يَحۡلِفُونَ لَكُمۡ وَيَحۡسَبُونَ أَنَّهُمۡ عَلَىٰ شَيۡءٍۚ أَلَآ
إِنَّهُمۡ هُمُ ٱلۡكَٰذِبُونَ ﴿١٨﴾ ٱسۡتَحۡوَذَ عَلَيۡهِمُ ٱلشَّيۡطَٰنُ فَأَنسَىٰهُمۡ ذِكۡرَ
ٱللَّهِۚ أُوْلَٰٓئِكَ حِزۡبُ ٱلشَّيۡطَٰنِۚ أَلَآ إِنَّ حِزۡبَ ٱلشَّيۡطَٰنِ هُمُ ٱلۡخَٰسِرُونَ
﴿١٩﴾ إِنَّ ٱلَّذِينَ يُحَآدُّونَ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥٓ أُوْلَٰٓئِكَ فِي ٱلۡأَذَلِّينَ ﴿٢٠﴾
كَتَبَ ٱللَّهُ لَأَغۡلِبَنَّ أَنَا۠ وَرُسُلِيٓۚ إِنَّ ٱللَّهَ قَوِيٌّ عَزِيزٞ ﴿٢١﴾

10預言者に対しての罪や敵対行為に関して密談することは、シャイターンの誘惑である。シャイターンこそは信仰者の心に悲しみを投じるために、そのような行いへ人を連れ出し、追いやるのである。しかし至高のアッラーの御意志に適わない限り、そのようなことが信仰者を害するようなことなどはない。信仰者には、アッラーのみに全ての物事を委ねさせよ。

11アッラーとその使徒を信じ、その法に則って行う者たちよ。会合の場で場所を詰めるように言われたら、互いに詰め合って他の者のために場所を作ってやるのだ。そうすればアッラーもまた、あなた方に現世と来世においてあなた方の場所を広げて下さるであろう。そして - 信仰者たちよ - あなた方にとって有益なことのために会合の場を立ち上がるように命じられたら、そうするのだ。アッラーは報奨とそのご満悦に関して、あなた方の内の真摯な信仰者と、学識のある者の位階を上げられる。至高のアッラーの御知識を免れるものは何一つとしてなく、かれはあなた方の行いを熟知しており、そしてそれでもってあなた方に報われるのだ。尚この節には、学者の地位と徳、その高い位階が言及されている。

12アッラーとその使徒を信じ、その法に則って行う者たちよ。あなた方が使徒に内緒で何か相談したいことがあったら、その前に恵まれない者へ施しをせよ。それこそはそうすることによって得られる報奨と、あなた方の心を罪から浄化するゆえに最善なのである。しかしもし施すだけのものを所有していなければ、施しをせずに彼に相談しても問題はない。実にアッラーは信仰者のしもべに対してお赦し深く、慈悲深い御方であられる。

13あなた方は、アッラーの使徒への相談の前に施しをすることによって貧困に陥ることを恐れたのか？しかしもしそうすることが出来ず、アッラーがそのことをお赦しになり、またそれを免除されたのなら、礼拝を遵守し、定めの喜捨を払い、アッラーとその使徒に全ての命令において服従するのだ。アッラーはあなた方の行いを熟知されており、それでもってあなた方に報われる。

14ユダヤ教徒を友とし、彼らと懇意にする偽信者たちを見ないのか？偽信者たちは実際のところユダヤ教徒でもなければ、ムスリムでもない。彼らは自分たちがムスリムであり、あなたがアッラーの使徒であると嘘の宣誓をする。しかし彼らは自分たちが誓っていることにおいて、嘘をついていることを知っているのだ。

15アッラーは彼ら偽信者たちに、この上なく激しく痛烈な懲罰をご用意された。偽信と嘘の誓いを始め、彼らの行いは何と悪いことであろう。

16偽信者たちは嘘の誓いでもって不信仰ゆえに殺されることから身を守り、ムスリムたちが彼らと戦い、彼らの財産を戦利品とすることを阻止しようとした。そしてそれゆえに彼ら自身と他の人々をアッラーの道 - つまりイスラーム - から遠ざけようとした。彼らはアッラーとその使徒の信仰を驕慢さゆえに拒否し、人々をその道から遠ざけようとしたことにより、地獄の業火における屈辱的な懲罰を受けることになる。

17偽信者の財産や子孫が、彼らをアッラーの懲罰から救ってくれることなどはない。彼らは地獄の徒なのであり、そこに永遠に留まり、救い出されることもない。これは、言葉や行いに

لَا تَجِدُ قَوْمًا يُؤْمِنُونَ بِٱللَّهِ وَٱلْيَوْمِ ٱلْءَاخِرِ يُوَآدُّونَ مَنْ
حَآدَّ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ وَلَوْ كَانُوٓا۟ ءَابَآءَهُمْ أَوْ أَبْنَآءَهُمْ
أَوْ إِخْوَٰنَهُمْ أَوْ عَشِيرَتَهُمْ ۚ أُو۟لَـٰٓئِكَ كَتَبَ فِى قُلُوبِهِمُ
ٱلْإِيمَـٰنَ وَأَيَّدَهُم بِرُوحٍ مِّنْهُ ۖ وَيُدْخِلُهُمْ جَنَّـٰتٍ تَجْرِى
مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَـٰرُ خَـٰلِدِينَ فِيهَا ۚ رَضِىَ ٱللَّهُ عَنْهُمْ وَرَضُوا۟
عَنْهُ ۚ أُو۟لَـٰٓئِكَ حِزْبُ ٱللَّهِ ۚ أَلَآ إِنَّ حِزْبَ ٱللَّهِ هُمُ ٱلْمُفْلِحُونَ ٢٢

ترتيبها ٥٩ سُورَةُ الحَشْرِ آياتها ٢٤

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَـٰنِ ٱلرَّحِيمِ

سَبَّحَ لِلَّهِ مَا فِى ٱلسَّمَـٰوَٰتِ وَمَا فِى ٱلْأَرْضِ ۖ وَهُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْحَكِيمُ
١ هُوَ ٱلَّذِىٓ أَخْرَجَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ مِنْ أَهْلِ ٱلْكِتَـٰبِ مِن دِيَـٰرِهِمْ
لِأَوَّلِ ٱلْحَشْرِ ۚ مَا ظَنَنتُمْ أَن يَخْرُجُوا۟ ۖ وَظَنُّوٓا۟ أَنَّهُم مَّانِعَتُهُمْ
حُصُونُهُم مِّنَ ٱللَّهِ فَأَتَىٰهُمُ ٱللَّهُ مِنْ حَيْثُ لَمْ يَحْتَسِبُوا۟ ۖ وَقَذَفَ
فِى قُلُوبِهِمُ ٱلرُّعْبَ ۚ يُخْرِبُونَ بُيُوتَهُم بِأَيْدِيهِمْ وَأَيْدِى ٱلْمُؤْمِنِينَ
فَٱعْتَبِرُوا۟ يَـٰٓأُو۟لِى ٱلْأَبْصَـٰرِ ٢ وَلَوْلَآ أَن كَتَبَ ٱللَّهُ عَلَيْهِمُ
ٱلْجَلَآءَ لَعَذَّبَهُمْ فِى ٱلدُّنْيَا ۖ وَلَهُمْ فِى ٱلْءَاخِرَةِ عَذَابُ ٱلنَّارِ ٣

よってアッラーの宗教を阻もうとした全ての者たちに対しての報いなのである。

18審判の日、アッラーは全ての偽信者を墓場から生きた形で蘇らせる。信仰者よ、彼らは現世においてあなた方にそうしていたように、アッラーに対してさえも彼らは信仰者であったなどと嘘の誓いをする。そしてそれが現世においてムスリムたちに対して有効であったように、アッラーの御許においても効き目があるなどと信じ込んでいる。彼らは大変な嘘つきであり、そこにおいていかなる者も彼らに比肩することはない。

19シャイターンが彼らを占拠し、支配し、アッラーからのご命令や、かれへの服従行為を放棄させた。彼らこそはシャイターンの徒、その追随者である。そしてシャイターンの徒こそは現世と来世における損失者なのだ。

20アッラーとその使徒の命令に背く者は、現世と来世において屈辱と敗北と辱めを蒙る者たちである。

21アッラーは定命の碑板に、勝利はかれとその啓典とその使徒たち、そして信仰者のしもべたちにこそあると書き込まれたのだ。崇高なるアッラーは強力な御方で、いかなるものにも屈する事などあり得ない。かれは全ての創造物の上に君臨されているのだ。

22使徒よ、アッラーと最後の日を信じ、アッラーが定められた掟を遵守して行う民が、アッラーとその使徒に敵対し背く者たちを愛し、懇意にすることなどありえないのだ。それは例えアッラーとその使徒に敵対する者たちが彼らの父親や兄弟、近親の者たちなどであったとしても、である。彼らはアッラーゆえに愛し、かれゆえに敵対する者たち。信仰心がその心の中に確固として植えつけられた者たちなのである。アッラーは現世において、彼らをかれの御許からの援助でもって強力にされ、その敵に対して、勝利せしめられる。そして来世においては木々の下を河川が流れる天国の楽園に入れられるのだ。彼らはそこに断絶することなく、永遠に留まる。アッラーは彼らをお怒りになることなく、そのご満悦を差し伸べられる。そして彼らもまたアッラーから授けられた栄誉と高い位階ゆえに、かれに満足する。彼らこそはアッラーの徒であり、かれに親しき者たち。そして彼らこそは現世と来世において幸福を勝ち取る者たちなのである。

集合章
(アル＝ハシュル章)

1天地に属する万象は、アッラーはかれに相応しくない一切の欠陥などから無縁であり、崇高な存在であるとして讃える。かれは何ものにも屈服されることのない威光高き御方。そして物事の定命に関する決定とその管理、創造と法規定においてこの上なく英知溢れた御方であり、あらゆる物事を適切に処理される御方。

2崇高なるアッラーこそは、ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の預言者性を否定した啓典の民 - ユダヤ支族バヌー・アン＝ナディール族 - をムスリムたちに隣接したマディーナ近郊の居住地から追放された御方。そしてそれはアラブ半島からシリア地方への、最初の追放であった。ムスリムたちよ、あなた方は強力かつ難攻不落な彼らがこのように屈辱的かつ不名誉な形で居住地を追放させられる羽目になるなど、思ってもいなかった。そしてユダヤ教徒たちもまた、誰も彼らの砦を攻略出来ないどころか、それがアッラーの威

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ شَآقُّوا۟ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ ۖ وَمَن يُشَآقِّ ٱللَّهَ فَإِنَّ ٱللَّهَ شَدِيدُ
ٱلْعِقَابِ ﴿٤﴾ مَا قَطَعْتُم مِّن لِّينَةٍ أَوْ تَرَكْتُمُوهَا قَآئِمَةً
عَلَىٰٓ أُصُولِهَا فَبِإِذْنِ ٱللَّهِ وَلِيُخْزِىَ ٱلْفَٰسِقِينَ ﴿٥﴾ وَمَآ أَفَآءَ ٱللَّهُ
عَلَىٰ رَسُولِهِۦ مِنْهُمْ فَمَآ أَوْجَفْتُمْ عَلَيْهِ مِنْ خَيْلٍ وَلَا رِكَابٍ
وَلَٰكِنَّ ٱللَّهَ يُسَلِّطُ رُسُلَهُۥ عَلَىٰ مَن يَشَآءُ ۚ وَٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ
قَدِيرٌ ﴿٦﴾ مَّآ أَفَآءَ ٱللَّهُ عَلَىٰ رَسُولِهِۦ مِنْ أَهْلِ ٱلْقُرَىٰ فَلِلَّهِ وَلِلرَّسُولِ
وَلِذِى ٱلْقُرْبَىٰ وَٱلْيَتَٰمَىٰ وَٱلْمَسَٰكِينِ وَٱبْنِ ٱلسَّبِيلِ كَىْ لَا يَكُونَ
دُولَةًۢ بَيْنَ ٱلْأَغْنِيَآءِ مِنكُمْ ۚ وَمَآ ءَاتَىٰكُمُ ٱلرَّسُولُ فَخُذُوهُ وَمَا
نَهَىٰكُمْ عَنْهُ فَٱنتَهُوا۟ ۚ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ ۖ إِنَّ ٱللَّهَ شَدِيدُ ٱلْعِقَابِ ﴿٧﴾
لِلْفُقَرَآءِ ٱلْمُهَٰجِرِينَ ٱلَّذِينَ أُخْرِجُوا۟ مِن دِيَٰرِهِمْ وَأَمْوَٰلِهِمْ
يَبْتَغُونَ فَضْلًا مِّنَ ٱللَّهِ وَرِضْوَٰنًا وَيَنصُرُونَ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥٓ ۚ أُو۟لَٰٓئِكَ
هُمُ ٱلصَّٰدِقُونَ ﴿٨﴾ وَٱلَّذِينَ تَبَوَّءُو ٱلدَّارَ وَٱلْإِيمَٰنَ مِن قَبْلِهِمْ
يُحِبُّونَ مَنْ هَاجَرَ إِلَيْهِمْ وَلَا يَجِدُونَ فِى صُدُورِهِمْ حَاجَةً
مِّمَّآ أُوتُوا۟ وَيُؤْثِرُونَ عَلَىٰٓ أَنفُسِهِمْ وَلَوْ كَانَ بِهِمْ خَصَاصَةٌ ۚ
وَمَن يُوقَ شُحَّ نَفْسِهِۦ فَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْمُفْلِحُونَ ﴿٩﴾

力さえも阻止できると思っていた。しかしアッラーは彼らが予想だにしないところから訪れ、彼らの心に激しい恐怖と驚愕を投げ入れた。そして彼らは自らの手とムスリムたちの手によって、その住居を破壊する羽目になったのだ。ゆえに健常な眼識と優れた理性を備えた者たちよ、彼らに起こった事件を訓戒とせよ。

3例えアッラーが彼らの住居からの追放をお定めにならず、またその定めを遂行されなかったとしても、彼らは現世において殺害や捕虜など別の形で罰せられたことであろう。そして来世において、彼らには地獄の業火の懲罰が待ち受けている。

4そのこと－つまりユダヤ教徒たちが現世において蒙った憂き目と、来世において彼らを待ち受けている懲罰－は、アッラーとその使徒に対するひどい反抗と不服従ゆえの結果である。そしてアッラーとその使徒に反逆する者に対し、アッラーは過酷な懲罰をご用意されている。

5信仰者たちよ、あなた方は意味もなくナツメヤシの木を刈り倒したり、あるいはそうせずに放っておいたのではない。それはアッラーのお許しとご命令ゆえのことで、あなた方が彼らのナツメヤシの木を伐採し焼き討ちにすることで、かれのご命令に背く不服従の徒が不名誉を受けるためであったのである。

6アッラーはユダヤ教徒たちの財産を、あなた方がそれを得るために馬やラクダに乗(って出征す)ることもないまま、その使徒に与えられた。アッラーはその使徒たちをかれがお望みになられる敵に対して勝利させ、戦闘することもなく降伏させる。そしてここで言う戦利品(フィア)とは、戦闘することなく正当な権利をもって獲得した不信仰者の財産のことである。アッラーは全能であり、全てを可能にされる御方。

7馬やラクダに乗(って戦闘す)ることなく、アッラーがその使徒に獲得させた不信仰者の財産は、一般ムスリムの福利とアッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の家系、孤児(親を失くした貧しい子供)、貧者や困窮者、財源の尽きた異国からの旅人らのために使用される。それは財産が富者の間を循環する所有物となり、貧者や経済的弱者たちがその恩恵に与かれないような状態にしないためである。そしてあなた方はアッラーの使徒が与えてくれた財産や、あなた方のために定めた法規定を受容し、彼が禁じられた物事は回避せよ。そしてアッラーのご命令を遵守し、かれが禁じられたことを回避することで、かれを畏れるのだ。アッラーはかれが命じられたことや禁じられたことにおいて背いたり逆らったりする者に対し、厳しい懲罰を下される御方。尚この節は、スンナ－預言者の言動、及び彼が黙認した物事－に則って行うことの義務性を示す法的典拠である。

8同様に、アッラーがその使徒に戦闘することなく授けられた財産は、マッカの不信仰者たちによってその住居と財産を奪われた貧しいムハージルーン(移住者たち)にも与えられる。彼らは、アッラーが彼らに現世における糧と、来世におけるかれのご満悦を授けて下さることを希求し、アッラーの道においてかれとかれの使徒の宗教の興隆のために奮闘努力した。彼らこそはその言葉を行いでもって実証した、正直な者たちなのである。

9またムハージルーン(移住者たち)の移住の前にマディーナに居住し、信仰に入っていたアンサール(援助者たち)はムハージルーンを愛し、その財産でもって彼らを慰めた。彼らは戦

وَالَّذِينَ جَاءُو مِنْ بَعْدِهِمْ يَقُولُونَ رَبَّنَا اغْفِرْ لَنَا
وَلِإِخْوَانِنَا الَّذِينَ سَبَقُونَا بِالْإِيمَانِ وَلَا تَجْعَلْ فِي قُلُوبِنَا
غِلًّا لِلَّذِينَ آمَنُوا رَبَّنَا إِنَّكَ رَءُوفٌ رَحِيمٌ ﴿١٠﴾ أَلَمْ تَرَ إِلَى
الَّذِينَ نَافَقُوا يَقُولُونَ لِإِخْوَانِهِمُ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ
الْكِتَابِ لَئِنْ أُخْرِجْتُمْ لَنَخْرُجَنَّ مَعَكُمْ وَلَا نُطِيعُ فِيكُمْ
أَحَدًا أَبَدًا وَإِنْ قُوتِلْتُمْ لَنَنْصُرَنَّكُمْ وَاللَّهُ يَشْهَدُ إِنَّهُمْ لَكَاذِبُونَ
﴿١١﴾ لَئِنْ أُخْرِجُوا لَا يَخْرُجُونَ مَعَهُمْ وَلَئِنْ قُوتِلُوا لَا يَنْصُرُونَهُمْ
وَلَئِنْ نَصَرُوهُمْ لَيُوَلُّنَّ الْأَدْبَارَ ثُمَّ لَا يُنْصَرُونَ ﴿١٢﴾
لَأَنْتُمْ أَشَدُّ رَهْبَةً فِي صُدُورِهِمْ مِنَ اللَّهِ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ قَوْمٌ
لَا يَفْقَهُونَ ﴿١٣﴾ لَا يُقَاتِلُونَكُمْ جَمِيعًا إِلَّا فِي قُرًى
مُحَصَّنَةٍ أَوْ مِنْ وَرَاءِ جُدُرٍ بَأْسُهُمْ بَيْنَهُمْ شَدِيدٌ تَحْسَبُهُمْ
جَمِيعًا وَقُلُوبُهُمْ شَتَّى ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ قَوْمٌ لَا يَعْقِلُونَ ﴿١٤﴾
كَمَثَلِ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ قَرِيبًا ذَاقُوا وَبَالَ أَمْرِهِمْ وَلَهُمْ عَذَابٌ
أَلِيمٌ ﴿١٥﴾ كَمَثَلِ الشَّيْطَانِ إِذْ قَالَ لِلْإِنْسَانِ اكْفُرْ فَلَمَّا كَفَرَ
قَالَ إِنِّي بَرِيءٌ مِنْكَ إِنِّي أَخَافُ اللَّهَ رَبَّ الْعَالَمِينَ ﴿١٦﴾

利品やその他の財が彼らにだけ与えられても嫉妬したりせず、例え彼らに必要性や貧困が存在していたとしても、ムハージルーンと彼らの内の困窮者を優先した。むやみに金品を惜しむことを制し、余分な財産に対し禁欲的な姿勢を取った者たちこそは勝利者であり成功者である。彼らは彼らが望む物を獲得するのだ。

10またアンサール(援助者たち)とムハージルーン(移住者たち)ら先人たちの後に到来する者たち。彼らはこう言う。「我らが主よ、私たちの罪をお赦し下さい。そして信仰において私たちに先駆けた宗教上の同胞たちを、お赦し下さい。いかなる信仰者に対しても、私たちの心に嫉妬や憎悪の念が湧くことのない様にして下さい。我らが主よ、あなたこそはしもべに哀れみ深く、慈悲深い御方です。」尚この節には、ムスリムが先人の長所や美点を想起し、彼らのために祈願し、またアッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の教友たちを愛し、その美点を回顧し、彼らにアッラーのご満悦があるように祈るべきであるということの典拠が見受けられる。

11あなたは、偽信者らが不信仰の同胞であるユダヤ教徒のバヌー・アン=ナディール族に対し、このように言うのを見なかったのか?「もしムハンマドとその仲間たちがあなた方を住居から追い出そうとしたら、私たちはあなた方と共に出よう。私たちはあなた方を見捨てたり、あなた方と共にマディーナを出たりすることを止めるよう要求されても、決してそんなことに従ったりはしない。またあなた方が攻撃されたら、私たちはあなた方を援助しよう。」アッラーは偽信者たちがユダヤ教徒のバヌー・アン=ナディール族に約束した事に関し、嘘をついていることを立証なされる。

12例えユダヤ教徒がマディーナを追放されたとしても、偽信者たちは約束通り彼らと共にマディーナを出たりはしない。またもし彼らが攻撃されても、彼らと共に戦ったりはしない。そして例え彼らと共に戦ったところで、偽信者らは敗北して踵を返し、逃走するのが落ちなのだ。アッラーは彼らを援助されることなどなく、彼らをおとしめ、辱められる。

13信仰者たちよ、偽信者たちの胸の中ではアッラーに対する畏れや恐怖の念よりも、あなた方に対する恐怖心の方が大きいのだ。というのも彼らはアッラーの偉大さを理解もせず、かれを信仰してもいなければ、かれの懲罰も恐れてはいない民だからである。

14ユダヤ教徒たちは壁や塹壕で守られた町や、壁の向こう側からなどでなければ、あなた方との戦いに集結して臨むことはない。彼らは自分たちの間でいがみ合っており、あなたには彼らが一致団結しているように見えても、実のところ彼らの心はてんでばらばらなのである。それというのも彼らはアッラーのご命令を理解することもなく、そのみしるしを熟慮することもない民だからである。

15彼らには現世において、バドルの戦役でマッカの不信仰者たちを襲ったアッラーからの懲罰や、同じユダヤ教徒のバヌー・カイヌカーゥ族がその不信仰とアッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)に対する敵意ゆえに味わった悪い結末と同様のものがあり、また来世においては痛ましい懲罰が待ち受けている。

فَكَانَ عَٰقِبَتَهُمَآ أَنَّهُمَا فِي ٱلنَّارِ خَٰلِدَيۡنِ فِيهَاۚ وَذَٰلِكَ جَزَٰٓؤُاْ
ٱلظَّٰلِمِينَ ﴿١٧﴾ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَلۡتَنظُرۡ
نَفۡسٞ مَّا قَدَّمَتۡ لِغَدٖۖ وَٱتَّقُواْ ٱللَّهَۚ إِنَّ ٱللَّهَ خَبِيرُۢ بِمَا تَعۡمَلُونَ
﴿١٨﴾ وَلَا تَكُونُواْ كَٱلَّذِينَ نَسُواْ ٱللَّهَ فَأَنسَىٰهُمۡ أَنفُسَهُمۡۚ أُوْلَٰٓئِكَ
هُمُ ٱلۡفَٰسِقُونَ ﴿١٩﴾ لَا يَسۡتَوِيٓ أَصۡحَٰبُ ٱلنَّارِ وَأَصۡحَٰبُ
ٱلۡجَنَّةِۚ أَصۡحَٰبُ ٱلۡجَنَّةِ هُمُ ٱلۡفَآئِزُونَ ﴿٢٠﴾ لَوۡ أَنزَلۡنَا هَٰذَا
ٱلۡقُرۡءَانَ عَلَىٰ جَبَلٖ لَّرَأَيۡتَهُۥ خَٰشِعٗا مُّتَصَدِّعٗا مِّنۡ خَشۡيَةِ
ٱللَّهِۚ وَتِلۡكَ ٱلۡأَمۡثَٰلُ نَضۡرِبُهَا لِلنَّاسِ لَعَلَّهُمۡ يَتَفَكَّرُونَ
﴿٢١﴾ هُوَ ٱللَّهُ ٱلَّذِي لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَۖ عَٰلِمُ ٱلۡغَيۡبِ وَٱلشَّهَٰدَةِۖ
هُوَ ٱلرَّحۡمَٰنُ ٱلرَّحِيمُ ﴿٢٢﴾ هُوَ ٱللَّهُ ٱلَّذِي لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ
ٱلۡمَلِكُ ٱلۡقُدُّوسُ ٱلسَّلَٰمُ ٱلۡمُؤۡمِنُ ٱلۡمُهَيۡمِنُ ٱلۡعَزِيزُ
ٱلۡجَبَّارُ ٱلۡمُتَكَبِّرُۚ سُبۡحَٰنَ ٱللَّهِ عَمَّا يُشۡرِكُونَ
﴿٢٣﴾ هُوَ ٱللَّهُ ٱلۡخَٰلِقُ ٱلۡبَارِئُ ٱلۡمُصَوِّرُۖ لَهُ ٱلۡأَسۡمَآءُ ٱلۡحُسۡنَىٰۚ
يُسَبِّحُ لَهُۥ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۖ وَهُوَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ﴿٢٤﴾

ترتيبها ٦٠ — سُورَةُ ٱلۡمُمۡتَحَنَةِ — آياتها ١٣

16ユダヤ教徒を戦いへと扇動し、彼らのアッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)に対する援助を約束する彼ら偽信者らは、ちょうどシャイターンのようである。シャイターンは人間に対して不信仰を煌びやかに飾って見せ、彼らをそこへと誘惑する。そしていざ人間がシャイターンに従って不信仰に陥ると、こう言うのだ。「私はお前などとは関係がない。私は全ての創造物の主であるアッラーを恐れているのだ。」

17こうしてシャイターンと、かれに従って不信仰に陥った人間の行き先は地獄の業火なのである。彼らはそこに永遠に留まる。それはアッラーの掟を破った無法者に対する報いなのだ。

18アッラーとその使徒を信じ、その法に従って行動する者たちよ、アッラーを畏れよ。そしてかれがあなた方に命じられたことを行い、禁じられたことを回避することによって、かれの懲罰から身を守るのだ。また全ての魂に、一体審判の日のためにどのような行いをしたか、熟慮させてみよ。あなた方が行い、あるいは放棄する全ての物事においてアッラーを畏れるのだ。崇高なるアッラーはあなた方の行いに通暁されており、あなた方のいかなる行為もかれの目を免れることはない。そしてかれはその行いに応じて、あなた方に報われるのである。

19信仰者たちよ、アッラーが義務付けられたことの遂行を放棄し、それゆえに審判の日の懲罰に対する救いとなる善行の機会を忘却させられた者たちのようであってはならない。彼らこそはアッラーとその使徒に対する服従に背いた、背反の徒なのである。

20地獄の業火に永遠に留まる者と、享楽に与かる天国の徒は同等ではない。天国の徒こそは全ての願望を手に入れ、全ての災難を免れる者たちである。

21もしこのクルアーンが山に下され、そしてそこに含まれる福音と警告を理解するならば、それはその堅固さと硬さ、巨大さにも関わらず、至高のアッラーへの畏怖の念ゆえに恐れ、萎縮し、砕け散ってしまうであろう。われら(アッラーのこと)が人間に対し説明し、取り上げるこれらの譬えは、彼らがアッラーの御力と偉大さを熟慮するようにとのお取り計らいである。尚この節にはクルアーンの意味の熟慮と理解、そしてそれに則って行うことへの奨励の意味が含まれている。

22かれこそは崇高かつ至高であり、かれ以外に真に崇拝すべきもののない御方。密なるものも露わなものも、隠れたものも現れているものもご存知であられる御方。そしてかれこそはその慈悲が全ての事象を包括する慈悲遍き御方であり、かれを信仰する者たちに対して慈悲深き御方である。

23かれこそは真に崇拝されるべき御方。かれ以外に崇拝に値する存在はない。全てのものの統治者であり、それらを無制限かつ自由に司られる御方。かれにはいかなる欠陥もなく、あらゆる欠如からも無縁である。かれはその使徒・預言者たちを明証と共に遣わし、その真実性を確証される御方。また全創造物の全ての行いをご覧になり、監視され、かつ決して敗北することのない威光高き御方。かれは全てのしもべを配下におく制圧者であり、全創造物はかれに服従する。かれはこの上ない崇高さと偉大さが属する、最も高遠なる御方。至高なるアッラーは不信仰の徒がその崇拝行為において、かれに並べて拝しているようなあらゆる

存在から遠く無縁な御方である。

24至高かつ崇高なるアッラーこそは、創造を定められる唯一の創造主であり、その英知に添った形で物事を前例のない形で造られ、存在せしめられる御方。そしてかれこそはお望みのまま創造に形を与えられる御方。かれにこそ全ての美名と崇高なる属性は属し、天地にある全ての存在はかれの崇高さを讃える。かれこそはその敵に対して厳しい仕打ちを下される威光高き御方であり、創造の諸事に関する取り計らいにおいてこの上なく英知溢れた御方であられる。

試問される女章
(アル＝ムムタヒナ章)

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا تَتَّخِذُواْ عَدُوِّي وَعَدُوَّكُمۡ أَوۡلِيَآءَ تُلۡقُونَ
إِلَيۡهِم بِٱلۡمَوَدَّةِ وَقَدۡ كَفَرُواْ بِمَا جَآءَكُم مِّنَ ٱلۡحَقِّ يُخۡرِجُونَ ٱلرَّسُولَ
وَإِيَّاكُمۡ أَن تُؤۡمِنُواْ بِٱللَّهِ رَبِّكُمۡ إِن كُنتُمۡ خَرَجۡتُمۡ جِهَٰدٗا فِي سَبِيلِي
وَٱبۡتِغَآءَ مَرۡضَاتِيۚ تُسِرُّونَ إِلَيۡهِم بِٱلۡمَوَدَّةِ وَأَنَا۠ أَعۡلَمُ بِمَآ أَخۡفَيۡتُمۡ
وَمَآ أَعۡلَنتُمۡۚ وَمَن يَفۡعَلۡهُ مِنكُمۡ فَقَدۡ ضَلَّ سَوَآءَ ٱلسَّبِيلِ ﴿١﴾ إِن
يَثۡقَفُوكُمۡ يَكُونُواْ لَكُمۡ أَعۡدَآءٗ وَيَبۡسُطُوٓاْ إِلَيۡكُمۡ أَيۡدِيَهُمۡ وَأَلۡسِنَتَهُم
بِٱلسُّوٓءِ وَوَدُّواْ لَوۡ تَكۡفُرُونَ ﴿٢﴾ لَن تَنفَعَكُمۡ أَرۡحَامُكُمۡ وَلَآ أَوۡلَٰدُكُمۡۚ
يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ يَفۡصِلُ بَيۡنَكُمۡۚ وَٱللَّهُ بِمَا تَعۡمَلُونَ بَصِيرٞ ﴿٣﴾ قَدۡ
كَانَتۡ لَكُمۡ أُسۡوَةٌ حَسَنَةٞ فِيٓ إِبۡرَٰهِيمَ وَٱلَّذِينَ مَعَهُۥٓ إِذۡ قَالُواْ لِقَوۡمِهِمۡ
إِنَّا بُرَءَٰٓؤُاْ مِنكُمۡ وَمِمَّا تَعۡبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ كَفَرۡنَا بِكُمۡ وَبَدَا بَيۡنَنَا
وَبَيۡنَكُمُ ٱلۡعَدَٰوَةُ وَٱلۡبَغۡضَآءُ أَبَدًا حَتَّىٰ تُؤۡمِنُواْ بِٱللَّهِ وَحۡدَهُۥٓ إِلَّا
قَوۡلَ إِبۡرَٰهِيمَ لِأَبِيهِ لَأَسۡتَغۡفِرَنَّ لَكَ وَمَآ أَمۡلِكُ لَكَ مِنَ ٱللَّهِ مِن شَيۡءٖۖ
رَّبَّنَا عَلَيۡكَ تَوَكَّلۡنَا وَإِلَيۡكَ أَنَبۡنَا وَإِلَيۡكَ ٱلۡمَصِيرُ ﴿٤﴾ رَبَّنَا لَا تَجۡعَلۡنَا
فِتۡنَةٗ لِّلَّذِينَ كَفَرُواْ وَٱغۡفِرۡ لَنَا رَبَّنَآۖ إِنَّكَ أَنتَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ﴿٥﴾

1アッラーとその使徒を信じ、その法に従って行動する者たちよ。われ(アッラーのこと)とあなた方の敵に愛情を示し、彼らを親友や懇意な仲間としてはならない。また彼らに使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)やムスリムたちの情報を漏らしてはならない。彼らはアッラーとその使徒への信仰や、啓示されたクルアーンという真理を信じなかった。また‐信仰者たちよ‐彼らはあなた方がアッラーを主とし、かれのみを崇拝するがゆえに、使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)とあなた方をマッカから追放したのだ。信仰者たちよ、あなた方がわが道において奮闘するために、そしてわが満悦を望んで移住したのなら、われとあなた方の敵に懇意にし、彼らに密かな愛情を示したりしてはならない。われはあなた方の隠すことも、現わすことも存じている。そしてあなた方の内そのような行為をする者は、真理の正しい道において誤り、道標から迷い去ってしまった者なのである。

2あなた方が密に愛情を示している彼らは、あなた方に対して優勢になった暁には、あなた方と戦うであろう。そしてあなた方を殺害し、奴隷とするためにその手を伸ばし、あなた方を中傷し罵倒するために弁を振るうであろう。彼らはどうにかして、あなた方が彼らと同じ不信仰者となることを望んでいるのだ。

3あなた方が、あなた方の親戚や子供のために不信仰者たちに親愛の念を示したとしても、彼ら(親類や子供たち)はあなた方を少しも益することがない。アッラーは審判の日にあなた方を分け隔てられ、かれに服従していた者たちを天国へ、そしてかれに背いていた者たちを地獄へと入れられるのである。アッラーはあなた方の行いを全てご覧になられているのであり、いかなる言葉や行いもかれの御知識を免れることはないのだ。

4信仰者たちよ、実にイブラーヒーム(彼に平安あれ)と彼と共にあった信仰者たちは、あなた方にとってよき模範であった。彼らはアッラーを信じない民に対して、こう言ったのだ。「私たちはあなた方、そしてあなた方がアッラーを差し置いて拝する神々や偶像などとは無縁である。私たちはあなた方を不信仰者とし、あなた方の不信仰な状態を否定する。そしてあなた方がアッラーのみを信仰しないという不信仰の中にある限り、私たちとあなた方の間には永遠に敵対心と憎しみが生まれるのだ。」しかしイブラーヒームがアッラーに対し、彼の父親の罪のお赦しを求めたことに関しては、見習ってはならない。それは彼の父親がアッラーの敵であるということが明らかになる前のことだったのであり、そのことが明らかになるや否や彼は父親との縁を断ったのである。イブラーヒームは言った。「我らの主よ、私たちはあなたにこそ全てを委ね、あなたにこそ悔悟します。そして審判の日の還り所はあ

لقد كان لكم فيهم أسوة حسنة لمن كان يرجوا الله واليوم الآخر
ومن يتول فإن الله هو الغني الحميد ﴿٦﴾ عسى الله أن يجعل
بينكم وبين الذين عاديتم منهم مودة والله قدير والله غفور رحيم
﴿٧﴾ لا ينهاكم الله عن الذين لم يقاتلوكم في الدين ولم يخرجوكم
من دياركم أن تبروهم وتقسطوا إليهم إن الله يحب المقسطين
﴿٨﴾ إنما ينهاكم الله عن الذين قاتلوكم في الدين وأخرجوكم
من دياركم وظاهروا على إخراجكم أن تولوهم ومن يتولهم فأولئك
هم الظالمون ﴿٩﴾ يا أيها الذين آمنوا إذا جاءكم المؤمنات
مهاجرات فامتحنوهن الله أعلم بإيمانهن فإن علمتموهن مؤمنات
فلا ترجعوهن إلى الكفار لا هن حل لهم ولا هم يحلون لهن وآتوهم
ما أنفقوا ولا جناح عليكم أن تنكحوهن إذا آتيتموهن أجورهن
ولا تمسكوا بعصم الكوافر واسألوا ما أنفقتم وليسألوا ما أنفقوا
ذلكم حكم الله يحكم بينكم والله عليم حكيم ﴿١٠﴾ وإن فاتكم
شيء من أزواجكم إلى الكفار فعاقبتم فآتوا الذين ذهبت
أزواجهم مثل ما أنفقوا واتقوا الله الذي أنتم به مؤمنون ﴿١١﴾

なたの御許なのです。

5我らの主よ、あなたの懲罰によって私たちを試練にかけないで下さい。また私たちが不信仰者たちからの支配の憂き目を見ることによって、私たちが私たちの宗教において苦難を味わうことのないようにして下さい。あるいは私たちが彼らに敗北することによって、彼らが、“彼ら(アッラーのみを崇拝する者たち)が真実と共にあったのなら、懲罰を味わうことはなかっただろう”などと言い、彼らが更なる不信仰に陥ってしまうような試練を与えないで下さい。我らの主よ、あなたのお赦し深さでもって私たちの罪をお赦し下さい。あなたこそはいかなる者にも屈服することのない威光高き御方であり、その御言葉と行いにおいてこの上なく英知溢れた御方であられます。

6信仰者たちよ、実にイブラーヒーム(彼に平安あれ)と彼と共にあった信仰者たちは、現世と来世においてアッラーからのよきものを望むあなた方にとって称えられるべき規範であった。しかし預言者たちへの追従などの、アッラーが勧められた物事に背を向けたり、あるいはアッラーの敵に親愛の念を示す者がいたとしても、アッラーはそもそもそのしもべになど何の依存もされない御方なのである。そしてかれはその本質と属性において崇高であり、いかなる場合においても讃えられるべき存在なのだ。

7信仰者たちよ、もしかするとアッラーはあなた方とあなた方が敵対したシルク[1]の徒の親類たちとの間に、彼らの心をイスラームに対する満足へと傾けることによって、憎しみと嫌悪の後の愛情と親愛の念を注ぎ込まれるかもしれない。アッラーこそは全てを可能にさせる御力の持ち主であり、そのしもべに対してお赦し深く、慈悲深い御方であるのだ。

8信仰者たちよ、アッラーは宗教ゆえにあなた方と争ったりせず、またあなた方を住居から追放したりもしなかった不信仰者たちに対して、あなた方が善行を施したり、公正に接したりすることを禁じてはいない。アッラーはその言動において公正な者を愛でられるのだ。

9アッラーが禁じられているのは、宗教ゆえにあなた方に戦いを仕掛けたり、あなた方を住居から追いやったり、またあなた方の追放を援助したりした者たちに、あなた方が援助や愛情をもって懇意にすることである。そして信仰者を差し置いて彼らを援助者とし親友とする者こそは、自らに不正を働き、アッラーの掟を無視する者なのである。

10アッラーとその使徒を信じ、その法に従って行動する者たちよ、不信仰者たちの所からイスラームの世界に女性の信仰者たちが避難してやって来たら、彼女らを試問しなさい。それは彼女らの信仰心が真実であるかどうか知るためであるが、アッラーこそは彼女らの真の信仰心をご存知であられる御方。それで何らかの表面的な証拠や徴候から彼女らが信仰者であることがわかったなら、あなた方は彼女らを不信仰者である彼女らの夫のもとに返してはならない。信仰者の女性が不信仰者の男性と婚姻関係を持つことも、不信仰者の男性が信仰者の女性を娶ることも非合法なのである。それでイスラームを受け入

1　「シルク」とは、至高のアッラーに対し、かれのルブービーヤ（いわゆる主性。つまりこの世の創造や管理、所有や支配などに関する権威）とウルーヒーヤ　（いわゆる神性。つまり真に崇拝されるべき権威）そしてかれの美名と属性、あるいはそれらのいずれか1つにおいて同位者や関与者をおくことです。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِيُّ إِذَا جَآءَكَ ٱلْمُؤْمِنَٰتُ يُبَايِعْنَكَ عَلَىٰٓ أَن لَّا يُشْرِكْنَ
بِٱللَّهِ شَيْـًٔا وَلَا يَسْرِقْنَ وَلَا يَزْنِينَ وَلَا يَقْتُلْنَ أَوْلَٰدَهُنَّ وَلَا يَأْتِينَ
بِبُهْتَٰنٍ يَفْتَرِينَهُۥ بَيْنَ أَيْدِيهِنَّ وَأَرْجُلِهِنَّ وَلَا يَعْصِينَكَ
فِى مَعْرُوفٍ ۙ فَبَايِعْهُنَّ وَٱسْتَغْفِرْ لَهُنَّ ٱللَّهَ ۖ إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ
﴿١٢﴾ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَتَوَلَّوْا۟ قَوْمًا غَضِبَ ٱللَّهُ عَلَيْهِمْ
قَدْ يَئِسُوا۟ مِنَ ٱلْءَاخِرَةِ كَمَا يَئِسَ ٱلْكُفَّارُ مِنْ أَصْحَٰبِ ٱلْقُبُورِ ﴿١٣﴾

ترتيبها ٦١ | سُورَةُ ٱلصَّفِّ | آياتها ١٤

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

سَبَّحَ لِلَّهِ مَا فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِى ٱلْأَرْضِ ۖ وَهُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْحَكِيمُ
﴿١﴾ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لِمَ تَقُولُونَ مَا لَا تَفْعَلُونَ ﴿٢﴾
كَبُرَ مَقْتًا عِندَ ٱللَّهِ أَن تَقُولُوا۟ مَا لَا تَفْعَلُونَ ﴿٣﴾ إِنَّ
ٱللَّهَ يُحِبُّ ٱلَّذِينَ يُقَٰتِلُونَ فِى سَبِيلِهِۦ صَفًّا كَأَنَّهُم
بُنْيَٰنٌ مَّرْصُوصٌ ﴿٤﴾ وَإِذْ قَالَ مُوسَىٰ لِقَوْمِهِۦ يَٰقَوْمِ لِمَ
تُؤْذُونَنِى وَقَد تَّعْلَمُونَ أَنِّى رَسُولُ ٱللَّهِ إِلَيْكُمْ ۖ فَلَمَّا
زَاغُوٓا۟ أَزَاغَ ٱللَّهُ قُلُوبَهُمْ ۚ وَٱللَّهُ لَا يَهْدِى ٱلْقَوْمَ ٱلْفَٰسِقِينَ ﴿٥﴾

れた彼女らの夫には、婚姻の際の贈与金など、彼らが彼女らゆえに費やした費用を与えるのだ。そして彼女らに婚姻の際の贈与金を与えるのならば、あなた方が彼女らを娶ることに罪はない。また不信仰者の妻たちとの婚姻関係を維持するのではない。そしてあなた方はシルク[1]の徒たちに、イスラームを棄教して彼らのもとへと去ったあなた方の女性たちに婚姻の際に費やした贈与金を要求せよ。また彼らにはあなた方に対し、イスラームを受容してあなた方のもとへやって来た女性たちに彼らが費やした贈与金を要求させよ。この節に言及されている法規定こそは、アッラーがそれでもってあなた方を裁かれるかれの法規定である。ゆえにそれに反してはならない。アッラーは全てを包み隠さずご存知になられ、その御言葉と行いにおいてこの上なく英知溢れた御方である。

11そして、もしあなた方の妻たちの一部がイスラームを棄てて不信仰者のもとへと立ち去ったにも関わらず、あなた方が彼女らに費やした婚姻の際の贈与金が返還されなかったならば、その後あなた方が彼ら不信仰者あるいはその他の者たちに対して勝利を収めるようなことがあった際、妻に去られたムスリムたちに対しては、彼らが彼女らに与えた結婚の際の贈与金と同額のものを戦利品の中から与えるのだ。あなた方が信仰するアッラーをこそ畏れよ。

12預言者よ、アッラーとその使徒を信仰する女性らが、崇拝行為においてアッラーに何ものも並べて崇めず、盗みを働かず、姦通をせず、生まれた子供やまだ出産前の子供を殺さず、実の夫のものではない子供を欺いて夫のものとしたりもせず、またあなたが命じる善行において背いたりもしないことを誓うためにあなたのもとにやって来たのなら、契りを結んでやるのだ。そして彼女らのためにアッラーに罪のお赦しを乞うてやれ。アッラーは悔悟するしもべの罪にお赦し深く、また慈悲深い御方である。

13アッラーとその使徒を信じる者たちよ、不信仰ゆえにアッラーのお怒りを買った者たちを親友や盟友とするのではない。彼らは来世におけるアッラーの報奨に絶望しているが、それはちょうど既にこの世を去った不信仰者が真実を目の当たりにし、来世において彼らには何の分け前もないことを確信した時に、アッラーのご慈悲に授かることを絶望しているのと同様である。あるいは不信仰者が死後の復活を否定するがゆえに、彼らの故人が蘇生することに絶望しているのと同様である。

戦列章
(アッ＝サッフ章)

1天地に存在する全てのものは、アッラーをかれに相応しくないあらゆるものから無縁な崇高な存在として讃える。そしてかれは何ものにも屈服することのない威光高き御方であり、その御言葉と行いにおいてこの上なく英知溢れた御方である。

2アッラーとその使徒を信じ、その法に従って行動する者たちよ。どうして自分たちが遵守もしないような約束をしたり、言葉を話したりするのか！？尚これは、言行不一致な者に

1　１３ページの注釈１を参照。

وَإِذْ قَالَ عِيسَى ٱبْنُ مَرْيَمَ يَٰبَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ إِنِّى رَسُولُ ٱللَّهِ إِلَيْكُم مُّصَدِّقًا
لِّمَا بَيْنَ يَدَىَّ مِنَ ٱلتَّوْرَىٰةِ وَمُبَشِّرًۢا بِرَسُولٍ يَأْتِى مِنۢ بَعْدِى ٱسْمُهُۥٓ أَحْمَدُ ۖ فَلَمَّا
جَآءَهُم بِٱلْبَيِّنَٰتِ قَالُوا۟ هَٰذَا سِحْرٌ مُّبِينٌ ﴿٦﴾ وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنِ ٱفْتَرَىٰ
عَلَى ٱللَّهِ ٱلْكَذِبَ وَهُوَ يُدْعَىٰٓ إِلَى ٱلْإِسْلَٰمِ ۚ وَٱللَّهُ لَا يَهْدِى ٱلْقَوْمَ ٱلظَّٰلِمِينَ
﴿٧﴾ يُرِيدُونَ لِيُطْفِـُٔوا۟ نُورَ ٱللَّهِ بِأَفْوَٰهِهِمْ وَٱللَّهُ مُتِمُّ نُورِهِۦ وَلَوْ كَرِهَ
ٱلْكَٰفِرُونَ ﴿٨﴾ هُوَ ٱلَّذِىٓ أَرْسَلَ رَسُولَهُۥ بِٱلْهُدَىٰ وَدِينِ ٱلْحَقِّ لِيُظْهِرَهُۥ
عَلَى ٱلدِّينِ كُلِّهِۦ وَلَوْ كَرِهَ ٱلْمُشْرِكُونَ ﴿٩﴾ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ هَلْ أَدُلُّكُمْ
عَلَىٰ تِجَٰرَةٍ تُنجِيكُم مِّنْ عَذَابٍ أَلِيمٍ ﴿١٠﴾ تُؤْمِنُونَ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ وَتُجَٰهِدُونَ
فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ بِأَمْوَٰلِكُمْ وَأَنفُسِكُمْ ۚ ذَٰلِكُمْ خَيْرٌ لَّكُمْ إِن كُنتُمْ تَعْلَمُونَ ﴿١١﴾
يَغْفِرْ لَكُمْ ذُنُوبَكُمْ وَيُدْخِلْكُمْ جَنَّٰتٍ تَجْرِى مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَٰرُ وَمَسَٰكِنَ
طَيِّبَةً فِى جَنَّٰتِ عَدْنٍ ۚ ذَٰلِكَ ٱلْفَوْزُ ٱلْعَظِيمُ ﴿١٢﴾ وَأُخْرَىٰ تُحِبُّونَهَا ۖ نَصْرٌ
مِّنَ ٱللَّهِ وَفَتْحٌ قَرِيبٌ ۗ وَبَشِّرِ ٱلْمُؤْمِنِينَ ﴿١٣﴾ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ كُونُوٓا۟
أَنصَارَ ٱللَّهِ كَمَا قَالَ عِيسَى ٱبْنُ مَرْيَمَ لِلْحَوَارِيِّـۧنَ مَنْ أَنصَارِىٓ إِلَى ٱللَّهِ ۖ
قَالَ ٱلْحَوَارِيُّونَ نَحْنُ أَنصَارُ ٱللَّهِ ۖ فَـَٔامَنَت طَّآئِفَةٌ مِّنۢ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ
وَكَفَرَت طَّآئِفَةٌ ۖ فَأَيَّدْنَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ عَلَىٰ عَدُوِّهِمْ فَأَصْبَحُوا۟ ظَٰهِرِينَ ﴿١٤﴾

対する警告と戒めである。

3自分たちが行いもしないようなことを口先で語るのは、アッラーが非常にお嫌いになられることである。

4アッラーは、敵が付け入る隙間も無いほどに堅固な建造物のようになって、かれの道において隊列を組んで戦う者たちを愛でられる。尚この節はジハード(アッラーの道における努力奮闘)と、それに参加する者の徳を表している。崇高なるアッラーはかれの敵に向かって隊列を組み、かれの道において戦う信仰者のしもべたちをご寵愛されるのだ。

5使徒(ムハンマド)よ、アッラーの預言者ムーサー(彼に平安あれ)がその民に対してこのように言ったことを、あなたの民にも想起させよ。「あなた方は私がアッラーからの使徒であることを知りながら、なぜ言葉や行いでもって私を弾圧するのか?」そして彼らが真理を知りつつもそこから背き、頑迷に不信仰に固執した時、アッラーは彼らの心を導きの受容から遠ざけられた。それは彼らが自ら選んだ堕落に対する懲罰である。アッラーはかれに対する服従と真理の道から外れた民を、お導きにはなられない。

6使徒(ムハンマド)よ、そしてマルヤムの子イーサーがその民に対してこのように言ったことを、あなたの民にも想起させよ。「私は私以前に到来したトーラーを確証し、また私の後に到来する"アフマド(預言者ムハンマドのこと)"という名の使徒の真実性を証言し、彼への信仰へと招くためにあなた方に遣わされた、アッラーの使徒である。」しかしいざムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)が明白な印を携えて現れると、彼らはこう言った。「彼が私たちにもたらしたのは、明らかな魔法である。」

7イスラームへの改宗と、アッラーのみへの崇拝へと招かれているにも関わらず、かれに対して嘘を捏造したり、あるいはかれに対する崇拝行為において何らかの共同者を拝したりする者よりも、ひどい不正と敵対を働く者はいない。アッラーは不信仰やシルク[1]でもって自らに不正を働く者を、成功へと導かれはしないのだ。

8彼ら不正者たちは虚偽の言葉でもって、ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)が携えてきた真理 - つまりクルアーン - を消し去ってしまうことを望んでいる。しかし例え不信と虚言の徒がそれを厭おうとも、アッラーはその宗教を完遂することによって真理を勝利させるのだ。

9アッラーこそは、その使徒ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)をクルアーンとイスラームの教えと共に遣わせられる御方。そしてそれは例えシルク[2]の徒がそれを嫌おうとも、イスラームが全宗教の最高位に君臨するためなのである。

10アッラーとその使徒を信じ、その法に従って行動する者たちよ。あなた方を痛ましい地獄の懲罰から救ってくれる、偉大な取引を教えよう。

11アッラーとその使徒への信仰と常に共にあれ。そしてあなた方が所有する財産や生命を

1　１３ページの注釈１を参照。
2　１３ページの注釈１を参照。

かけて、アッラーの宗教を援助するべく、かれの道において努力奮闘するのだ。これこそは現世での商売よりも、あなた方にとって最善なもの。もし物事の害悪と利益の分別がつくというのなら、それを行うがよい。

12-13信仰者たちよ、もしあなた方がアッラーのご命令を遂行するのなら、かれはあなた方の罪の数々を覆い隠して下さろう。そしてその木々の下を河川が流れる楽園に入れ、天国の清浄な住居にいかなる断絶の恐れもなく永遠に住まわせて下さるであろう。これこそは類ない勝利なのである。更に信仰者よ、あなた方にはあなた方が望むもう一つの恩恵がある。それはあなた方に到来するアッラーのご援助と、あなた方の手でもって完遂される近い日の勝利である。預言者(ムハンマド)よ、信仰者たちに現世における勝利と援助を、そして来世における天国の報奨の福音を伝えるのだ。

14アッラーとその使徒を信じ、その法に従って行動する者たちよ。イーサーの教友たちがアッラーの宗教の援助者であったように、あなた方もまたアッラーの宗教の援助者となるのだ。イーサーが彼らに「アッラーへのお近づきになることにおいて、私を援助し支える者は誰であるか？」と言った時、彼らはこう言ったのだ。「私たちがアッラーの宗教の援助者です。」こうしてイスラエルの民の内のある者たちは正しく導かれ、また別の者たちは迷い去ったが、われら(アッラー)はわれらと使徒を信じた者たちを支え、彼らに敌対したキリスト教徒の一派に対して彼らを援助した。そして彼らは敵に勝利したが、実にそれはムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の出現によるものだったのである。

ترتيبها ٦٢ سُورَةُ الجُمُعَةِ آياتها ١١

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

يُسَبِّحُ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ الْمَلِكِ الْقُدُّوسِ الْعَزِيزِ
الْحَكِيمِ ﴿١﴾ هُوَ الَّذِي بَعَثَ فِي الْأُمِّيِّينَ رَسُولًا مِّنْهُمْ يَتْلُو
عَلَيْهِمْ آيَاتِهِ وَيُزَكِّيهِمْ وَيُعَلِّمُهُمُ الْكِتَابَ وَالْحِكْمَةَ وَإِن كَانُوا
مِن قَبْلُ لَفِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٢﴾ وَآخَرِينَ مِنْهُمْ لَمَّا يَلْحَقُوا بِهِمْ
وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٣﴾ ذَٰلِكَ فَضْلُ اللَّهِ يُؤْتِيهِ مَن يَشَاءُ وَاللَّهُ
ذُو الْفَضْلِ الْعَظِيمِ ﴿٤﴾ مَثَلُ الَّذِينَ حُمِّلُوا التَّوْرَاةَ ثُمَّ لَمْ
يَحْمِلُوهَا كَمَثَلِ الْحِمَارِ يَحْمِلُ أَسْفَارًا بِئْسَ مَثَلُ الْقَوْمِ
الَّذِينَ كَذَّبُوا بِآيَاتِ اللَّهِ وَاللَّهُ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ ﴿٥﴾
قُلْ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ هَادُوا إِن زَعَمْتُمْ أَنَّكُمْ أَوْلِيَاءُ لِلَّهِ مِن
دُونِ النَّاسِ فَتَمَنَّوُا الْمَوْتَ إِن كُنتُمْ صَادِقِينَ ﴿٦﴾ وَلَا يَتَمَنَّوْنَهُ
أَبَدًا بِمَا قَدَّمَتْ أَيْدِيهِمْ وَاللَّهُ عَلِيمٌ بِالظَّالِمِينَ ﴿٧﴾ قُلْ إِنَّ
الْمَوْتَ الَّذِي تَفِرُّونَ مِنْهُ فَإِنَّهُ مُلَاقِيكُمْ ثُمَّ تُرَدُّونَ
إِلَىٰ عَالِمِ الْغَيْبِ وَالشَّهَادَةِ فَيُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٨﴾

合同礼拝章
(アル＝ジュムア章)

1天地に存在する全てのものは、アッラーをかれに相応しくないあらゆるものから無縁な崇高な存在として讃える。そしてかれのみが全ての所有者であり、いかなるものの介在もなく物事を司られる御方であり、あらゆる欠点から無縁な御方なのである。かれは何ものにも屈服することのない威光高き御方であり、その統御と創造においてこの上なく英知溢れた御方である。

2-3崇高なるアッラーは読み書きを知らず、啓典どころかその痕跡すら認められないような民であるアラブ人自身の中から、全人類への使徒を遣わされた。その使徒は彼らにクルアーンを読み聞かせ、彼らを誤った信仰教義や悪徳から清め、彼らにクルアーンとスンナ(預言者の慣習)を教えた。人々は彼が遣わされる前、真理から明白に逸れ去っていたのである。また崇高なるアッラーは、まだその当時この世に存在していない後に現れるアラブ人及び非アラブ人の別の民に対しても彼を遣わされた。至高のアッラーのみこそは全てを屈服させられる威光高き御方であり、その御言葉と行いにおいてこの上なく英知溢れた御方である。

4使徒ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)がアラブ、及び非アラブ人の民に遣わされたのは、アッラーからの恩恵である。かれはそれをしもべの内の、お望みになられる

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِذَا نُودِيَ لِلصَّلَاةِ مِنْ يَوْمِ الْجُمُعَةِ فَاسْعَوْا إِلَىٰ ذِكْرِ اللَّهِ وَذَرُوا الْبَيْعَ ۚ ذَٰلِكُمْ خَيْرٌ لَكُمْ إِنْ كُنْتُمْ تَعْلَمُونَ ﴿٩﴾ فَإِذَا قُضِيَتِ الصَّلَاةُ فَانْتَشِرُوا فِي الْأَرْضِ وَابْتَغُوا مِنْ فَضْلِ اللَّهِ وَاذْكُرُوا اللَّهَ كَثِيرًا لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ﴿١٠﴾ وَإِذَا رَأَوْا تِجَارَةً أَوْ لَهْوًا انْفَضُّوا إِلَيْهَا وَتَرَكُوكَ قَائِمًا ۚ قُلْ مَا عِنْدَ اللَّهِ خَيْرٌ مِنَ اللَّهْوِ وَمِنَ التِّجَارَةِ ۚ وَاللَّهُ خَيْرُ الرَّازِقِينَ ﴿١١﴾

سُورَةُ المُنَافِقُونَ

ترتيبها ٦٣ — آياتها ١١

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

إِذَا جَاءَكَ الْمُنَافِقُونَ قَالُوا نَشْهَدُ إِنَّكَ لَرَسُولُ اللَّهِ ۗ وَاللَّهُ يَعْلَمُ إِنَّكَ لَرَسُولُهُ وَاللَّهُ يَشْهَدُ إِنَّ الْمُنَافِقِينَ لَكَاذِبُونَ ﴿١﴾ اتَّخَذُوا أَيْمَانَهُمْ جُنَّةً فَصَدُّوا عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ ۚ إِنَّهُمْ سَاءَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٢﴾ ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ آمَنُوا ثُمَّ كَفَرُوا فَطُبِعَ عَلَىٰ قُلُوبِهِمْ فَهُمْ لَا يَفْقَهُونَ ﴿٣﴾ وَإِذَا رَأَيْتَهُمْ تُعْجِبُكَ أَجْسَامُهُمْ ۖ وَإِنْ يَقُولُوا تَسْمَعْ لِقَوْلِهِمْ ۖ كَأَنَّهُمْ خُشُبٌ مُسَنَّدَةٌ ۖ يَحْسَبُونَ كُلَّ صَيْحَةٍ عَلَيْهِمْ ۚ هُمُ الْعَدُوُّ فَاحْذَرْهُمْ ۚ قَاتَلَهُمُ اللَّهُ ۖ أَنَّىٰ يُؤْفَكُونَ ﴿٤﴾

者にお授けになる。かれこそは慈善深く、無尽蔵に与えられえる御方である。

5律法に沿って行うことを義務付けられたにも関わらず、それを放棄したユダヤ教徒たちはちょうど、その内容を知りもしない書物を運ぶロバのようなものである。アッラーのみしるしを嘘とし、それによって益を得ることもない民の何と醜悪なことだろうか。アッラーはその掟に反し、服従しようとはしない不正の民を成功へと導かれはしない。

6使徒よ、改変されたユダヤ教の教義を固守する者たちに、こう言うのだ。「あなた方が、自分たちのみがアッラーの寵愛を受ける者であると言い張るのなら－そしてそれは虚言であるが－、死を望んでみよ。もしあなた方が、アッラーのあなた方に対する寵愛における主張を本当に信じ込んでいるというのなら。」

7彼らユダヤ教徒は来世よりも現世を優先し、彼らに対するアッラーの懲罰を恐れるがゆえに、決して死などを望んだりはしない。それは彼らが行っていた不信仰や悪行のためである。アッラーは不正者たちのことをよくご存知であり、彼らの不正がかれの御知識を免れることなどはないのだ。

8言え、「あなた方が逃げようとしている死は、避けようのないものである。それはあなた方の寿命が終わる時に到来する。そしてあなた方は復活の日、露わなものも密なものも皆ご存知であるアッラーの御許へと還されるのだ。かれはあなた方の現世での行為をお告げになり、それによってあなた方をお報いになる。」

9アッラーとその使徒を信じ、その法に従って行動する者たちよ。金曜礼拝の折にアザーン(礼拝の呼びかけ)がなされたら、説教の拝聴と礼拝の遂行へと向かうのだ。そして商売など、礼拝から勤しませるような全ての行為を一旦放棄せよ。あなた方が命じられているそのことこそ、あなた方に最善なのだ。そこにはあなた方の罪の赦しと、アッラーからの報奨がある。もしあなた方自身の福利を知っているというなら、そうするがよい。尚この節には金曜礼拝の出席と、説教の拝聴の義務が示されている。

10それで説教を聴き、金曜礼拝を終えたら、大地に拡散するがよい。そして努力してアッラーの糧を探求し、いかなる時にもアッラーをよく念じるのだ。きっとあなた方は現世と来世におけるよきものを獲得するであろう。

11あるムスリムたちは、隊商や現世的な遊興や虚飾などを目にした時、そちらの方へ散り散りに去ってしまった。預言者が説教壇で説教するままに、彼を置き去りにしてしまった。預言者よ言え、「アッラーの御許の報奨と安寧こそは、遊興や商売などよりも有益である。アッラーのみが糧をお恵みになり、お授けになる最善の御方なのだ。ゆえにかれにこそ求め、かれの御許にある現世と来世のよきものを獲得するため、かれへの服従においてご援助を乞うがよい。

وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ تَعَالَوْا يَسْتَغْفِرْ لَكُمْ رَسُولُ ٱللَّهِ لَوَّوْا رُءُوسَهُمْ
وَرَأَيْتَهُمْ يَصُدُّونَ وَهُم مُّسْتَكْبِرُونَ ﴿٥﴾ سَوَآءٌ عَلَيْهِمْ
أَسْتَغْفَرْتَ لَهُمْ أَمْ لَمْ تَسْتَغْفِرْ لَهُمْ لَن يَغْفِرَ ٱللَّهُ لَهُمْ ۚ إِنَّ
ٱللَّهَ لَا يَهْدِى ٱلْقَوْمَ ٱلْفَٰسِقِينَ ﴿٦﴾ هُمُ ٱلَّذِينَ يَقُولُونَ
لَا تُنفِقُوا عَلَىٰ مَنْ عِندَ رَسُولِ ٱللَّهِ حَتَّىٰ يَنفَضُّوا ۗ وَلِلَّهِ
خَزَآئِنُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَلَٰكِنَّ ٱلْمُنَٰفِقِينَ لَا يَفْقَهُونَ
﴿٧﴾ يَقُولُونَ لَئِن رَّجَعْنَآ إِلَى ٱلْمَدِينَةِ لَيُخْرِجَنَّ ٱلْأَعَزُّ
مِنْهَا ٱلْأَذَلَّ ۚ وَلِلَّهِ ٱلْعِزَّةُ وَلِرَسُولِهِۦ وَلِلْمُؤْمِنِينَ وَلَٰكِنَّ
ٱلْمُنَٰفِقِينَ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٨﴾ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تُلْهِكُمْ
أَمْوَٰلُكُمْ وَلَآ أَوْلَٰدُكُمْ عَن ذِكْرِ ٱللَّهِ ۚ وَمَن يَفْعَلْ
ذَٰلِكَ فَأُولَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْخَٰسِرُونَ ﴿٩﴾ وَأَنفِقُوا مِن مَّا رَزَقْنَٰكُم
مِّن قَبْلِ أَن يَأْتِىَ أَحَدَكُمُ ٱلْمَوْتُ فَيَقُولَ رَبِّ لَوْلَآ أَخَّرْتَنِىٓ
إِلَىٰٓ أَجَلٍ قَرِيبٍ فَأَصَّدَّقَ وَأَكُن مِّنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ﴿١٠﴾ وَلَن
يُؤَخِّرَ ٱللَّهُ نَفْسًا إِذَا جَآءَ أَجَلُهَا ۚ وَٱللَّهُ خَبِيرٌۢ بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿١١﴾

ترتيبها ٦٤ سُورَةُ التَّغَابُنِ آياتها ١٨

偽信者たち章
(アル＝ムナーフィクーン章)

1使徒よ、偽信者たちはあなたがいる集まりの場にやって来た時、口先でこう言った。「私たちは、あなたがアッラーの使徒であると証言する。」アッラーは、あなたがアッラーの使徒であることをご存知である。そしてかれは、偽信者たちがあなたの面前で見せかけている証言や、口先での誓い、内心に秘めた不信仰などにおいて、嘘つきであることを証言されるのだ。

2-3偽信者たちはその誓いをもって、あなた方から痛めつけられ、非難されることからの盾とし、予防策としている。そして彼らは自分自身と人々を、真っ直ぐなアッラーの道から阻んでいる。彼らの行いの何と悪いことであろうか。というのも彼らは上辺では信仰しているように見せかけてはいるが、内心においては信じてはいないからである。それでアッラーはその不信仰ゆえに、彼らの心を封じられた。ゆえに彼らはどこに彼らの利があるか、分からずにいるのだ。

4また彼ら偽信者を見てみれば、あなたは彼らの風采や外見に惑わされるであろう。また彼らが話せば、あなたはその言葉巧みさゆえ、彼らに耳を傾けてしまうであろう。しかし彼らは信仰心の欠けた心と、理解と有益な知識の脱落した知性ゆえに、あたかも壁に立てかけられた生命のない材木のようである。彼らは自分たちの真の状態を知っているゆえに、またそのひどい臆病さと心の奥底にまで到達した恐怖感ゆえに、あらゆる大きな音が彼らに対して上げられたものではないか、また彼らを害するものなのではないか、と疑心暗鬼に陥っている。彼らこそはあなたと信仰者たちに対して激しい敵意を抱く真の敵であるのだから、彼らに気を付けるのだ。アッラーが彼らを辱められ、彼らをそのご慈悲から遠ざけられるよう。一体彼らはどうして真理から、偽信と迷妄へと立ち去ってしまったのか？

5そして彼ら偽信者に「あなた方が思わず発してしまった悪い言葉や馬鹿げた話を弁解し、改悛して来るのだ。アッラーの使徒はアッラーに、あなた方のために罪のお赦しを乞うて下さるだろう。」と言われれば、彼らは顔を背け、高慢さと蔑みの念から頭を振る。使徒よ、あなたは彼らが驕慢さから勧告を受け入れず、あなたから背き去るのを確かに目にしたのだ。

6使徒よ、あなたが彼ら偽信者のためにアッラーにそのお赦しを乞おうが、乞うまいが、アッラーは彼らの罪を絶対にお赦しにはならないのだ。それは彼らの不服従への執着と、根強い不信仰のためである。アッラーはかれを信じず、かれに対する服従から逸脱した民を信仰へと導かれることはない。

7彼ら偽信者はマディーナの民にこう言う。「アッラーの使徒の教友であるムハージルーン(移住者たち)が彼から離脱するまで、彼らに施しを与えるのではない。」しかし諸天地とその間にある糧の宝庫は、アッラーにのみ属する。かれはお望みの者に与えられ、お望みの者には禁じられる御方。しかし偽信者たちには熟慮がないのであり、例えそのようなことをしても彼らが何らかの益に与かることはない。

8彼ら偽信者は言う。「マディーナに戻ったら、威光高い我々の集団が卑小な信仰者の集団を追いやるであろう。」しかし威光は至高のアッラーと、その使徒(彼にアッラーからの祝

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

يُسَبِّحُ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ لَهُ الْمُلْكُ وَلَهُ الْحَمْدُ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿١﴾ هُوَ الَّذِي خَلَقَكُمْ فَمِنْكُمْ كَافِرٌ وَمِنْكُمْ مُؤْمِنٌ وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ﴿٢﴾ خَلَقَ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضَ بِالْحَقِّ وَصَوَّرَكُمْ فَأَحْسَنَ صُوَرَكُمْ وَإِلَيْهِ الْمَصِيرُ ﴿٣﴾ يَعْلَمُ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ وَيَعْلَمُ مَا تُسِرُّونَ وَمَا تُعْلِنُونَ وَاللَّهُ عَلِيمٌ بِذَاتِ الصُّدُورِ ﴿٤﴾ أَلَمْ يَأْتِكُمْ نَبَأُ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ قَبْلُ فَذَاقُوا وَبَالَ أَمْرِهِمْ وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٥﴾ ذَٰلِكَ بِأَنَّهُ كَانَتْ تَأْتِيهِمْ رُسُلُهُمْ بِالْبَيِّنَاتِ فَقَالُوا أَبَشَرٌ يَهْدُونَنَا فَكَفَرُوا وَتَوَلَّوْا وَاسْتَغْنَى اللَّهُ وَاللَّهُ غَنِيٌّ حَمِيدٌ ﴿٦﴾ زَعَمَ الَّذِينَ كَفَرُوا أَنْ لَنْ يُبْعَثُوا قُلْ بَلَىٰ وَرَبِّي لَتُبْعَثُنَّ ثُمَّ لَتُنَبَّؤُنَّ بِمَا عَمِلْتُمْ وَذَٰلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرٌ ﴿٧﴾ فَآمِنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ وَالنُّورِ الَّذِي أَنْزَلْنَا وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ﴿٨﴾ يَوْمَ يَجْمَعُكُمْ لِيَوْمِ الْجَمْعِ ذَٰلِكَ يَوْمُ التَّغَابُنِ وَمَنْ يُؤْمِنْ بِاللَّهِ وَيَعْمَلْ صَالِحًا يُكَفِّرْ عَنْهُ سَيِّئَاتِهِ وَيُدْخِلْهُ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا ذَٰلِكَ الْفَوْزُ الْعَظِيمُ ﴿٩﴾

福と平安あれ)、そして誰でもないアッラーとその使徒を信仰する者たちにこそ属するのだ。偽信者たちはその無知ゆえ、そのことを知らない。

9アッラーとその使徒を信じ、その法に従って行動する者たちよ。アッラーに対する崇拝行為と服従行為をそっちのけにして、あなた方の財産や子供にうつつを抜かすのではない。財産や子孫にうつつを抜かしてそれらをおろそかにする者こそは、アッラーの寛容さとご慈悲という幸運における損失者である。

10アッラーとその使徒を信じる者たちよ、われ(アッラーのこと)があなた方に授けたものの内から慈善の道に施すのだ。そしてあなた方に死が到来し、その兆候や印を目にする前に、急いでそうするがよい。その折になってあなた方はこう言うことになるだろうから。「主よ、私に猶予をお与え下さい。もう少々死期を遅らせて下さい。そうすれば私は私の財を施し、正しく信心深い者となるでしょうに。

11しかし人の死期が訪れ、その寿命が終わったら、アッラーは決して猶予を与えて下さりはしない。崇高なるアッラーは善行であれ悪行であれ、あなた方が行うことを抜かりなくご存知の御方。そしてかれはあなた方の行いに応じて、あなた方にお報いになる。

騙し合い章
(アッ=タガーブン章)

1天地に存在する全てのものは、アッラーをかれに相応しくないあらゆるものからかけはなれた無縁で崇高な存在として讃える。そして崇高なるかれこそは全ての物事をいかなる制限もなく司られる御方であり、かれにこそよき讃美は属する。そしてかれは全てを可能にされる御方である。

2アッラーこそはあなた方を無から生じしめられた御方。しかしあなた方の内のある者たちは、かれのみが崇拝に値する御方であるということを否定し、またある者たちはかれを信じ、その法に沿って行う。崇高なるかれこそはあなた方の行いを包み隠さずご覧になられる御方であり、そしてそれによってあなた方に報われる御方である。

3アッラーは途方もない英知によって、天地を創られた。またかれは、あなた方を最も美しい形に創られた。かれにこそ審判の日の還り所があるのであり、そしてかれは各々の行いに応じてお報いになられる。

4崇高かつ至高なる御方は、天地の全てをご存知である。また－人間よ－かれはあなた方が自分たちの間で内密にしていることも、露わにしていることもご存知である。アッラーは胸の内に潜めていることも、心の奥に隠していることも、知っておられるのだ。

5シルク[1]の徒よ、一体あなた方以前の民で不信仰に陥っていた者たちの知らせが届いていないのか？彼らはその不信仰と現世における悪行の、当然の悪い結末を味わったのだ。そして彼らには来世において、痛ましい懲罰が待ち受けている。

---

1 １１３ページの注釈１を参照。

وَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَكَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِنَآ أُوْلَٰٓئِكَ أَصۡحَٰبُ
ٱلنَّارِ خَٰلِدِينَ فِيهَاۖ وَبِئۡسَ ٱلۡمَصِيرُ ﴿١٠﴾ مَآ أَصَابَ مِن
مُّصِيبَةٍ إِلَّا بِإِذۡنِ ٱللَّهِۗ وَمَن يُؤۡمِنۢ بِٱللَّهِ يَهۡدِ قَلۡبَهُۥۚ وَٱللَّهُ بِكُلِّ
شَيۡءٍ عَلِيمٞ ﴿١١﴾ وَأَطِيعُواْ ٱللَّهَ وَأَطِيعُواْ ٱلرَّسُولَۚ فَإِن
تَوَلَّيۡتُمۡ فَإِنَّمَا عَلَىٰ رَسُولِنَا ٱلۡبَلَٰغُ ٱلۡمُبِينُ ﴿١٢﴾ ٱللَّهُ لَآ إِلَٰهَ
إِلَّا هُوَۚ وَعَلَى ٱللَّهِ فَلۡيَتَوَكَّلِ ٱلۡمُؤۡمِنُونَ ﴿١٣﴾ يَٰٓأَيُّهَا
ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِنَّ مِنۡ أَزۡوَٰجِكُمۡ وَأَوۡلَٰدِكُمۡ عَدُوّٗا
لَّكُمۡ فَٱحۡذَرُوهُمۡۚ وَإِن تَعۡفُواْ وَتَصۡفَحُواْ وَتَغۡفِرُواْ
فَإِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٞ رَّحِيمٌ ﴿١٤﴾ إِنَّمَآ أَمۡوَٰلُكُمۡ وَأَوۡلَٰدُكُمۡ
فِتۡنَةٞۚ وَٱللَّهُ عِندَهُۥٓ أَجۡرٌ عَظِيمٞ ﴿١٥﴾ فَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ مَا ٱسۡتَطَعۡتُمۡ
وَٱسۡمَعُواْ وَأَطِيعُواْ وَأَنفِقُواْ خَيۡرٗا لِّأَنفُسِكُمۡۗ وَمَن
يُوقَ شُحَّ نَفۡسِهِۦ فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡمُفۡلِحُونَ ﴿١٦﴾ إِن تُقۡرِضُواْ
ٱللَّهَ قَرۡضًا حَسَنٗا يُضَٰعِفۡهُ لَكُمۡ وَيَغۡفِرۡ لَكُمۡۚ وَٱللَّهُ شَكُورٌ
حَلِيمٌ ﴿١٧﴾ عَٰلِمُ ٱلۡغَيۡبِ وَٱلشَّهَٰدَةِ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ﴿١٨﴾

ترتيبها ٦٥ — سُورَةُ الطَّلَاقِ — آياتها ١٢

6彼らが現世で味わい、そして来世においても味わうことになる懲罰は、彼らのもとにアッラーの使徒たちが明瞭なみしるしと明白な奇跡を携えて到来したにも関わらず、彼らがそれを否定してこのように言っていたからである。「我々と同じ人間が、我々を導くと言うのか？」そして彼らはアッラーの不信仰に陥り、その使徒たちのメッセージを否定し、真理から背き去ってそれを受け入れなかった。しかしアッラーは彼らのことなど必要ともされない。かれこそは十全で、何ものをも必要とはされない御方。かれにこそ無制限かつ完全なる十全さは属し、またかれこそはその御言葉と行いと属性において讃えられるべき御方。かれは彼らのことなどお構いにはなられない。そしてかれは彼らの迷妄によって害されることもない。

7アッラーの不信仰に陥っている者たちは、死後も墓場から召集されることなどないと虚偽の主張をする。使徒よ、言うのだ。「いや、私の主にかけて。あなた方は墓場から生きた状態で呼び出されよう。そしてあなた方が現世で行っていたことを、告げられよう。そんなことはアッラーにとって容易いことなのである。

8ゆえにシルク[1] の徒よ、アッラーとその使徒を信じるのだ。そして使徒に下されたクルアーンによって導かれよ。アッラーはあなた方のいかなる言動も熟知されている御方であり、審判の日にはそれらでもってあなた方に報われる御方なのだ。

9アッラーが先人たちと後世の者たちを召集される、召集の日を想起せよ。その日こそは被造物の間の損失と格差が露わになる日であり、信仰者は不信仰者と不服従の民に損失を味わわせるのだ。それで信仰者はアッラーのご慈悲により天国に入り、一方不信仰の民はアッラーの正義により地獄に入る。そしてアッラーを信じ、かれに服従する者はその罪を赦されよう。そして宮殿の下を河川が流れる天国の楽園に入れられ、そこに永遠に留まろう。天国での永遠の住まいこそは、何物にも比べようもない偉大な勝利なのである。

10真に崇拝されるべき存在であるアッラーをないがしろにし、その使徒たちが携えて到来したその唯一無二の主としての権威と、唯一の崇拝対象としての権威の明証を虚偽とする者たちこそは地獄に永遠に留まる民である。その行き先となった地獄という帰り所の、何と忌まわしいことであろうか。

11人に降りかかるあらゆる災難は全て、アッラーのお許しと定めによるものである。アッラーを信じる者は、かれのご命令への服従と、かれの定めに対する満足へとその心を導かれるであろう。そして最善の言葉と行い、状態へと導かれるのだ。というのも導きの源は心であり、身体はその従属物でしかないからである。アッラーは全てをご存知であり、かれの御知識を免れるいかなるものも存在しない。

12人々よ、アッラーがお命じになられた物事と禁じられた物事において、かれに従うのだ。そしてその使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)が主から伝達することにおいて、彼に従え。もしあなた方がアッラーとその使徒の服従から背いても、そのことがわれら(アッラーのこと)の使徒を害することはない。彼はただ彼がそれをもって遣わされたところのメッセ

1　１３ページの注釈１を参照。

يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ إِذَا طَلَّقْتُمُ النِّسَاءَ فَطَلِّقُوهُنَّ لِعِدَّتِهِنَّ وَأَحْصُوا الْعِدَّةَ ۖ وَاتَّقُوا اللَّهَ رَبَّكُمْ ۖ لَا تُخْرِجُوهُنَّ مِن بُيُوتِهِنَّ وَلَا يَخْرُجْنَ إِلَّا أَن يَأْتِينَ بِفَاحِشَةٍ مُّبَيِّنَةٍ ۚ وَتِلْكَ حُدُودُ اللَّهِ ۚ وَمَن يَتَعَدَّ حُدُودَ اللَّهِ فَقَدْ ظَلَمَ نَفْسَهُ ۚ لَا تَدْرِي لَعَلَّ اللَّهَ يُحْدِثُ بَعْدَ ذَٰلِكَ أَمْرًا ﴿١﴾ فَإِذَا بَلَغْنَ أَجَلَهُنَّ فَأَمْسِكُوهُنَّ بِمَعْرُوفٍ أَوْ فَارِقُوهُنَّ بِمَعْرُوفٍ وَأَشْهِدُوا ذَوَيْ عَدْلٍ مِّنكُمْ وَأَقِيمُوا الشَّهَادَةَ لِلَّهِ ۚ ذَٰلِكُمْ يُوعَظُ بِهِ مَن كَانَ يُؤْمِنُ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ ۚ وَمَن يَتَّقِ اللَّهَ يَجْعَل لَّهُ مَخْرَجًا ﴿٢﴾ وَيَرْزُقْهُ مِنْ حَيْثُ لَا يَحْتَسِبُ ۚ وَمَن يَتَوَكَّلْ عَلَى اللَّهِ فَهُوَ حَسْبُهُ ۚ إِنَّ اللَّهَ بَالِغُ أَمْرِهِ ۚ قَدْ جَعَلَ اللَّهُ لِكُلِّ شَيْءٍ قَدْرًا ﴿٣﴾ وَاللَّائِي يَئِسْنَ مِنَ الْمَحِيضِ مِن نِّسَائِكُمْ إِنِ ارْتَبْتُمْ فَعِدَّتُهُنَّ ثَلَاثَةُ أَشْهُرٍ وَاللَّائِي لَمْ يَحِضْنَ ۚ وَأُولَاتُ الْأَحْمَالِ أَجَلُهُنَّ أَن يَضَعْنَ حَمْلَهُنَّ ۚ وَمَن يَتَّقِ اللَّهَ يَجْعَل لَّهُ مِنْ أَمْرِهِ يُسْرًا ﴿٤﴾ ذَٰلِكَ أَمْرُ اللَّهِ أَنزَلَهُ إِلَيْكُمْ ۚ وَمَن يَتَّقِ اللَّهَ يُكَفِّرْ عَنْهُ سَيِّئَاتِهِ وَيُعْظِمْ لَهُ أَجْرًا ﴿٥﴾

ージを、明白な説明でもって伝達するだけなのであるから。

13アッラーこそはその他に真に崇拝すべきものが存在しない、唯一の御方。ゆえに信仰者たちは全ての物事においてアッラーの唯一性を確立しつつ、かれにのみ全てを委ねるがよい。

14アッラーとその使徒を信じる者たちよ。あなた方の妻子の中にはあなた方をアッラーの道から遠ざけ、かれへの服従から阻もうとするあなた方の敵がいる。ゆえに彼らに注意を払い、従うのではない。しかしもしあなた方が彼らの悪行を大目に見て、そこから身を避け、またそれが公けになることから庇ってやるのなら、アッラーはお赦し深く慈しみ深い御方であるから、あなた方の罪をお赦しになるであろう。かれは崇高なる御方であり、この上なくお赦し深く、大きなご慈悲を示される御方である。

15あなた方の財産と子孫は、あなた方への試練と試験に過ぎない。そしてアッラーへの服従を他の何ものに対する服従よりも優先させ、その財産における義務を遂行する者には、かれの御許において偉大な報奨があろう。

16ゆえに信仰者よ、アッラーへの畏怖の念において出来る限りの努力を払うのだ。そしてアッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の言うことを、熟慮と思念をもってよく聴け。彼の命令に服し、彼の禁じることは避けよ。そしてアッラーがあなた方に授けた物の内から、施すのだ。それがあなた方にとって最善なのである。吝嗇から無縁で、かつ余計な財産から身を遠ざける者こそは、全ての善と全ての望みを勝ち取る者なのである。

17快く真摯な気持ちでアッラーの道に財産を費やせば、かれは費やした分の報奨を更に倍増させて下さろう。そしてあなた方の罪をお赦しになろう。アッラーはよく施しをする者に、彼が費やしたもの以上のよき報奨でもって報われる御方。そしてかれに逆らう者に対して懲罰をお急ぎにならない、最も寛如深い御方である。

18かれは密なものも露わなものも全てご存知であられる、崇高なる御方。そして何ものにも屈服させられることのない威光高き御方であり、その御言葉と行いにおいてこの上なく英知溢れた御方である。

離婚章
(アッ＝タラーク章)

1預言者よ、あなたと他の信仰者たちがその妻を離縁する際には、彼女らがイッダ(待婚期間)を迎えられる状態 - つまりあなた方が彼女らと交わらず、しかも彼女らが月経にはない清浄な状態、あるいは彼女らが妊娠している状態 - においてそうするのだ。そしてイッダを遵守せよ。それはもしあなた方が彼女らを復縁したくなった時に復縁の時期を知り、またあなた方の主を畏れるためなのである。そしてイッダ - まだ月経を迎えてはいない者と既に閉経した者、妊婦以外の者にとっては3度の月経 - が終了するまで、離婚宣告した妻たちを彼女らが居住する住居から追い出してはならない。また彼女らが自らそこから出てもならない。但し姦通などの明白な違法行為を犯した場合は別である。これこそはアッラーがそのしもべに定められた掟である。アッラーの掟を侵す者は自らに不正を働き、自らを破滅に陥れ

أَسْكِنُوهُنَّ مِنْ حَيْثُ سَكَنتُم مِّن وُجْدِكُمْ وَلَا تُضَآرُّوهُنَّ لِتُضَيِّقُوا۟
عَلَيْهِنَّ ۚ وَإِن كُنَّ أُو۟لَٰتِ حَمْلٍ فَأَنفِقُوا۟ عَلَيْهِنَّ حَتَّىٰ يَضَعْنَ حَمْلَهُنَّ ۚ
فَإِنْ أَرْضَعْنَ لَكُمْ فَـَٔاتُوهُنَّ أُجُورَهُنَّ ۖ وَأْتَمِرُوا۟ بَيْنَكُم بِمَعْرُوفٍ ۖ وَإِن
تَعَاسَرْتُمْ فَسَتُرْضِعُ لَهُۥٓ أُخْرَىٰ ﴿٦﴾ لِيُنفِقْ ذُو سَعَةٍ مِّن سَعَتِهِۦ ۖ
وَمَن قُدِرَ عَلَيْهِ رِزْقُهُۥ فَلْيُنفِقْ مِمَّآ ءَاتَىٰهُ ٱللَّهُ ۚ لَا يُكَلِّفُ ٱللَّهُ نَفْسًا
إِلَّا مَآ ءَاتَىٰهَا ۚ سَيَجْعَلُ ٱللَّهُ بَعْدَ عُسْرٍ يُسْرًا ﴿٧﴾ وَكَأَيِّن مِّن قَرْيَةٍ
عَتَتْ عَنْ أَمْرِ رَبِّهَا وَرُسُلِهِۦ فَحَاسَبْنَٰهَا حِسَابًا شَدِيدًا وَعَذَّبْنَٰهَا
عَذَابًا نُّكْرًا ﴿٨﴾ فَذَاقَتْ وَبَالَ أَمْرِهَا وَكَانَ عَٰقِبَةُ أَمْرِهَا خُسْرًا ﴿٩﴾
أَعَدَّ ٱللَّهُ لَهُمْ عَذَابًا شَدِيدًا ۖ فَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ يَٰٓأُو۟لِى ٱلْأَلْبَٰبِ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ۚ
قَدْ أَنزَلَ ٱللَّهُ إِلَيْكُمْ ذِكْرًا ﴿١٠﴾ رَّسُولًا يَتْلُوا۟ عَلَيْكُمْ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ مُبَيِّنَٰتٍ
لِّيُخْرِجَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ مِنَ ٱلظُّلُمَٰتِ إِلَى ٱلنُّورِ ۚ
وَمَن يُؤْمِنۢ بِٱللَّهِ وَيَعْمَلْ صَٰلِحًا يُدْخِلْهُ جَنَّٰتٍ تَجْرِى مِن تَحْتِهَا
ٱلْأَنْهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَآ أَبَدًا ۖ قَدْ أَحْسَنَ ٱللَّهُ لَهُۥ رِزْقًا ﴿١١﴾ ٱللَّهُ ٱلَّذِى خَلَقَ
سَبْعَ سَمَٰوَٰتٍ وَمِنَ ٱلْأَرْضِ مِثْلَهُنَّ يَتَنَزَّلُ ٱلْأَمْرُ بَيْنَهُنَّ لِتَعْلَمُوٓا۟ أَنَّ
ٱللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ قَدِيرٌ وَأَنَّ ٱللَّهَ قَدْ أَحَاطَ بِكُلِّ شَىْءٍ عِلْمًۢا ﴿١٢﴾

る者。あなた方離婚宣告をする男性たちは、もしかするとアッラーがその離婚の後にあなた方が思いもしなかった出来事によって、あなた方が彼女らと復縁したくなるかもしれないということを、知らないのである。

2-3離婚宣告を受けた女性たちがイッダの終了を迎えたら、あなた方は彼女らを復縁して彼女らによくしてやり、十分な扶養をするか、あるいは彼女らが害悪を蒙らないような形でもって、彼女らの権利を守りつつ離別するのだ。そして復縁にしろ離婚にしろ、二人の公正な男性の証人を立てよ。そして証人たちは何ものでもない、アッラーにおいてのみ証言を行うのだ。それこそはアッラーと最後の日を信じる者がそこに訓戒を見出すべく、アッラーがあなた方に命じられたことである。アッラーを畏れる者には、かれが命じられた物事を遵守し、禁じられた物事を回避させよ。そうすればかれは人が思いもせず、計算もしていなかったような所において、あらゆる辛苦からの抜け道を示し、日々の糧への手段を容易にして下さろう。またアッラーのみに全てを委ねる者は、アッラーこそが彼の全ての物事における心配事を晴らしてくれるのである。アッラーこそは物事を成就させ、何の落ち度もなく、また全ての願いを叶えられる御方。そしてアッラーは全ての物事において、必ずそこに行き着くところの決められた期限と、そこを越えることのない一定の限度を定められた御方である。

4高齢ゆえに閉経した女性が離婚宣告を受け、そのためにあなた方が彼女のイッダを分からなくなってしまった場合、彼女らのそれは3ヶ月間である。またまだ月経を迎えてはいない年少者のイッダもまた3ヶ月で、妊婦のイッダは出産するまでである。アッラーを畏れる者には、その掟を遵守させよ。そうすればかれは現世と来世において、その者の諸事を容易にして下さるであろう。

5人々よ、離婚の件に関して言及されたこれらのことは、あなた方がそれを知るべく、アッラーがあなた方に下されたご命令である。それでアッラーを畏れる者にはかれの不服従を回避させ、かれへの義務行為を果たさせるのだ。そうすればアッラーは彼の罪を帳消しにし、来世において彼に報奨を授け、天国に入れて下さるであろう。

6あなた方の状況と能力が許す範囲において、離婚宣告した女性たちをイッダの間、あなた方の住居などに住まわせよ。そして(妊婦であれば)出産するまでのイッダの間中、彼女を扶養するのだ。もし彼女があなた方のために報酬と引き換えに子供に授乳するならば、その報酬をきちんと払え。そして寛容さと快さといった善行をお互いに勧め合うのだ。そしてもし母親の授乳に報酬を支払わない場合、父親は離婚した母親以外の乳母を子供にあてがうことになる。

7経済的に余裕がある夫には、アッラーが彼に授けて下さった経済的能力に応じて、離婚宣告をした妻とその子供を扶養させよ。また経済的に苦しい困窮者に関しては、アッラーが彼に授けて下さった糧の中から扶養させるのだ。アッラーは経済的に余裕がない者に対し、経済的に余裕がある者と同様のものを課されたりはされない。アッラーは困窮の後に、余裕と豊かさを与えて下さるだろう。

8-9多くの国々の民はアッラーとその使徒の命令に背き、不正と不信仰の限りを尽くしてい

سورة التحريم
ترتيبها ٦٦ — آياتها ١٢

بسم الله الرحمن الرحيم
يا أيها النبي لم تحرم ما أحل الله لك تبتغي مرضات أزواجك والله
غفور رحيم ﴿١﴾ قد فرض الله لكم تحلة أيمانكم والله مولاكم
وهو العليم الحكيم ﴿٢﴾ وإذ أسر النبي إلى بعض أزواجه حديثا
فلما نبأت به وأظهره الله عليه عرف بعضه وأعرض عن بعض
فلما نبأها به قالت من أنبأك هذا قال نبأني العليم الخبير
﴿٣﴾ إن تتوبا إلى الله فقد صغت قلوبكما وإن تظاهرا عليه
فإن الله هو مولاه وجبريل وصالح المؤمنين والملائكة
بعد ذلك ظهير ﴿٤﴾ عسى ربه إن طلقكن أن يبدله أزواجا
خيرا منكن مسلمات مؤمنات قانتات تائبات عابدات سائحات
ثيبات وأبكارا ﴿٥﴾ يا أيها الذين آمنوا قوا أنفسكم وأهليكم
نارا وقودها الناس والحجارة عليها ملائكة غلاظ شداد
لا يعصون الله ما أمرهم ويفعلون ما يؤمرون ﴿٦﴾ يا أيها
الذين كفروا لا تعتذروا اليوم إنما تجزون ما كنتم تعملون ﴿٧﴾

た。それでわれら(アッラーのこと)は現世では彼らをその行いにおいて厳しい勘定でもって裁き、またこの上なく忌まわしい懲罰でもって罰した。こうして彼らはその傲慢さと不信仰の結末の苦汁を味わったのだ。彼らの不信仰の行き着く先は、またとない破滅と損失であった。

10-11アッラーは暴虐を尽くし、かれとその使徒たちの命令に背いた民に対し、厳しいことこの上ない懲罰をご用意された。ゆえにアッラーとその使徒を信じ、その法に従って行動する者たちよ。アッラーを畏れ、かれのお怒りに注意するのだ。アッラーはあなた方信仰者に対し、あなた方を戒め、またアッラーへの信仰とかれへの服従行為というあなた方の幸運を喚起する訓戒を下されたのだ。そしてその訓戒こそは、真理と虚妄を明瞭に識別するアッラーのみしるしをあなた方に朗誦して聞かせる、使徒(ムハンマド)なのである。彼はアッラーとその使徒を信じ、アッラーの命に沿って行い、かれに服従する者を、不信仰の闇から信仰の光へと救い出す。そしてアッラーは、かれを信じ善行に努める者を、その木々の下を河川が流れる天国に入れて下さろう。彼らはそこに永遠に留まる。アッラーは天国において、その正しい信仰者によき糧を授けて下さるのだ。

12アッラーこそは7層の天と、7層の地をお創りになられた御方。そしてその使徒たちに啓示したものや、それでもって天地の創造を管理するところのものなどのご命令を下された御方。人々よ、それはあなた方がアッラーが全能であり、かれにとって不可能なものなどないということを知るためなのである。そしてアッラーが全てを隈なくご存知になり、かれの御知識とご威力から免れるものなどは何一つとしてないということを知るためなのだ。

禁止章
(アッ＝タハリーム章)

1預言者(ムハンマド)よ、なぜあなたは妻たちの満足を求めて、アッラーがあなたに合法とされたものを自らに禁じるのか？アッラーはあなたにお赦し深く、また慈しみ深い御方であられる。

2信仰者よ、アッラーはあなた方に、贖罪によってあなた方の誓いを解消することを合法化された。その贖罪とは、10人の恵まれない者への食事、または衣服の提供、あるいは奴隷1人の解放である。もしそれが叶わなければ、3日間のサウム(斎戒)をせよ。アッラーはあなた方を援助され、その諸事を監護して下さる。かれこそはあなた方の福利をご存知になるがゆえにそれを定められ、かつその御言葉と行いにおいてこの上なく英知溢れた御方なのである。

3預言者がその妻ハフサ(彼女にアッラーのご満悦あれ)に内緒話をし、彼女がそれをアーイシャ(彼女にアッラーのご満悦あれ)に明かした時、アッラーは彼女が秘密を漏らしたことを預言者にお知らせになられた。預言者はハフサが漏らした話の一部を彼女に伝えたが、一部はその情け深さゆえそうすることを控えた。それで彼がハフサが内緒話を漏らしたことを明らかにすると、彼女はこう言った。「誰があなたにそのことを伝えたのですか？」預言者は言った。「最も密やかなものすらその御知識を免れることのない、全知のアッラーがお知らせになられたのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ تُوبُوٓاْ إِلَى ٱللَّهِ تَوۡبَةٗ نَّصُوحًا عَسَىٰ رَبُّكُمۡ
أَن يُكَفِّرَ عَنكُمۡ سَيِّـَٔاتِكُمۡ وَيُدۡخِلَكُمۡ جَنَّٰتٖ تَجۡرِي
مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ يَوۡمَ لَا يُخۡزِي ٱللَّهُ ٱلنَّبِيَّ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ
مَعَهُۥۖ نُورُهُمۡ يَسۡعَىٰ بَيۡنَ أَيۡدِيهِمۡ وَبِأَيۡمَٰنِهِمۡ يَقُولُونَ رَبَّنَآ
أَتۡمِمۡ لَنَا نُورَنَا وَٱغۡفِرۡ لَنَآۖ إِنَّكَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ٨
يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِيُّ جَٰهِدِ ٱلۡكُفَّارَ وَٱلۡمُنَٰفِقِينَ وَٱغۡلُظۡ عَلَيۡهِمۡۚ
وَمَأۡوَىٰهُمۡ جَهَنَّمُۖ وَبِئۡسَ ٱلۡمَصِيرُ ٩ ضَرَبَ ٱللَّهُ مَثَلٗا
لِّلَّذِينَ كَفَرُواْ ٱمۡرَأَتَ نُوحٖ وَٱمۡرَأَتَ لُوطٖۖ كَانَتَا تَحۡتَ
عَبۡدَيۡنِ مِنۡ عِبَادِنَا صَٰلِحَيۡنِ فَخَانَتَاهُمَا فَلَمۡ يُغۡنِيَا عَنۡهُمَا
مِنَ ٱللَّهِ شَيۡـٔٗا وَقِيلَ ٱدۡخُلَا ٱلنَّارَ مَعَ ٱلدَّٰخِلِينَ ١٠
وَضَرَبَ ٱللَّهُ مَثَلٗا لِّلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱمۡرَأَتَ فِرۡعَوۡنَ إِذۡ
قَالَتۡ رَبِّ ٱبۡنِ لِي عِندَكَ بَيۡتٗا فِي ٱلۡجَنَّةِ وَنَجِّنِي مِن فِرۡعَوۡنَ
وَعَمَلِهِۦ وَنَجِّنِي مِنَ ٱلۡقَوۡمِ ٱلظَّٰلِمِينَ ١١ وَمَرۡيَمَ ٱبۡنَتَ
عِمۡرَٰنَ ٱلَّتِيٓ أَحۡصَنَتۡ فَرۡجَهَا فَنَفَخۡنَا فِيهِ مِن رُّوحِنَا
وَصَدَّقَتۡ بِكَلِمَٰتِ رَبِّهَا وَكُتُبِهِۦ وَكَانَتۡ مِنَ ٱلۡقَٰنِتِينَ ١٢

4もしあなた方(ハフサとアーイシャ)が悔い改めるならば、実にあなた方の心はアッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の秘密の漏洩といった彼が嫌うことへと傾いてしまったのだから、そもそも悔悟するべきなのだ。しかしあなた方が彼を害することにおいて力を合わせると言うなら、実にアッラーとジブリール、そして信仰者の内の正しい者たちこそが彼の守護者であり援助者であられる。またアッラーのご援助に次いで、天使たちも彼に敵対し害する者たちに対する援助者であり協力者となるのだ。

5預言者の妻たちよ、もし彼があなた方を離縁するならば、彼の主はあなた方の代わりにアッラーに従順な妻たちを娶らせて下さるであろう。そして既婚者でも乙女でも、アッラーとその使徒を信じ、アッラーに服し、服従行為でもってアッラーの愛でられる物事へと回帰し、イバーダ(崇拝行為)に熱心で、サウム(斎戒)に励むような妻たちを。

6アッラーとその使徒を信じ、その法に従って行動する者たちよ。アッラーがあなた方に命じられる物事を行い、禁じられる物事を放棄することによって、あなた方自身を守れ。そして自分自身を守るものでもって、あなた方の家族も地獄の業火から守るのだ。その燃料は人間と石であり、そこに放り込まれた者たちの懲罰を執り行う。またその上には、彼らを取り扱うことにおいて強力で激烈な天使たちがいる。彼らはアッラーの命に背くことなく、ただ命じられたことを遂行するのである。

7アッラーが真に崇拝されるべき存在であることを否定し、不信仰へと陥った者たちは、地獄の炎へ放り込まれる際にこう言われる。「今日、あなた方は言い訳をするのではない。あなた方は、自分たちが現世で行ってきたことの報いを受けるのだから。」

8アッラーとその使徒を信じ、その法に従って行動する者たちよ。罪を悔い改め、アッラーへの服従へと還るのだ。それ以後はもう背いてはならない。そうすればあなた方の主はあなた方の悪行を帳消しにし、その宮殿の下を河川の流れる天国に入れてくれるかもしれない。その日アッラーは預言者と、彼と共に信仰した者たちを辱められたり、罰されたりするようなことはない。逆に彼らの位階を上げて下さるのだ。彼らの光は彼らの前方と左右を照らし、彼らは言う。「私たちの主よ、(地獄の上を跨いで天国への扉へと続く)架け橋を渡り切り、天国にまで導かれるよう、私たちの光を完遂して下さい。そして私たちを赦免し、私たちの罪をお赦しになり、それらをお隠し下さい。あなたこそは全てを可能にされる御方です。」

9預言者よ、不信仰を掲げて露わにする者たちと奮闘し、剣でもって戦うのだ。そして不信仰を内に潜め隠蔽している者たちとは、論証と法規定と宗教儀礼の確立によって奮闘せよ。いずれの者と戦うにせよ、強靭さと激烈さを用いよ。来世における彼らの住まいは地獄の業火なのである。彼らの還り所の何と忌まわしいことであろうか。

10アッラーは不信仰者の状態に関し、譬えを挙げられる - 彼らはムスリムたちと交わり、近くで接し、共に暮らしているが、それが彼らのアッラーに対する不信仰を益することなどはない。というのもアッラーの預言者ヌーフの妻と、同じくルートの妻は、われ(アッラーのこと)の正しいしもべの庇護下にありながら、彼らを宗教において裏切ったのである。彼女らは不信仰者だったのであり、その夫である二人の使徒すら彼女らをアッラーの懲罰から救うことは出来なかったのだ。そして彼女らにはこう言われたのだ。「二人とも地獄の徒と共

سُورَةُ المُلْك
ترتيبها ٦٧ — آياتها ٣٠

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

تَبَٰرَكَ ٱلَّذِى بِيَدِهِ ٱلْمُلْكُ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ قَدِيرٌ ﴿١﴾ ٱلَّذِى خَلَقَ
ٱلْمَوْتَ وَٱلْحَيَوٰةَ لِيَبْلُوَكُمْ أَيُّكُمْ أَحْسَنُ عَمَلًا ۚ وَهُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْغَفُورُ ﴿٢﴾
ٱلَّذِى خَلَقَ سَبْعَ سَمَٰوَٰتٍ طِبَاقًا ۖ مَّا تَرَىٰ فِى خَلْقِ ٱلرَّحْمَٰنِ مِن
تَفَٰوُتٍ ۖ فَٱرْجِعِ ٱلْبَصَرَ هَلْ تَرَىٰ مِن فُطُورٍ ﴿٣﴾ ثُمَّ ٱرْجِعِ ٱلْبَصَرَ كَرَّتَيْنِ
يَنقَلِبْ إِلَيْكَ ٱلْبَصَرُ خَاسِئًا وَهُوَ حَسِيرٌ ﴿٤﴾ وَلَقَدْ زَيَّنَّا ٱلسَّمَآءَ
ٱلدُّنْيَا بِمَصَٰبِيحَ وَجَعَلْنَٰهَا رُجُومًا لِّلشَّيَٰطِينِ ۖ وَأَعْتَدْنَا لَهُمْ عَذَابَ
ٱلسَّعِيرِ ﴿٥﴾ وَلِلَّذِينَ كَفَرُوا۟ بِرَبِّهِمْ عَذَابُ جَهَنَّمَ ۖ وَبِئْسَ ٱلْمَصِيرُ
﴿٦﴾ إِذَآ أُلْقُوا۟ فِيهَا سَمِعُوا۟ لَهَا شَهِيقًا وَهِىَ تَفُورُ ﴿٧﴾ تَكَادُ تَمَيَّزُ
مِنَ ٱلْغَيْظِ ۖ كُلَّمَآ أُلْقِىَ فِيهَا فَوْجٌ سَأَلَهُمْ خَزَنَتُهَآ أَلَمْ يَأْتِكُمْ نَذِيرٌ ﴿٨﴾
قَالُوا۟ بَلَىٰ قَدْ جَآءَنَا نَذِيرٌ فَكَذَّبْنَا وَقُلْنَا مَا نَزَّلَ ٱللَّهُ مِن شَىْءٍ إِنْ أَنتُمْ
إِلَّا فِى ضَلَٰلٍ كَبِيرٍ ﴿٩﴾ وَقَالُوا۟ لَوْ كُنَّا نَسْمَعُ أَوْ نَعْقِلُ مَا كُنَّا فِىٓ أَصْحَٰبِ
ٱلسَّعِيرِ ﴿١٠﴾ فَٱعْتَرَفُوا۟ بِذَنۢبِهِمْ فَسُحْقًا لِّأَصْحَٰبِ ٱلسَّعِيرِ ﴿١١﴾
إِنَّ ٱلَّذِينَ يَخْشَوْنَ رَبَّهُم بِٱلْغَيْبِ لَهُم مَّغْفِرَةٌ وَأَجْرٌ كَبِيرٌ ﴿١٢﴾

に、その業火の中に入るがよい。」この譬えは、預言者や義人などとの単なる近親性が、悪行による罪の軽減などにおいて益することはないということを示している。

11またアッラーは、かれを信じ、かれのみを崇拝し、その法に則って行い、そして社会的諸事において不信仰者たちと交わっても害を受けることのない信仰者たちの状態に関しても、このような譬えを挙げられる。フィルアウンの妻はアッラーに対する不信仰において最悪な者の庇護下にあったにも関わらず、アッラーを信ずる者であった。彼女はこう(祈って)言ったのだ。「主よ、あなたの御許である天国に、私のための住まいをご建立下さい。そしてフィルアウンの権勢と試練、そして彼から生じる悪事から私をお守り下さい。また彼の追従者たちの不正と迷妄から、そして彼らへの懲罰から私をお守り下さい。」

12またアッラーは信仰者に対し、その操を姦通から固守したイムラーンの娘マルヤムの譬えを挙げられる。至高のアッラーはジブリール(彼に平安あれ)に命じ、彼女の衣の隙間に息を吹き込ませられた。そしてその吐息は彼女の子宮に達し、彼女はイーサー(彼に平安あれ)を身篭った。彼女はその主の御言葉を信じ、かれがそのしもべのために定められた法に則った。そして彼女はその使徒に下された主の諸啓典を信じ、かれに従順な者であった。

大権章
(アル＝ムルク章)

1その御手に現世と来世の主権と権勢が属するアッラーの善と祝福は、全創造を満たす。かれこそは現世と来世においてそのご命令と定めを遂行される御方であり、全てのことを可能にされる御方。尚この節には、至高かつ崇高なるアッラーには御手が属しているが、それはかれの荘厳さにふさわしい性質のものであるということの確証が見受けられる。

2かれは、-人々よ-あなた方の内の誰が最も優れ、かつかれのみを意図した真摯な行いをするか試すために、生死を設けられた御方。かれは何ものにも屈服することのない威光高き御方であり、改悛するしもべに対してはこの上なくお赦し深い御方である。尚この節の中には、アッラーへの服従行為への勧めと、不服従への警告が含まれている。

3またかれは7層の天を均等に、各々重なり合う形で創造された御方。ゆえにそれを観察する者は、最も慈悲深い御方(アッラー)の創造の中に、いかなる不和や不均衡も見出すことはない。再び天に目を向けてみるがよい。一体あなたはそこに、割れ目や亀裂を見つけることが出来るだろうか?

4それからもう一度視線を戻してみるがよい。あなたの目はそこに何の欠陥も見出せず、惨めに元へ戻るであろう。そしてひどく疲弊するであろう。

5われ(アッラー)は輝く偉大な星々でもって、人の眼球が捉えることの出来る天の下層を飾りつけた。そしてそれらを、(天上の話を)盗み聞きしようとするシャイターンを焼き撃つ流星とした。またわれらは来世において、彼らがその熱さでもって推し量ることの出来る、燃え盛る業火による懲罰を準備しておいたのだ。

وأسروا قولكم أو اجهروا به إنه عليم بذات الصدور ﴿١٣﴾ ألا
يعلم من خلق وهو اللطيف الخبير ﴿١٤﴾ هو الذي جعل لكم
الأرض ذلولا فامشوا في مناكبها وكلوا من رزقه وإليه النشور
﴿١٥﴾ ءأمنتم من في السماء أن يخسف بكم الأرض فإذا هي
تمور ﴿١٦﴾ أم أمنتم من في السماء أن يرسل عليكم حاصبا
فستعلمون كيف نذير ﴿١٧﴾ ولقد كذب الذين من قبلهم فكيف
كان نكير ﴿١٨﴾ أولم يروا إلى الطير فوقهم صافات ويقبضن ما
يمسكهن إلا الرحمن إنه بكل شيء بصير ﴿١٩﴾ أمن هذا الذي
هو جند لكم ينصركم من دون الرحمن إن الكافرون إلا في غرور
﴿٢٠﴾ أمن هذا الذي يرزقكم إن أمسك رزقه بل لجوا في عتو
ونفور ﴿٢١﴾ أفمن يمشي مكبا على وجهه أهدى أمن يمشي سويا
على صراط مستقيم ﴿٢٢﴾ قل هو الذي أنشأكم وجعل لكم السمع
والأبصار والأفئدة قليلا ما تشكرون ﴿٢٣﴾ قل هو الذي ذرأكم
في الأرض وإليه تحشرون ﴿٢٤﴾ ويقولون متى هذا الوعد إن كنتم
صادقين ﴿٢٥﴾ قل إنما العلم عند الله وإنما أنا نذير مبين ﴿٢٦﴾

6そしてその創造主に対する不信仰者たちには、地獄の懲罰が待っている。地獄という還り所の何と忌まわしいことであろう。

7彼ら不信仰者らは地獄に放り込まれると、忌々しい大音響を耳にする。地獄の業火は轟々と燃え盛っているのだ。

8地獄は不信仰者への憤怒ゆえ、散り散りにならんばかりである。そこに人々の集団が放り込まれるたび、地獄の番人たちは彼らを譴責し、こう問いただす。「現世においてあなた方の下に、今あなた方が味わっているこの懲罰を警告する使徒は現れなかったのか？」

9彼らはこう答える。「ええ。アッラーの御許からの御使いが到来し、私たちに警告しましたとも。しかし私たちは彼を嘘つき呼ばわりしました。そして彼が携えて来たみしるしに対し、こう言っていたのです。“アッラーは人類の誰にも、何かを下したりはしない。使徒たちよ、あなた方は真理からひどく離れ去っているに他ならないのだ。”」

10そして彼らは自認しつつ、こう言う。「もし私たちが、真理を探究する者のような姿勢で(使徒に)耳を傾けていたら！あるいは私たちが呼びかけられていたものを、よく熟考していたのなら！そうすれば私たちは、地獄の民とならずには済んだのに。

11こうして彼らは地獄の懲罰の報いを受けることになった、彼らの虚偽と不信行を認めたのだ。地獄の徒が、アッラーのご慈悲から遠ざけられんことを。

12一方人目につかない所でその主を畏れ、かれを崇拝し、かれに逆らわず、またかれとの謁見の前に来世における懲罰を恐れる者は、アッラーからその罪を赦され、また天国における偉大な報奨を得るであろう。

13人々よ、あなた方が何かの件においてあなた方の言葉を隠していても、あるいは表しても、それはアッラーにとって変わりないのだ。崇高なるかれは胸中に潜む一切をご存知なのだから、一体どうしてあなた方はかれからあなた方の言動を隠すことが出来ようか？

14一体万有の主が、その創造物とその諸事についてご存知でないことなどがあろうか？かれこそはそれらをお創りになり、その創造をこの上なく見事な形に完成された御方であるのに。またかれこそはそのしもべに対してお優しく、彼らとその行いに関して通暁されている御方であるのだ。

15アッラーこそはあなた方がそこに安住すべく、大地を平坦になされた御方。ゆえにあなた方はその方々を徘徊し、アッラーがそこからあなた方にお恵みになられる糧を口にするがよい。あなた方は清算と報いのために、かれの御許へと墓場から復活させられるのだ。尚この節には糧と稼ぎを求めることへの示唆と、アッラーのみが真に崇拝に値する御方であり、かれにはいかなる共同者もないこと、そしてかれのご威力の証明が含まれている。またアッラーの恩恵の想起と、現世への傾倒への警告も促されている。

16-17マッカの不信仰者たちよ、あなた方は天の高きにおられるアッラーが、あなた方を地に沈めてしまわないと安心しているのか？大地があなた方を揺らし、完全に滅ぼしてしまわないとでも？またあなた方は、天の高きにおられるアッラーがあなた方に砂礫を運ぶ強風を送り、あなた方を打ち殺してしまわないと安心しているのか？そして不信仰者よ、あなた方は懲罰を眼前にした時初めて、われ(アッラー)の警告がいかなるものであるかを知

فَلَمَّا رَأَوْهُ زُلْفَةً سِيٓـَٔتْ وُجُوهُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ وَقِيلَ هَـٰذَا ٱلَّذِى
كُنتُم بِهِۦ تَدَّعُونَ ﴿٢٧﴾ قُلْ أَرَءَيْتُمْ إِنْ أَهْلَكَنِىَ ٱللَّهُ وَمَن مَّعِىَ
أَوْ رَحِمَنَا فَمَن يُجِيرُ ٱلْكَـٰفِرِينَ مِنْ عَذَابٍ أَلِيمٍ ﴿٢٨﴾ قُلْ هُوَ
ٱلرَّحْمَـٰنُ ءَامَنَّا بِهِۦ وَعَلَيْهِ تَوَكَّلْنَا ۖ فَسَتَعْلَمُونَ مَنْ هُوَ فِى ضَلَـٰلٍ مُّبِينٍ
﴿٢٩﴾ قُلْ أَرَءَيْتُمْ إِنْ أَصْبَحَ مَآؤُكُمْ غَوْرًا فَمَن يَأْتِيكُم بِمَآءٍ مَّعِينٍ ﴿٣٠﴾

سُورَةُ ٱلْقَلَمِ

ترتيبها ٦٨ — آياتها ٥٢

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَـٰنِ ٱلرَّحِيمِ

نٓ ۚ وَٱلْقَلَمِ وَمَا يَسْطُرُونَ ﴿١﴾ مَآ أَنتَ بِنِعْمَةِ رَبِّكَ بِمَجْنُونٍ ﴿٢﴾
وَإِنَّ لَكَ لَأَجْرًا غَيْرَ مَمْنُونٍ ﴿٣﴾ وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ ﴿٤﴾
فَسَتُبْصِرُ وَيُبْصِرُونَ ﴿٥﴾ بِأَييِّكُمُ ٱلْمَفْتُونُ ﴿٦﴾ إِنَّ رَبَّكَ هُوَ
أَعْلَمُ بِمَن ضَلَّ عَن سَبِيلِهِۦ وَهُوَ أَعْلَمُ بِٱلْمُهْتَدِينَ ﴿٧﴾ فَلَا تُطِعِ
ٱلْمُكَذِّبِينَ ﴿٨﴾ وَدُّوا۟ لَوْ تُدْهِنُ فَيُدْهِنُونَ ﴿٩﴾ وَلَا تُطِعْ كُلَّ
حَلَّافٍ مَّهِينٍ ﴿١٠﴾ هَمَّازٍ مَّشَّآءٍۭ بِنَمِيمٍ ﴿١١﴾ مَّنَّاعٍ لِّلْخَيْرِ مُعْتَدٍ
أَثِيمٍ ﴿١٢﴾ عُتُلٍّۭ بَعْدَ ذَٰلِكَ زَنِيمٍ ﴿١٣﴾ أَن كَانَ ذَا مَالٍ وَبَنِينَ
﴿١٤﴾ إِذَا تُتْلَىٰ عَلَيْهِ ءَايَـٰتُنَا قَالَ أَسَـٰطِيرُ ٱلْأَوَّلِينَ ﴿١٥﴾

ることになるのだ。しかしその時が来たら、もう知識など役には立たない。尚この節には、至高のアッラーが崇高なかれのその荘厳さに相応しい形で、高きにあるということの証明が存在している。

18ヌーフの民、アード、サムードの民などのように、マッカの不信仰者以前の者たちもまた、彼らに遣わされた使徒たちを嘘つき呼ばわりした。それで、彼らに対するわれの否認はいかなる (激烈な)ものであったか？また彼らに対する懲罰と破滅によって、彼らが享受していた恩恵の数々がいかに変わり果てたものとなってしまったことか？

19-21彼ら不信仰者は無頓着だったのか？そして翼を広げて空を舞い、時には翼を閉じて下降する上空の鳥たち－そしてその時それらを墜落から守るのは、最も慈悲深い御方(アッラー)しかおられない－をよく観察しなかったのか？かれは全てをご覧になられる御方であり、その創造にはいかなる欠落も不協和もない。そして不信仰者よ、最も慈悲深い御方があなた方に災厄を望まれる時、あなた方は一体かれ以外にあなた方を助けてくれる徒党があるとでも思い込んでいるのか？実に不信仰者はこのような勘違いにおいて、シャイターンによる策略と迷妄の中にある。またアッラーがその糧を差し押さえられ、あなた方に禁じられる時、一体あなた方に糧を恵んでくれる者などいるとでも思っているのか？本当に不信仰者は頑迷さと驕慢さ、そして真理からの逃避ゆえに迷妄と不正の中に居続けるものである。彼らは真理に耳も傾けなければ、それに従おうともしない。

22頭から逆さになって歩き、一体どこをいかに歩むかも分からない者が、うねりもない明瞭な道を真っ直ぐ直立して安全に歩む者よりも、正しい道に導かれているとでもいうのか？これは不信仰者と信仰者に関する、アッラーの譬えである。

23-24使徒よ、彼らに言うのだ。「アッラーがあなた方を無からお創りになられたのだ。そしてそれからあなた方がそれでもって聴く聴覚と、それでもって見る視覚と、それでもって理解する心を授けられた。しかし不信仰者よ、それらの恩恵をあなた方にお恵みになられた主に対して、あなた方が感謝することのいかに足りないことか。」彼らに言うのだ。「アッラーこそがあなた方をお創りになり、あなた方を地上に散開させられた御方。そしてこの離別の後、清算と報いのためにあなた方が招集されるのは、かれの御許以外のいずこでもない。」

25-26そして不信仰者たちは言う。「ムハンマドよ、一体その招集の約束とやらはいつ実現するのだね？信仰者よ、あなた方が主張していることが真実であると言うならば、それがいつのことなのか私たちに伝えるがよい。」使徒よ、彼らにこう言うのだ。「その時の到来に関する知識は、アッラーのみがご存知である。私は不信仰の結末に関してあなた方に警告を与える、あなた方への忠告者に過ぎない。私はアッラーから説明するよう命じられたことを、あなた方にこの上なく明快な形で説明するだけなのである。」

27そして不信仰者たちがアッラーの懲罰を間近に見、それを目の当たりにする時、その顔には惨めさと憂鬱が露わなものとなる。そして彼らは譴責を受けつつ、こう言われるのだ。「これこそは、あなた方が現世において性急に求めていたものなのである。

28使徒よ、彼ら不信仰者たちにこう言うのだ。「例えアッラーが私と、私と共にある信仰者たちを、あなた方が望むように絶命させられたり、あるいは私たちの死期を後伸ばしにしたり、私たちを懲罰からお救いになられたりすることで、私たちにご慈悲をかけて下さったりしたとしても、一体誰があなた方を痛ましい懲罰から守って下さるだろうか？」

29言え、「アッラーこそは私たちが信じたこの上なく慈悲深い御方。私たちはかれの掟に則り、かれにこそ服従する。そして全ての物事において、かれのみにすがりつく。不信仰者たちよ、懲罰が下った時にあなた方は知るであろう。一体私たちとあなた方のいずれが、アッラーの真っ直ぐな道から明らかに遠い場所にいたのかということを。」

30使徒よ、彼らシルク[1]の徒たちにこう言うのだ。「あなた方の飲み水が地中の奥深くに消えてしまい、もはやそれを手にすることが出来なくなってしまった時、一体アッラー以外の誰がそれを地面に噴出させ、地表にそれを流れ出させるというのか？」

筆章
(アル＝カラム章)

1-4「ن」はアラビア文字の一つ。その意味はアッラーのみがご存知である。ここでアッラーは、天使や人間がそれを用いて書き、また善や有益なこと、知識などを書き留める筆においてこう誓われている。「使徒よ、アッラーがあなたに授けられた預言者性と使徒性という恩恵ゆえ、あなたは決して理性を欠いているのでも、馬鹿げたことを主張しているのでもない。あなたはこのメッセージの伝達ゆえに蒙る苦難により、決して減ることもなく消失することもない偉大な報酬を授けられよう。そして使徒よ、あなたはこの上なく優れた人格を備えている。そしてそれはクルアーンの中に包含された高徳なのである。」こうして彼はクルアーンの命じるものに従い、それが禁じるものを回避することで、クルアーンの実践を彼の性格にまで高めていたのである。

5-6使徒よ、やがてあなたも不信仰者たちも、あなた方のいずれが本当に惑わされ理性を失った者であるかを目の当たりにするであろう。

7崇高なあなたの主こそは、その宗教と導きの道から逸れ去った不幸な者のことも、また真理の教えに導かれた敬虔な者のことも、最もよくご存知である。

8ゆえに使徒よ、あなたを嘘つき呼ばわりする者たちと袂を分かち、そのままあなたの道に確固としてあれ。彼らに追随してはならない。

9彼らはあなたが、彼らのやり方の一部において及び腰になり、へつらうことを欲している。そうすれば彼らもあなたに妥協しようとしているのだ。

10-15そして使徒よ、次のような輩に従ってはならない。嘘つきで卑しく、誓いの言葉ばかり口にする者。人の陰口ばかり言う者。人々の関係の悪化を意図しつつ、悪い噂話を振りまいて回る者。財産において吝嗇し、真理においてそれを出し惜しみする者。善行を断固として阻む者。人々に対する敵愾心この上なく、非合法な物事に没頭する者。罪深い者や、極度の不信仰者。淫らで下賎で、実の父ではない者を父親であると主張するような者。そのような者は財産と子孫に恵まれているがゆえに不正を犯し、真理に対して高慢なのである。そして誰かがクルアーンの一節を唱えれば、それを虚偽とし、こう言うのだ。「こんなものは昔の人々の御伽噺、迷信である。」尚この一連の節は、アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラを筆頭とする、ある種のシルク[2]の徒に対して下ったものとされる。またこのような悪い品性を身につけることに対する、ムスリムに対しての警告も汲み取ることが出来る。

16われ(アッラー)は罰として彼の鼻に、人の目に明らかな消えることのない印をつけてやろう。

17-18われ(アッラー)は果樹園の主を試練にかけたように、マッカの民を飢餓と旱魃でも

1　１３ページの注釈１を参照。
2　１３ページの注釈１を参照。

سَنَسِمُهُۥ عَلَى ٱلْخُرْطُومِ ﴿١٦﴾ إِنَّا بَلَوْنَٰهُمْ كَمَا بَلَوْنَآ أَصْحَٰبَ ٱلْجَنَّةِ إِذْ أَقْسَمُوا۟
لَيَصْرِمُنَّهَا مُصْبِحِينَ ﴿١٧﴾ وَلَا يَسْتَثْنُونَ ﴿١٨﴾ فَطَافَ عَلَيْهَا طَآئِفٌ مِّن رَّبِّكَ
وَهُمْ نَآئِمُونَ ﴿١٩﴾ فَأَصْبَحَتْ كَٱلصَّرِيمِ ﴿٢٠﴾ فَتَنَادَوْا۟ مُصْبِحِينَ ﴿٢١﴾ أَنِ
ٱغْدُوا۟ عَلَىٰ حَرْثِكُمْ إِن كُنتُمْ صَٰرِمِينَ ﴿٢٢﴾ فَٱنطَلَقُوا۟ وَهُمْ يَتَخَٰفَتُونَ ﴿٢٣﴾
أَن لَّا يَدْخُلَنَّهَا ٱلْيَوْمَ عَلَيْكُم مِّسْكِينٌ ﴿٢٤﴾ وَغَدَوْا۟ عَلَىٰ حَرْدٍ قَٰدِرِينَ ﴿٢٥﴾ فَلَمَّا
رَأَوْهَا قَالُوٓا۟ إِنَّا لَضَآلُّونَ ﴿٢٦﴾ بَلْ نَحْنُ مَحْرُومُونَ ﴿٢٧﴾ قَالَ أَوْسَطُهُمْ أَلَمْ أَقُل
لَّكُمْ لَوْلَا تُسَبِّحُونَ ﴿٢٨﴾ قَالُوا۟ سُبْحَٰنَ رَبِّنَآ إِنَّا كُنَّا ظَٰلِمِينَ ﴿٢٩﴾ فَأَقْبَلَ
بَعْضُهُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ يَتَلَٰوَمُونَ ﴿٣٠﴾ قَالُوا۟ يَٰوَيْلَنَآ إِنَّا كُنَّا طَٰغِينَ ﴿٣١﴾ عَسَىٰ
رَبُّنَآ أَن يُبْدِلَنَا خَيْرًا مِّنْهَآ إِنَّآ إِلَىٰ رَبِّنَا رَٰغِبُونَ ﴿٣٢﴾ كَذَٰلِكَ ٱلْعَذَابُ ۖ وَلَعَذَابُ
ٱلْـَٔاخِرَةِ أَكْبَرُ ۚ لَوْ كَانُوا۟ يَعْلَمُونَ ﴿٣٣﴾ إِنَّ لِلْمُتَّقِينَ عِندَ رَبِّهِمْ جَنَّٰتِ ٱلنَّعِيمِ
﴿٣٤﴾ أَفَنَجْعَلُ ٱلْمُسْلِمِينَ كَٱلْمُجْرِمِينَ ﴿٣٥﴾ مَا لَكُمْ كَيْفَ تَحْكُمُونَ ﴿٣٦﴾ أَمْ
لَكُمْ كِتَٰبٌ فِيهِ تَدْرُسُونَ ﴿٣٧﴾ إِنَّ لَكُمْ فِيهِ لَمَا تَخَيَّرُونَ ﴿٣٨﴾ أَمْ لَكُمْ أَيْمَٰنٌ
عَلَيْنَا بَٰلِغَةٌ إِلَىٰ يَوْمِ ٱلْقِيَٰمَةِ ۙ إِنَّ لَكُمْ لَمَا تَحْكُمُونَ ﴿٣٩﴾ سَلْهُمْ أَيُّهُم
بِذَٰلِكَ زَعِيمٌ ﴿٤٠﴾ أَمْ لَهُمْ شُرَكَآءُ فَلْيَأْتُوا۟ بِشُرَكَآئِهِمْ إِن كَانُوا۟ صَٰدِقِينَ ﴿٤١﴾
يَوْمَ يُكْشَفُ عَن سَاقٍ وَيُدْعَوْنَ إِلَى ٱلسُّجُودِ فَلَا يَسْتَطِيعُونَ ﴿٤٢﴾

って試練にかけた。果樹園の主らは、彼らの間でこう誓ったのだ。「早朝の内に、我々の果樹園の果実を収穫してしまおう。そして我々以外の貧乏な奴らにはそれらを食べさせないようにするのだ。」しかし彼らは、「もしアッラーがお望みにななるならば」と付け加えるのを忘れた。

19-20それでアッラーは彼らの果樹園に火を送り、彼らが眠っている夜の内にそれらを焼き尽くされた。こうして果樹園は、まるで闇夜のように真っ黒に焼け焦げてしまったのだ。

21-22果樹園の主たちは朝、互いにこう呼びかけ合った。「果実をどうしても収穫したいのなら、早く果樹園に行こう。

23-24そして彼らは互いにこう囁き合いながら、あくせく出発した。「今日は誰一人として、貧乏人を果樹園に入れさせてはならない。

25こうして彼らは、恵まれない者たちに対して果樹園の果実を独占するという悪い目的をもって、朝早く果樹園に出かけた。彼らは、自分たちにはそうする力があると信じ込んでいたのだ。

26-27それで彼らは焼け果てた彼らの果樹園を目にした時、それを信じることが出来なかった。そして言った。「どうやら道を間違えたらしい。」しかしそれが彼らの果樹園であることを確認すると、こう言った。「我々は果樹園の利益を奪われてしまった。これは我々が吝嗇と、恵まれない者たちの排除を決心したためだ。」すると、彼らの内の最も良識ある者がこう言った。「私はあなた方に、"アッラーがお望みならば"と付け加えるよう言ったではないか？」そして彼らは正道に戻ると言った。「我々が蒙ったことにおいて、我らの主は不正などから無縁である。実に我々は"アッラーがお望みならば"と言わず、悪を望んだがゆえに、自らに対して不正を犯していたのだ。」そして言った。「ああ、災いなるかな！実に我々は貧者への不正と、アッラーの命に対する背反において度を越していた。きっと我らの主は我らの改悛と罪の認識ゆえに、我々に果樹園よりもよきものをお恵み下さるに違いない。我々は我らの主お一人を所望し、かれのお赦しを願い、善をこいねがう。」こうしてアッラーが果樹園の主を罰したのと同様の懲罰は現世での罰として、かれの命に背き、かれのお恵みになった恩恵を吝嗇し、そこにおけるかれへの義務を果たさないような全ての者に下されるであろう。そして来世における懲罰は現世でのそれよりも、遥かに莫大で強烈なのだ。もし彼らがそのことを知っていれば、きっと懲罰の原因となる物事から身を引いたことであろう。

28アッラーのご命令を遂行し、かれの禁じられたことを回避することでかれの懲罰から身を守る者には、来世においてかれの御許に天国の楽園があるであろう。そこには永遠の享楽があるのだ。

29-30われらがわれらに服従する者を、不信仰者のように扱うことなどがあろうか？彼らが同じ報いを受けるなどと、不正に満ちた判断を下すとは一体どういうことか？

31-32それともあなた方には、従順な者と反逆者が同様であるなどという天から下った啓典があるとでも言うのか？そしてあなた方がそこに記されていることを語っているとでも？それではその啓典の中には、あなた方の私欲があるのだ。そしてそのようなことは許され得ない。

خَٰشِعَةً أَبْصَٰرُهُمْ تَرْهَقُهُمْ ذِلَّةٌ وَقَدْ كَانُوا۟ يُدْعَوْنَ إِلَى ٱلسُّجُودِ وَهُمْ سَٰلِمُونَ ﴿٤٣﴾ فَذَرْنِى وَمَن يُكَذِّبُ بِهَٰذَا ٱلْحَدِيثِ سَنَسْتَدْرِجُهُم مِّنْ حَيْثُ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٤٤﴾ وَأُمْلِى لَهُمْ إِنَّ كَيْدِى مَتِينٌ ﴿٤٥﴾ أَمْ تَسْـَٔلُهُمْ أَجْرًا فَهُم مِّن مَّغْرَمٍ مُّثْقَلُونَ ﴿٤٦﴾ أَمْ عِندَهُمُ ٱلْغَيْبُ فَهُمْ يَكْتُبُونَ ﴿٤٧﴾ فَٱصْبِرْ لِحُكْمِ رَبِّكَ وَلَا تَكُن كَصَاحِبِ ٱلْحُوتِ إِذْ نَادَىٰ وَهُوَ مَكْظُومٌ ﴿٤٨﴾ لَّوْلَآ أَن تَدَٰرَكَهُۥ نِعْمَةٌ مِّن رَّبِّهِۦ لَنُبِذَ بِٱلْعَرَآءِ وَهُوَ مَذْمُومٌ ﴿٤٩﴾ فَٱجْتَبَٰهُ رَبُّهُۥ فَجَعَلَهُۥ مِنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ﴿٥٠﴾ وَإِن يَكَادُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ لَيُزْلِقُونَكَ بِأَبْصَٰرِهِمْ لَمَّا سَمِعُوا۟ ٱلذِّكْرَ وَيَقُولُونَ إِنَّهُۥ لَمَجْنُونٌ ﴿٥١﴾ وَمَا هُوَ إِلَّا ذِكْرٌ لِّلْعَٰلَمِينَ ﴿٥٢﴾

سُورَةُ ٱلْحَاقَّةِ

ترتيبها ٦٩ — آياتها ٥٢

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

ٱلْحَآقَّةُ ﴿١﴾ مَا ٱلْحَآقَّةُ ﴿٢﴾ وَمَآ أَدْرَىٰكَ مَا ٱلْحَآقَّةُ ﴿٣﴾ كَذَّبَتْ ثَمُودُ وَعَادٌۢ بِٱلْقَارِعَةِ ﴿٤﴾ فَأَمَّا ثَمُودُ فَأُهْلِكُوا۟ بِٱلطَّاغِيَةِ ﴿٥﴾ وَأَمَّا عَادٌ فَأُهْلِكُوا۟ بِرِيحٍ صَرْصَرٍ عَاتِيَةٍ ﴿٦﴾ سَخَّرَهَا عَلَيْهِمْ سَبْعَ لَيَالٍ وَثَمَٰنِيَةَ أَيَّامٍ حُسُومًا فَتَرَى ٱلْقَوْمَ فِيهَا صَرْعَىٰ كَأَنَّهُمْ أَعْجَازُ نَخْلٍ خَاوِيَةٍ ﴿٧﴾ فَهَلْ تَرَىٰ لَهُم مِّنۢ بَاقِيَةٍ ﴿٨﴾

33それともあなた方には、あなた方の意思と欲望に沿った物事が起こるという、われらとの約束や契りがあるとでも言うのか？

34-35使徒よ、シルク[1]の徒にこう訊ねるのだ。「彼らの内の一体誰に、そのような判断を保証する者がいるのか？それとも彼らには、彼らの主張を請け負ったり、彼らの要求の実現を援助する神々がいるとでも言うのか？もしその主張が正しいのだと言うなら、それらを連れて来るがよい。

36審判の日、事は重大なものとなり、恐怖は増大する。至高のアッラーは被造物に裁きを下すためそのお姿を現され、そして何ものにも例えるのが不可能なその高貴なお脛を露わにされる。預言者ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)はこう言った。「われらが主は、そのお脛を露わにされる。そして信仰者の男女は皆、かれに向かってサジダ(跪拝)する。しかし現世において見せかけや虚栄心ゆえにサジダしていた者は、サジダしようとしても、その背中が一枚の板のようになってしまってそうすることが出来ないのだ。」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝える伝承)

37彼らは恐怖ゆえに目を伏せ、視線を上げることが出来ない。そしてアッラーの懲罰による、非常な辱めが彼らを覆う。彼らは現世でサラー(礼拝)や、かれへのイバーダ(崇拝行為)へと呼びかけられていたが、思い上がりと高慢さゆえに、健康でそうすることが出来たにも関わらずサジダしていなかったのだ。

38-39ゆえに使徒よ、このクルアーンを虚偽とする者を、われ(アッラーのこと)に任せておくのだ。われこそが彼らに報い、応報するのである。そして彼らに財産や子孫や諸々の恩恵を恵んでやるが、実のところそれらは、彼らが知らない内に少しずつ彼らへと迫って来る破滅の原因なのである。そして彼らの罪が増大するように、彼らに猶予を与え、その寿命を伸ばしてやろう。実に不信仰者に対するわが計略は、この上なく強力なものなのである。

40-41それとも使徒よ、あなたはメッセージを伝達するにあたって、彼らシルク[2]の徒から現世的な見返りを求めると言うのか？そしてそれゆえに彼らが重い債務を課せられるとでも？いや、一体彼らのもとには幽玄界の知識があるとでも言うのか？そして彼らが自分たちにアッラーの御許で信仰者たちよりも高い位階にある、と踏んでいるところの独り合点が、そこから汲み取ったものであるとでも？

42-44ゆえに使徒よ、あなたの主が定め、ご決定されたことに辛抱するのだ。そして彼らへの懲罰の猶予と、あなたの勝利の遅延に耐え、大魚の人 - ユーヌス(彼に平安あれ)のこと - のようになってはならない。彼はその民に耐えられず憤激し、悶々としつつ彼らへの懲罰が早く下ることをその主に祈ったのだ。もしかれの主が、彼を悔悟へとお導きになり、そしてそれをお受け入れになられるという恩寵をお授け下さらなかったら、彼は大魚の腹の中から何もない破滅の地へと放り出され、不面目を蒙ったであろう。しかしかれの主は、彼をその預言者としてお選びになり、その意図と言動の正しい善良な義人とされたのだ。

45不信仰者らはクルアーンを聞けば、あなたへの憤怒ゆえに、あなたにアイン(様々な災厄

1　１３ページの注釈１を参照。
2　１３ページの注釈１を参照。

وَجَآءَ فِرۡعَوۡنُ وَمَن قَبۡلَهُۥ وَٱلۡمُؤۡتَفِكَٰتُ بِٱلۡخَاطِئَةِ ٩ فَعَصَوۡاْ رَسُولَ
رَبِّهِمۡ فَأَخَذَهُمۡ أَخۡذَةٗ رَّابِيَةً ١٠ إِنَّا لَمَّا طَغَا ٱلۡمَآءُ حَمَلۡنَٰكُمۡ فِي ٱلۡجَارِيَةِ
١١ لِنَجۡعَلَهَا لَكُمۡ تَذۡكِرَةٗ وَتَعِيَهَآ أُذُنٞ وَٰعِيَةٞ ١٢ فَإِذَا نُفِخَ فِي ٱلصُّورِ
نَفۡخَةٞ وَٰحِدَةٞ ١٣ وَحُمِلَتِ ٱلۡأَرۡضُ وَٱلۡجِبَالُ فَدُكَّتَا دَكَّةٗ وَٰحِدَةٗ ١٤
فَيَوۡمَئِذٖ وَقَعَتِ ٱلۡوَاقِعَةُ ١٥ وَٱنشَقَّتِ ٱلسَّمَآءُ فَهِيَ يَوۡمَئِذٖ وَاهِيَةٞ
١٦ وَٱلۡمَلَكُ عَلَىٰٓ أَرۡجَآئِهَاۚ وَيَحۡمِلُ عَرۡشَ رَبِّكَ فَوۡقَهُمۡ يَوۡمَئِذٖ ثَمَٰنِيَةٞ
١٧ يَوۡمَئِذٖ تُعۡرَضُونَ لَا تَخۡفَىٰ مِنكُمۡ خَافِيَةٞ ١٨ فَأَمَّا مَنۡ أُوتِيَ
كِتَٰبَهُۥ بِيَمِينِهِۦ فَيَقُولُ هَآؤُمُ ٱقۡرَءُواْ كِتَٰبِيَهۡ ١٩ إِنِّي ظَنَنتُ أَنِّي مُلَٰقٍ
حِسَابِيَهۡ ٢٠ فَهُوَ فِي عِيشَةٖ رَّاضِيَةٖ ٢١ فِي جَنَّةٍ عَالِيَةٖ ٢٢
قُطُوفُهَا دَانِيَةٞ ٢٣ كُلُواْ وَٱشۡرَبُواْ هَنِيٓـَٔۢا بِمَآ أَسۡلَفۡتُمۡ فِي ٱلۡأَيَّامِ
ٱلۡخَالِيَةِ ٢٤ وَأَمَّا مَنۡ أُوتِيَ كِتَٰبَهُۥ بِشِمَالِهِۦ فَيَقُولُ يَٰلَيۡتَنِي لَمۡ أُوتَ كِتَٰبِيَهۡ
٢٥ وَلَمۡ أَدۡرِ مَا حِسَابِيَهۡ ٢٦ يَٰلَيۡتَهَا كَانَتِ ٱلۡقَاضِيَةَ ٢٧ مَآ أَغۡنَىٰ
عَنِّي مَالِيَهۡۜ ٢٨ هَلَكَ عَنِّي سُلۡطَٰنِيَهۡ ٢٩ خُذُوهُ فَغُلُّوهُ ٣٠ ثُمَّ ٱلۡجَحِيمَ
صَلُّوهُ ٣١ ثُمَّ فِي سِلۡسِلَةٖ ذَرۡعُهَا سَبۡعُونَ ذِرَاعٗا فَٱسۡلُكُوهُ ٣٢ إِنَّهُۥ
كَانَ لَا يُؤۡمِنُ بِٱللَّهِ ٱلۡعَظِيمِ ٣٣ وَلَا يَحُضُّ عَلَىٰ طَعَامِ ٱلۡمِسۡكِينِ ٣٤

を及ぼす、他人に対する嫉妬や憎悪、羨望などに満ちた視線)を及ばさんばかりである。あなたへのアッラーの守護がなければ、それは功を奏したであろう。そして彼らは私欲に従って、こう言うのだ。「かれは狂人に過ぎない。」

46クルアーンは、人類とジンへの訓戒と警告に他ならない。

真実章
(アル＝ハーッカ章)

1-3吉報と警告が実現する審判の時は、真に起きる。そして必ずや起きる審判の時のその様子と状況は、いかなるものであるか？使徒よ、あなたはいかにして審判の時の実像を知り、そしてその恐怖と重大さを想像することが出来るか？

4預言者サーリフの民であるサムードと、同じく預言者フードの民であるアードは、戦慄でもって心を打ち付ける審判の時を虚偽であるとした。

5-8それでサムードは、この上なく激烈な大音波でもって滅ぼされた。そしてアードはといえば、冷たい強風によって滅ぼされた。アッラーはそれを7晩と8日間の間、途切れなく彼らのもとに遣わした。ゆえにあなたは、その民がその昼夜の内に、中空となった朽ちたナツメヤシの幹のように絶命してしまったのを見たであろう。一体あなたは、それらの民の内で命拾いした者など見たとでも言うのか？

9-10また暴君フィルアウンや、遣わされた使徒たちを信じなかったそれ以前の人々、そしてルートの民である町の人々もあった。ルートの民はその不信仰とシルク[1]と醜行などの悪行ゆえに、その家々を転覆させられた。こうしてこれらの民は遣わされた使徒に背いた理由で、アッラーによって厳しい懲罰を受けたのだ。

11-12またわれ(アッラーのこと)は水かさが非常に上がり、ありとあらゆる物を水が覆った時、ヌーフらあなた方の先祖を水の上を走る船で運んだ。それはわれらが、信仰者の救済と不信仰者の溺死というその出来事を訓戒と教訓とし、また人々がその話を聞き、アッラーのお伝えになられることを理解するためのものとするためだったのだ。

13-18そして天使がラッパを一吹きする時－この時、世界は崩壊する－、そして大地と山々がその場所から隆起し、ぶつかり合って粉々に砕ける時、審判の時は到来する。この日空は脆弱になって崩れ落ち、その形状を保持するだけの堅固さがなくなる。また天使たちはその周囲にあり、あなたの主の玉座は審判の日、8名の偉大な天使によって運ばれる。人間よ、その日あなた方は清算と報奨のために、アッラーの御許へと召集される。そしてアッラーは彼らの全ての秘密を、ご存知である。

19-24それで(その日)所業の帳簿を右手に受けた者は、嬉々としてこう言う「私の帳簿を取り、読み上げて下さい。私は現世において、審判の日に応報があることを確信していたのですから。そして私はその日のため、信仰と善行でもって蓄えを備えておいたのです。」こうして彼は快適さと悦楽に満ちた暮らしを送る。彼は場所と位階において天国の高みにあり、果実は立っている者でも座っている者でも、あるいは横になっている者でも手に取

1 13ページの注釈1を参照。

فَلَيْسَ لَهُ ٱلْيَوْمَ هَٰهُنَا حَمِيمٌ ﴿٣٥﴾ وَلَا طَعَامٌ إِلَّا مِنْ غِسْلِينٍ ﴿٣٦﴾ لَّا يَأْكُلُهُۥٓ
إِلَّا ٱلْخَٰطِـُٔونَ ﴿٣٧﴾ فَلَآ أُقْسِمُ بِمَا تُبْصِرُونَ ﴿٣٨﴾ وَمَا لَا تُبْصِرُونَ ﴿٣٩﴾
إِنَّهُۥ لَقَوْلُ رَسُولٍ كَرِيمٍ ﴿٤٠﴾ وَمَا هُوَ بِقَوْلِ شَاعِرٍ ۚ قَلِيلًا مَّا تُؤْمِنُونَ ﴿٤١﴾
وَلَا بِقَوْلِ كَاهِنٍ ۚ قَلِيلًا مَّا تَذَكَّرُونَ ﴿٤٢﴾ تَنزِيلٌ مِّن رَّبِّ ٱلْعَٰلَمِينَ ﴿٤٣﴾ وَلَوْ
تَقَوَّلَ عَلَيْنَا بَعْضَ ٱلْأَقَاوِيلِ ﴿٤٤﴾ لَأَخَذْنَا مِنْهُ بِٱلْيَمِينِ ﴿٤٥﴾ ثُمَّ لَقَطَعْنَا
مِنْهُ ٱلْوَتِينَ ﴿٤٦﴾ فَمَا مِنكُم مِّنْ أَحَدٍ عَنْهُ حَٰجِزِينَ ﴿٤٧﴾ وَإِنَّهُۥ لَتَذْكِرَةٌ
لِّلْمُتَّقِينَ ﴿٤٨﴾ وَإِنَّا لَنَعْلَمُ أَنَّ مِنكُم مُّكَذِّبِينَ ﴿٤٩﴾ وَإِنَّهُۥ لَحَسْرَةٌ عَلَى
ٱلْكَٰفِرِينَ ﴿٥٠﴾ وَإِنَّهُۥ لَحَقُّ ٱلْيَقِينِ ﴿٥١﴾ فَسَبِّحْ بِٱسْمِ رَبِّكَ ٱلْعَظِيمِ ﴿٥٢﴾

ترتيبها ٧٠ سُورَةُ المَعَارِج آياتها ٤٤

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

سَأَلَ سَآئِلٌۢ بِعَذَابٍ وَاقِعٍ ﴿١﴾ لِّلْكَٰفِرِينَ لَيْسَ لَهُۥ دَافِعٌ ﴿٢﴾ مِّنَ
ٱللَّهِ ذِى ٱلْمَعَارِجِ ﴿٣﴾ تَعْرُجُ ٱلْمَلَٰٓئِكَةُ وَٱلرُّوحُ إِلَيْهِ فِى
يَوْمٍ كَانَ مِقْدَارُهُۥ خَمْسِينَ أَلْفَ سَنَةٍ ﴿٤﴾ فَٱصْبِرْ صَبْرًا جَمِيلًا ﴿٥﴾
إِنَّهُمْ يَرَوْنَهُۥ بَعِيدًا ﴿٦﴾ وَنَرَىٰهُ قَرِيبًا ﴿٧﴾ يَوْمَ تَكُونُ ٱلسَّمَآءُ كَٱلْمُهْلِ
﴿٨﴾ وَتَكُونُ ٱلْجِبَالُ كَٱلْعِهْنِ ﴿٩﴾ وَلَا يَسْـَٔلُ حَمِيمٌ حَمِيمًا ﴿١٠﴾

れるような身近な所になっている。彼らにはこう言われる。「何の問題も不都合も心配することなく、食べ、飲みなさい。あなた方は過ぎた現世での日々において、善行に励んでいたのですから。」

25-29また所業の帳簿を左手に渡された者は、無念がってこう言う。「私の帳簿なんて与えられなければよかったのに。そして私の受ける報いなど知らなければよかったのに。現世での死によって、私の全てが終わってしまったらよかったのだ。そしてその後に蘇らされることなどなければ！現世で私がかき集めた財産など、何の役にも立たなかった。私にはもはや言い訳の余地などないのだ。」

30-34そして地獄の番人に、こう言われる。「この罪深い罪人を掴み、その両手を枷でもって首に括りつけよ。そして地獄の業火に放り込んで、その灼熱を味わわせるのだ。それから70腕尺もの長さの鉄鎖に縛りつけ、そこへ放り込んでしまえ。いかなる共同者も有しないアッラーこそが真に崇拝に値すべき御方であるにも関わらず、そいつはかれを信じもしなければ、かれの導きに沿って行いもしなかった。そして現世においては、恵まれない貧しい者たちなどに食を施すことを人々に勧めることもなかった。

35-37ゆえに審判の日、この不信仰者には彼を懲罰から守ってくれる近親者などはない。そして地獄の住民は膿の他には、食べ物もない。それはアッラーへの不信行を貫いた罪人のみが口にする物なのである。

38-43われ(アッラーのこと)はあなた方が視覚で見ることの出来るものと、視覚では捉えることの出来ない不可知のものにおいて誓う。実にクルアーンは、栄誉と美徳を備えた使徒が朗誦する、アッラーの御言葉である。そしてそれはあなた方が思い込んでいるような詩人の言葉などではない。だが、あなた方は僅かにしか信じない者たちである。またそれは、占い師の韻文でもない。あなた方の中には教訓を汲み取り、それらの差異を熟慮出来る者が実に少ないことだ。それはその使徒ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)に下された、万有の主の御言葉なのである。

44-48もしムハンマドがわれ(アッラーのこと)に対して、われらの言ってもいないことを捏造するのならば、われらは彼を威力でもって罰するであろう。そして彼の大動脈を断ち切ってくれよう。そしてあなた方の誰も、彼に対するわれらの懲罰を阻止出来る者はいないのだ。実にこのクルアーンこそは、アッラーの命じることを行い、禁じることを回避する敬虔な者たちにとっての訓戒なのだ。

49-52そしてわれ（アッラーのこと）は、そのみしるしの明瞭さにも関わらず、あなた方の内にクルアーンを虚偽とする者がいることを知っている。しかしそれは不信仰者らが彼らの懲罰と、信仰者に対する恩恵を目の当たりにする時、不信仰者にとっての大きな後悔となろう。実にそれは揺らぐことのない真実であり、いかなる疑念の余地もない明白な事実なのである。ゆえにアッラーをあらゆる不完全性や欠陥から無縁な崇高な存在として讃え、その偉大な美名でもってかれを想念するがよい。

يُبَصَّرُونَهُمْ يَوَدُّ الْمُجْرِمُ لَوْ يَفْتَدِي مِنْ عَذَابِ يَوْمِئِذٍ بِبَنِيهِ ﴿١١﴾
وَصَاحِبَتِهِ وَأَخِيهِ ﴿١٢﴾ وَفَصِيلَتِهِ الَّتِي تُؤْوِيهِ ﴿١٣﴾ وَمَن فِي الْأَرْضِ
جَمِيعًا ثُمَّ يُنجِيهِ ﴿١٤﴾ كَلَّا إِنَّهَا لَظَىٰ ﴿١٥﴾ نَزَّاعَةً لِّلشَّوَىٰ ﴿١٦﴾ تَدْعُوا
مَنْ أَدْبَرَ وَتَوَلَّىٰ ﴿١٧﴾ وَجَمَعَ فَأَوْعَىٰ ﴿١٨﴾ ۞ إِنَّ الْإِنسَانَ خُلِقَ هَلُوعًا
﴿١٩﴾ إِذَا مَسَّهُ الشَّرُّ جَزُوعًا ﴿٢٠﴾ وَإِذَا مَسَّهُ الْخَيْرُ مَنُوعًا ﴿٢١﴾ إِلَّا
الْمُصَلِّينَ ﴿٢٢﴾ الَّذِينَ هُمْ عَلَىٰ صَلَاتِهِمْ دَائِمُونَ ﴿٢٣﴾ وَالَّذِينَ فِي
أَمْوَالِهِمْ حَقٌّ مَّعْلُومٌ ﴿٢٤﴾ لِّلسَّائِلِ وَالْمَحْرُومِ ﴿٢٥﴾ وَالَّذِينَ يُصَدِّقُونَ
بِيَوْمِ الدِّينِ ﴿٢٦﴾ وَالَّذِينَ هُم مِّنْ عَذَابِ رَبِّهِم مُّشْفِقُونَ ﴿٢٧﴾ إِنَّ عَذَابَ
رَبِّهِمْ غَيْرُ مَأْمُونٍ ﴿٢٨﴾ وَالَّذِينَ هُمْ لِفُرُوجِهِمْ حَافِظُونَ ﴿٢٩﴾ إِلَّا عَلَىٰ
أَزْوَاجِهِمْ أَوْ مَا مَلَكَتْ أَيْمَانُهُمْ فَإِنَّهُمْ غَيْرُ مَلُومِينَ ﴿٣٠﴾ فَمَنِ ابْتَغَىٰ وَرَاءَ
ذَٰلِكَ فَأُولَٰئِكَ هُمُ الْعَادُونَ ﴿٣١﴾ وَالَّذِينَ هُمْ لِأَمَانَاتِهِمْ وَعَهْدِهِمْ رَاعُونَ
﴿٣٢﴾ وَالَّذِينَ هُم بِشَهَادَاتِهِمْ قَائِمُونَ ﴿٣٣﴾ وَالَّذِينَ هُمْ عَلَىٰ صَلَاتِهِمْ يُحَافِظُونَ
﴿٣٤﴾ أُولَٰئِكَ فِي جَنَّاتٍ مُّكْرَمُونَ ﴿٣٥﴾ فَمَالِ الَّذِينَ كَفَرُوا قِبَلَكَ مُهْطِعِينَ
﴿٣٦﴾ عَنِ الْيَمِينِ وَعَنِ الشِّمَالِ عِزِينَ ﴿٣٧﴾ أَيَطْمَعُ كُلُّ امْرِئٍ مِّنْهُمْ
أَن يُدْخَلَ جَنَّةَ نَعِيمٍ ﴿٣٨﴾ كَلَّا إِنَّا خَلَقْنَاهُم مِّمَّا يَعْلَمُونَ ﴿٣٩﴾

階段章
（アル＝マアーリジュ章）

1-4シルク[1]の徒の内のある者が(その不信仰ゆえに)、自らとその民に対して、懲罰が下ることを祈って見せた。そしてそれは審判の日に確実に起こるのであり、誰も至高かつ荘厳なるアッラーがそうされることを阻止出来る者はいない。諸天使とジブリールは、現世のそれに比して50000年の長さにも相当するその日、至高のかれの御許へと昇って行く。しかし信仰者にとってその日は、義務のサラー(礼拝)一つ分の長さに過ぎない。

5ゆえに使徒よ、彼らの嘲笑や、懲罰へのはやりに辛抱せよ。せっかちになったり、アッラー以外の何ものかに苦情を洩らしてはならない。

6-7不信仰者というものは懲罰が起こるはずもない、程遠いものであると思っている。しかしわれ(アッラーのこと)はそれが必然であり、かつ近く現実となることを知っている。

8-9その日天はあたかも油の沈殿物のように溶け落ち、山々は風が撒き散らした、毛羽立った色つきの羊毛のようになる。

10そしてその日、近親同士がお互いの様子を尋ね合うこともない。全ての者は自分のことで一杯なのだ。

11-14彼らは互いを目にし、知っているのだが、誰も他人を益することなど出来ない。不信仰者は自分が審判の日の懲罰から免れるためなら、子供や配偶者、兄弟姉妹や、自分が属する血縁の近い親族、それどころか地上の全人類その他のもの全てまで代償にしたいと願うであろう。

15-18しかし不信仰者よ、事はあなた方が望んでいるような代償で済むことではないのだ。それは吹き上がり、燃え立つ地獄である。そしてその高熱は頭部を始め、体の隅々までその皮を剥ぎ取ってしまう。現世で真理に背き、アッラーとその使徒に対し従順ではなかった者たち、そして財産を収集しては貯め込み、そのアッラーに対しての義務を果たしていなかった者たちは、その中で互いに呼び合う。

19-30人間というものは生来、せっかちで欲深く出来ているものである。災難や困難に見舞われればおろおろし、悲しむが、よいことや順境に見舞われれば、吝嗇に陥る。しかし以下のような者たちは別であ(り、地獄を免れ)る。いかなる時もサラー(礼拝)を遵守し、どんな用事があってもそれをおろそかにしない者たち。またアッラーに定められた財産の一部を喜捨とし、それを物乞いする者にも、また慎ましさゆえにそうしない者にも分け与える者たち。また清算と報いの日を信じ、そのために善行でもって準備する者たち。またアッラーの懲罰を恐れる者たち。誰も主の懲罰から無事でいられるなどと考えるべきではない。またアッラーが禁じられた物事から貞操を守る者たち。但し配偶者や奴隷はその限りではなく、そこに咎め立てはない。

31-35しかし配偶者や奴隷以外のもので欲望を満たそうとする者たちは、合法の域を越えて非合法へと赴く者たちである。また(以下のような者たちもまた、地獄を免れるであろう)ア

1　１３ページの注釈１を参照。

فلا أقسم برب المشارق والمغارب إنا لقادرون ﴿٤٠﴾ على أن نبدل خيرا منهم
وما نحن بمسبوقين ﴿٤١﴾ فذرهم يخوضوا ويلعبوا حتى يلاقوا يومهم الذي
يوعدون ﴿٤٢﴾ يوم يخرجون من الأجداث سراعا كأنهم إلى نصب يوفضون
﴿٤٣﴾ خاشعة أبصارهم ترهقهم ذلة ذلك اليوم الذي كانوا يوعدون ﴿٤٤﴾

ترتيبها ٧١ سورة نوح آياتها ٢٨

بسم الله الرحمن الرحيم

إنا أرسلنا نوحا إلى قومه أن أنذر قومك من قبل أن يأتيهم
عذاب أليم ﴿١﴾ قال يا قوم إني لكم نذير مبين ﴿٢﴾ أن اعبدوا
الله واتقوه وأطيعون ﴿٣﴾ يغفر لكم من ذنوبكم ويؤخركم
إلى أجل مسمى إن أجل الله إذا جاء لا يؤخر لو كنتم تعلمون
﴿٤﴾ قال رب إني دعوت قومي ليلا ونهارا ﴿٥﴾ فلم يزدهم دعاءي إلا
فرارا ﴿٦﴾ وإني كلما دعوتهم لتغفر لهم جعلوا أصابعهم
في آذانهم واستغشوا ثيابهم وأصروا واستكبروا استكبارا
﴿٧﴾ ثم إني دعوتهم جهارا ﴿٨﴾ ثم إني أعلنت لهم وأسررت
لهم إسرارا ﴿٩﴾ فقلت استغفروا ربكم إنه كان غفارا ﴿١٠﴾

ッラーとそのしもべたちの信託を守る者たち。至高のアッラーと、そのしもべたちとの契約を遵守する者たち。また改変や隠蔽などせずに、正しい証言をする者たち。そしてサラー(礼拝)を遵守し、そこにおける義務行為をおろそかにしない者たち。このような者たちこそは荘厳なる特性を備えた者たちであり、ありとあらゆる褒美を授かりつつ、享楽の園に留まるのだ。

36-39使徒よ、一体彼ら不信仰者をあなたのもとへと急き立てるものは何であろうか？彼らはあなたの方に首を伸ばし、視線を送る。そしていくつもの異なる集団に分かれつつ、互いに話し合い、驚きながら、あなたの右から左から集まって来る。一体彼ら不信仰者の全員が、アッラーが彼らを永遠の享楽の園に入れて下さることを所望しているとでも言うのだろうか？いや、事は彼らの望むようにはいかない。彼らは決して天国に入らないであろう。われ(アッラーのこと)は彼らを他の者たちと同様に、卑しい液体(精液)から創造したのである。そして彼らは信仰しなかった。それでは一体、彼らはいかに享楽の園に入る栄誉を得るというのか？

40-41われ(アッラーのこと)は太陽と星々の現れる場所と、それらが隠れる場所において誓おう。われ(アッラーのこと)は彼らのことを、彼らより優れた、よりアッラーに従順な民と取り替えることが出来るのである。そしてわれらがやり直そうと望めば、誰一人としてわれらを出し抜いたり、失敗させたり、阻止させたりすることなど出来ないのだ。

42-43ゆえに懲罰が約束されている審判の日が到来するまで、彼らを虚妄の中で議論し、現世で楽しむに任せておくがよい。その日彼らは、丁度現世において、アッラーを差し置いて崇拝すべく捏造した偶像のもとへとあくせく通っていたように、墓の中から放り出されて急がされる。彼らの視線は地面に伏せられ、屈辱が彼らを包み込む。これこそが現世において彼らが約束されていた日であり、彼らが嘲りつつ虚偽であるとしていた日なのである。

ヌーフ章

1-4われ(アッラーのこと)はヌーフをその民に遣わし、こう言った。「痛ましい懲罰があなたの民に下される前に、彼らに警告せよ。」ヌーフは言った。「民よ、私はあなた方への警告者である。あなた方がアッラーに背けば、かれの懲罰が下るという警告をはっきりと伝える。私はあなた方へ遣わされた、アッラーの使徒なのだ。ゆえにかれのみを崇拝せよ。かれの懲罰を恐れ、私が命じ、禁じることに従うのだ。もしあなた方が私に従い、私に同調するのなら、アッラーはあなた方の罪をお赦しになろう。そして至高のアッラーの御知識において定められた時期まで、あなた方の寿命を猶予して下さるであろう。死は一度到来したら、決して猶予されることはない。もしそのことを知っていたなら、あなた方は信仰と服従へと急いだであろうに。

5-10ヌーフは言った。「主よ、私は昼に夜に、民をあなたへの信仰と服従へといざないました。しかし私の彼らに対する信仰への呼びかけは、彼らの忌避と背反を生んだだけです。私は、あなたが彼らの罪をお赦しになるべく、彼らをあなたへの信仰へと誘ったにも関わらず、彼らは真理への呼びかけを聞くまいと指を自分の耳に差し込みました。そして私を見ないように、衣服で身を覆ったのです。彼らは不信仰を固守し、強烈な高慢さゆえに信仰を受

يُرْسِلِ السَّمَاءَ عَلَيْكُم مِّدْرَارًا ﴿١١﴾ وَيُمْدِدْكُم بِأَمْوَالٍ وَبَنِينَ وَيَجْعَل
لَّكُمْ جَنَّاتٍ وَيَجْعَل لَّكُمْ أَنْهَارًا ﴿١٢﴾ مَّا لَكُمْ لَا تَرْجُونَ لِلَّهِ وَقَارًا ﴿١٣﴾
وَقَدْ خَلَقَكُمْ أَطْوَارًا ﴿١٤﴾ أَلَمْ تَرَوْا كَيْفَ خَلَقَ اللَّهُ سَبْعَ سَمَاوَاتٍ
طِبَاقًا ﴿١٥﴾ وَجَعَلَ الْقَمَرَ فِيهِنَّ نُورًا وَجَعَلَ الشَّمْسَ سِرَاجًا ﴿١٦﴾
وَاللَّهُ أَنبَتَكُم مِّنَ الْأَرْضِ نَبَاتًا ﴿١٧﴾ ثُمَّ يُعِيدُكُمْ فِيهَا وَيُخْرِجُكُمْ
إِخْرَاجًا ﴿١٨﴾ وَاللَّهُ جَعَلَ لَكُمُ الْأَرْضَ بِسَاطًا ﴿١٩﴾ لِّتَسْلُكُوا مِنْهَا
سُبُلًا فِجَاجًا ﴿٢٠﴾ قَالَ نُوحٌ رَّبِّ إِنَّهُمْ عَصَوْنِي وَاتَّبَعُوا مَن لَّمْ يَزِدْهُ
مَالُهُ وَوَلَدُهُ إِلَّا خَسَارًا ﴿٢١﴾ وَمَكَرُوا مَكْرًا كُبَّارًا ﴿٢٢﴾ وَقَالُوا
لَا تَذَرُنَّ آلِهَتَكُمْ وَلَا تَذَرُنَّ وَدًّا وَلَا سُوَاعًا وَلَا يَغُوثَ وَيَعُوقَ
وَنَسْرًا ﴿٢٣﴾ وَقَدْ أَضَلُّوا كَثِيرًا وَلَا تَزِدِ الظَّالِمِينَ إِلَّا ضَلَالًا ﴿٢٤﴾
مِّمَّا خَطِيئَاتِهِمْ أُغْرِقُوا فَأُدْخِلُوا نَارًا فَلَمْ يَجِدُوا لَهُم مِّن دُونِ
اللَّهِ أَنصَارًا ﴿٢٥﴾ وَقَالَ نُوحٌ رَّبِّ لَا تَذَرْ عَلَى الْأَرْضِ مِنَ الْكَافِرِينَ
دَيَّارًا ﴿٢٦﴾ إِنَّكَ إِن تَذَرْهُمْ يُضِلُّوا عِبَادَكَ وَلَا يَلِدُوا إِلَّا فَاجِرًا
كَفَّارًا ﴿٢٧﴾ رَّبِّ اغْفِرْ لِي وَلِوَالِدَيَّ وَلِمَن دَخَلَ بَيْتِيَ
مُؤْمِنًا وَلِلْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ وَلَا تَزِدِ الظَّالِمِينَ إِلَّا تَبَارًا ﴿٢٨﴾

け入れることから奢り高ぶりました。それから私は彼らを、包み隠さず公けに信仰へと誘いました。そして時には声を高くして彼らを公けに誘い、時にはそれを秘密裏に低い声で行いました。そして民にこう言ったのです。“あなた方の主に、罪の赦しを乞うのだ。不信仰から改悛せよ。至高の御方はかれに悔悟し、かれの御許に立ち返るしもべに対してお赦し深い御方である。”」

11-16あなた方が悔悟し、罪のお赦しを乞うのならば、アッラーはあなた方に豊かな雨をお降らしになろう。そしてあなた方の財産と子孫を増やし、その果実と美しさであなた方を楽しませる果樹園を授けて下さろう。またあなた方が農作物や家畜に水をやるための、河川をお恵みになろう。民よ、あなた方がアッラーの偉大さとご威力を恐れないのは一体どういうことか？かれはあなた方を一滴の精液から凝血へ、そして肉塊から骨へ、それから肉へと段階を経て徐々に創られた御方なのである。あなた方は、アッラーが互いに合い重なる７層の天をいかにお創りになられたか考えないのか？そして月をこの天界の光とし、太陽を地上の住民たちが明かりを得るところの燦然とした灯火とされたことを？

17-20アッラーはあなた方の原型を土からお創りになられ、そしてその死後には再び地上に蘇らせ、復活の日にはあなた方を引き出される御方。またアッラーはあなた方が広く往来出来るように、地上を絨毯のように引き伸ばされた御方。

21-25ヌーフは言った。「主よ、民は私に対する背反と、私を嘘つき呼ばわりすることにおいて、限度を越しています。そして彼らの内の弱者は、その財産と子孫が現世における迷妄と来世における懲罰しか増大させないような、迷い去った指導者たちに盲従しています。そして迷妄の指導者たちは、彼らに追従する弱者たちに姦計を計らってこう言うのです。“ヌーフが呼びかけているアッラーのみの崇拝ゆえに、あなた方の偶像への崇拝を放棄してはならない。ワッドやスワーァ、ヤグースやヤウーク、ナスルを棄ててはいけないのだ。(彼らがアッラーを差し置いて崇拝していた偶像の名前。それらは全て元来は義人の名前であったが、その死後にシャイターンがその民をそそのかし、彼らがそれらを仲介物として彼らの神への服従行為に献身するようにすべく、彼らの偶像や彫像を作らせた。そして民が滅び月日が経て別の民が到来した時、シャイターンは彼らに対し、彼らの祖先がそれらの偶像を拝し、それらをアッラーとの仲介役としていたのだと吹き込んだ。これが偶像や、墓の上にドームを作ることが禁じられたことに潜む英知である。つまり偶像などが年月と共に無知な者たちの崇拝対象と成り果ててしまったり、または迷妄や錯誤に幻惑された指導者たちが多くの人を迷わせたりしないためなのである。)”」そしてヌーフは言った。「主よ、彼ら不義の徒の不信仰と頑迷さが、彼らを真理から遠ざけること以外の何ものももたらさないようにして下さい。」彼らはその罪と、不信仰と暴虐への固執ゆえに、大洪水に巻き込まれて溺死した。そして溺死の後には、巨大な炎でもって全てを焼き尽くす地獄の業火に放り込まれるのだ。そして彼らはアッラーの他に彼らを救出し、懲罰から守ってくれるいかなる者も見出すことはない。

26-28そしてヌーフは絶望の後、考えてこう言った。「主よ、地上を徘徊するただ一人の不信仰者も生かしたままでは置かないで下さい。もし彼らを破滅させずに放っておけば、彼らは

あなたを信じたしもべたちを真理の道から迷わせてしまうでしょう。そして彼らの子孫からは、あなたへの不信仰と背反が甚だしい、真理から逸脱した者たちしか現れないでしょう。主よ、私と私の両親、そして信仰して私の家に入った者たちと、あなたを信じる男女の信仰者をお赦し下さい。そして不信仰者には現世と来世において、破滅と損失以外の何ものも与えないで下さい。

アル＝ジン章
（幽精章）

ترتيبها ٧٢ — سُورَةُ الجِنِّ — آياتها ٢٨

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

قُلْ أُوحِىَ إِلَىَّ أَنَّهُ ٱسْتَمَعَ نَفَرٌ مِّنَ ٱلْجِنِّ فَقَالُوٓا۟ إِنَّا سَمِعْنَا قُرْءَانًا
عَجَبًا ﴿١﴾ يَهْدِىٓ إِلَى ٱلرُّشْدِ فَـَٔامَنَّا بِهِۦ ۖ وَلَن نُّشْرِكَ بِرَبِّنَآ أَحَدًا ﴿٢﴾
وَأَنَّهُۥ تَعَٰلَىٰ جَدُّ رَبِّنَا مَا ٱتَّخَذَ صَٰحِبَةً وَلَا وَلَدًا ﴿٣﴾ وَأَنَّهُۥ كَانَ
يَقُولُ سَفِيهُنَا عَلَى ٱللَّهِ شَطَطًا ﴿٤﴾ وَأَنَّا ظَنَنَّآ أَن لَّن تَقُولَ ٱلْإِنسُ
وَٱلْجِنُّ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبًا ﴿٥﴾ وَأَنَّهُۥ كَانَ رِجَالٌ مِّنَ ٱلْإِنسِ يَعُوذُونَ بِرِجَالٍ
مِّنَ ٱلْجِنِّ فَزَادُوهُمْ رَهَقًا ﴿٦﴾ وَأَنَّهُمْ ظَنُّوا۟ كَمَا ظَنَنتُمْ أَن لَّن يَبْعَثَ
ٱللَّهُ أَحَدًا ﴿٧﴾ وَأَنَّا لَمَسْنَا ٱلسَّمَآءَ فَوَجَدْنَٰهَا مُلِئَتْ حَرَسًا
شَدِيدًا وَشُهُبًا ﴿٨﴾ وَأَنَّا كُنَّا نَقْعُدُ مِنْهَا مَقَٰعِدَ لِلسَّمْعِ ۖ فَمَن
يَسْتَمِعِ ٱلْـَٔانَ يَجِدْ لَهُۥ شِهَابًا رَّصَدًا ﴿٩﴾ وَأَنَّا لَا نَدْرِىٓ أَشَرٌّ أُرِيدَ
بِمَن فِى ٱلْأَرْضِ أَمْ أَرَادَ بِهِمْ رَبُّهُمْ رَشَدًا ﴿١٠﴾ وَأَنَّا مِنَّا ٱلصَّٰلِحُونَ
وَمِنَّا دُونَ ذَٰلِكَ ۖ كُنَّا طَرَآئِقَ قِدَدًا ﴿١١﴾ وَأَنَّا ظَنَنَّآ أَن لَّن نُّعْجِزَ
ٱللَّهَ فِى ٱلْأَرْضِ وَلَن نُّعْجِزَهُۥ هَرَبًا ﴿١٢﴾ وَأَنَّا لَمَّا سَمِعْنَا ٱلْهُدَىٰٓ
ءَامَنَّا بِهِۦ ۖ فَمَن يُؤْمِنۢ بِرَبِّهِۦ فَلَا يَخَافُ بَخْسًا وَلَا رَهَقًا ﴿١٣﴾

1-2使徒よ、言うのだ。「アッラーは、ジンの一団が私のクルアーン朗誦に聞き入ったことを、私に啓示された。そして彼らはクルアーンを聞いて、その民にこう伝えた。“実に我々はその修辞と雄弁さと、そこに含まれる英知と法規定、諸々の説話において驚愕に値する素晴らしいクルアーンを耳にした。それは真理と導きへといざなうもの。我々はこのクルアーンを信じ、それに則って行う。我々は、我々を創造された我らが主を崇拝することにおいて、何ものもかれに並べたりはしない。”

3“そして我らが主のご威力と荘厳さは、高みの極みにある。かれは伴侶も子供も持たれない。”

4“しかし我らの内の愚か者(イブリースのこと)は至高のアッラーに関して、かれには伴侶や子供があるなどと、真理と正当性からは程遠いことを言っていたものだ。”

5“そして我々は人間であれジンであれ、至高のアッラーに伴侶や子供がいるなどという虚言を吐く者がいることなど、考えだにしなかった。”

6またある種の人間たちはある種のジンに庇護を求めていたが、彼らがジンに加護を乞うことにより、人間の彼らに対する恐怖感を増大させた。そしてこれこそは、アッラーがイスラーム以前の無明時代の徒をそれゆえにお咎めになられた、アッラー以外のものに対するご加護の祈願なのである。これは真摯な改悛が見られない限り、決してアッラーがお赦しにはなられない大シルク[1]である。尚この節には、魔術師や奇術師などを頼みの綱にすることへの厳しい警告が含まれている。

7そして人間の不信仰者らは - あなた方ジンがそう考えていたように - 至高のアッラーがいかなる者も死後に復活させることなどはない、と考えていた。

8“我ら（ジンの一団）は、天界の民の言葉を聞こうと、天上へと昇ろうとした。そして、そこには天界を守衛する数あまたの天使たちと、そこに近づこうとする者を迎撃する燃える流星で溢れていた。

9“我々はそれ以前、天界の話を耳にするための、いくつかの場所を有していた。しかし、今盗み聞きしようとする者は、そのような者を焼き落とし滅ぼす、護衛の流星をそこに見出す。“尚この節は、幽玄界の領域の知識を有すると主張し、その虚言とでっち上げでもって無知な者を騙そうとする魔術師や奇術師らの虚妄性を証明している。

1　大シルクは、それを犯す者をイスラームの範疇の外に追いやり、またその全ての行い（善行や崇拝行為など）を無駄にしてしまいます。大シルクを犯す者の生命と財産はもはや神聖で保障されたものではなくなり、もしその行為から悔悟する前に死んでしまうようなことがあれば、来世では地獄の業火に永遠に留まることになります。大シルクとはイバーダ（崇拝行為）そのもの、あるいはその一部をアッラー以外のものに捧げることを意味します

وَأَنَّا مِنَّا ٱلْمُسْلِمُونَ وَمِنَّا ٱلْقَٰسِطُونَ ۖ فَمَنْ أَسْلَمَ فَأُو۟لَٰٓئِكَ
تَحَرَّوْا۟ رَشَدًا ﴿١٤﴾ وَأَمَّا ٱلْقَٰسِطُونَ فَكَانُوا۟ لِجَهَنَّمَ حَطَبًا ﴿١٥﴾
وَأَلَّوِ ٱسْتَقَٰمُوا۟ عَلَى ٱلطَّرِيقَةِ لَأَسْقَيْنَٰهُم مَّآءً غَدَقًا ﴿١٦﴾ لِّنَفْتِنَهُمْ
فِيهِ ۚ وَمَن يُعْرِضْ عَن ذِكْرِ رَبِّهِۦ يَسْلُكْهُ عَذَابًا صَعَدًا ﴿١٧﴾ وَأَنَّ
ٱلْمَسَٰجِدَ لِلَّهِ فَلَا تَدْعُوا۟ مَعَ ٱللَّهِ أَحَدًا ﴿١٨﴾ وَأَنَّهُۥ لَمَّا قَامَ عَبْدُ ٱللَّهِ
يَدْعُوهُ كَادُوا۟ يَكُونُونَ عَلَيْهِ لِبَدًا ﴿١٩﴾ قُلْ إِنَّمَآ أَدْعُوا۟ رَبِّى وَلَآ أُشْرِكُ
بِهِۦٓ أَحَدًا ﴿٢٠﴾ قُلْ إِنِّى لَآ أَمْلِكُ لَكُمْ ضَرًّا وَلَا رَشَدًا ﴿٢١﴾ قُلْ إِنِّى
لَن يُجِيرَنِى مِنَ ٱللَّهِ أَحَدٌ وَلَنْ أَجِدَ مِن دُونِهِۦ مُلْتَحَدًا ﴿٢٢﴾ إِلَّا بَلَٰغًا
مِّنَ ٱللَّهِ وَرِسَٰلَٰتِهِۦ ۚ وَمَن يَعْصِ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ فَإِنَّ لَهُۥ نَارَ جَهَنَّمَ
خَٰلِدِينَ فِيهَآ أَبَدًا ﴿٢٣﴾ حَتَّىٰٓ إِذَا رَأَوْا۟ مَا يُوعَدُونَ فَسَيَعْلَمُونَ
مَنْ أَضْعَفُ نَاصِرًا وَأَقَلُّ عَدَدًا ﴿٢٤﴾ قُلْ إِنْ أَدْرِىٓ أَقَرِيبٌ
مَّا تُوعَدُونَ أَمْ يَجْعَلُ لَهُۥ رَبِّىٓ أَمَدًا ﴿٢٥﴾ عَٰلِمُ ٱلْغَيْبِ فَلَا
يُظْهِرُ عَلَىٰ غَيْبِهِۦٓ أَحَدًا ﴿٢٦﴾ إِلَّا مَنِ ٱرْتَضَىٰ مِن رَّسُولٍ فَإِنَّهُۥ
يَسْلُكُ مِنۢ بَيْنِ يَدَيْهِ وَمِنْ خَلْفِهِۦ رَصَدًا ﴿٢٧﴾ لِّيَعْلَمَ أَن قَدْ أَبْلَغُوا۟
رِسَٰلَٰتِ رَبِّهِمْ وَأَحَاطَ بِمَا لَدَيْهِمْ وَأَحْصَىٰ كُلَّ شَىْءٍ عَدَدًۢا ﴿٢٨﴾

10“そして我々ジンは、果たしてアッラーが地上の民に悪をお下しになろうとしているのか、それとも善と導きをお下しになろうとしているのか、てんで分からずにいる。”

11“また我々の中には敬虔な善玉もいれば、そうではない不信仰の放蕩者らもいる。我々は異なる集団と党派に属していたのだ。”

12“そして我々は、アッラーが我々をご自由に司られること、我々はかれの支配下にあることを確信していた。それでかれが我々に何かをお望みになれば、我々がどこにいようとそれを回避することは出来ない。またもしかれが我々に災厄をお望みになれば、我々は天に逃げようとも、かれの懲罰をやり過ごすことは出来ないのだ。”

13“我々はクルアーンを聞いた時、それを信じた。そしてそれがアッラーの御許からの真実であることを認めたのだ。ゆえにその主を信じる者は、その善行の不当な削減を恐れることはないし、悪行の超過という不正を蒙ることもない。”

14-15“また我々の内には服従行為でもってアッラーに服する者もいれば、真理の道から逸れてしまった罪悪と不正の徒もいる。”しかしアッラーの仰ることを従順に受け入れ、服従行為でもってかれに従う者こそは、真理と正しさの道を目指し、それを選択することにおいて努力奮闘した者であり、それゆえにアッラーがそこへとお導きになられた者である。一方イスラームの道から逸脱した罪深い者は、地獄の業火の燃料となるであろう。

16-17もし人間とジンの不信仰者がイスラームの道を歩み、そこから逸脱しないのであれば、われ(アッラーのこと)は彼らに豊かな水をもたらし、そして現世における彼らの生活の糧を富ませたであろう。しかしそれは、果たして彼らがアッラーからの恩恵に対していかに感謝するかということを、試すためなのである。それでその主への服従と、クルアーンを聴き、それを熟慮し、それに沿って行いを正すことを拒む者は、激烈な懲罰の中に放り込まれるであろう。

18またモスクはアッラーのみを崇拝する場であるゆえ、かれ以外の何かを拝してはならない。そこでかれのみに祈り、かれのみを崇拝するのだ。モスクは何ものでもないアッラーのみの崇拝のために建てられたのである。尚この節には、モスクからアッラーへの純真な献身と、その使徒であるムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の踏襲を妨害するようなあらゆる物を排除することの義務が説かれている。

19ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)がその主を崇めるために立ち上がった時、ジンの集団は束になって彼に覆い被さらんばかりであった。そしてそれはクルアーンを聴くために、彼らがどっと押し寄せたためであった。

20使徒よ、彼ら不信仰者にこう言うのだ。「私は私の主のみを崇める。そしてかれへのイバーダ(崇拝行為)において、かれ以外の何ものも並べたりはしない。」

21-23使徒よ、彼らに言ってやるのだ。「私はあなた方を災厄から守ることも、あるいはあなた方に利益をもたらすことも出来ない。」言え、「アッラーに背けば、私をかれの懲罰から守ってくれるものはない。私はアッラー以外に、その懲罰からのいかなる避難所も見出すことは出来ない。私はただアッラーから伝達の命を授かったことを、そして私がそれと共にかれ

سُورَةُ المُزَّمِّلِ
ترتيبها ٧٣ — آياتها ٢٠

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

يَٰٓأَيُّهَا ٱلۡمُزَّمِّلُ ١ قُمِ ٱلَّيۡلَ إِلَّا قَلِيلٗا ٢ نِّصۡفَهُۥٓ أَوِ ٱنقُصۡ مِنۡهُ قَلِيلًا
٣ أَوۡ زِدۡ عَلَيۡهِ وَرَتِّلِ ٱلۡقُرۡءَانَ تَرۡتِيلًا ٤ إِنَّا سَنُلۡقِي عَلَيۡكَ قَوۡلٗا
ثَقِيلًا ٥ إِنَّ نَاشِئَةَ ٱلَّيۡلِ هِيَ أَشَدُّ وَطۡـٔٗا وَأَقۡوَمُ قِيلًا ٦ إِنَّ لَكَ فِي
ٱلنَّهَارِ سَبۡحٗا طَوِيلٗا ٧ وَٱذۡكُرِ ٱسۡمَ رَبِّكَ وَتَبَتَّلۡ إِلَيۡهِ تَبۡتِيلٗا ٨
رَّبُّ ٱلۡمَشۡرِقِ وَٱلۡمَغۡرِبِ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ فَٱتَّخِذۡهُ وَكِيلٗا ٩ وَٱصۡبِرۡ
عَلَىٰ مَا يَقُولُونَ وَٱهۡجُرۡهُمۡ هَجۡرٗا جَمِيلٗا ١٠ وَذَرۡنِي وَٱلۡمُكَذِّبِينَ
أُوْلِي ٱلنَّعۡمَةِ وَمَهِّلۡهُمۡ قَلِيلًا ١١ إِنَّ لَدَيۡنَآ أَنكَالٗا وَجَحِيمٗا ١٢
وَطَعَامٗا ذَا غُصَّةٖ وَعَذَابًا أَلِيمٗا ١٣ يَوۡمَ تَرۡجُفُ ٱلۡأَرۡضُ وَٱلۡجِبَالُ
وَكَانَتِ ٱلۡجِبَالُ كَثِيبٗا مَّهِيلًا ١٤ إِنَّآ أَرۡسَلۡنَآ إِلَيۡكُمۡ رَسُولٗا شَٰهِدًا
عَلَيۡكُمۡ كَمَآ أَرۡسَلۡنَآ إِلَىٰ فِرۡعَوۡنَ رَسُولٗا ١٥ فَعَصَىٰ فِرۡعَوۡنُ ٱلرَّسُولَ
فَأَخَذۡنَٰهُ أَخۡذٗا وَبِيلٗا ١٦ فَكَيۡفَ تَتَّقُونَ إِن كَفَرۡتُمۡ يَوۡمٗا يَجۡعَلُ
ٱلۡوِلۡدَٰنَ شِيبًا ١٧ ٱلسَّمَآءُ مُنفَطِرُۢ بِهِۦۚ كَانَ وَعۡدُهُۥ مَفۡعُولًا ١٨
إِنَّ هَٰذِهِۦ تَذۡكِرَةٞۖ فَمَن شَآءَ ٱتَّخَذَ إِلَىٰ رَبِّهِۦ سَبِيلًا ١٩

から遣わされたところのメッセージを、あなた方に伝える権威を有するだけなのである。そしてアッラーとその使徒に背き、アッラーの宗教を拒む者の報いは地獄の業火なのだ。彼らはそこから永遠に抜け出ることが出来ないであろう。

24シルク[1]の徒は約束されていた懲罰がもたらされ、それを眼前にして初めて知るのだ。果たして(その日)援助者も保護者も貧弱で、援軍もごく僅かであるのは誰かを。

25-27使徒よ、彼らシルク[2]の徒に言うのだ。「私には、果たしてあなた方に約束されたこの懲罰が遠からず起こるのか、あるいは私の主がそれまでに長い猶予を与えられたのか、分からない。あらゆる欠陥から無縁な崇高なる御方こそが幽玄界の事象をご存知なのであり、それを創造物のいかなるものにもご披露されることはない。但し、アッラーがそのメッセージの伝達のためにお選びになり、かつかれのご満足を受けた者たちはその限りではなく、彼らには幽玄界の事象の一部を明かして下さることもある。かれは使徒の前後に、彼をジンから守る天使たちを遣わされるが、それは彼らジンがそこで盗み聞きしたものを、占い師にこっそり吹き込んだりしないようにするためなのだ。これは使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)が真理と正直さをもって伝達し、ジンから守られていたことにおいて、彼以前の諸使徒も同様の状況にあったことを知るためである。また崇高なる御方が各使徒の法体系と諸々の諸規定を内面も外面もつまびらかにご存知であり、かつ至高なるかれが全てを仔細に渡って数え上げられており、また何一つかれを脅かすものが存在しないためなのである。

衣を纏う者章
(アル=ムッザンミル章)

1-4衣で身を包む者よ、夜は僅かな時間以外、サラー(礼拝)のために起きていよ。夜の半分、あるいはそれよりも少し短い3分の1位は起きているか、またはそれを半分よりも多い3分の2位にまで延長してもよい。そしてクルアーンをその文字の発音と停止すべき箇所を明確にしつつ、ゆっくりと朗誦するのだ。

5預言者よ、われ(アッラーのこと)はあなたに偉大なるクルアーンを下そう。そこには諸々の命令と禁止事項、法規定などが含まれている。

6夜更けのイバーダ(崇拝行為)はより心に響き、現世の諸事から解放された心の余白により明確に語りかけよう。

7あなたは昼間、生活のために奔走し、啓示の伝達に関する諸事のために忙殺されている。ゆえに夜に、あなたの主のためにイバーダに精を出すのだ。

8-9預言者よ、あなたの主の御名を念じ、それでもってかれに祈るのだ。そしてイバーダに完全に没頭し、アッラーにこそ全てを委ねるのだ。かれこそは東西の王であり、かれ以外には

1　１３ページの注釈１を参照。
2　１３ページの注釈１を参照。

۞ إِنَّ رَبَّكَ يَعْلَمُ أَنَّكَ تَقُومُ أَدْنَىٰ مِن ثُلُثَيِ الَّيْلِ وَنِصْفَهُۥ وَثُلُثَهُۥ وَطَآئِفَةٌ
مِّنَ الَّذِينَ مَعَكَ ۚ وَاللَّهُ يُقَدِّرُ الَّيْلَ وَالنَّهَارَ ۚ عَلِمَ أَن لَّن تُحْصُوهُ فَتَابَ
عَلَيْكُمْ ۖ فَاقْرَءُوا مَا تَيَسَّرَ مِنَ الْقُرْءَانِ ۚ عَلِمَ أَن سَيَكُونُ مِنكُم مَّرْضَىٰ ۙ
وَءَاخَرُونَ يَضْرِبُونَ فِى الْأَرْضِ يَبْتَغُونَ مِن فَضْلِ اللَّهِ ۙ وَءَاخَرُونَ
يُقَٰتِلُونَ فِى سَبِيلِ اللَّهِ ۖ فَاقْرَءُوا مَا تَيَسَّرَ مِنْهُ ۚ وَأَقِيمُوا الصَّلَوٰةَ وَءَاتُوا
الزَّكَوٰةَ وَأَقْرِضُوا اللَّهَ قَرْضًا حَسَنًا ۚ وَمَا تُقَدِّمُوا لِأَنفُسِكُم مِّنْ خَيْرٍ تَجِدُوهُ
عِندَ اللَّهِ هُوَ خَيْرًا وَأَعْظَمَ أَجْرًا ۚ وَاسْتَغْفِرُوا اللَّهَ ۖ إِنَّ اللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿٢٠﴾

ترتيبها ٧٤ — سُورَةُ الْمُدَّثِّرِ — آياتها ٢٠

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

يَٰٓأَيُّهَا الْمُدَّثِّرُ ﴿١﴾ قُمْ فَأَنذِرْ ﴿٢﴾ وَرَبَّكَ فَكَبِّرْ ﴿٣﴾ وَثِيَابَكَ فَطَهِّرْ ﴿٤﴾
وَالرُّجْزَ فَاهْجُرْ ﴿٥﴾ وَلَا تَمْنُن تَسْتَكْثِرُ ﴿٦﴾ وَلِرَبِّكَ فَاصْبِرْ ﴿٧﴾
فَإِذَا نُقِرَ فِى النَّاقُورِ ﴿٨﴾ فَذَٰلِكَ يَوْمَئِذٍ يَوْمٌ عَسِيرٌ ﴿٩﴾ عَلَى الْكَٰفِرِينَ
غَيْرُ يَسِيرٍ ﴿١٠﴾ ذَرْنِى وَمَنْ خَلَقْتُ وَحِيدًا ﴿١١﴾ وَجَعَلْتُ لَهُۥ مَالًا
مَّمْدُودًا ﴿١٢﴾ وَبَنِينَ شُهُودًا ﴿١٣﴾ وَمَهَّدتُّ لَهُۥ تَمْهِيدًا ﴿١٤﴾ ثُمَّ يَطْمَعُ
أَنْ أَزِيدَ ﴿١٥﴾ كَلَّآ ۖ إِنَّهُۥ كَانَ لِءَايَٰتِنَا عَنِيدًا ﴿١٦﴾ سَأُرْهِقُهُۥ صَعُودًا ﴿١٧﴾

真に崇拝すべきものなどない。かれにこそ依拠し、あなたの諸事をかれに任せるのだ。

10そしてシルク[1]の徒があなたと、あなたの宗教について喋っていることに耐えよ。彼らの無意味な行いと袂を分かち、相手にせず、復讐しようとなど思うのではない。

11使徒よ、現世において享楽と豪奢さを享受し、わがみしるしを嘘とする者たちを、われに任せておくのだ。そして彼らの定めがその懲罰の時期にまで達するまで、しばし彼らの懲罰を猶予しておけ。

12-13来世において彼らには重厚な枷と、そこで彼らが焼かれるところのいきり立つ業火が待ち受けている。また無理やり詰め込まれるが飲み込むことも厭われる食べ物と、痛ましい懲罰がある。

14その日大地と山々は揺れ動いて振動し、堅固な固体であったはずの山々は砂塵と化してばらばらに飛散する。

15-16マッカの民よ、実にわれ(アッラーのこと)はムハンマドを、あなた方の不信仰と不服従を証言する使徒として遣わした。それはちょうど、われらがムーサーを暴君フィルアウンに遣わしたのと同様である。そしてフィルアウンはムーサーを嘘つきとし、そのメッセージを信じず、彼の命令に背いた。それでわれらは彼を完膚なきまでに滅ぼした。尚ここには使徒ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)への不服従に対する、警告が見て取れる。それは彼への服従に背く者に、フィルアウンとその民に降りかかったのと同様の懲罰が降りかかるということを示しているためである。

17不信仰に留まるというなら、いかにしてあなた方は審判の日に自らを護身するというのか？その日余りの恐怖と不安から、子供たちは白髪になってしまうほどだというのに。

18その日、余りの恐怖ゆえに天は張り裂ける。その日が必ず到来することは、至高のアッラーのお約束であったのだ。

19様々な衝撃と懲戒を含むこれらの恐ろしいみしるしは、人々への訓戒と教訓である。ゆえにそれでもって自らを戒め、その利益を蒙りたい者は、服従と敬神の念をもってその主のご満悦を求める道とするのだ。主こそは人を創造され、また養育された御方なのである。

20預言者よ、あなたの主はあなたが時には夜の3分の2以下の時間を、そして時には夜の半分を、そしてまた時には3分の1にあたる時間を夜のサラー(礼拝)のためにあてていることを、そしてあなたの教友たちの一部があなたと共にそうしていることを、ご存知である。アッラーこそは昼夜を定められ、その長さと、そこにおいて過ぎ去り行くものも留まるものもご存知の御方。アッラーはあなた方が夜を徹してサラーに立ち続けることをご存知であるゆえ、あなた方に軽減された。ゆえに深夜のサラーでは、クルアーンの中からあなた方にとって容易なものを読誦するがよい。またアッラーはあなた方の中に病気ゆえに夜のサラーに立てなかったり、またアッラーからの合法な生活の糧を求めて商売や仕事に地上を奔走したり、あるいはアッラーの御言葉の興隆とその宗教の伝播を求めてかれの道に努力奮闘する者たちがいることもご存知である。ゆえにサラーでは、クルアーンの中からあなた方にとって容易なものを読誦するがよい。そして義務のサラーを遵守し、定められたザカー(喜捨)を支払

1　１３ページの注釈１を参照。

إِنَّهُۥ فَكَّرَ وَقَدَّرَ ﴿١٨﴾ فَقُتِلَ كَيْفَ قَدَّرَ ﴿١٩﴾ ثُمَّ قُتِلَ كَيْفَ قَدَّرَ ﴿٢٠﴾ ثُمَّ نَظَرَ
﴿٢١﴾ ثُمَّ عَبَسَ وَبَسَرَ ﴿٢٢﴾ ثُمَّ أَدْبَرَ وَٱسْتَكْبَرَ ﴿٢٣﴾ فَقَالَ إِنْ هَٰذَآ إِلَّا سِحْرٌ
يُؤْثَرُ ﴿٢٤﴾ إِنْ هَٰذَآ إِلَّا قَوْلُ ٱلْبَشَرِ ﴿٢٥﴾ سَأُصْلِيهِ سَقَرَ ﴿٢٦﴾ وَمَآ أَدْرَىٰكَ
مَا سَقَرُ ﴿٢٧﴾ لَا تُبْقِى وَلَا تَذَرُ ﴿٢٨﴾ لَوَّاحَةٌ لِّلْبَشَرِ ﴿٢٩﴾ عَلَيْهَا تِسْعَةَ عَشَرَ
﴿٣٠﴾ وَمَا جَعَلْنَآ أَصْحَٰبَ ٱلنَّارِ إِلَّا مَلَٰٓئِكَةً ۙ وَمَا جَعَلْنَا عِدَّتَهُمْ إِلَّا فِتْنَةً
لِّلَّذِينَ كَفَرُوا۟ لِيَسْتَيْقِنَ ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْكِتَٰبَ وَيَزْدَادَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ إِيمَٰنًا ۙ
وَلَا يَرْتَابَ ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْكِتَٰبَ وَٱلْمُؤْمِنُونَ ۙ وَلِيَقُولَ ٱلَّذِينَ فِى قُلُوبِهِم مَّرَضٌ
وَٱلْكَٰفِرُونَ مَاذَآ أَرَادَ ٱللَّهُ بِهَٰذَا مَثَلًا ۚ كَذَٰلِكَ يُضِلُّ ٱللَّهُ مَن يَشَآءُ وَيَهْدِى
مَن يَشَآءُ ۚ وَمَا يَعْلَمُ جُنُودَ رَبِّكَ إِلَّا هُوَ ۚ وَمَا هِىَ إِلَّا ذِكْرَىٰ لِلْبَشَرِ ﴿٣١﴾ كَلَّا
وَٱلْقَمَرِ ﴿٣٢﴾ وَٱلَّيْلِ إِذْ أَدْبَرَ ﴿٣٣﴾ وَٱلصُّبْحِ إِذَآ أَسْفَرَ ﴿٣٤﴾ إِنَّهَا لَإِحْدَى
ٱلْكُبَرِ ﴿٣٥﴾ نَذِيرًا لِّلْبَشَرِ ﴿٣٦﴾ لِمَن شَآءَ مِنكُمْ أَن يَتَقَدَّمَ أَوْ يَتَأَخَّرَ ﴿٣٧﴾ كُلُّ
نَفْسٍۭ بِمَا كَسَبَتْ رَهِينَةٌ ﴿٣٨﴾ إِلَّآ أَصْحَٰبَ ٱلْيَمِينِ ﴿٣٩﴾ فِى جَنَّٰتٍ يَتَسَآءَلُونَ
﴿٤٠﴾ عَنِ ٱلْمُجْرِمِينَ ﴿٤١﴾ مَا سَلَكَكُمْ فِى سَقَرَ ﴿٤٢﴾ قَالُوا۟ لَمْ نَكُ مِنَ
ٱلْمُصَلِّينَ ﴿٤٣﴾ وَلَمْ نَكُ نُطْعِمُ ٱلْمِسْكِينَ ﴿٤٤﴾ وَكُنَّا نَخُوضُ مَعَ
ٱلْخَآئِضِينَ ﴿٤٥﴾ وَكُنَّا نُكَذِّبُ بِيَوْمِ ٱلدِّينِ ﴿٤٦﴾ حَتَّىٰٓ أَتَىٰنَا ٱلْيَقِينُ ﴿٤٧﴾

い、アッラーの御顔を求めつつよきことにおいて財を施すのだ。あなた方がよきことにおいて行うあらゆることやアッラーへの服従行為は、審判の日にかれの御許における報奨となるのだ。そしてそれはあなた方が現世において行なったものよりも優れ、かつそれよりも大きな報奨となるのである。ゆえにあらゆる状況においてアッラーからのお赦しを乞うのだ。アッラーこそはあなた方にお赦し深く、慈悲深い御方なのである。

包る者章
(アル＝ムッダッスィル章)

1-7衣に包まれている者よ、寝床から立ち上がり、人々にアッラーの懲罰を警告せよ。そしてアッラーのみを讃え、かれのみを唯一の主とし、かれのみにイバーダ(崇拝行為)を捧げるのだ。そして衣服を不浄なものから清めよ－それというのも、外面的清浄さは内面的清浄さを完遂するからである。また偶像やシルク[1]的な行為などの全てから遠ざかり、そこに近づくのではない。そしてより大きい利益を見越して、贈り物をしたりするな。主のご満悦のために、かれのご命令と禁止行為において忍耐するのだ。

8-10角笛に復活と召集の吹込みがされる時、それは不信仰者らにとって厳しい時となろう。彼らはその日、現世での行いの清算に関する問答など、そこで繰り広げられる恐怖の数々を容易に突破することは出来ないのだ。

11-17使徒よ、われ(アッラーのこと)がその母親の胎内に創造した者を、われに任せておくのだ。われは財産も子孫もなかったその者に多大な財を与え、マッカにて彼に付きっ切りでいる子息を授けてやり、またその生活を楽にしてやった。しかしこれらの授かり物の後に及んでも、彼は更なる財と子孫を求め、しかもわれを信じなかった。事はこの罪深い放蕩者の思うようにはならない。われは彼に、それ以上のものを与えまい。彼はクルアーンと、創造におけるアッラーの幾多の証拠を虚偽とし、頑迷な者である。われは休息の間もない懲罰と疲労によって、彼に重圧を課すであろう(ここで取りざたされている“彼”とは、真理を拒否し、アッラーとその使徒に対して対峙したアル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラのこと。しかし真理を頑迷に拒絶し、廃絶しようとする全ての者に、同様の報いが与えられるであろう)。

18-25彼は吟味し、ムハンマドとクルアーンに対する中傷を準備した。ゆえに彼は呪われ、破滅に値したのである。一体彼は、いかにそのような中傷を考えたのか？それからまた彼は呪われ、それからまた彼がそう運命付けられたことにおいて熟慮し、クルアーンに対する中傷を考えた。そして策略に行き詰ると、顔をしかめ、歪ませた。彼はクルアーンにおいて、いかなる落ち度も見出すことが出来なかったのだ。それから彼はまた真理から踵を返し、その高慢さゆえにそれを受容することを拒んだ。そしてクルアーンに関し、こう言ったのだ。「ムハンマドが言っていることは、昔の人から伝え聞いた魔法に他ならない。ムハンマドが喋っているのは、奴が誰か他の者から学んだ人間の言葉である。奴はそれを、アッラーの御言葉だとでっち上げているのだ。」

26-30われは彼を地獄の業火に入れよう。彼はその灼熱の中に放り込まれ、その炎で焼かれる。あなたは地獄というものを知っているか？それは皮膚と言わず骨と言わず、全てを焼き

1　１３ページの注釈１を参照。

فَمَا تَنفَعُهُمۡ شَفَٰعَةُ ٱلشَّٰفِعِينَ ٤٨ فَمَا لَهُمۡ عَنِ ٱلتَّذۡكِرَةِ مُعۡرِضِينَ
٤٩ كَأَنَّهُمۡ حُمُرٞ مُّسۡتَنفِرَةٞ ٥٠ فَرَّتۡ مِن قَسۡوَرَةِۭ ٥١ بَلۡ يُرِيدُ
كُلُّ ٱمۡرِيٕٖ مِّنۡهُمۡ أَن يُؤۡتَىٰ صُحُفٗا مُّنَشَّرَةٗ ٥٢ كَلَّاۖ بَل لَّا يَخَافُونَ
ٱلۡأٓخِرَةَ ٥٣ كَلَّآ إِنَّهُۥ تَذۡكِرَةٞ ٥٤ فَمَن شَآءَ ذَكَرَهُۥ ٥٥
وَمَا يَذۡكُرُونَ إِلَّآ أَن يَشَآءَ ٱللَّهُۚ هُوَ أَهۡلُ ٱلتَّقۡوَىٰ وَأَهۡلُ ٱلۡمَغۡفِرَةِ ٥٦

ترتيبها ٧٥ سُورَةُ القِيَامَةِ آياتها ٤٠

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

لَآ أُقۡسِمُ بِيَوۡمِ ٱلۡقِيَٰمَةِ ١ وَلَآ أُقۡسِمُ بِٱلنَّفۡسِ ٱللَّوَّامَةِ ٢ أَيَحۡسَبُ
ٱلۡإِنسَٰنُ أَلَّن نَّجۡمَعَ عِظَامَهُۥ ٣ بَلَىٰ قَٰدِرِينَ عَلَىٰٓ أَن نُّسَوِّيَ بَنَانَهُۥ ٤ بَلۡ
يُرِيدُ ٱلۡإِنسَٰنُ لِيَفۡجُرَ أَمَامَهُۥ ٥ يَسۡـَٔلُ أَيَّانَ يَوۡمُ ٱلۡقِيَٰمَةِ ٦ فَإِذَا بَرِقَ ٱلۡبَصَرُ
٧ وَخَسَفَ ٱلۡقَمَرُ ٨ وَجُمِعَ ٱلشَّمۡسُ وَٱلۡقَمَرُ ٩ يَقُولُ ٱلۡإِنسَٰنُ يَوۡمَئِذٍ
أَيۡنَ ٱلۡمَفَرُّ ١٠ كَلَّا لَا وَزَرَ ١١ إِلَىٰ رَبِّكَ يَوۡمَئِذٍ ٱلۡمُسۡتَقَرُّ ١٢ يُنَبَّؤُاْ ٱلۡإِنسَٰنُ
يَوۡمَئِذِۭ بِمَا قَدَّمَ وَأَخَّرَ ١٣ بَلِ ٱلۡإِنسَٰنُ عَلَىٰ نَفۡسِهِۦ بَصِيرَةٞ ١٤ وَلَوۡ أَلۡقَىٰ
مَعَاذِيرَهُۥ ١٥ لَا تُحَرِّكۡ بِهِۦ لِسَانَكَ لِتَعۡجَلَ بِهِۦٓ ١٦ إِنَّ عَلَيۡنَا جَمۡعَهُۥ
وَقُرۡءَانَهُۥ ١٧ فَإِذَا قَرَأۡنَٰهُ فَٱتَّبِعۡ قُرۡءَانَهُۥ ١٨ ثُمَّ إِنَّ عَلَيۡنَا بَيَانَهُۥ ١٩

尽くすもの。皮膚を真っ黒に焼け焦げさせてしまうものである。そしてそこではザバーニヤと呼ばれる強力な19の天使が、地獄の諸事と、そこで懲罰を受ける者たちの諸事を任されている。

31われ（アッラーのこと）は地獄の番人を、冷厳なる天使とした。そしてその数を、アッラーを信じない者たちへの試練とした。それはユダヤ教徒とキリスト教徒という啓典の民が、地獄の番人に関してクルアーンで言及されたことが彼らの啓典に記されたことと一致していることで、それが至高のアッラーからの真理であるという確信を抱くためである。また信仰者がアッラーとその使徒への信仰心を高め、その法に沿った行いを促すためである。それはユダヤ教徒とキリスト教徒からなる啓典の民と、アッラーとその使徒を信仰する民にとって、疑念の余地のないことなのだ。しかし心にまがい物の信仰を抱く者や不信仰者は、こう言うのだ。「一体アッラーはこの奇妙な数字で何を言いたいのだろうか？」このようにアッラーは、かれがそうお望みになられた者を迷わせられ、またお望みの者をお導きになられる。そしてあなたの主の軍勢 - 天使もその内の者である - の数を知る者は、かれ以外にはおられないのだ。実に地獄の業火は、人々への訓戒と教訓なのである。

32-37彼らが言うように、使徒が携えて来たものは虚偽なのではない。いかなる不完全性とも無縁である崇高なるアッラーは、月にかけてお誓いになられる。また更けては明ける夜に、そして明るんで露わになる朝にかけてお誓いになられる。地獄の業火は人々への警告と恐怖という、偉大なる一つの印なのだ。そしてその主にお近づきになりたい者にはかれへの服従行為をもってそうさせ、遠ざかりたい者にはかれへの反逆行為でもってそうさせるがよい。

38-47全ての魂は、自らが稼いだ善行と悪行によってつなぎ止められ、抑留される。そしてそれに関する諸々の権利や懲罰を受けるまでは、解き放たれない。但し服従行為によって自らを解放する、真摯なムスリム“右側の徒”は別である。彼らはえも言われぬ楽園に入れられ、彼らに対して罪を犯していた不信仰者について互いにこう訊ね合う。「一体なぜあなた方は地獄に入れられ、その猛火を味わう羽目になったのか？」罪人たちは言う。「我々は現世でサラー(礼拝)していなかった。サダカ(喜捨)もせず、貧困者や恵まれない人々に善行も施さなかった。そして迷妄の民と共に無意味な話に花を咲かせ、清算と報いの日を嘘としていたのだ。こうして我々がそのような迷妄と悪事の中にある時に、死が到来したのである。」

48それで彼らには、天使や使徒などのいかなる執り成し手の執り成しも役に立たなかった。それというのも執り成しはアッラーがお悦びになり、かつかれがその執り成しを許可された者にしか許されないからである。

49-51彼らシルク[1]の徒がクルアーンと、そこに含まれている訓戒に背を向けるのはどういうことか？彼らはまるで獰猛なライオンから一目散に逃亡する、野生のロバのようである。

52-54彼らシルク[2]　の徒はムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)に起こったのと同様に、アッラーが天から彼らの各々に開かれた啓典を下されることを願っている。しかし

1　１３ページの注釈１を参照。
2　１３ページの注釈１を参照。

كَلَّا بَلْ تُحِبُّونَ الْعَاجِلَةَ ﴿٢٠﴾ وَتَذَرُونَ الْآخِرَةَ ﴿٢١﴾ وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ نَاضِرَةٌ ﴿٢٢﴾
إِلَىٰ رَبِّهَا نَاظِرَةٌ ﴿٢٣﴾ وَوُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ بَاسِرَةٌ ﴿٢٤﴾ تَظُنُّ أَنْ يُفْعَلَ بِهَا فَاقِرَةٌ ﴿٢٥﴾
كَلَّا إِذَا بَلَغَتِ التَّرَاقِيَ ﴿٢٦﴾ وَقِيلَ مَنْ رَاقٍ ﴿٢٧﴾ وَظَنَّ أَنَّهُ الْفِرَاقُ ﴿٢٨﴾ وَالْتَفَّتِ
السَّاقُ بِالسَّاقِ ﴿٢٩﴾ إِلَىٰ رَبِّكَ يَوْمَئِذٍ الْمَسَاقُ ﴿٣٠﴾ فَلَا صَدَّقَ وَلَا صَلَّىٰ
﴿٣١﴾ وَلَٰكِنْ كَذَّبَ وَتَوَلَّىٰ ﴿٣٢﴾ ثُمَّ ذَهَبَ إِلَىٰ أَهْلِهِ يَتَمَطَّىٰ ﴿٣٣﴾ أَوْلَىٰ لَكَ
فَأَوْلَىٰ ﴿٣٤﴾ ثُمَّ أَوْلَىٰ لَكَ فَأَوْلَىٰ ﴿٣٥﴾ أَيَحْسَبُ الْإِنْسَانُ أَنْ يُتْرَكَ سُدًى ﴿٣٦﴾
أَلَمْ يَكُ نُطْفَةً مِنْ مَنِيٍّ يُمْنَىٰ ﴿٣٧﴾ ثُمَّ كَانَ عَلَقَةً فَخَلَقَ فَسَوَّىٰ ﴿٣٨﴾ فَجَعَلَ مِنْهُ
الزَّوْجَيْنِ الذَّكَرَ وَالْأُنْثَىٰ ﴿٣٩﴾ أَلَيْسَ ذَٰلِكَ بِقَادِرٍ عَلَىٰ أَنْ يُحْيِيَ الْمَوْتَىٰ ﴿٤٠﴾

سُورَةُ الْإِنْسَانِ

ترتيبها ٧٦ — آياتها ٣١

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

هَلْ أَتَىٰ عَلَى الْإِنْسَانِ حِينٌ مِنَ الدَّهْرِ لَمْ يَكُنْ شَيْئًا مَذْكُورًا ﴿١﴾
إِنَّا خَلَقْنَا الْإِنْسَانَ مِنْ نُطْفَةٍ أَمْشَاجٍ نَبْتَلِيهِ فَجَعَلْنَاهُ سَمِيعًا
بَصِيرًا ﴿٢﴾ إِنَّا هَدَيْنَاهُ السَّبِيلَ إِمَّا شَاكِرًا وَإِمَّا كَفُورًا ﴿٣﴾
إِنَّا أَعْتَدْنَا لِلْكَافِرِينَ سَلَاسِلَ وَأَغْلَالًا وَسَعِيرًا ﴿٤﴾ إِنَّ
الْأَبْرَارَ يَشْرَبُونَ مِنْ كَأْسٍ كَانَ مِزَاجُهَا كَافُورًا ﴿٥﴾

そんなことが起こるわけがない。実際のところ、彼らは来世を恐れている。そして復活も報いも信じてはいないのだ。

55実にクルアーンは、彼らが教訓を汲み取るに十分値する、この上ない訓戒である。それで教訓を受けようとする者は、そこにあるものによってそうさせ、かつその導きという益を蒙らせよ。しかしアッラーがお導きを授けて下さろうとしない限り、彼らは訓戒を得ることが出来ないであろう。いかなる不完全性とも無縁である崇高なるかれこそは、真に畏れられ、従われるべき御方。そしてかれを信仰し、かれに服従する者をお赦しになることが出来る御方である。

復活章
(アル＝キヤーマ章)

1-4いかなる不完全性とも無縁である崇高なるアッラーは、清算と報いの日にかけて、そして服従行為における至らなさと犯した罪に関して自らを呵責する、敬虔で信心深い魂にかけてこうお誓いになられた。 人は蘇らされる、と。不信仰の人間は、われら(アッラーのこと)が分散した骨々を再び集めることが出来ないとでも思っているのか？いや、われらは必ずやそれを集めよう。われらは各々の指の骨を集め、それを組み立て、それを生前の整った形に創り上げることが出来るのである。

5-6いや、人間は復活を否定している。そして残る余命を、放蕩に尽くしたいと望んでいる。そしてこの不信仰者は審判の日を荒唐無稽なこととして、こう言うのだ。「一体審判の日とはいつやって来るのか？」

7-10しかし審判の日の恐ろしい出来事の数々を前にして目が仰天し、驚愕する時、そして月の輝きが失せ、太陽と月が重なっていずれの光も喪失する時、人はこう言う。「罰からの逃げ道はどこだ！？」

11-12人間よ、逃げ道を求めても、事はあなたの望み通りにはならない。あなたにはいかなる避難先も逃げ場もないのだ。審判の日、全ての創造物の行き先と居場所はアッラーの御許のみ。かれはそこで、全てのものに相応の報いをお与えになられる。

13その日人間は、現世において行なった善行と悪行、アッラーへのお近づきのために行なった行為や、かれから遠ざかる原因となった行為など、全ての行為を告げられる。

14-15人間は自分が行ったり、あるいは行わなかったりしたことにおいて、自らに対する明白な証言者である。例え自らの罪を弁解するあらゆる言い訳をしたとしても、それが益することはない。

16-19預言者よ、啓示が下る際には、それを逃すまいと急いで暗誦しようとして、クルアーンに合わせて舌を動かすのではない。われらこそがあなたの胸にクルアーンを結集させるのだ。そしてあなたはその後、望む時に舌を動かしてそれを読むがよい。われらの使者ジブリールがあなたにクルアーンを読んで聞かせる時には、あなたは彼の読誦を傾聴せよ。それから彼があなたに読んで聞かせたように、読誦するのだ。そしてあなたがその意味や規定に関して理解し辛い箇所に関しては、われらが説明しよう。

عَيْنًا يَشْرَبُ بِهَا عِبَادُ اللَّهِ يُفَجِّرُونَهَا تَفْجِيرًا ﴿٦﴾ يُوفُونَ بِالنَّذْرِ وَيَخَافُونَ
يَوْمًا كَانَ شَرُّهُ مُسْتَطِيرًا ﴿٧﴾ وَيُطْعِمُونَ الطَّعَامَ عَلَىٰ حُبِّهِ مِسْكِينًا
وَيَتِيمًا وَأَسِيرًا ﴿٨﴾ إِنَّمَا نُطْعِمُكُمْ لِوَجْهِ اللَّهِ لَا نُرِيدُ مِنكُمْ جَزَاءً وَلَا شُكُورًا
﴿٩﴾ إِنَّا نَخَافُ مِن رَّبِّنَا يَوْمًا عَبُوسًا قَمْطَرِيرًا ﴿١٠﴾ فَوَقَاهُمُ اللَّهُ شَرَّ ذَٰلِكَ
الْيَوْمِ وَلَقَّاهُمْ نَضْرَةً وَسُرُورًا ﴿١١﴾ وَجَزَاهُم بِمَا صَبَرُوا جَنَّةً وَحَرِيرًا
﴿١٢﴾ مُّتَّكِئِينَ فِيهَا عَلَى الْأَرَائِكِ ۖ لَا يَرَوْنَ فِيهَا شَمْسًا وَلَا زَمْهَرِيرًا ﴿١٣﴾
وَدَانِيَةً عَلَيْهِمْ ظِلَالُهَا وَذُلِّلَتْ قُطُوفُهَا تَذْلِيلًا ﴿١٤﴾ وَيُطَافُ عَلَيْهِم بِآنِيَةٍ
مِّن فِضَّةٍ وَأَكْوَابٍ كَانَتْ قَوَارِيرَا ﴿١٥﴾ قَوَارِيرَ مِن فِضَّةٍ قَدَّرُوهَا تَقْدِيرًا ﴿١٦﴾
وَيُسْقَوْنَ فِيهَا كَأْسًا كَانَ مِزَاجُهَا زَنجَبِيلًا ﴿١٧﴾ عَيْنًا فِيهَا تُسَمَّىٰ سَلْسَبِيلًا
﴿١٨﴾ ۞ وَيَطُوفُ عَلَيْهِمْ وِلْدَانٌ مُّخَلَّدُونَ إِذَا رَأَيْتَهُمْ حَسِبْتَهُمْ لُؤْلُؤًا مَّنثُورًا
﴿١٩﴾ وَإِذَا رَأَيْتَ ثَمَّ رَأَيْتَ نَعِيمًا وَمُلْكًا كَبِيرًا ﴿٢٠﴾ عَالِيَهُمْ ثِيَابُ سُندُسٍ
خُضْرٌ وَإِسْتَبْرَقٌ ۖ وَحُلُّوا أَسَاوِرَ مِن فِضَّةٍ وَسَقَاهُمْ رَبُّهُمْ شَرَابًا
طَهُورًا ﴿٢١﴾ إِنَّ هَٰذَا كَانَ لَكُمْ جَزَاءً وَكَانَ سَعْيُكُم مَّشْكُورًا ﴿٢٢﴾ إِنَّا
نَحْنُ نَزَّلْنَا عَلَيْكَ الْقُرْآنَ تَنزِيلًا ﴿٢٣﴾ فَاصْبِرْ لِحُكْمِ رَبِّكَ وَلَا تُطِعْ
مِنْهُمْ آثِمًا أَوْ كَفُورًا ﴿٢٤﴾ وَاذْكُرِ اسْمَ رَبِّكَ بُكْرَةً وَأَصِيلًا ﴿٢٥﴾

20-21シルク[1]の徒よ、あなた方は復活も報いもないと言い張っているが、それは間違いである。あなたは現世とその虚飾を愛し、来世とその享楽を放ったらかしにしているのだ。

22-23審判の日、至福の民の顔は美しく輝く。彼らはその創造主、彼らの諸事の真の主宰者を眺め、悦楽に浸っている。

24-25そして審判の日、不幸の民の顔は暗いしかめ面である。彼らはこの上ない災厄に襲われ、背骨を折られることを察知する。

26-30そして魂が喉元にまで達した時、そこにいる人々は互いにこう言い合う。「この状態を癒してくれる魔除けの使い手はいるか！？」こうして魂を抜かれる者は死の天使を目の当たりにし、彼が現世と別れようとしているのだということを悟る。そして現世の終わりの厳しさは、来世の始まりの厳しさへとつながる。審判の日、しもべの足は至高のアッラーの御許へと向かう。つまり天国か、地獄かなのである。

31-35不信仰者は使徒もクルアーンも信仰しなければ、至高のアッラーに対してサラー(礼拝)の義務も果たさなかった。それどころかクルアーンを嘘とし、信仰に背を向け、気取りつつもったいぶりながら家人のもとへと歩いていったのだ。あなたに破滅あれ。そしてあなたに破滅あれ。

36-40復活を否定するこの人間は、何かを命じられることも禁じられることもなく、行いを清算されることも、懲罰を受けることもなく無意味に放置されたとでも思っているのか？この人間は、かつては子宮に据えられた汚れた水の一滴であったのではないか？そしてアッラーがそこから、人間を男女の二種類にお創りになられたのでは？このようなものをお創りになられた神は、創造の消滅後もそれを再生させることが出来ないだろうか？いや、実にいかなる不完全性とも無縁である至高なる御方は、それがお出来になるのである。

人間章
(アル=インサーン章)

1人間が魂を吹き込まれる以前には、言及すべき何もなく、いかなる出来事も知られることのなかった、長い期間があった。

2-3われら(アッラー)は人間を男女の精液の混合液から創り、その後に彼らをイスラームにおける諸々の義務行為によって試練にかけた。そしてそれゆえに彼らに聴覚や視覚を備えさせ、クルアーンの節々を聞き、諸々の証拠を目にすることが出来るようにしたのだ。われらは彼らに正しい導きの道と迷妄の道、そして善と悪とを教え、明確にした。それは彼らが感謝深き信仰者か、あるいは恩知らずの不信仰者かになるためある。

4われらは不信仰者に、その足をきつく縛り付けるための鉄枷と、その手を首に巻きつけるための錠、そして彼らを焼くための地獄の業火を用意しておいた。

5アッラーへの義務を遂行する従順かつ真摯な民は、審判の日に最高の香 - 樟脳水 - が混ぜられた美酒の杯で飲むであろう。

1　１３ページの注釈１を参照。

وَمِنَ ٱلَّيۡلِ فَٱسۡجُدۡ لَهُۥ وَسَبِّحۡهُ لَيۡلًا طَوِيلًا ٢٦ إِنَّ
هَٰٓؤُلَآءِ يُحِبُّونَ ٱلۡعَاجِلَةَ وَيَذَرُونَ وَرَآءَهُمۡ يَوۡمًا ثَقِيلًا ٢٧ نَّحۡنُ
خَلَقۡنَٰهُمۡ وَشَدَدۡنَآ أَسۡرَهُمۡۖ وَإِذَا شِئۡنَا بَدَّلۡنَآ أَمۡثَٰلَهُمۡ تَبۡدِيلًا
٢٨ إِنَّ هَٰذِهِۦ تَذۡكِرَةٞۖ فَمَن شَآءَ ٱتَّخَذَ إِلَىٰ رَبِّهِۦ سَبِيلًا ٢٩
وَمَا تَشَآءُونَ إِلَّآ أَن يَشَآءَ ٱللَّهُۚ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَلِيمًا حَكِيمًا ٣٠
يُدۡخِلُ مَن يَشَآءُ فِي رَحۡمَتِهِۦۚ وَٱلظَّٰلِمِينَ أَعَدَّ لَهُمۡ عَذَابًا أَلِيمَۢا ٣١

ترتيبها ٧٧ — سُورَةُ المُرۡسَلَاتِ — آياتها ٥٠

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

وَٱلۡمُرۡسَلَٰتِ عُرۡفٗا ١ فَٱلۡعَٰصِفَٰتِ عَصۡفٗا ٢ وَٱلنَّٰشِرَٰتِ نَشۡرٗا ٣
فَٱلۡفَٰرِقَٰتِ فَرۡقٗا ٤ فَٱلۡمُلۡقِيَٰتِ ذِكۡرًا ٥ عُذۡرًا أَوۡ نُذۡرًا ٦ إِنَّمَا
تُوعَدُونَ لَوَٰقِعٞ ٧ فَإِذَا ٱلنُّجُومُ طُمِسَتۡ ٨ وَإِذَا ٱلسَّمَآءُ فُرِجَتۡ
٩ وَإِذَا ٱلۡجِبَالُ نُسِفَتۡ ١٠ وَإِذَا ٱلرُّسُلُ أُقِّتَتۡ ١١ لِأَيِّ يَوۡمٍ أُجِّلَتۡ
١٢ لِيَوۡمِ ٱلۡفَصۡلِ ١٣ وَمَآ أَدۡرَىٰكَ مَا يَوۡمُ ٱلۡفَصۡلِ ١٤ وَيۡلٞ يَوۡمَئِذٖ
لِّلۡمُكَذِّبِينَ ١٥ أَلَمۡ نُهۡلِكِ ٱلۡأَوَّلِينَ ١٦ ثُمَّ نُتۡبِعُهُمُ ٱلۡأٓخِرِينَ
١٧ كَذَٰلِكَ نَفۡعَلُ بِٱلۡمُجۡرِمِينَ ١٨ وَيۡلٞ يَوۡمَئِذٖ لِّلۡمُكَذِّبِينَ ١٩

6-10カーフール（幸福を広げる源泉の象徴）が混ざったその飲み物こそは、アッラーのしもべたちが飲む泉である。彼らはそれを気の向くままに飲み、どこからでも好きな所から容易に湧き出させることが出来る。彼らは現世において、彼らに課せられたアッラーへの服従行為を完遂していた。またアッラーがご慈悲をおかけになられた以外の者にとっては災厄が危険を極め、人々に悪が降りかかる。審判の日におけるアッラーの懲罰を恐れていた。彼らは必要最低限のものすら所有しない、稼ぐ能力のない貧者に対し、彼ら自身が必要としている愛着心のある食物を施していた。そして自分自身に「我々はアッラーのご満悦と、かれからの報奨を望んであなた方に善を施しているのだ。我々はいかなる代償もいらないし、あなた方からの賛嘆や褒め言葉を望んでいるわけではない。我々はその物凄さと激烈なる恐怖ゆえに人々のしかめっ面が惨憺たるものとなる厳しい日(審判の日)、我らの主を恐れるのだ。」

11-14こうしてその日、アッラーは彼らをお守りになられる。そして彼らの顔に美しさと光を、その心には歓喜と幸福を授けられ、彼らが現世で辛抱強く服従していたことにおいて、偉大な楽園をお与えになられる。彼らはそこで望みのものを食べ、滑らかな絹の衣を着、豪奢な生地と覆いで装飾された寝台の上に身を伸ばす。そこには太陽の灼熱もなければ、酷寒もない。近くには彼らの上に影を落とす楽園の木々があり、彼らはどこからでも容易にその果実を手にすることが出来る。

15-18そして彼らの間を、銀の食器に載せられた食べ物と、硝子の杯に注がれた飲み物を運ぶ小間使いたちが行き交う。その硝子は銀で出来ており、それを注ぐ者は飲む者が望むだけの量を - それ以上でもそれ以下でもない - 注いでくれる。彼ら善行者たちは楽園において、生姜の混じった酒で満たされた杯を注がれる。そしてその無害さと喉越しの良さ、その滑らかさゆえに“サルサビール”と呼ばれる、楽園の泉から飲むのだ。

19彼ら善行者たちの間を、永遠の少年である小間使いたちが行き交う。もし彼らを目にしたら、あなたはその美しさと繊細な色、その顔の輝かしさゆえに、散りばめられた煌く真珠かと思うであろう。

20そして楽園のいかなる場所に目をやっても、あなたは描写不可能なほどの享楽と、限りなく膨大で偉大な王国を目にするであろう。

21彼らの体は、裏生地が緑色の繊細な絹で、表生地は粗い絹の衣服に覆われ、銀の腕輪で美しく飾り付けられる。また彼らの主はこれらの享楽の上に、彼らにいかなる不純物や穢れからも無縁な飲み物を与えられる。

22そして彼らには、こう言われる。「これらは、あなた方の善行への報酬として用意されたものである。現世におけるあなた方の行いはアッラーにとって、かれを満足させ、かれに受け入れられる類いのものであった。」

23使徒よ、われらはわれらの御許から、あなたにクルアーンを下した。それはそれでもってあなたが、吉報と警告、報奨と懲罰のことを、人々に想起させるためである。

24-25ゆえにあなたの主の定められた取り決めに辛抱し、それを受け入れよ。またかれの宗教

أَلَمْ نَخْلُقكُّم مِّن مَّآءٍ مَّهِينٍ ﴿٢٠﴾ فَجَعَلْنَٰهُ فِى قَرَارٍ مَّكِينٍ ﴿٢١﴾ إِلَىٰ قَدَرٍ
مَّعْلُومٍ ﴿٢٢﴾ فَقَدَرْنَا فَنِعْمَ ٱلْقَٰدِرُونَ ﴿٢٣﴾ وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٢٤﴾
أَلَمْ نَجْعَلِ ٱلْأَرْضَ كِفَاتًا ﴿٢٥﴾ أَحْيَآءً وَأَمْوَٰتًا ﴿٢٦﴾ وَجَعَلْنَا فِيهَا رَوَٰسِىَ
شَٰمِخَٰتٍ وَأَسْقَيْنَٰكُم مَّآءً فُرَاتًا ﴿٢٧﴾ وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٢٨﴾
ٱنطَلِقُوٓا۟ إِلَىٰ مَا كُنتُم بِهِۦ تُكَذِّبُونَ ﴿٢٩﴾ ٱنطَلِقُوٓا۟ إِلَىٰ ظِلٍّ ذِى ثَلَٰثِ
شُعَبٍ ﴿٣٠﴾ لَّا ظَلِيلٍ وَلَا يُغْنِى مِنَ ٱللَّهَبِ ﴿٣١﴾ إِنَّهَا تَرْمِى بِشَرَرٍ
كَٱلْقَصْرِ ﴿٣٢﴾ كَأَنَّهُۥ جِمَٰلَتٌ صُفْرٌ ﴿٣٣﴾ وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٣٤﴾
هَٰذَا يَوْمُ لَا يَنطِقُونَ ﴿٣٥﴾ وَلَا يُؤْذَنُ لَهُمْ فَيَعْتَذِرُونَ ﴿٣٦﴾ وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ
لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٣٧﴾ هَٰذَا يَوْمُ ٱلْفَصْلِ جَمَعْنَٰكُمْ وَٱلْأَوَّلِينَ ﴿٣٨﴾ فَإِن كَانَ
لَكُمْ كَيْدٌ فَكِيدُونِ ﴿٣٩﴾ وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٤٠﴾ إِنَّ ٱلْمُتَّقِينَ فِى
ظِلَٰلٍ وَعُيُونٍ ﴿٤١﴾ وَفَوَٰكِهَ مِمَّا يَشْتَهُونَ ﴿٤٢﴾ كُلُوا۟ وَٱشْرَبُوا۟ هَنِيٓـًٔۢا
بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٤٣﴾ إِنَّا كَذَٰلِكَ نَجْزِى ٱلْمُحْسِنِينَ ﴿٤٤﴾ وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ
لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٤٥﴾ كُلُوا۟ وَتَمَتَّعُوا۟ قَلِيلًا إِنَّكُم مُّجْرِمُونَ ﴿٤٦﴾ وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ
لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٤٧﴾ وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ ٱرْكَعُوا۟ لَا يَرْكَعُونَ ﴿٤٨﴾ وَيْلٌ
يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٤٩﴾ فَبِأَىِّ حَدِيثٍ بَعْدَهُۥ يُؤْمِنُونَ ﴿٥٠﴾

的定めを忍耐して受容し、それを完遂するのだ。欲望に溺れ、不信仰と迷妄の奥深くに沈んだシルク[1]の徒に追従してはならない。そして昼の始まりと終わりにあなたの主の御名を念じ、かれに祈るのだ。

26また夜はあなたの主に献身し、長い時間をサラー（礼拝）に費やすのだ。

27実に彼らシルク[2]の徒は現世を愛し、そこに懸命になっている。そして来世のための行いと、この上ない災厄の日に彼らを救ってくれる行いとを、遥か後方に投げ捨てている。

28われらこそが彼らを創造したのであり、その創造を秩序の取れたものとしたのだ。ゆえにわれらがそう望めば、われらは彼らを滅ぼし、彼らの主の命令を遵守する従順な民をもたらしたであろう。

29-31この章は知識ある者たちへの訓戒である。ゆえに現世と来世において自らに善を望む者には、信仰と敬神の念をもってアッラーのお赦しとお悦びへの道を歩ませよ。しかしあなた方が何を望むにしても、それはアッラーのお定めとご意志になしには叶わない。アッラーはその創造の状態を粒さにご存知の御方であり、創造とその管理においてこの上なく英知溢れる御方。かれはかれがお望みになられるしもべを、そのご慈悲とお悦びの中へ入れて下さる。そしてアッラーの法を越える不正者には、痛ましい懲罰をご用意なされたのだ。

送られるもの章
（アル＝ムルサラート章）

1-7至高のアッラーは、次から次へと絶え間なく吹く風と、物を破壊する強風、アッラーのお望みのままに雲を操ることを委任された天使と、真理と迷妄、合法なものと非合法なものを識別するものをもってアッラーの御許から遣わされる天使、そしてアッラーから啓示を授かり、それを各預言者へと伝達する天使にかけてお誓いになられた。それは後に言い訳する余地がないようにするための、アッラーから被造物への前似たお告げであり、警告である。あなた方が約束されている審判の日と、そこにおける清算や報いなどの出来事は、必ずや起こるのである。

8-15そして星々が消し去られ、その光が消失する時。天が割れ、山々が飛び散って散開し、風に吹き飛ばされる砂埃と化す時。使徒たちが、その民との裁決の時と猶予を定められる時。彼らにはこう言われる。「いかなる偉大な日まで、使徒たちに猶予が与えられたというのか？」被造物の間の裁決の日まで、猶予が与えられたのである。そして人間よ、裁決の日とその恐怖と厳しさをあなたに知らしめるものは何か？約束されたその日を嘘とした者たちにはその日、この上ない破滅がある。

16-18われ（アッラーのこと）は過去の社会に属していた先代の者たちを、使徒たちを信じなかったゆえに滅ぼしたではないか？例えばヌーフやアードやサムードの民などがそうである。そしてわれらは不信仰と反逆において彼らと同様である後代の者たちを、彼らと

1　１３ページの注釈１を参照。
2　１３ページの注釈１を参照。

ترتيبها ٧٨ — سُورَةُ النَّبَإِ — آياتها ٤٠

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

عَمَّ يَتَسَاءَلُونَ ﴿١﴾ عَنِ النَّبَإِ الْعَظِيمِ ﴿٢﴾ الَّذِي هُمْ فِيهِ مُخْتَلِفُونَ ﴿٣﴾
كَلَّا سَيَعْلَمُونَ ﴿٤﴾ ثُمَّ كَلَّا سَيَعْلَمُونَ ﴿٥﴾ أَلَمْ نَجْعَلِ الْأَرْضَ مِهَادًا ﴿٦﴾
وَالْجِبَالَ أَوْتَادًا ﴿٧﴾ وَخَلَقْنَاكُمْ أَزْوَاجًا ﴿٨﴾ وَجَعَلْنَا نَوْمَكُمْ سُبَاتًا
﴿٩﴾ وَجَعَلْنَا اللَّيْلَ لِبَاسًا ﴿١٠﴾ وَجَعَلْنَا النَّهَارَ مَعَاشًا ﴿١١﴾ وَبَنَيْنَا
فَوْقَكُمْ سَبْعًا شِدَادًا ﴿١٢﴾ وَجَعَلْنَا سِرَاجًا وَهَّاجًا ﴿١٣﴾ وَأَنْزَلْنَا
مِنَ الْمُعْصِرَاتِ مَاءً ثَجَّاجًا ﴿١٤﴾ لِنُخْرِجَ بِهِ حَبًّا وَنَبَاتًا ﴿١٥﴾ وَجَنَّاتٍ
أَلْفَافًا ﴿١٦﴾ إِنَّ يَوْمَ الْفَصْلِ كَانَ مِيقَاتًا ﴿١٧﴾ يَوْمَ يُنْفَخُ فِي الصُّورِ
فَتَأْتُونَ أَفْوَاجًا ﴿١٨﴾ وَفُتِحَتِ السَّمَاءُ فَكَانَتْ أَبْوَابًا ﴿١٩﴾ وَسُيِّرَتِ
الْجِبَالُ فَكَانَتْ سَرَابًا ﴿٢٠﴾ إِنَّ جَهَنَّمَ كَانَتْ مِرْصَادًا ﴿٢١﴾ لِلطَّاغِينَ
مَآبًا ﴿٢٢﴾ لَابِثِينَ فِيهَا أَحْقَابًا ﴿٢٣﴾ لَا يَذُوقُونَ فِيهَا بَرْدًا وَلَا شَرَابًا
﴿٢٤﴾ إِلَّا حَمِيمًا وَغَسَّاقًا ﴿٢٥﴾ جَزَاءً وِفَاقًا ﴿٢٦﴾ إِنَّهُمْ كَانُوا
لَا يَرْجُونَ حِسَابًا ﴿٢٧﴾ وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا كِذَّابًا ﴿٢٨﴾ وَكُلَّ شَيْءٍ
أَحْصَيْنَاهُ كِتَابًا ﴿٢٩﴾ فَذُوقُوا فَلَنْ نَزِيدَكُمْ إِلَّا عَذَابًا ﴿٣٠﴾

同じ目にあわせてやろう。彼らマッカの不信仰者という罪深き者たちを、使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）を信じなかったゆえに、そのような恐ろしい滅亡にあわせてやるのだ。

19アッラーがいかなる共同者も有さない、真に崇拝すべき唯一の御方であることを、また預言者性と復活、そして清算を嘘とする全ての者には、審判の日の破滅と厳しい懲罰がある。

20-23不信仰者たちよ、われらはあなた方を精液という貧弱でつまらない液体から創ったのではないか？そしてその液体を女性の子宮という堅固な場所に据え、至高のアッラーの御許で既に定められた一定の時まで留めたのではないか？それからわれらはその創造を整え、形を定め、下界へと導いたのだ。われらの万能さはいかに素晴らしいことか！

24われらの威力によって、嘘つきの不信仰者たちには審判の日、破滅と厳しい懲罰があるのだ。

25-27われらはあなた方の住むこの大地の上に、数え切れないほどの生き物を据え置いたではないか？そしてその下にもまた、無数の死体を収めたではないか？またわれらはあなたが揺れ動かないように、そこに高く堅固な山々を据え、そしてあなた方に喉心地のよい清涼な水を与えたではないか？

28これらの恩恵を嘘とする不信仰者たちには審判の日、破滅と崩壊があるのだ。

29-33審判の日、不信仰者たちにはこう言われる。「現世であなた方が虚偽としていた地獄の懲罰へと、赴くのだ。行って、3本に分岐している地獄の煙の陰に身を寄せよ。しかしその陰はその日の灼熱を凌ぐことも、また炎の熱さを押し留めることもないだろう。地獄はその炎から、巨大な火花を飛び散らせている。そしてその火花はそれぞれ、その大きさと高さにおいてまるで聳え立つ建築物のようである。飛散する地獄の火花はまるで、黄色がかった黒いラクダのようだ。」

34アッラーの警告を嘘とする不信仰者たちには審判の日、破滅と厳しい懲罰がある。

35-36この日こそは、嘘つきの不信仰者らが彼ら自身を益するいかなる言葉をも発することの出来ない、審判の日である。彼らには、弁解をする許可すら与えられないのだ。

37この日と、そこで繰り広げられる出来事を嘘とする不信仰者たちには、審判の日に破滅と厳しい懲罰があるのだ。

38-39これこそはアッラーが被造物の間を裁かれ、真理と迷妄が識別される日。この社会の不信仰者たちよ、われらはこの日、過去の社会に属する先代の不信仰者たちとあなた方を合流させた。それで懲罰から逃れるための策があるのなら、そうしてみるがよい。アッラーのご威力と報復から、自分自身を救ってみるがよい。

40審判の日を嘘とする不信仰者たちには審判の日、破滅と厳しい懲罰がある。

41-45現世でその主を恐れ、その命令を遵守し、禁じられたことを回避することでその懲罰から身を守っていた者たちは、審判の日に青々と茂った木々と水の流れる泉のもとにある。そしてそこには心が求め、楽しむような果実が山ほどある。そして彼らには、こう言われる。「美味なる食事を口にし、心地よい飲み物を飲むがよい。あなた方は現世で善行に励

إِنَّ لِلْمُتَّقِينَ مَفَازًا ﴿٣١﴾ حَدَآئِقَ وَأَعْنَٰبًا ﴿٣٢﴾ وَكَوَاعِبَ أَتْرَابًا ﴿٣٣﴾ وَكَأْسًا
دِهَاقًا ﴿٣٤﴾ لَّا يَسْمَعُونَ فِيهَا لَغْوًا وَلَا كِذَّٰبًا ﴿٣٥﴾ جَزَآءً مِّن رَّبِّكَ عَطَآءً
حِسَابًا ﴿٣٦﴾ رَّبِّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا ٱلرَّحْمَٰنِ لَا يَمْلِكُونَ
مِنْهُ خِطَابًا ﴿٣٧﴾ يَوْمَ يَقُومُ ٱلرُّوحُ وَٱلْمَلَٰٓئِكَةُ صَفًّا لَّا يَتَكَلَّمُونَ
إِلَّا مَنْ أَذِنَ لَهُ ٱلرَّحْمَٰنُ وَقَالَ صَوَابًا ﴿٣٨﴾ ذَٰلِكَ ٱلْيَوْمُ ٱلْحَقُّ فَمَن
شَآءَ ٱتَّخَذَ إِلَىٰ رَبِّهِۦ مَـَٔابًا ﴿٣٩﴾ إِنَّآ أَنذَرْنَٰكُمْ عَذَابًا قَرِيبًا يَوْمَ
يَنظُرُ ٱلْمَرْءُ مَا قَدَّمَتْ يَدَاهُ وَيَقُولُ ٱلْكَافِرُ يَٰلَيْتَنِى كُنتُ تُرَٰبًۢا ﴿٤٠﴾

ترتيبها ٧٩ — سُورَةُ النَّازِعَاتِ — آياتها ٤٦

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

وَٱلنَّٰزِعَٰتِ غَرْقًا ﴿١﴾ وَٱلنَّٰشِطَٰتِ نَشْطًا ﴿٢﴾ وَٱلسَّٰبِحَٰتِ سَبْحًا
﴿٣﴾ فَٱلسَّٰبِقَٰتِ سَبْقًا ﴿٤﴾ فَٱلْمُدَبِّرَٰتِ أَمْرًا ﴿٥﴾ يَوْمَ تَرْجُفُ ٱلرَّاجِفَةُ
﴿٦﴾ تَتْبَعُهَا ٱلرَّادِفَةُ ﴿٧﴾ قُلُوبٌ يَوْمَئِذٍ وَاجِفَةٌ ﴿٨﴾ أَبْصَٰرُهَا
خَٰشِعَةٌ ﴿٩﴾ يَقُولُونَ أَءِنَّا لَمَرْدُودُونَ فِى ٱلْحَافِرَةِ ﴿١٠﴾ أَءِذَا كُنَّا
عِظَٰمًا نَّخِرَةً ﴿١١﴾ قَالُوا۟ تِلْكَ إِذًا كَرَّةٌ خَاسِرَةٌ ﴿١٢﴾ فَإِنَّمَا هِىَ زَجْرَةٌ
وَٰحِدَةٌ ﴿١٣﴾ فَإِذَا هُم بِٱلسَّاهِرَةِ ﴿١٤﴾ هَلْ أَتَىٰكَ حَدِيثُ مُوسَىٰٓ ﴿١٥﴾

んでいた。われらは善行と、われらへの服従において最善を尽くした者に、このような偉大なる報奨でもって報いよう。」報いと清算の日、そこにおける享楽と懲罰を嘘とする不信仰者たちには、審判の日の破滅と厳しい懲罰がある。

46それからアッラーは不信仰者たちにこう仰られ、彼らを恐怖に陥らせる。「現世の美味を味わい、やがて消え行く欲望を楽しんでいるがよい。あなた方は本当に、アッラーに対するシルク[1]という罪を犯している。」

47清算と報いの日を嘘とする不信仰者たちには審判の日、破滅と厳しい懲罰がある。

48彼らシルク[2]の徒は、「アッラーに向かってサラー（礼拝）せよ。かれを恐れるのだ。」と言われても、恐れもしなければサラーをすることもなかった。それどころか彼らは高慢さを貫いたのだ。

49-50アッラーのみしるしを嘘とする不信仰者たちには審判の日、破滅と厳しい懲罰があるのだ。このクルアーンを信じないのなら、一体それ以外のいかなる書や言葉を信じるというのか？クルアーンこそは全てを解明し、その英知と法規定と情報において明瞭であり、その語と意味において奇跡のものであるというのに。

消息章
（アン＝ナバア章）

1-3クライシュ族の不信仰者たちは、何について尋ね合っているのか？彼らは重大な知らせ - つまり復活を予告する偉大なるクルアーンについて、尋ね合っているのだ。そしてクライシュ族の不信仰者たちはそこに疑念を抱き、それを虚偽としている。

4-5しかし事は、彼らシルク[3]の徒が思い込んでいるようにはならない。彼らシルクの徒は、彼らが嘘だとしたことの結末を思い知ることになろう。そして審判の日、アッラーの彼らに対する処分が彼らにも明らかになる。それからアッラーは彼らに対してそのことを確認し、そしてクルアーンと復活のことなど、ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が伝えたものについて更に彼らに確認する。それは、彼らの（その日の）恐怖が一層増加するためのものである

6われら（アッラー）はあなた方のために、大地を褥のように広げたではないか？

7そしてあなた方が大地に揺れ動かされないよう、大地を高く隆起させ、

8あなた方を男女に分けて創造し、

9睡眠をあなた方が安らぎ、静寂を得るところの肉体の休息とし、

10そしてあたかも衣が身を覆うように、夜をその闇でもってあなた方を包み隠す衣としたではないか？

11またわれらは昼を、あなた方がそこにおいて生計のために散開し、福利のために奔走する生活の場とし、

1　１３ページの注釈１を参照。
2　１３ページの注釈１を参照。
3　１３ページの注釈１を参照。

إِذْ نَادَاهُ رَبُّهُ بِالْوَادِ الْمُقَدَّسِ طُوًى ﴿١٦﴾ اذْهَبْ إِلَىٰ فِرْعَوْنَ إِنَّهُ طَغَىٰ ﴿١٧﴾
فَقُلْ هَل لَّكَ إِلَىٰ أَن تَزَكَّىٰ ﴿١٨﴾ وَأَهْدِيَكَ إِلَىٰ رَبِّكَ فَتَخْشَىٰ ﴿١٩﴾ فَأَرَاهُ
الْآيَةَ الْكُبْرَىٰ ﴿٢٠﴾ فَكَذَّبَ وَعَصَىٰ ﴿٢١﴾ ثُمَّ أَدْبَرَ يَسْعَىٰ ﴿٢٢﴾ فَحَشَرَ
فَنَادَىٰ ﴿٢٣﴾ فَقَالَ أَنَا رَبُّكُمُ الْأَعْلَىٰ ﴿٢٤﴾ فَأَخَذَهُ اللَّهُ نَكَالَ الْآخِرَةِ وَالْأُولَىٰ
﴿٢٥﴾ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَعِبْرَةً لِّمَن يَخْشَىٰ ﴿٢٦﴾ أَأَنتُمْ أَشَدُّ خَلْقًا أَمِ السَّمَاءُ بَنَاهَا
﴿٢٧﴾ رَفَعَ سَمْكَهَا فَسَوَّاهَا ﴿٢٨﴾ وَأَغْطَشَ لَيْلَهَا وَأَخْرَجَ ضُحَاهَا ﴿٢٩﴾
وَالْأَرْضَ بَعْدَ ذَٰلِكَ دَحَاهَا ﴿٣٠﴾ أَخْرَجَ مِنْهَا مَاءَهَا وَمَرْعَاهَا ﴿٣١﴾
وَالْجِبَالَ أَرْسَاهَا ﴿٣٢﴾ مَتَاعًا لَّكُمْ وَلِأَنْعَامِكُمْ ﴿٣٣﴾ فَإِذَا جَاءَتِ الطَّامَّةُ
الْكُبْرَىٰ ﴿٣٤﴾ يَوْمَ يَتَذَكَّرُ الْإِنسَانُ مَا سَعَىٰ ﴿٣٥﴾ وَبُرِّزَتِ الْجَحِيمُ
لِمَن يَرَىٰ ﴿٣٦﴾ فَأَمَّا مَن طَغَىٰ ﴿٣٧﴾ وَآثَرَ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا ﴿٣٨﴾ فَإِنَّ الْجَحِيمَ
هِيَ الْمَأْوَىٰ ﴿٣٩﴾ وَأَمَّا مَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِ وَنَهَى النَّفْسَ عَنِ الْهَوَىٰ
﴿٤٠﴾ فَإِنَّ الْجَنَّةَ هِيَ الْمَأْوَىٰ ﴿٤١﴾ يَسْأَلُونَكَ عَنِ السَّاعَةِ أَيَّانَ مُرْسَاهَا
﴿٤٢﴾ فِيمَ أَنتَ مِن ذِكْرَاهَا ﴿٤٣﴾ إِلَىٰ رَبِّكَ مُنتَهَاهَا ﴿٤٤﴾ إِنَّمَا أَنتَ مُنذِرُ
مَن يَخْشَاهَا ﴿٤٥﴾ كَأَنَّهُمْ يَوْمَ يَرَوْنَهَا لَمْ يَلْبَثُوا إِلَّا عَشِيَّةً أَوْ ضُحَاهَا ﴿٤٦﴾

ترتيبها ٨٠ — سُورَةُ عَبَسَ — آياتها ٤٢

12あなた方の頭上に、割れ目も裂け目もない、堅固で完璧な造りの7層の天を建て、

13太陽を灯火と眩い先導者としたではないか

14-16そしてわれらは雨雲から大雨を降らせ、それでもって人間が食する穀物と、家畜が食する牧草、そして枝々が分岐して重なり合う農園を生育させたではないか？

17-18実に被造物の間を分ける裁決の日 - 審判の日 - は、先代の者たちにも後代の者たちにも既に定められている。その日天使は復活のためにラッパを吹き、あなた方は一斉にやって来る。そして全ての共同体は、その先導者と共にある

19そして天が割れて沢山の扉が現れ、そこから天使たちが舞い降りて来る。

20それから堅固だった山々は散り散りになり、あたかも蜃気楼のようになる。

21-26その日地獄は、そのために準備されたところの不信仰の民を虎視眈々（こしたんたん）と待ち受けている。それは不信仰者たちの帰り所であり、彼らはそこに途切れることなく継続的に長い間留まる。そこには烈火の熱を冷ましてくれる食物もなければ、渇きを癒してくれる飲み物もない。あるのは熱湯と、地獄の民の膿だけである。彼らが受けるその報いは、彼らが現世で行なっていた行いに相応しい、正当な報いなのだ。

27-30彼らは清算の日を恐れず、その日のために準備していなかった。また使徒たちが携えて来たものを嘘とした。そして全ては、守られた碑版においてわれらが既に知り、かつわれらが書き留めておいたものなのである。ゆえに不信仰者たちよ、自らの行いの応報を堪能するがよい。われらはあなたに、懲罰の上に更なる懲罰を加えてやろう。

31-35しかしその主を畏れ、善行に励んでいた者たちには勝利があり、天国に入ることになる。彼らには広大な農園と葡萄園があり、皆同い年の歳若くふくよかな妻たちがいる。また満杯に注がれた酒盃があり、その楽園では無意味な言葉を耳にすることもなく、お互いに嘘を付き合うこともない。

36-39これら全ては、彼らに対するアッラーからの莫大かつ十全なる報償であり、賜物である。アッラーは天地とその間にある全てのものの主であり、現世と来世において慈悲深き御方。ジブリール（かれに平安あれ）と天使たちが隊列をなすその日、アッラーが許された者の他に、かれに尋ねる権威を有する者はいない。そして真理と正しい物言いをし、慈悲深き御方（アッラー）がそのお許しを与えられた者の他には、執り成しをすることの出来る者もいない。これこそは疑念の余地なく到来する、真理の日である。ゆえにその日の恐怖の数々からの救済を望む者には、善行をもってその主を還り所とさせるのだ。

40われらは近い日に到来する来世の懲罰について、あなた方に警告した。その日全ての者は、行った善行と犯した罪を目の当たりにすることになる。そして不信仰者は清算の恐怖ゆえに、こう言うのだ。「私が蘇らされることのない、砂埃であったらよかったのに！」

引き離すもの章
（アン＝ナーズィアート章）

1-7至高のアッラーは不信仰者たちの魂を荒々しく抜き出す天使たちと、信仰者たちの魂

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

عَبَسَ وَتَوَلَّىٰ ﴿١﴾ أَن جَاءَهُ الْأَعْمَىٰ ﴿٢﴾ وَمَا يُدْرِيكَ لَعَلَّهُ يَزَّكَّىٰ ﴿٣﴾ أَوْ
يَذَّكَّرُ فَتَنفَعَهُ الذِّكْرَىٰ ﴿٤﴾ أَمَّا مَنِ اسْتَغْنَىٰ ﴿٥﴾ فَأَنتَ لَهُ تَصَدَّىٰ ﴿٦﴾
وَمَا عَلَيْكَ أَلَّا يَزَّكَّىٰ ﴿٧﴾ وَأَمَّا مَن جَاءَكَ يَسْعَىٰ ﴿٨﴾ وَهُوَ يَخْشَىٰ ﴿٩﴾ فَأَنتَ
عَنْهُ تَلَهَّىٰ ﴿١٠﴾ كَلَّا إِنَّهَا تَذْكِرَةٌ ﴿١١﴾ فَمَن شَاءَ ذَكَرَهُ ﴿١٢﴾ فِي صُحُفٍ مُّكَرَّمَةٍ
﴿١٣﴾ مَّرْفُوعَةٍ مُّطَهَّرَةٍ ﴿١٤﴾ بِأَيْدِي سَفَرَةٍ ﴿١٥﴾ كِرَامٍ بَرَرَةٍ ﴿١٦﴾ قُتِلَ الْإِنسَانُ
مَا أَكْفَرَهُ ﴿١٧﴾ مِنْ أَيِّ شَيْءٍ خَلَقَهُ ﴿١٨﴾ مِن نُّطْفَةٍ خَلَقَهُ فَقَدَّرَهُ ﴿١٩﴾ ثُمَّ
السَّبِيلَ يَسَّرَهُ ﴿٢٠﴾ ثُمَّ أَمَاتَهُ فَأَقْبَرَهُ ﴿٢١﴾ ثُمَّ إِذَا شَاءَ أَنشَرَهُ ﴿٢٢﴾ كَلَّا لَمَّا
يَقْضِ مَا أَمَرَهُ ﴿٢٣﴾ فَلْيَنظُرِ الْإِنسَانُ إِلَىٰ طَعَامِهِ ﴿٢٤﴾ أَنَّا صَبَبْنَا الْمَاءَ صَبًّا
﴿٢٥﴾ ثُمَّ شَقَقْنَا الْأَرْضَ شَقًّا ﴿٢٦﴾ فَأَنبَتْنَا فِيهَا حَبًّا ﴿٢٧﴾ وَعِنَبًا وَقَضْبًا ﴿٢٨﴾
وَزَيْتُونًا وَنَخْلًا ﴿٢٩﴾ وَحَدَائِقَ غُلْبًا ﴿٣٠﴾ وَفَاكِهَةً وَأَبًّا ﴿٣١﴾ مَّتَاعًا لَّكُمْ
وَلِأَنْعَامِكُمْ ﴿٣٢﴾ فَإِذَا جَاءَتِ الصَّاخَّةُ ﴿٣٣﴾ يَوْمَ يَفِرُّ الْمَرْءُ مِنْ أَخِيهِ ﴿٣٤﴾
وَأُمِّهِ وَأَبِيهِ ﴿٣٥﴾ وَصَاحِبَتِهِ وَبَنِيهِ ﴿٣٦﴾ لِكُلِّ امْرِئٍ مِّنْهُمْ يَوْمَئِذٍ شَأْنٌ
يُغْنِيهِ ﴿٣٧﴾ وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ مُّسْفِرَةٌ ﴿٣٨﴾ ضَاحِكَةٌ مُّسْتَبْشِرَةٌ ﴿٣٩﴾ وَوُجُوهٌ
يَوْمَئِذٍ عَلَيْهَا غَبَرَةٌ ﴿٤٠﴾ تَرْهَقُهَا قَتَرَةٌ ﴿٤١﴾ أُولَٰئِكَ هُمُ الْكَفَرَةُ الْفَجَرَةُ ﴿٤٢﴾

を優しく速やかに引き出す天使たち、そしてアッラーを讃美しつつ天を昇降する天使たちと、アッラーのご命令に素早く応じて遂行する天使たちにおいてお誓いになられる(天使たちは宇宙の諸事の運営においてその主から委任されたことにおいて、そのご命令を遂行する存在である。尚被造物は、その創造主以外のものにおいて誓うことは許されない。というのもそれはシルク[1]を犯すことにつながるからである。)アッラーはそれらの天使たちにおいて、被造物が復活させられ、清算を受けることを誓われるのだ。その日、まず生命を奪う第一のラッパが吹かれて大地が振動し、それから生命を蘇らせる第二のラッパが吹かれる。

8-9その日不信仰者らの心は激しい恐怖ゆえに、ひどく動揺する。そしてその目は眼前の恐怖ゆえに、惨めに伏せられている。

10-12彼ら復活を嘘とする者たちは、こう言う。「死んだ後に、また元の生きていた状態で大地に戻らされるだと？我々が朽ちた骨と化した後に？我々が蘇らされるのならば、それは損失に溢れた戻りである。」

13-14しかしそれはただの一吹きなのである。そして彼らは地下に葬られた状態から、地上に蘇らされる。

15使徒よ、ムーサーの話はあなたのもとに届いたか？

16-19祝福深い清らかなる「トゥワー」の谷で、その主が彼を呼んでこう言った時、「フィルアウンのもとに赴け。彼は暴虐の限りを尽くしている。そして彼に、こう言うのだ。“あなた自身の魂を諸々の過ちから清め、そこに信仰を据え置きたくはありませんか？そうすれば私はあなたを主への服従へと導き、あなたはかれを畏れるようになることでしょう。”」

20-22そしてムーサーはフィルアウンに、偉大なみしるし - 杖と手 - を披露した。しかしフィルアウンは使徒ムーサー(彼に平安あれ)を信じず、偉大かつ荘厳であるその主に逆らった。そしてムーサーに対抗しようとして、信仰に背を向けたのだ。

23-26それで彼は王国の民を集め、彼らに呼びかけてこう言った。「我こそはあなた方の主である。我こそ至上の主なのだ。」それでアッラーは懲罰をもって、現世と来世において彼に報復された。そして彼と、彼と同様の反逆者たちを教訓と警告とされたのだ。実にフィルアウンと彼に下された懲罰は、それで自らを戒め自省する者にとっての一つの教訓なのである。

27-34人々よ、果たしてあなた方の死後の復活は、天の創造よりも大変なものだとでも思っているのか？アッラーはあなた方の頭上に、天を建造物のように高く隆起させられた。そして空の高みには、いかなる分断面も割れ目もない。またかれは日没によって夜を暗く更けさせ、日の出によって昼を明るくされた。また天の創造の後に大地を広げ、そこに諸々の有益なものを置かれた。そしてそこに水の泉を湧かせ、飼い葉となる草々を生育させ、山々を大地の支柱とされたのだ。いかなる欠点からも無縁である崇高なる御方は、あなた方とその家畜のためにこれらの恩恵の数々をお創りになられた。実にアッラーにとって、審判

1　１３ページの注釈１を参照。

の日にあなた方の創造を元通りにすることは、これらの物を創造することよりも容易いことなのである。そしてそもそも、かれにとって困難なことなど存在しないのである。

35-37二度目のラッパが吹かれる時、最大の出来事と過酷な困難が襲い掛かる。その時人間は現世で行った全ての善行と悪行を提示され、それを思い出し、かつ認知するのだ。そして視覚を有する者は皆、地獄の業火をまざまざと見せられることになる。

38-40アッラーのご命令に反抗し、来世よりも現世を尊んだ者の行き先は地獄である。

41-42清算のためにアッラーの御前に立たされることを恐れ、自らを有害な欲望から守っていた者の住む場所は、天国である。

43-47使徒よ、あなたは審判の日の到来でもってシルク[1]の徒に警告するが、彼らは嘲笑しつつその到来する時について訊ねる。しかしあなたにその知識はなく、それを知るのは偉大かつ荘厳なるアッラーのみなのである。あなたがそこにおいてすることはただ、審判の日を恐れる者を、それでもって警告するだけなのだ。審判の時を目にするその日、彼らはその日の余りの恐怖のため、現世において午後から日没まで、あるいは暁から正午までほどしか過ごさなかったと勘違いすることであろう。

ترتيبها ٨١ سورة التكوير آياتها ٢٩

بسم الله الرحمن الرحيم

إذا الشمس كورت ١ وإذا النجوم انكدرت ٢ وإذا الجبال
سيرت ٣ وإذا العشار عطلت ٤ وإذا الوحوش حشرت
٥ وإذا البحار سجرت ٦ وإذا النفوس زوجت ٧ وإذا
الموءودة سئلت ٨ بأي ذنب قتلت ٩ وإذا الصحف نشرت
١٠ وإذا السماء كشطت ١١ وإذا الجحيم سعرت ١٢ وإذا الجنة
أزلفت ١٣ علمت نفس ما أحضرت ١٤ فلا أقسم بالخنس ١٥
الجوار الكنس ١٦ والليل إذا عسعس ١٧ والصبح إذا تنفس ١٨
إنه لقول رسول كريم ١٩ ذي قوة عند ذي العرش مكين ٢٠ مطاع
ثم أمين ٢١ وما صاحبكم بمجنون ٢٢ ولقد رآه بالأفق المبين
٢٣ وما هو على الغيب بضنين ٢٤ وما هو بقول شيطان رجيم ٢٥
فأين تذهبون ٢٦ إن هو إلا ذكر للعالمين ٢٧ لمن شاء منكم أن
يستقيم ٢٨ وما تشاءون إلا أن يشاء الله رب العالمين ٢٩

ترتيبها ٨٢ سورة الانفطار آياتها ١٩

眉をひそめて章
(アバサ章)

1-2使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は顔色を変え、眉をしかめた。そして彼の指導を仰ぎにやって来た盲目の男、アブドッラー・ブン・ウンム・マクトゥームに背を向けた。その時使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は、クライシュ族の指導者たちをイスラームへ誘うことに勤しんでいたのである。

3-4一体あなたは彼の実情を知っているとでも思っているのか？もしかすると彼はその質問によって、自らを清めるかもしれないというのに。あるいは更なる訓戒と教訓を得るかもしれないというのに。

5-7そしてあなたは、あなたの導きを必要とも思っていない者へと向かい、その言葉に耳を傾けている。もしその者が不信仰から清められなかったとしても、あなたに責任はないのである。

8-16あなたは、あなたと会うことを所望し、あなたからの指導を十分に受けることが出来ないことでアッラーを恐れている者を、そっちのけにしている。使徒よ、そのようなことではならない。実にこのクルアーンの章はあなたと、自戒することを望む全ての者への教訓である。ゆえにそう望む者にはアッラーを想起させ、その啓示の実践を完遂させるがよい。この啓示こそは偉大かつ荘厳なる書に収められたクルアーンであり、いかなる穢れや過不足などからも無縁なる清浄なものである。それは全てを書き留め、アッラーと被造物の間を往復する、天使たちの手によって記録されたものである。かれらは高貴な被造物であり、

1　１３ページの注釈１を参照。

بِسْمِ اللّٰهِ الرَّحْمٰنِ الرَّحِيمِ

إِذَا السَّمَاءُ انْفَطَرَتْ ﴿١﴾ وَإِذَا الْكَوَاكِبُ انْتَثَرَتْ ﴿٢﴾ وَإِذَا الْبِحَارُ
فُجِّرَتْ ﴿٣﴾ وَإِذَا الْقُبُورُ بُعْثِرَتْ ﴿٤﴾ عَلِمَتْ نَفْسٌ مَا قَدَّمَتْ
وَأَخَّرَتْ ﴿٥﴾ يَا أَيُّهَا الْإِنْسَانُ مَا غَرَّكَ بِرَبِّكَ الْكَرِيمِ ﴿٦﴾ الَّذِي
خَلَقَكَ فَسَوَّاكَ فَعَدَلَكَ ﴿٧﴾ فِي أَيِّ صُورَةٍ مَا شَاءَ رَكَّبَكَ ﴿٨﴾
كَلَّا بَلْ تُكَذِّبُونَ بِالدِّينِ ﴿٩﴾ وَإِنَّ عَلَيْكُمْ لَحَافِظِينَ ﴿١٠﴾ كِرَامًا
كَاتِبِينَ ﴿١١﴾ يَعْلَمُونَ مَا تَفْعَلُونَ ﴿١٢﴾ إِنَّ الْأَبْرَارَ لَفِي نَعِيمٍ ﴿١٣﴾ وَإِنَّ
الْفُجَّارَ لَفِي جَحِيمٍ ﴿١٤﴾ يَصْلَوْنَهَا يَوْمَ الدِّينِ ﴿١٥﴾ وَمَا هُمْ عَنْهَا بِغَائِبِينَ
﴿١٦﴾ وَمَا أَدْرَاكَ مَا يَوْمُ الدِّينِ ﴿١٧﴾ ثُمَّ مَا أَدْرَاكَ مَا يَوْمُ الدِّينِ
﴿١٨﴾ يَوْمَ لَا تَمْلِكُ نَفْسٌ لِنَفْسٍ شَيْئًا وَالْأَمْرُ يَوْمَئِذٍ لِلَّهِ ﴿١٩﴾

ترتيبها ٨٣ — سُورَةُ الْمُطَفِّفِينَ — آياتها ٣٦

بِسْمِ اللّٰهِ الرَّحْمٰنِ الرَّحِيمِ

وَيْلٌ لِلْمُطَفِّفِينَ ﴿١﴾ الَّذِينَ إِذَا اكْتَالُوا عَلَى النَّاسِ يَسْتَوْفُونَ ﴿٢﴾
وَإِذَا كَالُوهُمْ أَوْ وَزَنُوهُمْ يُخْسِرُونَ ﴿٣﴾ أَلَا يَظُنُّ أُولَٰئِكَ أَنَّهُمْ
مَبْعُوثُونَ ﴿٤﴾ لِيَوْمٍ عَظِيمٍ ﴿٥﴾ يَوْمَ يَقُومُ النَّاسُ لِرَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٦﴾

その性質や行動において清浄かつ善良なのだ。

17-23不信仰なる人間は呪われ、罰される。その主への不信仰はいかに根強いことか！一体彼は、アッラーが最初に彼を何からお創りになられたのか知らないのか？アッラーは彼を、少量の液体 - 精液 - から創られ、その後に段階を経て形作られたのである。それから彼に善悪の道を明らかにされ、彼に死をお与えになり、それから埋葬される場所をお作りになられた。そして崇高なる御方がお望みになる時、その者には再び生が与えられ、清算と報いのために復活させられるのである。不信仰者の言ったり行ったりしていることには根拠がない。彼らは信仰や善行など、アッラーがご命じになることを望んではいないのだ。

24-32人間に熟慮させよ。アッラーがその生命の基礎である食料を、いかにお創りになられたか？いかに大地に雨を降り注がれ、そこに割れ目を作り、そこから様々な植物を芽生えさせられたか？そしてそこからあなた方とあなた方の家畜が享受する穀物や葡萄、飼い葉やオリーブ、ナツメヤシや木々の生い茂る農園、そして果実や牧草を生育させられたのか？

33-37その恐怖ゆえに聴覚が奪われる、審判の日の轟音が鳴り響く時。その日、人は余りの恐怖ゆえに兄弟や母親、父親からさえも踵を返して逃げ惑う。その日全ての者は自分のことで精一杯であり、他人のことを気にかけている余裕などない。

38-42その日、安寧の民の顔は光り輝き、喜びと幸せに溢れている。一方地獄の民の顔は暗く沈んでおり、惨めさが陰を落としている。このように描写されている者たちこそはアッラーの恩恵をないがしろにし、そのみしるしを嘘とし、その放縦さと背反によってかれの神聖さを踏みにじっていた者たちなのである。

包み隠す章
(アッ=タクウィール章)

1-14太陽が包み込まれ、その光を失う時。星々が散り散りになって、その輝きが消え去る時。山々が地面から離散し、ばらばらの埃と化す時。妊娠中のラクダがおろそかにされ、放棄される時。アッラーが野生の獣たちの間を裁いて報復を遂行させるために、それらが召集され混成させられる時。大洋に火がつけられ、それ全体が燃え上がる大火と化す時。魂が似たもの同士と組み合わされる時。生き埋めにされた女児が審判の日、「いかなる罪ゆえに彼女は埋められたのか？」と - これは彼女にとっての慰めとなり、彼女を埋めた者にとっては叱責となる - 問われる時。行いの帳簿が広げられる時。天空が取り除けられ、その場所から消える時。地獄に火がつけられ、燃え盛る時。そして享楽の世界である天国が、アッラーを畏れる民に近付く時。これらの出来事が起こる時、全ての魂は事を確信し、自らが行った善行と悪行を眼前にする。

15-21至高のアッラーはその光度において様々に異なり、昼間には星座の中に逃げ隠れる星々と、闇と共に訪れる夜、そしてその光が現れる時の朝にかけて、こうお誓いになられた。 実にクルアーンは、高貴なる御使い(ジブリールのこと。 彼に平安あれ)による伝達なのである。そしてジブリールはアッラーのご命令を遂行することにおいて強力であり、かれの御許で高い位階にあり、他の天使たちを統率する。また彼は啓示の伝達を任されてお

كَلَّآ إِنَّ كِتَٰبَ ٱلۡفُجَّارِ لَفِي سِجِّينٖ ٧ وَمَآ أَدۡرَىٰكَ مَا سِجِّينٞ ٨ كِتَٰبٞ
مَّرۡقُومٞ ٩ وَيۡلٞ يَوۡمَئِذٖ لِّلۡمُكَذِّبِينَ ١٠ ٱلَّذِينَ يُكَذِّبُونَ بِيَوۡمِ ٱلدِّينِ ١١
وَمَا يُكَذِّبُ بِهِۦٓ إِلَّا كُلُّ مُعۡتَدٍ أَثِيمٍ ١٢ إِذَا تُتۡلَىٰ عَلَيۡهِ ءَايَٰتُنَا قَالَ أَسَٰطِيرُ
ٱلۡأَوَّلِينَ ١٣ كَلَّاۖ بَلۡۜ رَانَ عَلَىٰ قُلُوبِهِم مَّا كَانُواْ يَكۡسِبُونَ ١٤ كَلَّآ إِنَّهُمۡ
عَن رَّبِّهِمۡ يَوۡمَئِذٖ لَّمَحۡجُوبُونَ ١٥ ثُمَّ إِنَّهُمۡ لَصَالُواْ ٱلۡجَحِيمِ ١٦ ثُمَّ يُقَالُ
هَٰذَا ٱلَّذِي كُنتُم بِهِۦ تُكَذِّبُونَ ١٧ كَلَّآ إِنَّ كِتَٰبَ ٱلۡأَبۡرَارِ لَفِي عِلِّيِّينَ
١٨ وَمَآ أَدۡرَىٰكَ مَا عِلِّيُّونَ ١٩ كِتَٰبٞ مَّرۡقُومٞ ٢٠ يَشۡهَدُهُ ٱلۡمُقَرَّبُونَ
٢١ إِنَّ ٱلۡأَبۡرَارَ لَفِي نَعِيمٍ ٢٢ عَلَى ٱلۡأَرَآئِكِ يَنظُرُونَ ٢٣ تَعۡرِفُ فِي
وُجُوهِهِمۡ نَضۡرَةَ ٱلنَّعِيمِ ٢٤ يُسۡقَوۡنَ مِن رَّحِيقٖ مَّخۡتُومٍ ٢٥
خِتَٰمُهُۥ مِسۡكٞۚ وَفِي ذَٰلِكَ فَلۡيَتَنَافَسِ ٱلۡمُتَنَٰفِسُونَ ٢٦ وَمِزَاجُهُۥ
مِن تَسۡنِيمٍ ٢٧ عَيۡنٗا يَشۡرَبُ بِهَا ٱلۡمُقَرَّبُونَ ٢٨ إِنَّ ٱلَّذِينَ
أَجۡرَمُواْ كَانُواْ مِنَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ يَضۡحَكُونَ ٢٩ وَإِذَا مَرُّواْ بِهِمۡ
يَتَغَامَزُونَ ٣٠ وَإِذَا ٱنقَلَبُوٓاْ إِلَىٰٓ أَهۡلِهِمُ ٱنقَلَبُواْ فَكِهِينَ ٣١
وَإِذَا رَأَوۡهُمۡ قَالُوٓاْ إِنَّ هَٰٓؤُلَآءِ لَضَآلُّونَ ٣٢ وَمَآ أُرۡسِلُواْ عَلَيۡهِمۡ
حَٰفِظِينَ ٣٣ فَٱلۡيَوۡمَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مِنَ ٱلۡكُفَّارِ يَضۡحَكُونَ ٣٤

り、それを携えて天下るのである。

22-25あなた方の知るムハンマドは、狂人などではない。本当にムハンマドは広い地平線上に、ジブリールを見たのである。彼は啓示の伝達を惜しんだりはしない。そしてこのクルアーンは、アッラーのご慈悲から放逐された呪われしシャイターンの言葉などでもない。実にそれはアッラーの御言葉であり、啓示なのである。

26-29一体これらの議論の余地のない論拠の後に、あなた方の理性がクルアーンを虚偽とするのはどういうことか？それは全人に対する、そしてあなた方の内で真理と信仰の上に堅固に立とうとする者に対する、アッラーからの訓戒以外の何ものでもないのだ。しかし全ての被造物の主であるアッラーのお望みに適わなければ、あなた方が正しい真っ直ぐな道を望むこともないし、またそうすることも出来ないのである。

裂ける章
(アル＝インフィタール章)

1-5天が割れ、その運行に支障が生じる時。そして星々が落下する時。アッラーが大洋を溢れ返し、その水を消失させてしまう時。また墓がその住人の復活によって、ひっくり返される時。全ての魂は善行であれ悪行であれ、自分の行った全ての行いを認識する。そしてそれによって報いを受けるのだ。

6-8復活を否定する人間よ、真に感謝と服従に値し、慈善に溢れた寛大なるあなたの主においてあなたを欺いたものは一体何なのか？あなたを創造し、その形を整えて申し分のないものにされ、それからあなたが任務を遂行することの出来るように、あなたを組み立てられたのはかれではないのか？かれはかれのお望みの形に、あなたを創られたのではないのか？

9-12あなた方は、イバーダ(崇拝行為)においてアッラー以外にも崇拝対象として相応しいものがあると言っているだけではなく、清算と報いの日を虚偽としている。しかしあなた方には、アッラーから勘定するよう命じられた物事を記録する、監視役の高貴な天使たちがついているのだ。あなた方のいかなる行いや秘め事も彼らの監視を免れることはなく、また彼らはあなた方の善行と悪行の全てを知っているのだ。

13アッラーと、そのしもべたちに対する義務を全うする敬虔な者たちは、(天国の)安寧の中にある。

14-16一方アッラーと、そのしもべたちに対する義務を怠る放縦者たちは、地獄の業火の中にある。彼らは報いの日、その炎を浴びるのだ。そして彼らは脱出したり、死んで楽になったりして地獄の懲罰から免れることも出来ない。

17-19清算の日の重大さをあなたに知らしめるものは何か？そして、清算の日の重大さをあなたに知らしめるものは何か？それはいかなる者も他人を益することが出来ない清算の日。そしてその日全ての物事はアッラーにのみ委ねられているのであり、かれ以外のいかなるものにも権能や威力は属せず、またいかなる反論の余地も残されてはいないのだ。

عَلَى ٱلْأَرَآئِكِ يَنظُرُونَ ﴿٣٥﴾ هَلْ ثُوِّبَ ٱلْكُفَّارُ مَا كَانُوا۟ يَفْعَلُونَ ﴿٣٦﴾

سُورَةُ الانشِقَاقِ — ترتيبها ٨٤ — آياتها ٢٥

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

إِذَا ٱلسَّمَآءُ ٱنشَقَّتْ ﴿١﴾ وَأَذِنَتْ لِرَبِّهَا وَحُقَّتْ ﴿٢﴾ وَإِذَا ٱلْأَرْضُ مُدَّتْ ﴿٣﴾ وَأَلْقَتْ مَا فِيهَا وَتَخَلَّتْ ﴿٤﴾ وَأَذِنَتْ لِرَبِّهَا وَحُقَّتْ ﴿٥﴾ يَٰٓأَيُّهَا ٱلْإِنسَٰنُ إِنَّكَ كَادِحٌ إِلَىٰ رَبِّكَ كَدْحًا فَمُلَٰقِيهِ ﴿٦﴾ فَأَمَّا مَنْ أُوتِىَ كِتَٰبَهُۥ بِيَمِينِهِۦ ﴿٧﴾ فَسَوْفَ يُحَاسَبُ حِسَابًا يَسِيرًا ﴿٨﴾ وَيَنقَلِبُ إِلَىٰٓ أَهْلِهِۦ مَسْرُورًا ﴿٩﴾ وَأَمَّا مَنْ أُوتِىَ كِتَٰبَهُۥ وَرَآءَ ظَهْرِهِۦ ﴿١٠﴾ فَسَوْفَ يَدْعُوا۟ ثُبُورًا ﴿١١﴾ وَيَصْلَىٰ سَعِيرًا ﴿١٢﴾ إِنَّهُۥ كَانَ فِىٓ أَهْلِهِۦ مَسْرُورًا ﴿١٣﴾ إِنَّهُۥ ظَنَّ أَن لَّن يَحُورَ ﴿١٤﴾ بَلَىٰٓ إِنَّ رَبَّهُۥ كَانَ بِهِۦ بَصِيرًا ﴿١٥﴾ فَلَآ أُقْسِمُ بِٱلشَّفَقِ ﴿١٦﴾ وَٱلَّيْلِ وَمَا وَسَقَ ﴿١٧﴾ وَٱلْقَمَرِ إِذَا ٱتَّسَقَ ﴿١٨﴾ لَتَرْكَبُنَّ طَبَقًا عَن طَبَقٍ ﴿١٩﴾ فَمَا لَهُمْ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿٢٠﴾ وَإِذَا قُرِئَ عَلَيْهِمُ ٱلْقُرْءَانُ لَا يَسْجُدُونَ ۩ ﴿٢١﴾ بَلِ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ يُكَذِّبُونَ ﴿٢٢﴾ وَٱللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا يُوعُونَ ﴿٢٣﴾ فَبَشِّرْهُم بِعَذَابٍ أَلِيمٍ ﴿٢٤﴾ إِلَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ لَهُمْ أَجْرٌ غَيْرُ مَمْنُونٍۭ ﴿٢٥﴾

量を減らす者章
(アル＝ムタッフィフィーン章)

1-6秤や分量をごまかす者たちには、厳しい懲罰がある。彼らは人から買う時には自分たちのためにきちんと計量させるくせに、自分たちが売る際には秤や分量を少なめに計量する。それではそれらを盗んだり、人のものを横領したりするのはいかなるものだろうか？そのようなことは、秤や分量をごまかすことよりも、もっと大きな罪であろう。一体彼ら秤をごまかす者たちは、至高のアッラーが偉大なる恐怖の日に彼らを復活させ、その行いに対する応報をお与えになられることを信じないのか？その日、人々はアッラーの御前に罷り出て、行った大小の物事に対する報いを受け、万有の主であるアッラーに服従するのである。

7-9実に放従者たちの行き先は、苦難である。一体苦難とは何であるか？それは長い拘留と、痛ましい懲罰である。そしてそれは彼らに定められていた行き先であり、既に書き留められていたことなのである。定命は新たに書き足されることもなければ、除去させられることもない。

10-17その日、報いの日を嘘とする者たちには厳しい懲罰がある。そしてそれを信じない者は皆、罪深い不正者なのである。彼はクルアーンの章句を耳にすれば、「これは昔の者たちの御伽噺　（おとぎばなし）である」などと言った。しかし彼らの主張は正しいものではない。それはアッラーの御言葉であり、かれの預言者への啓示なのである。彼らの心は彼らが犯している罪の数々により覆われ、それを信じることから阻まれているのだ。不信仰者たちの主張は誤っている。彼らは審判の日、偉大かつ荘厳なる彼らの主にお目にかかることから阻止されるのだ(この句には、信仰者が天国でその主にお目にかかることが出来るという根拠がある)。そして彼らは地獄の業火へと入れられ、その灼熱を味わう。そしてこう言われるのだ。「これこそは、あなた方が嘘としていたものの応報である。」

18-21実に善行者 - 敬虔な者 - は、天国の高い位階にある。そして使徒よ、この高い位階とは一体いかなるものであるか？善行者たちの帳簿は既に書き留められており、そこにはいかなる付加も削除もない。天上界の天使たちの内でも、アッラーに近い者たちだけがそれを目にすることが出来る。

22-28正直さと従順さの徒は、天国で享楽を味わう。彼らは褥に横たわりながらその主と、彼らのために用意された数々のよきものを眺める。あなたは彼らの顔に享楽の喜悦を認めるであろう。彼らは上等な盃に清浄な美酒を注がれるが、その余韻は麝香の香りである。これらの永遠の享楽にこそ、人々を競い合わせるがよい。またここにある飲料は、その高貴さゆえに「タスニーム」という名称で知られる、天国の泉が混ぜられた飲み物である。それはアッラーに近しい者たちが飲み、味わい楽しむために用意された泉である。

29-34罪人たちは現世において、信仰者たちを嘲笑していた。彼らが通れば蔑んで目配せをし合い、家人や仲間たちのもとに帰れば、信仰者たちのことを馬鹿にして悦に入っていた。また彼ら不信仰者は、導きに従うムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の同胞たちを見れば、こう言った。「彼らはムハンマドに追従して、大いに迷い去っている。」しかし彼ら罪悪者たちは、ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の同胞たちを監視するために遣わされたわけではない。審判の日には、ちょうど現世で不信仰者たちが信仰

سُورَةُ الْبُرُوجِ　ترتيبها ٨٥　آياتها ٢٢

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

وَالسَّمَاءِ ذَاتِ الْبُرُوجِ ﴿١﴾ وَالْيَوْمِ الْمَوْعُودِ ﴿٢﴾ وَشَاهِدٍ وَمَشْهُودٍ ﴿٣﴾ قُتِلَ أَصْحَابُ الْأُخْدُودِ ﴿٤﴾ النَّارِ ذَاتِ الْوَقُودِ ﴿٥﴾ إِذْ هُمْ عَلَيْهَا قُعُودٌ ﴿٦﴾ وَهُمْ عَلَىٰ مَا يَفْعَلُونَ بِالْمُؤْمِنِينَ شُهُودٌ ﴿٧﴾ وَمَا نَقَمُوا مِنْهُمْ إِلَّا أَنْ يُؤْمِنُوا بِاللَّهِ الْعَزِيزِ الْحَمِيدِ ﴿٨﴾ الَّذِي لَهُ مُلْكُ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ ۚ وَاللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ شَهِيدٌ ﴿٩﴾ إِنَّ الَّذِينَ فَتَنُوا الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ ثُمَّ لَمْ يَتُوبُوا فَلَهُمْ عَذَابُ جَهَنَّمَ وَلَهُمْ عَذَابُ الْحَرِيقِ ﴿١٠﴾ إِنَّ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَهُمْ جَنَّاتٌ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ ۚ ذَٰلِكَ الْفَوْزُ الْكَبِيرُ ﴿١١﴾ إِنَّ بَطْشَ رَبِّكَ لَشَدِيدٌ ﴿١٢﴾ إِنَّهُ هُوَ يُبْدِئُ وَيُعِيدُ ﴿١٣﴾ وَهُوَ الْغَفُورُ الْوَدُودُ ﴿١٤﴾ ذُو الْعَرْشِ الْمَجِيدُ ﴿١٥﴾ فَعَّالٌ لِمَا يُرِيدُ ﴿١٦﴾ هَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ الْجُنُودِ ﴿١٧﴾ فِرْعَوْنَ وَثَمُودَ ﴿١٨﴾ بَلِ الَّذِينَ كَفَرُوا فِي تَكْذِيبٍ ﴿١٩﴾ وَاللَّهُ مِنْ وَرَائِهِمْ مُحِيطٌ ﴿٢٠﴾ بَلْ هُوَ قُرْآنٌ مَجِيدٌ ﴿٢١﴾ فِي لَوْحٍ مَحْفُوظٍ ﴿٢٢﴾

سُورَةُ الطَّارِقِ　ترتيبها ٨٦　آياتها ١٧

者を笑っていたように、アッラーとその使徒を信じ、その掟に沿って行っていた者たちが彼らを笑うのである。

35-36信仰者たちは豪奢な腰掛けから、楽園においてアッラーが彼らにお与えになったご褒美と享楽を眺める。そしてその最大のものが、高貴なるアッラーの御顔を拝見することである。さて彼らがこのような恩恵を授けられている時、一体不信仰者は、彼らが現世で行っていた悪行と罪の数々に対する十分な報いを受けたであろうか？

割れる章
（アル＝インシカーク章）

1-5天が審判の日に裂け、雲で割れる時。また天がその主の命に従って割れる時。天がかれのご命令に従うことは、当然のことなのである。そしてその日大地は広げられ、山々は砕けて平坦になる。大地は地中の死体を外に放り出し、それらから解き放たれる。大地はその主の命に従ったのであり、そしてまた大地がかれのご命令に従うことは、当然のことなのである。

6人間よ、あなたはアッラーへと向かって努力する者。善いことであれ悪いことであれ、行動を行う者。やがてあなたは審判の日にアッラーとお会いするのだ。そしてかれは寛大さ、あるいは公正さかでもって、あなたの行いにお報いになられる。

7-9行いの帳簿を右手に渡される者は、主を信ずる者。彼は楽な清算を受け、天国にいる家人のもとに嬉々として還るであろう。

10-15そして行いの帳簿を背中越しに渡される者は、アッラーを信じない者。彼は破滅を願い、灼熱の地獄に入ることになる。彼は現世においては家人のもとで悦に入り、自惚れていた。そして事の結末を考えもせず、清算のために生きた状態で創造主のもとに還る羽目になるなどとは思いだにしなかったのだ。いや、アッラーはちょうど彼を創った時のように彼を元に戻し、それからその行いを裁かれよう。主は、彼が創造された日から蘇らされる日のことまで全てのことをご存知であり、ご覧になられていたのだ。

16-19至高のアッラーは日没の地平線に広がる赤い光、そして夜と、動物や虫などを集結させるもの、またその光度が頂点に達した月においてお誓いになられた。人々よ、あなた方は一滴の精液から凝血、そして肉塊へと沢山の異なる段階と状態を移り行き、それから魂を吹き込まれ、やがて死に、それからまた蘇らされて召集されるのだ。尚、被造物がアッラー以外のものにおいて誓うことは許されない。そうすればシルク[1]を犯すことになる。

20-25これらのみしるしが明らかにされた後、一体彼らをアッラーと来世の信仰から阻むものは何か？一体彼らはクルアーンが朗誦された時に、なぜアッラーに跪き、そのメッセージを受け入れないのか？実に不信仰者の特徴とは嘘と、真理への背反である。ゆえに使徒よ、彼らに伝えてやるがよい。偉大かつ荘厳なるアッラーは、彼らのために痛ましい懲罰をご用意なされたのだ。しかしアッラーとその使徒を信じ、アッラーから課せられた義務を遂行する者たちには、来世において報奨があろう。そしてその報奨は減ぜられることもなければ、途絶えることもないのだ。

1　１３ページの注釈１を参照。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

وَالسَّمَاءِ وَالطَّارِقِ ﴿١﴾ وَمَا أَدْرَاكَ مَا الطَّارِقُ ﴿٢﴾ النَّجْمُ الثَّاقِبُ ﴿٣﴾ إِنْ كُلُّ
نَفْسٍ لَمَّا عَلَيْهَا حَافِظٌ ﴿٤﴾ فَلْيَنْظُرِ الْإِنْسَانُ مِمَّ خُلِقَ ﴿٥﴾ خُلِقَ مِنْ مَاءٍ
دَافِقٍ ﴿٦﴾ يَخْرُجُ مِنْ بَيْنِ الصُّلْبِ وَالتَّرَائِبِ ﴿٧﴾ إِنَّهُ عَلَىٰ رَجْعِهِ لَقَادِرٌ ﴿٨﴾
يَوْمَ تُبْلَى السَّرَائِرُ ﴿٩﴾ فَمَا لَهُ مِنْ قُوَّةٍ وَلَا نَاصِرٍ ﴿١٠﴾ وَالسَّمَاءِ ذَاتِ الرَّجْعِ ﴿١١﴾
وَالْأَرْضِ ذَاتِ الصَّدْعِ ﴿١٢﴾ إِنَّهُ لَقَوْلٌ فَصْلٌ ﴿١٣﴾ وَمَا هُوَ بِالْهَزْلِ ﴿١٤﴾ إِنَّهُمْ
يَكِيدُونَ كَيْدًا ﴿١٥﴾ وَأَكِيدُ كَيْدًا ﴿١٦﴾ فَمَهِّلِ الْكَافِرِينَ أَمْهِلْهُمْ رُوَيْدًا ﴿١٧﴾

ترتيبها ٨٧ سُورَةُ الأَعْلَى آياتها ١٩

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

سَبِّحِ اسْمَ رَبِّكَ الْأَعْلَى ﴿١﴾ الَّذِي خَلَقَ فَسَوَّىٰ ﴿٢﴾ وَالَّذِي قَدَّرَ فَهَدَىٰ
﴿٣﴾ وَالَّذِي أَخْرَجَ الْمَرْعَىٰ ﴿٤﴾ فَجَعَلَهُ غُثَاءً أَحْوَىٰ ﴿٥﴾ سَنُقْرِئُكَ
فَلَا تَنْسَىٰ ﴿٦﴾ إِلَّا مَا شَاءَ اللَّهُ إِنَّهُ يَعْلَمُ الْجَهْرَ وَمَا يَخْفَىٰ ﴿٧﴾ وَنُيَسِّرُكَ
لِلْيُسْرَىٰ ﴿٨﴾ فَذَكِّرْ إِنْ نَفَعَتِ الذِّكْرَىٰ ﴿٩﴾ سَيَذَّكَّرُ مَنْ يَخْشَىٰ ﴿١٠﴾
وَيَتَجَنَّبُهَا الْأَشْقَى ﴿١١﴾ الَّذِي يَصْلَى النَّارَ الْكُبْرَىٰ ﴿١٢﴾ ثُمَّ لَا يَمُوتُ
فِيهَا وَلَا يَحْيَىٰ ﴿١٣﴾ قَدْ أَفْلَحَ مَنْ تَزَكَّىٰ ﴿١٤﴾ وَذَكَرَ اسْمَ رَبِّهِ فَصَلَّىٰ ﴿١٥﴾

星座章
(アル=ブルージュ章)

1-9至高のアッラーは太陽と月が移行する星座を有する天と、アッラーがその創造を召集されることをお約束された審判の日、そして証言者と証言をされる者においてお誓いになられた(崇高なるアッラーは、あらゆる被造物においてお誓いになられるが、一方被造物がアッラー以外のものにおいて誓うことは許されない。というのもアッラー以外のものにおいて誓うことは、シルク[1]だからである)。信仰者たちを罰するために、地面に大きな穴を掘った者たちに呪いあれ。彼らは信仰者たちをその中に座らせて身動きが出来ないようにした上で、燃料と共に燃え盛る火をつけた。そして彼らは、信仰者たちに対する懲罰を決行する場を見物していた。彼らがこのような厳しい罰を受けたのは、アッラーを信仰したからに他ならない。アッラーこそはいかなるものにも屈することのない、威光高き御方。そしてその御言葉と御業、属性において讃美されるべき御方であり、天地の主権を有される御方。崇高なるかれは全てをご覧になられる御方であり、いかなるものもかれから免れることはない。

10男女の信仰者をアッラーの宗教から背けようとして火で焼き殺し、悔悟することもなかった者には、来世において地獄の懲罰がある。彼らには全てを焼き尽くす、厳しい懲罰が待ち受けているのだ。

11アッラーとその使徒を信じ、善行に励む者には、宮殿の下を河川の流れる天国がある。それこそは偉大なる勝利なのだ。

12-16あなたの主の、その敵に対する報復と懲罰はこの上なく厳しいものである。かれこそは創造を始め、そしてそれを繰り返される御方。また悔悟する者に対してお赦し深く、その支持者に対しては慈愛深き御方。そしてその超越性と高貴さにおいて並ぶもののない、賞賛すべき玉座の主。かれはかれのお望みになることを行われ、それを阻むいかなるものも存在しない。

17-22使徒よ、フィルアウンやサムードなど、彼らの使徒を嘘つき呼ばわりした不信仰の民の話は届いたか?そして彼らを襲った懲罰の話は?人々はそのことから教訓を得てはいない。それどころか不信仰者たちは彼ら以前の者たちが歩んだのと同じように、嘘つき呼ばわりをし続けている。しかしアッラーは彼らをその御知識とご威力でもって八方塞がりにされているのであり、彼らの全ての行いをご存知なのである。クルアーンは彼ら不信仰のシルク[2] の徒が主張しているように、詩や魔術なのではない。実にそれは守られた碑版に収められた、偉大かつ高貴なクルアーンなのである。そしてそれは、いかなる改変や捏造をも被ることがないのだ。

夜訪れるもの章
(アッ=ターリク章)

1-4崇高なるアッラーは天と、夜に訪れる星においてお誓いになられた。そしてこの星の偉大

1　１３ページの注釈１を参照。
2　１３ページの注釈１を参照。

さを知らしめるものは何か？それは煌々と眩しく輝く星である。全ての魂には、その行いを記録する監視役の天使が任命されている。そしてその行いによって、審判の日に清算を受けるのである。

5-8復活を否定する人間に、一体彼が何から創造されたかを考えさせよ。そうすれば人間の創造の再生が、彼の最初の創造よりも容易いことであることが分かるであろう。人間は子宮に素早く注がれた精液から創られたのであり、そしてその精液は男性の後背部と女性の胸部から抽出されたものである。この液体から人間をお創りになられた御方は、その死後にそこに生命を戻すこともお出来になられるのだ。

9-10その日隠された秘密が暴かれ、善良な魂と悪質なそれとが識別される。人間には自らを守る力もなく、彼をアッラーの懲罰から守ってくれる援助者もない。

11-14降っては止む雨をもたらす天にかけて。そしてそこから植物が芽吹く、割れ目を有した大地にかけて。実にクルアーンは真理と虚妄とを識別する御言葉であり、戯言などではないのだ。そして被造物がアッラー以外のものにおいて誓うことは許されない。そうすればシルク[1]を犯すことになるからである。

بَلْ تُؤْثِرُونَ ٱلْحَيَوٰةَ ٱلدُّنْيَا ﴿١٦﴾ وَٱلْـَٔاخِرَةُ خَيْرٌ وَأَبْقَىٰٓ ﴿١٧﴾ إِنَّ هَٰذَا لَفِى ٱلصُّحُفِ ٱلْأُولَىٰ ﴿١٨﴾ صُحُفِ إِبْرَٰهِيمَ وَمُوسَىٰ ﴿١٩﴾

سُورَةُ الغَاشِيَةِ — ترتيبها ٨٨ — آياتها ٢٦

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

هَلْ أَتَىٰكَ حَدِيثُ ٱلْغَٰشِيَةِ ﴿١﴾ وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ خَٰشِعَةٌ ﴿٢﴾ عَامِلَةٌ نَّاصِبَةٌ ﴿٣﴾ تَصْلَىٰ نَارًا حَامِيَةً ﴿٤﴾ تُسْقَىٰ مِنْ عَيْنٍ ءَانِيَةٍ ﴿٥﴾ لَّيْسَ لَهُمْ طَعَامٌ إِلَّا مِن ضَرِيعٍ ﴿٦﴾ لَّا يُسْمِنُ وَلَا يُغْنِى مِن جُوعٍ ﴿٧﴾ وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ نَّاعِمَةٌ ﴿٨﴾ لِّسَعْيِهَا رَاضِيَةٌ ﴿٩﴾ فِى جَنَّةٍ عَالِيَةٍ ﴿١٠﴾ لَّا تَسْمَعُ فِيهَا لَٰغِيَةً ﴿١١﴾ فِيهَا عَيْنٌ جَارِيَةٌ ﴿١٢﴾ فِيهَا سُرُرٌ مَّرْفُوعَةٌ ﴿١٣﴾ وَأَكْوَابٌ مَّوْضُوعَةٌ ﴿١٤﴾ وَنَمَارِقُ مَصْفُوفَةٌ ﴿١٥﴾ وَزَرَابِىُّ مَبْثُوثَةٌ ﴿١٦﴾ أَفَلَا يَنظُرُونَ إِلَى ٱلْإِبِلِ كَيْفَ خُلِقَتْ ﴿١٧﴾ وَإِلَى ٱلسَّمَآءِ كَيْفَ رُفِعَتْ ﴿١٨﴾ وَإِلَى ٱلْجِبَالِ كَيْفَ نُصِبَتْ ﴿١٩﴾ وَإِلَى ٱلْأَرْضِ كَيْفَ سُطِحَتْ ﴿٢٠﴾ فَذَكِّرْ إِنَّمَآ أَنتَ مُذَكِّرٌ ﴿٢١﴾ لَّسْتَ عَلَيْهِم بِمُصَيْطِرٍ ﴿٢٢﴾ إِلَّا مَن تَوَلَّىٰ وَكَفَرَ ﴿٢٣﴾ فَيُعَذِّبُهُ ٱللَّهُ ٱلْعَذَابَ ٱلْأَكْبَرَ ﴿٢٤﴾ إِنَّ إِلَيْنَآ إِيَابَهُمْ ﴿٢٥﴾ ثُمَّ إِنَّ عَلَيْنَا حِسَابَهُم ﴿٢٦﴾

15-17使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)とクルアーンを虚偽とする者たちは、真理を阻止して虚妄を掲げるために姦計と策略を講じる。しかしわれ(アッラー)は例え不信仰者たちがそれを忌々しく思おうとも、真理を勝利させるために偉大な策略を用意している。ゆえに使徒よ、彼らに懲罰が下ることを急ぐのではない。今しばし彼らに猶予を与え、性急になるのではないのだ。あなたはやがて、懲罰と応報と破滅が彼らを襲うのを目にするであろうから。

至高者章
(アル＝アアラー章)

1-5至高なるあなたの主の御名を、シルク [2]や不完全性から無縁な崇高なものとして、その偉大さに相応しい形で讃美せよ。かれは被造物を創造され、その創造を完全なものとし、最善の形にされた御方。また全ての定めをお定めになり、全ての被造物をそれに相応しいものへとお導きになられた御方。そして緑の牧草を養育され、その後にそれを枯れて変わり果てた藁屑にされる御方。

6-7使徒よ、われ(アッラーのこと)はあなたにこのクルアーンを朗誦させ、それを忘れないようにさせよう。但しアッラーのみがご存知になる福利ゆえに、それを使徒に忘れさせることがかれの英知に適う場合は、かれがそうお望みになればそうなるであろう。実に崇高なるかれはあらゆる言動をご存知になられ、何もかれの御知識識を免れるものはない。

8全ての物事において、われらはあなたの便宜を取り計らってやろう。その一つが、あなたがメッセージの伝達を担うことにおける苦難の軽減と、あなたの宗教を困難のない易しいものとすることである。

1　１３ページの注釈１を参照。
2　１３ページの注釈１を参照。

ترتيبها ٨٩ — سُورَةُ الفَجْرِ — آياتها ٣٠

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

وَالْفَجْرِ ﴿١﴾ وَلَيَالٍ عَشْرٍ ﴿٢﴾ وَالشَّفْعِ وَالْوَتْرِ ﴿٣﴾ وَاللَّيْلِ إِذَا يَسْرِ
﴿٤﴾ هَلْ فِي ذَٰلِكَ قَسَمٌ لِّذِي حِجْرٍ ﴿٥﴾ أَلَمْ تَرَ كَيْفَ فَعَلَ رَبُّكَ بِعَادٍ
﴿٦﴾ إِرَمَ ذَاتِ الْعِمَادِ ﴿٧﴾ الَّتِي لَمْ يُخْلَقْ مِثْلُهَا فِي الْبِلَادِ ﴿٨﴾
وَثَمُودَ الَّذِينَ جَابُوا الصَّخْرَ بِالْوَادِ ﴿٩﴾ وَفِرْعَوْنَ ذِي الْأَوْتَادِ ﴿١٠﴾
الَّذِينَ طَغَوْا فِي الْبِلَادِ ﴿١١﴾ فَأَكْثَرُوا فِيهَا الْفَسَادَ ﴿١٢﴾ فَصَبَّ
عَلَيْهِمْ رَبُّكَ سَوْطَ عَذَابٍ ﴿١٣﴾ إِنَّ رَبَّكَ لَبِالْمِرْصَادِ ﴿١٤﴾ فَأَمَّا
الْإِنسَانُ إِذَا مَا ابْتَلَاهُ رَبُّهُ فَأَكْرَمَهُ وَنَعَّمَهُ فَيَقُولُ رَبِّي أَكْرَمَنِ
﴿١٥﴾ وَأَمَّا إِذَا مَا ابْتَلَاهُ فَقَدَرَ عَلَيْهِ رِزْقَهُ فَيَقُولُ رَبِّي أَهَانَنِ ﴿١٦﴾
كَلَّا بَل لَّا تُكْرِمُونَ الْيَتِيمَ ﴿١٧﴾ وَلَا تَحَاضُّونَ عَلَىٰ طَعَامِ
الْمِسْكِينِ ﴿١٨﴾ وَتَأْكُلُونَ التُّرَاثَ أَكْلًا لَّمًّا ﴿١٩﴾
وَتُحِبُّونَ الْمَالَ حُبًّا جَمًّا ﴿٢٠﴾ كَلَّا إِذَا دُكَّتِ الْأَرْضُ دَكًّا
دَكًّا ﴿٢١﴾ وَجَاءَ رَبُّكَ وَالْمَلَكُ صَفًّا صَفًّا ﴿٢٢﴾ وَجِيءَ يَوْمَئِذٍ
بِجَهَنَّمَ يَوْمَئِذٍ يَتَذَكَّرُ الْإِنسَانُ وَأَنَّىٰ لَهُ الذِّكْرَىٰ ﴿٢٣﴾

9ゆえに使徒よ、われらがあなたに容易にしてやった範囲において、あなたに啓示されたものでもってあなたの民に訓戒を与えるのだ。そして彼らの幸福がある所へと、彼らを導け。また教訓の受容が望まれる者に、訓戒を施すのだ。戒めても横柄さと背反でしか応じないような者に訓戒を与えることで、取り越し苦労をするのではない。

10-13主を畏れる者は教訓を得、主を畏れない不幸な者は訓戒を遠のける。そのような者はおぞましい地獄の業火に入れられ、その灼熱を味わうことになる。そしてそこでは死んで楽になることもなければ、有益なる生を生きることもない。

14-15アッラーのご満悦を望み、その法に則した形で自らを悪徳から清め、アッラーを想念し、かれのみを崇め、祈り、かれのお悦びに適う形で行動し、サラー(礼拝)を時間通りに遂行する者は勝利者である。

16人々よ、あなた方は来世の享楽よりも現世の虚飾を好んでいる。

17永遠の享楽が属する来世こそは、現世よりもよきものであり、永劫に続くものである。

18-19この章であなた方に告げたものは、クルアーン以前に下った啓典 - イブラーヒームとムーサーの啓典 - にその意味を確認することの出来るものである。

圧倒的事態章
(アル＝ガーシヤ章)

1使徒よ、人々をその恐怖で包み込む審判の日の知らせは届いたか？

2-7その日、不信仰者たちの顔は懲罰で無残なものとなり、苦役で疲弊する。また燃え盛る炎が顔を焼き、煮えたぎる熱湯の泉から飲まされる。地獄の徒には、棘で覆われた地を這う植物の他、食べる物はない。それはこの上なく粗悪な食べ物であり、それを食する者の痩せ衰えた体を太らせることもなければ、その飢えと疲労を癒してくれることもない。

8-16審判の日、信仰者たちの顔は祝福に溢れている。それは彼らが現世で服従行為に努力していたからであり、ゆえに来世においてその顔は歓喜に満ち溢れている。また彼らは天国において高い位階と地位を授けられ、そこでは無益な言葉を耳にすることもない。そこには水がほとばしる泉や高い臥所、それを飲む者のために用意された盃、互いに隣接して並び合う枕や、敷き詰められた沢山の絨毯がある。

17-20嘘つきの不信仰者たちは、ラクダという驚くべき被造物がいかに創造されたのかを考えないのか？また天が、いかに壮大な形で高く上昇させられたかを？また山々がいかに隆起させられ、それでもって大地に安定と堅固さがもたらされたかを？そして大地がいかに広げられ、平坦にされたかを？

21-22ゆえに使徒よ、あなたが携えて遣わされたものに背を向ける者たちに、訓戒を与えるのだ。そして彼らの背反を悲しむのではない。あなたは彼らへの訓戒者に過ぎず、あなたが彼らに信仰を強制する権利などはないのだから。

23-24しかし訓戒と教訓に背を向け、不信仰に固執する輩は別である。アッラーは彼らを地獄の厳しい懲罰でもって罰されるのだ。

يَقُولُ يَٰلَيْتَنِى قَدَّمْتُ لِحَيَاتِى ﴿٢٤﴾ فَيَوْمَئِذٍ لَّا يُعَذِّبُ عَذَابَهُۥٓ أَحَدٌ ﴿٢٥﴾
وَلَا يُوثِقُ وَثَاقَهُۥٓ أَحَدٌ ﴿٢٦﴾ يَٰٓأَيَّتُهَا ٱلنَّفْسُ ٱلْمُطْمَئِنَّةُ ﴿٢٧﴾ ٱرْجِعِىٓ
إِلَىٰ رَبِّكِ رَاضِيَةً مَّرْضِيَّةً ﴿٢٨﴾ فَٱدْخُلِى فِى عِبَٰدِى ﴿٢٩﴾ وَٱدْخُلِى جَنَّتِى ﴿٣٠﴾

سُورَةُ البَلَدِ

ترتيبها ٩٠ — آياتها ٢٠

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

لَآ أُقْسِمُ بِهَٰذَا ٱلْبَلَدِ ﴿١﴾ وَأَنتَ حِلٌّۢ بِهَٰذَا ٱلْبَلَدِ ﴿٢﴾ وَوَالِدٍ وَمَا وَلَدَ
﴿٣﴾ لَقَدْ خَلَقْنَا ٱلْإِنسَٰنَ فِى كَبَدٍ ﴿٤﴾ أَيَحْسَبُ أَن لَّن يَقْدِرَ عَلَيْهِ
أَحَدٌ ﴿٥﴾ يَقُولُ أَهْلَكْتُ مَالًا لُّبَدًا ﴿٦﴾ أَيَحْسَبُ أَن لَّمْ يَرَهُۥٓ أَحَدٌ
﴿٧﴾ أَلَمْ نَجْعَل لَّهُۥ عَيْنَيْنِ ﴿٨﴾ وَلِسَانًا وَشَفَتَيْنِ ﴿٩﴾ وَهَدَيْنَٰهُ
ٱلنَّجْدَيْنِ ﴿١٠﴾ فَلَا ٱقْتَحَمَ ٱلْعَقَبَةَ ﴿١١﴾ وَمَآ أَدْرَىٰكَ مَا ٱلْعَقَبَةُ ﴿١٢﴾
فَكُّ رَقَبَةٍ ﴿١٣﴾ أَوْ إِطْعَٰمٌ فِى يَوْمٍ ذِى مَسْغَبَةٍ ﴿١٤﴾ يَتِيمًا ذَا مَقْرَبَةٍ
﴿١٥﴾ أَوْ مِسْكِينًا ذَا مَتْرَبَةٍ ﴿١٦﴾ ثُمَّ كَانَ مِنَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَتَوَاصَوْا۟
بِٱلصَّبْرِ وَتَوَاصَوْا۟ بِٱلْمَرْحَمَةِ ﴿١٧﴾ أُو۟لَٰٓئِكَ أَصْحَٰبُ ٱلْمَيْمَنَةِ ﴿١٨﴾ وَٱلَّذِينَ
كَفَرُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَا هُمْ أَصْحَٰبُ ٱلْمَشْـَٔمَةِ ﴿١٩﴾ عَلَيْهِمْ نَارٌ مُّؤْصَدَةٌۢ ﴿٢٠﴾

سُورَةُ الشَّمْسِ

ترتيبها ٩١ — آياتها ١٥

25-26彼らの死後の還り所は、われらの御許に他ならない。そしてわれらこそが、彼らの行いに応報を与えるのである。

暁章
(アル＝ファジュル章)

1-5崇高なるアッラーは黎明の時刻と、ズルヒッジャ月(ヒジュラ暦12月)最初の10日間とその栄光、また全ての偶数と奇数からなるもの、そして闇と共に訪れる夜においてお誓いになられた。これらの誓いの中には、理知を備える者にとっての十分なる証拠があるのではないか？

6-8使徒よ、あなたはあなたの主がイラム[1]の部族であり、大きな権勢と支柱に支えられた高い建造物を誇っていたアードの民をいかにされたのかを見なかったのか？そのような巨大さと強力な勢力を備えたものは、かつていかなる国にも存在しなかったのだ。

9また、かれがサーリフの民であるサムードをいかにされたかを？彼らは渓谷の岩をくり貫き、そこを住居としていた。

10また、エジプトの王フィルアウンをいかにされたかを？彼はその王国を支え、彼の権勢を強力なものとした軍勢の長であった。

11-14彼ら暴虐の限りを尽くし、アッラーの地において不正を極め、その不正と抑圧により腐敗を蔓延させたこれらの者たちには、あなたの主から厳しい懲罰が降り注いだ。使徒よ、あなたの主はかれに反逆する者の一挙一動を監視しておられる。かれはそのような者に幾ばくかの猶予を与えられた後、この上ない強力さでもって懲罰にかけられるのだ。

15人間というものは、その主から恩恵という試練にかけられ、生活の糧が豊かなものとなり、その暮らしがこの上ない安楽に満ちたものとなると、それを主の御許での彼自身の栄誉ゆえであると勘違いする。そして、こう言うのだ。「わが主は私に栄誉をお授け下さった。」

16しかし試練にかけられて生活が窮乏すると、それを主からの彼に対する辱めであると勘違いする。そして、こう言うのだ。「わが主は私をお辱めになられた。」

17-20しかし事はこの人間の考える通りではない。栄誉はアッラーへの服従によるものであり、屈辱とはかれに対する不服従から来るものなのである。あなた方は孤児に慈善を施さず、彼らとよい接し方もしない。また互いに勧め合って、恵まれない者に食事を与えることもしない。それどころかあなた方は他人の遺産をひどく貪り、財産を何よりも愛している。

21-23あなた方はこのようであってはならない。大地が振動し、互いにぶつかり合って崩壊する時。そしてあなたの主が、被造物の間に裁決を下すために到来し、天使たちが隊列を作って出現する時。その偉大なる日、地獄は現れる。その日不信仰者は思い直し、悔悟するが、いかに彼の改悛と悔悟が彼を益するであろうか？彼は現世においてその節度を超え、その期限を逃してしまったのだから。

24彼は言う。「ああ、現世において、前もって私の来世を益する行いをしていたなら！」

25-26その深刻な日、アッラーはかれに反抗した者を、いかなる者にもそうするのが不可能な

1　南アラビアにおけるアードの都。それは、高い建築を誇っていた。また、ある学者はアードの祖先の名前としている。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ
وَالشَّمْسِ وَضُحَاهَا ﴿١﴾ وَالْقَمَرِ إِذَا تَلَاهَا ﴿٢﴾ وَالنَّهَارِ إِذَا جَلَّاهَا ﴿٣﴾
وَاللَّيْلِ إِذَا يَغْشَاهَا ﴿٤﴾ وَالسَّمَاءِ وَمَا بَنَاهَا ﴿٥﴾ وَالْأَرْضِ وَمَا طَحَاهَا
﴿٦﴾ وَنَفْسٍ وَمَا سَوَّاهَا ﴿٧﴾ فَأَلْهَمَهَا فُجُورَهَا وَتَقْوَاهَا ﴿٨﴾ قَدْ
أَفْلَحَ مَنْ زَكَّاهَا ﴿٩﴾ وَقَدْ خَابَ مَنْ دَسَّاهَا ﴿١٠﴾ كَذَّبَتْ ثَمُودُ
بِطَغْوَاهَا ﴿١١﴾ إِذِ انْبَعَثَ أَشْقَاهَا ﴿١٢﴾ فَقَالَ لَهُمْ رَسُولُ اللَّهِ
نَاقَةَ اللَّهِ وَسُقْيَاهَا ﴿١٣﴾ فَكَذَّبُوهُ فَعَقَرُوهَا فَدَمْدَمَ
عَلَيْهِمْ رَبُّهُمْ بِذَنْبِهِمْ فَسَوَّاهَا ﴿١٤﴾ وَلَا يَخَافُ عُقْبَاهَا ﴿١٥﴾

ترتيبها ٩٢ سُورَةُ اللَّيْلِ آياتها ٢١

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ
وَاللَّيْلِ إِذَا يَغْشَىٰ ﴿١﴾ وَالنَّهَارِ إِذَا تَجَلَّىٰ ﴿٢﴾ وَمَا خَلَقَ الذَّكَرَ وَالْأُنْثَىٰ ﴿٣﴾
إِنَّ سَعْيَكُمْ لَشَتَّىٰ ﴿٤﴾ فَأَمَّا مَنْ أَعْطَىٰ وَاتَّقَىٰ ﴿٥﴾ وَصَدَّقَ بِالْحُسْنَىٰ ﴿٦﴾
فَسَنُيَسِّرُهُ لِلْيُسْرَىٰ ﴿٧﴾ وَأَمَّا مَنْ بَخِلَ وَاسْتَغْنَىٰ ﴿٨﴾ وَكَذَّبَ بِالْحُسْنَىٰ
﴿٩﴾ فَسَنُيَسِّرُهُ لِلْعُسْرَىٰ ﴿١٠﴾ وَمَا يُغْنِي عَنْهُ مَالُهُ إِذَا تَرَدَّىٰ ﴿١١﴾ إِنَّ عَلَيْنَا
لَلْهُدَىٰ ﴿١٢﴾ وَإِنَّ لَنَا لَلْآخِرَةَ وَالْأُولَىٰ ﴿١٣﴾ فَأَنْذَرْتُكُمْ نَارًا تَلَظَّىٰ ﴿١٤﴾

ほどの強烈な懲罰でもって罰される。またいかなる者もそうするのが不可能なほどの厳しい縛り方でもって、縛り上げられる。

27-28アッラーの想念とかれへの信仰、そしてかれが信仰者に準備された享楽の数々に平安を覚える魂よ。あなたの主の御許に還り、かれの恩寵に喜ぶのだ。崇高なるアッラーご自身、あなたにご満悦されている。清廉なるアッラーのしもべの中に入れ。そして彼らと共に、天国に入るのだ。

町章
(アル＝バラド章)

1-4アッラーはこの聖なる町マッカにかけて、お誓いになられた。そして使徒よ、あなたはこの聖なる町に居住する者である。またかれは人類の祖アーダム(彼に平安あれ)と、彼の子孫にかけてお誓いになられた。われら(アッラーのこと)は人間を、現世との奮闘という辛苦と労苦の中に創造したのだ。

5人は集めた財産によって、アッラーから身を守ることが出来るとでも思っているのか？

6-7彼は自惚れてこう言う。「私は多くの財を浪費した。」一体彼はその行為を、偉大かつ荘厳なるアッラーがご覧になられないとでも思っているのか？そしてかれが事の大小を問わず、行った行為に報いを与えられるということを？

8-10われらは彼に、見るための2つの眼を授けたではないか？そして話すための舌と2枚の唇を？またわれらは彼に、善と悪の道を明らかにしたではないか？

11それなのに、財の施しをもって、自らを救うべく来世の苦難を乗り越えようとしないのか？

12そして来世の苦難とは何か？またそれを乗り越える手段とは？

13信仰者の奴隷を、その不自由な身分から解放することである。

14-16あるいはひどい飢餓の日に、近親の孤児に食べ物を施すこと。そうすれば慈善行為と親戚縁者への善行という2つの功徳を得ることになろう。また、何一つ所有しない貧者に食べ物を施すこと。

17そして言及された善行の他に、アッラーへの信仰を純粋なものとする者となること。またかれへの服従と、かれへの不服従を抑止することにおいて、お互いに忍耐を勧め合うこと。また慈悲と高徳を勧め合うこと。

18これらの物事を行う者たちこそは、右手の徒である。つまり審判の日に右側へと導かれ、天国に入る者たちである。

19一方クルアーンを信じない者たちは、審判の日に左側へと導かれ、地獄に入る。

20彼らの応報は、封鎖されて脱出不可能な地獄の業火である。

太陽章
(アッ＝シャムス章)

1-10アッラーは太陽と、その昼、そして午前の輝きにおいてお誓いになられた。またその昇降において太陽を追う月と、闇を明るみに出す昼、そして大地を覆いつつ闇で満たす夜と、天と

その完璧なる構築、また大地とその平坦さにおいてお誓いになられた。また全ての魂と、その任務を遂行するためにアッラーがその創造を完全なものとされたことにおいてお誓いになられた。かれは魂に悪の道と善の道を明らかにされたのだ。それでそれを清め、善でもって養育する者は成功者である。そしてそれをアッラーへの不服従でもって包み込んでしまう者は、損失者である。

11-15サムードの民は反逆の限りを尽くして、彼らに遣わされた預言者を嘘つき呼ばわりした。そして部族の中でも最も不幸な者が雌ラクダを屠るために立ち上がった時、アッラーの使徒サーリフ(彼に平安あれ)はこう言ったのだ。「その雌ラクダに悪さをしないように。それはアッラーがあなた方に遣わされた、あなた方の預言者の正しさを証明する、かれのみしるしなのである。その雌らくだに水をやることにおいて、違反してはならない。雌らくだとあなた方に、一日おきに交互に水を汲むのだ。」しかし彼らはそうすることに辛抱出来ず、サーリフの警告を嘘として、雌らくだを屠ってしまった。それで彼らの主はその罪悪ゆえに彼らに懲罰を下し、彼らを一人残らず全滅させてしまった。威力あらたかなるアッラーは、かれが彼らに下した厳しい懲罰の結果のことなど、全く意にも介されないのだ。

لَا يَصْلَىٰهَآ إِلَّا ٱلْأَشْقَى ﴿١٥﴾ ٱلَّذِى كَذَّبَ وَتَوَلَّىٰ ﴿١٦﴾ وَسَيُجَنَّبُهَا ٱلْأَتْقَى ﴿١٧﴾ ٱلَّذِى يُؤْتِى مَالَهُۥ يَتَزَكَّىٰ ﴿١٨﴾ وَمَا لِأَحَدٍ عِندَهُۥ مِن نِّعْمَةٍ تُجْزَىٰٓ ﴿١٩﴾ إِلَّا ٱبْتِغَآءَ وَجْهِ رَبِّهِ ٱلْأَعْلَىٰ ﴿٢٠﴾ وَلَسَوْفَ يَرْضَىٰ ﴿٢١﴾

سُورَةُ الضُّحَىٰ　ترتيبها ٩٣　آياتها ١١

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

وَٱلضُّحَىٰ ﴿١﴾ وَٱلَّيْلِ إِذَا سَجَىٰ ﴿٢﴾ مَا وَدَّعَكَ رَبُّكَ وَمَا قَلَىٰ ﴿٣﴾ وَلَلْءَاخِرَةُ خَيْرٌ لَّكَ مِنَ ٱلْأُولَىٰ ﴿٤﴾ وَلَسَوْفَ يُعْطِيكَ رَبُّكَ فَتَرْضَىٰٓ ﴿٥﴾ أَلَمْ يَجِدْكَ يَتِيمًا فَـَٔاوَىٰ ﴿٦﴾ وَوَجَدَكَ ضَآلًّا فَهَدَىٰ ﴿٧﴾ وَوَجَدَكَ عَآئِلًا فَأَغْنَىٰ ﴿٨﴾ فَأَمَّا ٱلْيَتِيمَ فَلَا تَقْهَرْ ﴿٩﴾ وَأَمَّا ٱلسَّآئِلَ فَلَا تَنْهَرْ ﴿١٠﴾ وَأَمَّا بِنِعْمَةِ رَبِّكَ فَحَدِّثْ ﴿١١﴾

سُورَةُ الشَّرْحِ　ترتيبها ٩٤　آياتها ٨

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

أَلَمْ نَشْرَحْ لَكَ صَدْرَكَ ﴿١﴾ وَوَضَعْنَا عَنكَ وِزْرَكَ ﴿٢﴾ ٱلَّذِىٓ أَنقَضَ ظَهْرَكَ ﴿٣﴾ وَرَفَعْنَا لَكَ ذِكْرَكَ ﴿٤﴾ فَإِنَّ مَعَ ٱلْعُسْرِ يُسْرًا ﴿٥﴾ إِنَّ مَعَ ٱلْعُسْرِ يُسْرًا ﴿٦﴾ فَإِذَا فَرَغْتَ فَٱنصَبْ ﴿٧﴾ وَإِلَىٰ رَبِّكَ فَٱرْغَب ﴿٨﴾

夜章
(アッ=ライル章)

1-4崇高なるアッラーは、大地とその上にあるものを闇で包み込む夜と、その光でもって夜の闇を明るみに出す昼、そして男女の創造においてお誓いになられた。あなた方の行いは、現世のために行う者と来世のために行う者の間で、異なっている。

5-7財を費やし、そこにおいてアッラーを畏れ、かつ「ラー・イラーハ・イッラッラー(アッラーの他に真に崇拝すべきものはなし:イスラームの信仰証言の前半部分)」とその意味、及びその報奨を信じる者は、われ(アッラーのこと)が善と正しさの要因へと導き、そこにおいて成功させ、かつその諸事を容易にしてやろう。

8-11しかし財を吝嗇し、主の報奨を必要ともせず、「ラー・イラーハ・イッラッラー」を嘘とする者には、われらが不幸の要因を容易なものとしてやろう。そして彼が地獄に落ちる時、吝嗇していた財産は彼を益することがないのである。

12-13われらにはわが恩寵と英知でもって、迷妄の道を避け、われらと天国へと至る導きの道を明らかにする役目がある。そしてわれらにこそ来世と現世の主権は属するのだ。

14人々よ、われ(アッラーのこと)は燃え上がる炎をあなた方に警告した。それはつまり地獄の業火のことである。

15-16そこに入るのはアッラーの預言者であるムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)を嘘つきとし、アッラーとその使徒への信仰と服従に背を向けた、不幸極まる者のみ。

17-21しかし、更なる善を求めて財産を施す敬神の念強き者は、そこから救い出される。そして彼の施しは、何らかのよい見返りを見越してのものなどではなく、至高の主の御顔とご満悦を望んでのものなのである。アッラーは天国において、彼に彼の満足に適うものをお授け

سُورَةُ التِّينِ　ترتيبها ٩٥　آياتها ٨

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

وَالتِّينِ وَالزَّيْتُونِ ﴿١﴾ وَطُورِ سِينِينَ ﴿٢﴾ وَهَٰذَا الْبَلَدِ الْأَمِينِ ﴿٣﴾
لَقَدْ خَلَقْنَا الْإِنسَانَ فِي أَحْسَنِ تَقْوِيمٍ ﴿٤﴾ ثُمَّ رَدَدْنَاهُ أَسْفَلَ سَافِلِينَ
﴿٥﴾ إِلَّا الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فَلَهُمْ أَجْرٌ غَيْرُ مَمْنُونٍ ﴿٦﴾
فَمَا يُكَذِّبُكَ بَعْدُ بِالدِّينِ ﴿٧﴾ أَلَيْسَ اللَّهُ بِأَحْكَمِ الْحَاكِمِينَ ﴿٨﴾

سُورَةُ الْعَلَقِ　ترتيبها ٩٦　آياتها ١٩

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

اقْرَأْ بِاسْمِ رَبِّكَ الَّذِي خَلَقَ ﴿١﴾ خَلَقَ الْإِنسَانَ مِنْ عَلَقٍ ﴿٢﴾ اقْرَأْ وَرَبُّكَ
الْأَكْرَمُ ﴿٣﴾ الَّذِي عَلَّمَ بِالْقَلَمِ ﴿٤﴾ عَلَّمَ الْإِنسَانَ مَا لَمْ يَعْلَمْ ﴿٥﴾ كَلَّا إِنَّ
الْإِنسَانَ لَيَطْغَىٰ ﴿٦﴾ أَن رَّآهُ اسْتَغْنَىٰ ﴿٧﴾ إِنَّ إِلَىٰ رَبِّكَ الرُّجْعَىٰ ﴿٨﴾ أَرَأَيْتَ
الَّذِي يَنْهَىٰ ﴿٩﴾ عَبْدًا إِذَا صَلَّىٰ ﴿١٠﴾ أَرَأَيْتَ إِن كَانَ عَلَى الْهُدَىٰ ﴿١١﴾ أَوْ أَمَرَ
بِالتَّقْوَىٰ ﴿١٢﴾ أَرَأَيْتَ إِن كَذَّبَ وَتَوَلَّىٰ ﴿١٣﴾ أَلَمْ يَعْلَم بِأَنَّ اللَّهَ يَرَىٰ ﴿١٤﴾ كَلَّا لَئِن
لَّمْ يَنتَهِ لَنَسْفَعًا بِالنَّاصِيَةِ ﴿١٥﴾ نَاصِيَةٍ كَاذِبَةٍ خَاطِئَةٍ ﴿١٦﴾ فَلْيَدْعُ نَادِيَهُ
﴿١٧﴾ سَنَدْعُ الزَّبَانِيَةَ ﴿١٨﴾ كَلَّا لَا تُطِعْهُ وَاسْجُدْ وَاقْتَرِب ۩ ﴿١٩﴾

下さるであろう。

朝章
(アッ＝ドハー章)

1-3アッラーは午前－その意味するところは、昼間全体である－と、被造物が静寂を得、闇が深まる夜にかけてお誓いになられた(尚アッラーは、かれがお望みになるあらゆる被造物においてお誓いになられるが、一方被造物がアッラー以外のものにおいて誓うことは許されない。というのもアッラー以外のものにおいて誓うことは、シルク[1]だからである)。使徒よ、あなたの主は啓示の遅延によってあなたのことを見棄ててなどはいない。そしてあなたのことをお嫌いになったわけでもないのだ。

4-5来世はあなたにとって、現世よりもよいものである。使徒よ、あなたの主は来世において、あなたにあらゆる種類の恩恵を与えて下さろう。そしてあなたはそれに満足しよう。

6-8あなたの主は、以前孤児であったあなたに避難場所を与えて下さり、面倒を見て下さったではないか？また啓典も信仰も知らなかったあなたに、あなたが知らなかったものを教えて下さり、よりよい行いへとお導き下さったではないか？そして貧しかったあなたに生活の糧をお授けになり、満足と忍耐でもってあなたを裕福な者にされたではないか？

9-11ゆえに孤児を、邪険に扱ってはならない。また物を乞う者を追いやったりせず、食事を与え、その必要を満たしてやるがよい。そしてあなたの主があなたにお恵みになった恩恵について、話して聞かせるのだ。

胸を広げる章
(アッ＝シャルフ章)

1-4使徒よ、われら(アッラーのこと)はあなたが宗教の定めとアッラーへの誘い、そして優れた高徳を身に付けることのために、あなたの胸を広げてやったではないか？そしてあなたが背中に負っていた重荷を下ろし、わが特別の恩恵でもって、あなたに高い位階を授けてやったではないか？

5-6ゆえにあなたに対する敵の嫌がらせゆえに、メッセージを広めることを思い止まるのではない。実に安楽は苦難と共にあり、安楽は苦難と共にこそあるものなのだ。

7-8ゆえに現世の諸事や仕事を終えたら、イバーダ(崇拝行為)に専心せよ。そしてあなたの主の御許にあるものにおいて、かれのみにこいねがうのだ。

無花果章
(アッ＝ティーン章)

1-6アッラーは、周知の果実であるイチジクとオリーブ、そしてアッラーがそこでムーサーに語りかけられたところのシナイ山において、お誓いになられた。そしてまた、あらゆる恐怖から平安な町であり、かつイスラームの故郷であるマッカにおいて、お誓いになられた。

1　１３ページの注釈１を参照。

سُورَةُ الْقَدْرِ
ترتيبها ٩٧ — آياتها ٥

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

إِنَّا أَنزَلْنَاهُ فِي لَيْلَةِ الْقَدْرِ ﴿١﴾ وَمَا أَدْرَاكَ مَا لَيْلَةُ الْقَدْرِ ﴿٢﴾
لَيْلَةُ الْقَدْرِ خَيْرٌ مِّنْ أَلْفِ شَهْرٍ ﴿٣﴾ تَنَزَّلُ الْمَلَائِكَةُ وَالرُّوحُ
فِيهَا بِإِذْنِ رَبِّهِم مِّن كُلِّ أَمْرٍ ﴿٤﴾ سَلَامٌ هِيَ حَتَّىٰ مَطْلَعِ الْفَجْرِ ﴿٥﴾

سُورَةُ الْبَيِّنَةِ
ترتيبها ٩٨ — آياتها ٨

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

لَمْ يَكُنِ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ وَالْمُشْرِكِينَ مُنفَكِّينَ
حَتَّىٰ تَأْتِيَهُمُ الْبَيِّنَةُ ﴿١﴾ رَسُولٌ مِّنَ اللَّهِ يَتْلُو صُحُفًا مُّطَهَّرَةً ﴿٢﴾
فِيهَا كُتُبٌ قَيِّمَةٌ ﴿٣﴾ وَمَا تَفَرَّقَ الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ إِلَّا مِن
بَعْدِ مَا جَاءَتْهُمُ الْبَيِّنَةُ ﴿٤﴾ وَمَا أُمِرُوا إِلَّا لِيَعْبُدُوا اللَّهَ مُخْلِصِينَ
لَهُ الدِّينَ حُنَفَاءَ وَيُقِيمُوا الصَّلَاةَ وَيُؤْتُوا الزَّكَاةَ وَذَٰلِكَ دِينُ
الْقَيِّمَةِ ﴿٥﴾ إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ وَالْمُشْرِكِينَ
فِي نَارِ جَهَنَّمَ خَالِدِينَ فِيهَا أُولَٰئِكَ هُمْ شَرُّ الْبَرِيَّةِ ﴿٦﴾ إِنَّ
الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ أُولَٰئِكَ هُمْ خَيْرُ الْبَرِيَّةِ ﴿٧﴾

われ(アッラーのこと)は人間を最善の形に創造したが、アッラーとその使徒に従わない限りにおいて、その還り所を地獄とした。しかし信仰し善行に励む者には、途絶えることなく、減少することもない偉大な報奨がある。

7人間よ、何があなたに復活と報いを虚偽であると考えさせるのか？至高のアッラーにそのお力があるのは、明白であるというのに？

8人々の裁きのためにその日を設けられたアッラーこそは、かれが創られた全ての被造物において最も英知溢れた御方ではないか？いや、そうなのである。被造物が何の命令も禁止もなく、そして報奨も懲罰もなく、ただ無意味に放っておかれることなどあり得るだろうか？そんなことは筋が通らず、到底あり得ないことなのである。

凝血章
(アル＝アラク章)

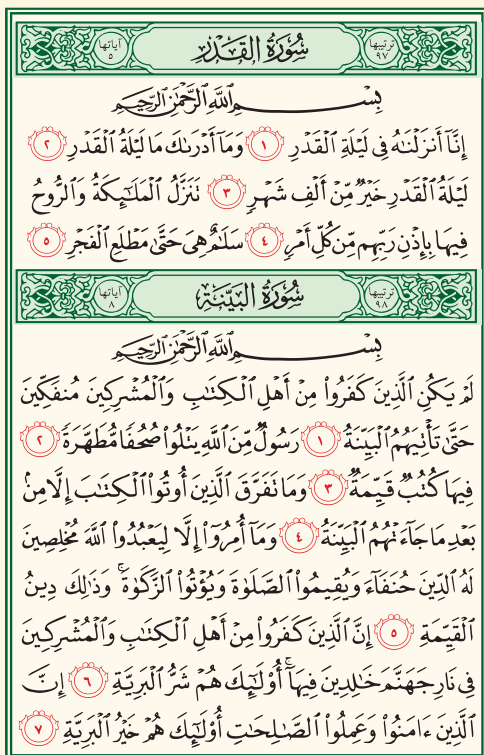
1-5預言者よ、創造における唯一者であられるあなたの主の御名において、あなたに下されたクルアーンを読むのだ。かれこそは全ての人間を、一個の小さな凝血から創られた御方である。預言者よ、あなたに下されたものを読むのだ。あなたの主は恩寵に溢れた恵み深い御方。そしてその被造物に筆記を教え、人間にかつて知らなかったことを教えて下さり、無知の闇から知識の光へと導いて下さった御方である。

6-8実に人間とは豊かさにかまければ、アッラーの掟を無視してしまうものである。不服従の徒は皆、その行き先がアッラーの御許であることを知るべきである。そしてアッラーは、全ての者をその行いでもってお報いになられるのだ。

9-19あなたは、その男(アブー・ジャハル)よりも驚くべき暴虐を振るう者を見たであろうか？彼はわれ(アッラーのこと)のしもべ(ムハンマド:彼にアッラーからの祝福と平安あれ)がその主にサラー(礼拝)を捧げる時、彼を妨害したのだ。サラーを捧げる者が正しい道にあるとすれば、一体彼はいかにして彼を妨害するというのか？それとも他人に敬神の念を勧める者であれば、妨害するというのか？その妨害者が、自分がそこへといざなわれているものを虚偽とし、そこに背を向けるのならば、一体アッラーが彼の一挙一動をご存知であることを知らないのか？事はアブー・ジャハルの考えているようにはいかない。もし彼がムハンマドとの確執と彼への嫌がらせから身を引かないのであれば、われらは彼の前頭部を激しく掴み上げ、地獄へと放り投げてくれよう。彼の前頭部はその言動において嘘つきであり、その行為においては過ちを犯している。この暴虐者に、彼が援助を当てにしている仲間たちを呼ばせてみるがよい。われらは懲罰の天使たちを呼んでやろう。事はアブー・ジャハルの思惑通りには行かない。使徒よ、彼はあなたのことを害することなど出来ないのだ。ゆえにサラーを放棄せよなどという言葉に服してはならない。あなたの主に額ずき、かれを慕いつつ、そしてかれへの服従行為でもって、かれへのお近付きを求めるのだ。

みいつ章
(アル＝カドル章)

1われ(アッラーのこと)はクルアーンを、栄光と恩寵の夜に下した。そしてそれはラマダーン月の一夜である。

2預言者よ、その威光と栄光の夜をあなたに知らしめるものは何か？

جَزَآؤُهُمْ عِندَ رَبِّهِمْ جَنَّـٰتُ عَدْنٍ تَجْرِى مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَـٰرُ خَـٰلِدِينَ
فِيهَآ أَبَدًا رَّضِىَ ٱللَّهُ عَنْهُمْ وَرَضُوا۟ عَنْهُ ذَٰلِكَ لِمَنْ خَشِىَ رَبَّهُۥ ٨

سُورَةُ الزَّلْزَلَةِ (ترتيبها ٩٩ ・ آياتها ٨)

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَـٰنِ ٱلرَّحِيمِ

إِذَا زُلْزِلَتِ ٱلْأَرْضُ زِلْزَالَهَا ١ وَأَخْرَجَتِ ٱلْأَرْضُ أَثْقَالَهَا
٢ وَقَالَ ٱلْإِنسَـٰنُ مَا لَهَا ٣ يَوْمَئِذٍ تُحَدِّثُ أَخْبَارَهَا ٤
بِأَنَّ رَبَّكَ أَوْحَىٰ لَهَا ٥ يَوْمَئِذٍ يَصْدُرُ ٱلنَّاسُ أَشْتَاتًا
لِّيُرَوْا۟ أَعْمَـٰلَهُمْ ٦ فَمَن يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ خَيْرًا
يَرَهُۥ ٧ وَمَن يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ شَرًّا يَرَهُۥ ٨

سُورَةُ العَادِيَاتِ (ترتيبها ١٠٠ ・ آياتها ١١)

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَـٰنِ ٱلرَّحِيمِ

وَٱلْعَـٰدِيَـٰتِ ضَبْحًا ١ فَٱلْمُورِيَـٰتِ قَدْحًا ٢ فَٱلْمُغِيرَٰتِ صُبْحًا
٣ فَأَثَرْنَ بِهِۦ نَقْعًا ٤ فَوَسَطْنَ بِهِۦ جَمْعًا ٥ إِنَّ ٱلْإِنسَـٰنَ
لِرَبِّهِۦ لَكَنُودٌ ٦ وَإِنَّهُۥ عَلَىٰ ذَٰلِكَ لَشَهِيدٌ ٧ وَإِنَّهُۥ لِحُبِّ
ٱلْخَيْرِ لَشَدِيدٌ ٨ ۞ أَفَلَا يَعْلَمُ إِذَا بُعْثِرَ مَا فِى ٱلْقُبُورِ ٩

3威光の夜とは、祝福深い夜である。その価値は、威光の夜のない千の夜の価値よりも高いものである。

4その夜、ジブリール(彼に平安あれ)を含む天使たちの降臨が頻繁に繰り返される。彼らはその主が定められたその年の運命を携え、かれのお許しを得て降臨するのである。

5その夜は一晩中平安であり、暁が訪れるまでいかなる悪も起こらない。

明証章
(アル＝バイイナ章)

1ユダヤ教徒とキリスト教徒の内の不信仰者たち、及びシルク[1]の徒は、既に下された啓典の中で約束されていた印が現れるまで、その不信仰を放棄せずにいた。

2そしてその印こそは、アッラーの使徒ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)なのである。彼は清浄な啓典の中からクルアーンを朗誦する。

3それらの啓典の中には正確な情報と、正しい命令が含まれている。そしてそれは真理と、真っ直ぐな道へと導くのだ。

4ユダヤ教徒とキリスト教徒からなる啓典の民は、ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)が真の使徒であることに異議を唱えなかった。それは彼らが彼らの啓典の中に、使徒としての彼の特徴を見出していたためであった。しかし彼がトーラーと福音書の中で約束されている預言者であることが明白になり、そして彼の預言者性の正当性において彼らの意見が一致した時、彼らはその態度を硬化させた。それで彼らは彼が遣わされた時にその預言者性を否定し、彼と決別したのだ

5彼らは全ての規定において、ただアッラーのみを拝し、かれへのイバーダ(崇拝行為)においてその御顔を求め、またシルク[2]　から信仰へと回帰すること、そしてサラー(礼拝)とザカー(義務の喜捨)を行うことのみを命じられていただけだった。そしてそれこそが正しい宗教、つまりイスラームなのである。

6ユダヤ教徒とキリスト教徒の内の不信仰者たち、及び多神教徒の罰は、地獄の業火に永久に居住することである。彼らこそは最悪の被造物なのだ。

7アッラーを信じ、その使徒に従い、善行に励む者たちは、最善の被造物である。

8審判の日の彼らの報奨は、主の御許での天国の楽園である。それは滞在し、居住するのに最善の場所であり、その宮殿の下を河川が流れている。彼らはそこに永遠に住むのだ。アッラーは彼らにご満悦され、彼らの善行をお受け入れになられる。一方彼らも、アッラーが彼らのためにご用意下さったありとあらゆるご褒美に満足する。そしてそれこそはアッラーを畏れ、かれへの不服従を慎んでいた者たちへのよき報奨なのである。

地震章
(アッ＝ザルザラ章)

1-3大地が大きく振動し、遺体や財宝などその中に蔵していたものを外に放り出す時、人は怯

1　１３ページの注釈１を参照。
2　１３ページの注釈１を参照。

えてこう自問する。「一体大地に何が起こったのだろう？」

4-5審判の日、大地はそこで繰り広げられた善と悪について告げる。そして崇高かつ至高なるアッラーが、そうするようご命じになられたということも。

6その日アッラーは人々の行った悪行と善行を彼らに見せ、更にそれに対する報いをお与えになるべく、彼らを清算の場から集団ごとに分散させて戻らせる。

7-8それで一微塵ほどの重さでも善行を行った者は、来世においてその報奨を見る。そして一微塵ほどの重さでも悪行を行った者は、来世においてその懲罰を見る。

進撃する馬章
(アル＝アーディヤート章)

1至高のアッラーは、かれの道において敵へと突撃し、疾走して息を荒げる軍馬にかけてお誓いになられた。尚、被造物がアッラー以外のものにおいて誓うことは許されない。というのもアッラー以外のものにおいて誓うことは、シルク[1]だからである。

2その軍馬は硬い蹄と、力強い走りゆえに火花を撒き散らす。

3それらは早朝に、敵軍に突撃を仕掛ける。

4そしてそれでもって敵の間に砂塵を巻き上げる。

5それからその騎手らと共に、敵軍の集団の中央に進撃する。

6-8実に人間とは、その主の恩恵に対して恩知らずなもの。またその忘恩に固執するもの。そして財産への愛着が激しいものである。

9一体人間は、アッラーが清算と報いのために死人を墓場から呼び出す時、そこで待ち受けるものを知らないのか？

10そしてその胸の内に秘めた善悪が露わにされる時のことを？

11彼らの主はその日、彼らと彼らの行いに関して全てご存知であられる。いかなる些細な行為も、かれの御知識を免れることはないのだ。

恐れ戦く章
(アル＝カーリア章)

1その戦慄によって、人々の心に衝撃を与える日。

2そして、その日とはいかなるものか？

3その日をあなたに知らしめるものは何か？

4その日、人々はその数の多さと離散と躍動において、散り散りに飛散する蛾のようになる。そしてそれは火の中へと落ちて行くのだ。

5そして山々は、手で引き千切られた色とりどりの羊毛のようになる。そしてそれは塵となって飛んでいってしまうのだ。

1　１３ページの注釈１を参照。

6-7善行の秤が重かった者は、天国で幸福に満ち足りた生活を送る。

8-9しかし善行の秤が軽く、悪行の秤が優ってしまった者の行き先は地獄である。

10使徒よ、彼らが落下していく地獄の底をあなたに知らしめるものは何か？

11それは燃料によって熱さの頂点に達した業火である。

蓄積章
（アッ＝タカースル章）

1あなた方は財産や子孫の多さを自慢し合うことにかまけて、アッラーへの服従行為をおろそかにしている。

2あなた方は墓場行きとなり、そこに埋められるその時まで、そのようなことに没頭し続ける。

3そのように財産の増加にかまけているのではない。あなた方は来世こそが最善であることを知ることになるのだから。

4注意するがよい。あなた方は、アッラーへの服従をないがしろにしていたことによる、悪い結末を知ることになろう。

5-8そのように財産の増加にかまけているのではない。もしあなた方が真の知識を得たのであれば、そのようなことを止め、あなた方自身を破滅から救うことに先を急いだであろう。そして地獄をあたかも眼前にあるかのように目にし、少しの疑念もなしにそれを見たことであろう。やがてあなた方は審判の日、あらゆる種類の恩恵について問い質されることになるのだ。

時間章
（アル＝アスル章）

1-2アッラーは時にかけて、アダムの子らが破滅と損失にあることをお誓いになられた。なお被造物がアッラー以外のものにおいて誓うことは許されない。というのもアッラー以外のものにおいて誓うことは、シルク[1]だからである

3但しアッラーを信じ、善行に励み、真理の固守とアッラーへの服従行為、そしてそこにおける忍耐において勧め合う者たちはその限りではない。

中傷者章
（アル＝フマザ章）

1人々の陰口や悪口を言う全ての者に、災いと破滅あれ。

2彼の喜びは財を収集し、数え上げること。

3彼は自分が収集して蓄えた財でもって、現世での永劫と来世での清算の免除という保障をしたと思い込んでいる。

4しかし事は彼の思惑通りには行かない。彼はそこに投げ込まれるあらゆる物を粉砕する、地獄の業火へと放り込まれるのだ。

1　１３ページの注釈１を参照。

5そして使徒よ、地獄の業火の真実をあなたに知らしめるものは何か？

6-7それはその烈しさゆえ身体から心臓にまで達するほどの、燃え盛るアッラーの炎である。

8-9そしてその炎は彼らを閉じ込める。彼らはそこから脱出出来ないよう、長い鎖や枷で束縛されているのだ。

象章
（アル＝フィール章）

1使徒よ、あなたはあなたの主が、象の軍団－祝福に溢れたカアバ神殿の破壊を試みた、エチオピア人アブラハとその軍隊－をいかにされたかを知らないのか？

2そしてかれが彼らの悪巧みを、無と徒労に帰されたことを。

3-4主は彼らに次から次へと鳥の集団を遣わし、硬化した泥からなる石粒を落下させた。

5それで彼らはあたかも家畜が食べ落とした、枯れた作物の葉っぱのように玉砕されてしまったのだ。

クライシュ族章

1-2クライシュ族の契りと彼らの安全、その福利の正当性と、彼らが必需品を入手するための冬におけるイエメンへの定期的な隊商、そして夏における彼らのシリア地方への定期的な隊商、及びそこにおける便宜に賛嘆せよ。

3そして彼らがそれでもって栄誉を得ているところの、カアバ神殿の主に感謝し、かれを崇拝せよ。かれのみを崇拝し、かれのみにイバーダ(崇拝行為)を捧げるのである。

4かれこそはひどい飢えにある時に彼らに糧をお授けになり、かつ非常な恐怖の中にある時に彼らに安らぎをもたらされた御方なのだ。

慈善章
（アル＝マーウーン章）

1復活と報いを嘘とする者の様子を見たか？

2彼はその硬い心ゆえ、孤児をその正当な権利から乱暴に押し退ける者。

3そして恵まれない者に食べ物を施すことを、他人に勧めない者。当然、彼が自分自身で食べ物を施すことなどあり得ないのだ。

4-5サラー(礼拝)中、上の空でいる者達に災いあれ。彼らは要求された形でサラーを行わず、それを定刻通りに行いもしない。

6彼らは人の視線を意識して、善行を見せびらかす。

7また彼らは食器など、貸しても差し支えのないような物を貸してやることもない。こうして彼らは主へのイバーダ(崇拝行為)においても満足に義務を果たさず、主の被造物に対しても満足に善行を施さないのだ。

ترتيبها ١٠٦ سُورَةُ قُرَيْشٍ آياتها ٤

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

لِإِيلَٰفِ قُرَيْشٍ ١ إِۦلَٰفِهِمْ رِحْلَةَ الشِّتَآءِ وَالصَّيْفِ ٢ فَلْيَعْبُدُوا رَبَّ هَٰذَا الْبَيْتِ ٣ الَّذِىٓ أَطْعَمَهُم مِّن جُوعٍ وَءَامَنَهُم مِّنْ خَوْفٍ ٤

ترتيبها ١٠٧ سُورَةُ الْمَاعُونِ آياتها ٧

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

أَرَءَيْتَ الَّذِى يُكَذِّبُ بِالدِّينِ ١ فَذَٰلِكَ الَّذِى يَدُعُّ الْيَتِيمَ ٢ وَلَا يَحُضُّ عَلَىٰ طَعَامِ الْمِسْكِينِ ٣ فَوَيْلٌ لِّلْمُصَلِّينَ ٤ الَّذِينَ هُمْ عَن صَلَاتِهِمْ سَاهُونَ ٥ الَّذِينَ هُمْ يُرَآءُونَ ٦ وَيَمْنَعُونَ الْمَاعُونَ ٧

ترتيبها ١٠٨ سُورَةُ الْكَوْثَرِ آياتها ٣

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

إِنَّآ أَعْطَيْنَٰكَ الْكَوْثَرَ ١ فَصَلِّ لِرَبِّكَ وَانْحَرْ ٢ إِنَّ شَانِئَكَ هُوَ الْأَبْتَرُ ٣

ترتيبها ١٠٩ سُورَةُ الكَافِرُونَ آياتها ٦

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

قُلْ يَٰٓأَيُّهَا ٱلْكَٰفِرُونَ ١ لَآ أَعْبُدُ مَا تَعْبُدُونَ ٢

وَلَآ أَنتُمْ عَٰبِدُونَ مَآ أَعْبُدُ ٣ وَلَآ أَنَا۠ عَابِدٌ مَّا عَبَدتُّمْ ٤

وَلَآ أَنتُمْ عَٰبِدُونَ مَآ أَعْبُدُ ٥ لَكُمْ دِينُكُمْ وَلِىَ دِينِ ٦

ترتيبها ١١٠ سُورَةُ النَّصْرِ آياتها ٣

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

إِذَا جَآءَ نَصْرُ ٱللَّهِ وَٱلْفَتْحُ ١ وَرَأَيْتَ ٱلنَّاسَ

يَدْخُلُونَ فِى دِينِ ٱللَّهِ أَفْوَاجًا ٢ فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ

وَٱسْتَغْفِرْهُ إِنَّهُۥ كَانَ تَوَّابًا ٣

ترتيبها ١١١ سُورَةُ المَسَدِ آياتها ٥

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

تَبَّتْ يَدَآ أَبِى لَهَبٍ وَتَبَّ ١ مَآ أَغْنَىٰ عَنْهُ مَالُهُۥ وَمَا

كَسَبَ ٢ سَيَصْلَىٰ نَارًا ذَاتَ لَهَبٍ ٣ وَٱمْرَأَتُهُۥ

حَمَّالَةَ ٱلْحَطَبِ ٤ فِى جِيدِهَا حَبْلٌ مِّن مَّسَدٍۭ ٥

潤沢章
(アル＝カウサル章)

1預言者よ、われ(アッラーのこと)は現世と来世において、あまたの善きものを授けた。そしてその一つが天国のカウサル川である。その両岸にはくり貫かれた真珠の天幕があり、その砂は麝香から出来ているのだ。

2ゆえにあなたのサラー(礼拝)を全て、あなたの主だけに真摯に捧げるのだ。そしてかれに犠牲を捧げ、そこにおいてかれの御名のみを唱えよ。

3本当にあなたとあなたが携えて来た導きと光とを毛嫌いする者は、その成果が根絶やしとなり、あらゆる善から断絶された者なのだ。

不信者たち章
(アル＝カーフィルーン章)

1使徒よ、アッラーとその使徒を信じない者にこう言え。「アッラーを信じない者たちよ、

2私はあなた方が崇拝している偶像や、偽の神々を崇拝しない。

3そしてあなた方も、私が崇拝している唯一の神性を崇拝しようとはしない。かれこそは唯一崇拝に値する、万有の主アッラーであるのに。

4私はあなた方が崇拝している偶像や、虚妄の神々を崇拝しまい。

5そしてあなた方も将来、私が崇拝しているものを崇拝しようとはしないであろう。尚この節は、シルク[1]の徒のある特定の者たちに下ったものである。アッラーは彼らが決して信仰しないだろうことを、お教えになられたのである。

6あなた方には、あなた方がその信奉を固執するあなた方の宗教があり、私には私の宗教がある。そして私は、それ以外のいかなる宗教も求めたりはしないのだ。」

援助章
(アン＝ナスル章)

1使徒よ、クライシュ族の不信仰者たちに対する勝利と、マッカ征服が完遂したら、

2そして多くの人々が次から次と集団でイスラームに入るのを目にしたら、

3あなたの主の栄光を讃え、かれを讃美し、かれのお赦しを乞うことを数多く行うことで、かれとの謁見に備えるのだ。かれはかれの崇高さを讃美する者と、かれのお赦しを乞う者の悔悟をよくお受け入れになられる御方である。かれはそのような者たちをお赦しになり、ご慈悲をかけられ、そしてその悔悟をお受け入れになられよう。

棕櫚章
(アル＝マサド章)

1アブー・ラハブの両手は大きな損失を被った。そして彼はアッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)への弾圧により、不幸に襲われた。アブー・ラハブの損失は既に実現を見たのだ。

1　１３ページの注釈１を参照。

2彼の財産も子孫も、彼を益することはなかった。それらは彼にアッラーの懲罰が降りかかった時、彼に何ももたらさないであろう。

3-4彼は燃え上がる地獄の業火に入ることになろう。そして棘を携えてやって来ては、預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の通り道にばら撒いて嫌がらせをしていた彼の妻も同様である。

5彼女の首には非常に粗い繊維で出来た、堅くなわれた紐が巻きつけられる。そしてそれでもって地獄の業火へと引き上げられ、更にはその最下層へと放り込まれるだ。

純正章
(アル=イフラース章)

1使徒よ、言うのだ。「かれこそはその神性と主性と、美名と属性において唯一であられるアッラー。そこにおいていかなるものも、かれの権威を分かち合うことはない。

2アッラーこそは、あらゆる必要の解消や希望の実現において、唯一依拠される御方。

3かれには子供も親もなく、共同者もいない。

4そしてその創造と美名と属性、その御業において、何ものもかれに類似したり相似したりするものはない。かれは祝福に溢れ、至高かつ神聖な御方である。」

黎明章
(アル=ファラク章)

1使徒よ、言うのだ。「黎明の主にご加護を乞う。

2あらゆる被造物の悪と、その被害から。

3夜の帳が下り、闇とその悪と害が広がった時の、闇夜の悪から。

4そして魔術のために結び目を作り、そこに息を吹き込む女魔術師の悪から。

5そしてアッラーが人に与えられた何らかの恩恵ゆえにその者を憎み、嫉妬してその消滅と災いが降りかかることを望む者の悪から。」

人々章
(アン=ナース章)

1使徒よ、言うのだ。「人間の主に、ご加護を乞う。かれこそは唯一、シャイターンの誘惑を無に帰される御方。

2そしてかれこそは人間の王。かれは人間の諸事を思いのままに操られる御方。そして人間のことなど、必要ともされない御方。

3そしてかれ以外には真に崇拝すべきもののない、人間の神。

4不注意の状態にある時に人間に囁きかけ、アッラーを想起した際には素早く身を隠すシャイターンの害悪から(ご加護を乞う)。

5(シャイターンは)人間の胸裏に悪と疑念を広める。

6ジンと人間からなるシャイターンから(ご加護を乞う)。」

ムスリムの人生における重要な質問

1 ムスリムはどこから信仰教義を得るのですか？　ムスリムはその信仰教義をアッラーの書（クルアーン）と、教えの伝達において私欲に傾くことの無い、かれの預言者ﷺの真正スンナ（彼の言行録）から得ます。“それはかれに下された、啓示に他ならない。”【53:4】そしてこれら二つの源泉は、サハーバ（教友たち）と廉直である先人たちの理解に基づいて理解されるべきです。

2 宗教としてのイスラームには、いくつの段階があるのですか？　宗教としてのイスラームには、三つの段階が存在します。それらはイスラーム、イーマーン、そしてイフサーンです。

3 「イスラーム」とは何ですか？それにはいくつの基礎があるのですか？　イスラームとは：タウヒード（アッラーの唯一性）を信じることによるアッラーへの服従、かれに従順することによるかれの命令への服従、またあらゆる種類の多神崇拝と偶像崇拝、及びそれらを行なう者たちの忌避と破棄です。イスラームの基礎（柱）には五つあり、それらは次の伝承で、預言者ﷺにより言及されています。“イスラームは五つの（柱の）上に築かれています：アッラーをおいて他に崇拝されるべきものは何も存在せず、ムハンマドはアッラーの使徒である（「ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドゥッラスールッラー」）と証言し、サラート（礼拝）を遵守し、ザカート（義務の喜捨）を施し、ハッジ（マッカへの巡礼）を行ない、ラマダーン月に斎戒をすることです。”（アル＝ブハーリーとムスリム収録）

4 「イーマーン」とは何ですか？それにはいくつの基礎があるのですか？　イーマーンとは：心と言葉の双方による信仰と確信、及びそれに基づいた人間の身体による行動です。イーマーンは善行することにより増加し、罪を犯すことにより減少します。アッラーﷻは仰せられました。“彼らの信心の上に信心を加えられる。”【48:4】

また預言者ﷺは仰せられました。“イーマーンは七十数個の分科を有する。最上のものは、アッラーをおいて他に崇拝される権利を有する者は無い（ラー・イラーハ・イッラッラー）、と述べることであり、最下のものは、道の障害物を取り除くことである。そして羞恥心はイーマーンの分科である。”（ムスリム収録）

この事実を証明するものの一つとして、ラマダーンやハッジなどの善行の折にムスリムが感じる熱意と、一方でムスリムが罪を犯した時に感じる怠慢さが挙げられます。アッラーﷻは仰せられました。“本当に善行は、悪行を消滅させる。【11:114】

そして次の預言者ﷺのハディースで述べられているように、イーマーンには六つの基礎があります。“イーマーンとはアッラー、かれの諸天使、かれの諸啓典、かれの諸使徒、審判の日、カダル（運命）とそれがもたらす善と悪を信じることである。”（アル＝ブハーリーとムスリム収録）

5 「ラー・イラーハ・イッラッラー」という文句の意味は何ですか？　これは、アッラーﷻ以外のいかなるものへの崇拝も否定し、アッラーﷻのみが崇拝に値することを証言することです。

6 復活の日に救われる宗派はどれですか？　預言者ﷺは言われました。“私のウンマ（国家）は73の宗派に分かれ、それらの内の一つ以外は全て火獄へと行くだろう。”彼の教友が尋ねました。“アッラーの使徒よ、その一つとは何ですか？”彼はこう答えました。“私と私の教友たちの道に従う者だ。”（アッ＝ティルミズィーとアハマド収録）

それゆえ真実であり正しい道とは、預言者ﷺと彼の教友たちの模範に従うことなのです。従って審判の日に救われることを望み、自己の所業をアッラーﷻによって受け入れられることを願う者は、預言者ﷺと彼の教友たちの道に厳密に従い、あらゆる宗教上の刷新を避けねばならないのです。

7 アッラーは私たちと共におられるのですか？　アッラーはかれの完全なる知識、聴覚、視覚、かれの御加護、かれの絶対的理解、かれの全能性と御力とかれの神意により、我々と共に居られます。しかしアッラー御自身はかれの創造の一部などではなく、かれの創造物がかれを包含するなどというようなこともありません。

8 アッラーを物理的に見ることは出来ますか？　ムスリム学者たちは、アッラーが現世において物理的に見ることは出来ないということに関し、見解を一致させています。しかし復活の日、そして楽園において、信仰者たちはかれを物理的に見ることが出来るようになります。アッラー ﷻ は仰せられました。“その日、ある者たちの顔は（美しく、明々と）輝き、彼らの主を、仰ぎ見る。”【75:22-23】

9 アッラーの御名の数々と、その性質を知ることの利益は何ですか？　アッラーが人々に対して最初に義務付けたことは、アッラー ﷻ を知ることです。人々がアッラーを正しく知ることが出来れば、人々はかれが捧げられるにふさわしい崇拝行為を行うようになるでしょう。アッラー ﷻ は仰せられました。“だから知れ。アッラーの他に神はないことを。そしてあなたの罪過に対し御赦しを乞え。”【47:19】

アッラー ﷻ の広大なる御慈悲を思い起こすことは人に希望を与え、またかれに対する不服従に対するかれの厳格な罰を思い出すことは畏敬の念を引き起こし、そしてかれが賜物をお授けになる根源であるその属性を認知することは感謝の気持ちを生み出します。従って、アッラー ﷻ の御名と属性によってかれを崇拝するということの意味とは、人々がそれらを適格に学び、それらの意味を理解し、そしてそれを履行することなのです。

ある人に知識、慈悲、公正さなどの特徴を見出すことが出来れば、それは称賛に値しますが、神性、威圧、驕慢さなどの人間には非難されるべき特徴もあります。また隷従、欠乏、慎ましさ、懇願など、その他それらに類似した、人間が探求し習得することを命じられている称賛されるべき特徴もありますが、アッラー ﷻ にそれらを結び付けることは許されません。アッラーに最も愛される人間とは、かれの愛する特徴を備える者であり、アッラーが最も嫌悪する者とは、かれの厭われる特徴を備える者なのです。アッラー ﷻ は仰せられました。“最も美しい全ての御名はアッラーに属する。それでこれら（の御名）で、かれを呼びなさい。”【7:180】

また預言者 ﷺ は言われました。“アッラーには九十九、即ち百から一を引いた御名があり、それらを記憶する者は楽園に入るだろう。”（アル＝ブハーリーとムスリム収録）

誰であれ、クルアーンと真正のスンナを研究する者は、以下に記されたそれらの美名を記憶するでしょう。

▶アッ＝ラフマーン（慈悲深き者）、▶アッ＝ラヒーム（慈愛あまねき者）、▶アル＝マリク（王、主権者）、▶アル＝クッドゥース（最も神聖で高位）、▶アッ＝サラーム（平安と祝福、平安と安心を与える者）、▶アル＝ムウミン（信仰を守る者）、▶アル＝ムハイミン（保護者、守護者、常に見ている者）、▶アル＝アズィーズ（全能者）、▶アル＝ジャッバール（制圧者）、▶アル＝ムタカッビル（偉大な、至大なる、尊い者）、▶アル＝ハーリク（創造者）、▶アル＝バーリウ（創造主、無の状態から創造する者）、▶アル＝ムサッウィル（造形者、形を与える者）、▶アル＝アウワル（最初の）、▶アル＝アーヒル（最後の）、▶アッ＝ザーヒル（明白な、勝利者）、▶アル＝バーティン（隠された、内的な）、▶アッ＝サミーウ（全聴者）、▶アル＝バスィール（全視者）、▶アル＝マウラー（守護、後援、援助者）、▶アン＝ナスィール（救援者）、▶アル＝アフウ（赦す者、罪を抹消する者）、▶アル＝カディール（全能者）、▶アッ＝ラティーフ（優しい）、▶アル＝ハビール（全知者）、▶アル＝ウィトル（唯一の）、▶アル＝ジャミール（美しい）、▶アル＝ハイイユ（慎み深い）、▶アッ＝スィッティール（隠蔽する者）、▶アル＝カビール（偉大な）、▶アル＝ムタアール（至高の、他を超越した）、▶アル＝ワーヒドゥ（唯一なる）、▶アル＝カッハール（征服者）、▶アル＝ハック（真実、真理）、▶アル＝ムビーン（明白）、▶アル＝カウィー（最も強力な）、▶アル＝マティーン（堅固、強い、不動）、▶アル＝ハイユ（不死）、▶アル＝カイユーム（自存する、他を必要としない）、▶アル＝アリー（至高なる）、▶ア

ル＝アズィーム(偉大な、絶大なる)、▸アッ＝シャクール(感謝する)、▸アル＝ハリーム(寛大なる、辛抱強い)、▸アル＝ワースィウ(広大無限な、包括する)、▸アル＝アリーム(全知の、全てを知る)、▸アッ＝タウワーブ(度々容赦する)、▸アル＝ハキーム(賢い、叡智ある)、▸アル＝ガニー(豊かな、富める)、▸アル＝カリーム(寛大なる)、▸アル＝アハドゥ(唯一なる、唯一無二の)、▸アッ＝サマドゥ(永続する、永遠なる)、▸アル＝カリーブ(最も近い)、▸アル＝ムジーブ(答える者)、▸アル＝ガフール(容赦する)、▸アル＝ワドゥードゥ(愛する)、▸アル＝ワリー(保護、後見、協力者)、▸アル＝ハミードゥ(称賛される)、▸アル＝ハフィーズ(保持する、護る)、▸アル＝マジードゥ(荘厳なる、栄誉ある)、▸アル＝ファッターフ(開示する、裁決する、勝利を与える)、▸アッ＝シャヒードゥ(目撃者、証言者)、▸アル＝ムカッディム(促進させる、前進させる)、▸アル＝ムアッヒル(遅延させる、延期する)、▸アル＝マーリク(所有者、支配者)、▸アル＝ムクタディル(権威ある、権能を持つ)、▸アル＝ムサッイル(価値を決定する者)、▸アル＝カービドゥ(抑制する、制限する)、▸アル＝バースィトゥ(気前の良い、惜しみなく与える、雅量のある)、▸アッ＝ラーズィク(糧を与える、供給者)、▸アル＝カーヒル(支配的な、抵抗の出来ない)、▸アッ＝ダイヤーン(清算者)、▸アッ＝シャーキル(感謝する、善行を報奨する者)、▸アル＝マンナーン(親切な、後援者)、▸アル＝カーディル(万能、全能)、▸アル＝ハッラーク(創造者)、▸アル＝マリク(主、支配者)、▸アッ＝ラッザーク(供給者、扶養者)、▸アル＝ワキール(代理者、信頼出来る)、▸アッ＝ラキーブ(監視者)、▸アル＝ムフスィン(卓越した、善い)、▸アル＝ハスィーブ(正しく計算する、決算する)、▸アッ＝シャーフィー(治癒者、健康を与える)、▸アッ＝ラフィーク(優しい、仲間、友)、▸アル＝ムゥティー(与える、授ける)、▸アル＝ムキートゥ(養う、育成する)、▸アッ＝サイイドゥ(支配者、高潔な)、▸アッ＝タイイブ(善い、純粋な)、▸アル＝ハカム(審判者、主権者、立法者)、▸アル＝アクラム(最も高潔な、親切な)、▸アル＝バッル(最も優しい、公正な)、▸アル＝ガッファール(最も良く赦す)、▸アッ＝ラウーフ(最も情け深い、同情的な)、▸アル＝ワッハーブ(与える、授ける)、▸アル＝ジャウワードゥ(寄贈者、善を与える)、▸アッ＝スッブーフ(栄光的な)、▸アル＝ワーリス(相続者、全てを相続する)、▸アッ＝ラッブ(主、支配者)、▸アル＝アァラー(至高な)、▸アル＝イラーフ(全ての崇拝に値する者)。

10　アッラーの御名とかれの属性の違いは何ですか？　アッラーの御名とかれの属性は共に、それらによって御加護を求めたり、宣誓をしたりすることが許されますが、その二つの間にはいくつかの重要な違いがあります。以下はその一部です。1. アッラーの御名の内の一つでもってかれに祈願をしたり、かれの御名の一つに「…のしもべ」という語を付け加えて人名としたりするのは許されますが、これらをかれの属性をもってそうすることは許されません。それゆえ、アブド・アル＝カリーム(最も寛大なる者のしもべ)と命名することは可能ですが、アブド・アル＝カラム(寛大のしもべ)と名付けることは出来ません。また、「最も寛大(カリーム)なる者よ！」と祈願することは許されますが、「おお、アッラーのカラム(寛大)よ！」と祈ることは認められません。2. 人がアッラーの御名からその属性を引き出すことは可能ですが、かれの属性から名を引き出すことは出来ません。従って、かれの御名「アッ＝ラフマーン」(慈悲深き者)の属性である「ラフマ」(慈悲)の属性を導き出すことは出来ても、かれの属性である「アル＝イスティワー」(高きに構える)から「アル＝ムスタウィー」(高きに構える者)という名を導き出すことは出来ません。3. アッラーの行為からその美名を引き出すことは出来ません。従ってアッラーがお怒りになるという事実から、アッラーの御名の一つがアル＝ガーディブ(怒った者)である、と主張することは出来ません。しかしかれの行為によって属性を導き出すことは可能な為、かれがお怒りになる事実から、アッラーの属性の一つにガダブ(怒り)があることを肯定することは可能です。

11　諸天使を信じるとは、どういうことですか？　諸天使を信じることとは、彼らの存在を確信すること、そしてアッラーﷻが彼らを創造したのはかれを崇拝させるためであり、かれの命令に従うためである、と信じることです。かれは仰せられました。“彼らは栄誉あるしもべである。彼らは、かれより先に告げることもなく、またかれ

の命令に基づいて行動するだけである。”【21:26-27】

諸天使を信じることには以下の物事が含まれます。1. 彼らの存在を信じること。2. ジブリール(ガブリエル)など、その名前が知られている者達を信じること。3. 彼らの強大な創造といった属性など、私たちに知らされていることを信じること。4. 私たちに知らされている内のもので、死の天使といったような、彼らに与えられている特定の任務や活動を信じること。

12 「クルアーン」とは何ですか？　クルアーンとはアッラーﷻの御言葉であり、その朗誦は崇拝行為の一つです。アッラーは実際にその通りの文字と発音でお話になったのであり、ジブリール(عليه السلام)がかれからそれを聞き、預言者ムハンマドﷺへと伝達したのです。同様に、全ての啓典はアッラーの御言葉です。

13 私たちには預言者ムハンマドﷺのスンナ無しでも、クルアーンだけで十分なのでしょうか？　私たちはクルアーンにおいて、預言者ﷺのスンナに従うよう命じられているため、そのようなことは不可能です。アッラーは仰せられました。“また使徒があなた方に与える物はこれを受け、あなた方に禁じる物は、避けなさい。”【5:97】

スンナとはクルアーンを説明するものとして使徒に啓示されたのであり、スンナ無しでは私たちは礼拝や斎戒など、宗教の詳細を知ることが出来ません。預言者ﷺは言われました。“実に、私はクルアーンと、それと共に同様のもの(スンナ)を授かった。実に、ソファーにもたれた満腹の男がこう言う(日がやがて来る)ことが恐れられている。「このクルアーンのみに依拠しなさい。この中から見出される合法なもののみを合法とし、その中から見出される不法なもののみを不法としなさい。」”(アハマドとアブー・ダーウード収録)

14 諸使徒を信じるとは、どういうことですか？　諸使徒を信じることとは、アッラーが全ての民に、その中(部族、国家等)から諸使徒を遣わし、彼らに対してアッラーのみの崇拝と、偶像崇拝やアッラー以外のものへの崇拝の破棄を呼びかけたということを確信することです。

また彼らは皆誠実で、信頼でき、正しく導かれ、高潔、公正、従順、敬虔、正直で、他者を正しい道へと導いたということを信じることです。

同時に、全ての神の使徒たちはメッセージを伝道する任務を全うし、彼らは創造の中でも最良であり、彼らは生まれてから死ぬまで一度もアッラーに対するシルク(項目番号41参照)を犯さなかったことを信じることなのです。

15 最後の日を信じるとは、どういうことですか？　最後の日を信じるということは、本当に最後の日が来ることを確信し、墓場での試練、そこでの安楽と懲罰、ラッパが吹かれること、全ての人類が主の御前に立つこと、彼らの所業が記された帳簿の開示、(所業を量る)天秤の設置、(火獄の上に架かる、誰もが渡らねばならない)橋の存在、(預言者ﷺの追従者がそこから飲むことになる)水飲み場の存在、(預言者ﷺが創造物と彼の共同体に対して行なう)執り成し、そして楽園か火獄のどちらかへ入ること等の、死後の出来事を全て信じることです。

16 復活の日に行なわれる執り成しの種類とは何ですか？　復活の日の執り成しには多数の種類があり、その最も壮大なものとして、全ての人々が審判を受けるため、五万年もの年数を立ち尽くして待つ時に行なわれる、大執り成しが存在します。

この執り成しにおいて、預言者ムハンマドﷺは彼らの為にアッラーに対して審判を開始するよう、求めます。この執り成しは、私たちの指導者である預言者ムハンマドﷺのみが授けられた特権であり、彼はそのことを約束されているのです。

第二の種類の執り成しとは、楽園の扉が開かれるというものです。その扉が開かれるよう、最初に求めるのが私たちの預言者ムハンマドﷺであり、彼が最初にそこに入ります。そしてそこへ最初に入る共同体が、彼の共同体なのです。

第三の種類とは、火獄へと連れて行かれるよう命じられている特定の人々のために、彼らがそこへ入らないようにする執り成しです。

第四の種類とは、業火に入った不服従な一神教徒のため、彼らがそこから救い出されるようにする執り成しです。

第五の種類とは、楽園の特定の人々の位階を上げるための執り成しです。

第三、第四、第五の種類の執り成しは、私たちの預言者ムハンマドﷺに限定されたものではありませんが、彼が誰よりも優先されてそれらを授けられることになる御方です。彼に追従するのは、他の預言者たち、諸天使、正義の人々、そして殉教者たちです。

第六の種類とは、一定の人々が審判されずに楽園へ入るようための執り成しです。

第七の種類とは、特定の不信仰者たちの(火獄においての)懲罰を減らすための執り成しです。具体的には、これは私たちの預言者ﷺの叔父、アブー・ターリブに対するものです。

またアッラーの恩寵と御慈悲により、一神教(タウヒード)を信じて死んでいった、アッラーのみがご存知である、執り成しをされなかった無数の人々もまた業火から取り出されることを命じられ、楽園に入れられます。

17

まだ生きている人々に対して、彼らの援助と執り成しを求めることは認められますか?　はい、それは認められます。イスラームではムスリムが他者を助けることが推奨されています。アッラーは仰せられました。“そして正義と篤信のために助け合って、信仰を深めなさい。”【5:2】

預言者ﷺは言われました。“ムスリムが彼の兄弟を助ける限り、アッラーは彼をお助けになるでしょう。”(ムスリム収録)

執り成しに関する報奨とはとても大きなものです。執り成しの意味するところは、ある者が仲裁人として関わることです。アッラーは仰せられました。“善い勧告で執り成す者には、それに相応する分け前があろう。”【4:85】

また預言者ﷺは言われました。“執り成しをすれば、あなたには報奨があるでしょう。”(アル=ブハーリー収録)

しかしながら、この類の執り成しが認められるためには、特定の条件を満たさなければなりません。1)執り成しを行う人物は生存している者でなければなりません。死者には自身を助ける力はもとより、他者を助けることなど出来ないからです。2)執り成しの際に使われる言語は、その意味が理解出来るものでなければなりません。3)執り成しを行う人物は実在していなければなりません。4)求められる事柄は、執り成しを行う者の能力範囲内でなければなりません。5)それは現世的事柄に限られていなければなりません。6)それは有害ではない、認可される事柄に限定されていなければなりません。

18

「タワッスル」(アッラーへ近づく手段)には何種類あるのですか?　タワッスルには認可されるもの、認可されないものの二種類があります。認可される類のタワッスルには、次の三つの形態が存在します。1)アッラーの御名と属性に言及しつつ祈願する。2)洞窟に閉じ込められた三人[1] が行なったように、自らの善行に言及しつつアッラーに祈願する。3)祈願が受け入れられることが望まれる、存命中の敬虔なムスリムに祈願を依頼する。

認可されない類のタワッスルには、次の二つの形態があります。1)預言者ﷺの「ジャーフ」(位階)、または「ワリー」(聖人、あるいは敬虔な人物)において、アッラーに対して次のような祈願をすること。「アッラーよ、私は預言者ﷺの位階、またはフセイン㊧の地位において、あなたに…を求めます。」預言者ﷺ、または敬虔な者の位階が、アッラーの御許で偉大であることに疑いの余地はありません。それにも関わらず、熱心にあらゆる善行を心から探求していた教友たちは、預言者ﷺの墓廟が身近に存在する中で、干ばつに苦しんでいた時でも預言者ﷺにおいてアッラーへのタワッスルを求める

1　訳者注:洞窟で休息している時にその入り口が岩で塞がって閉まった3人の話のこと。彼らは過去に自らが行った善行に言及しつつアッラーに救助を祈願し、そしてそれは受け入れられました。

ことはありませんでした。むしろ彼らはアル＝アッバース(彼はその干ばつ時、存命中でした)に祈願を依頼することにより、タワッスルを求めていたのです。[1]　2)「アッラーよ、アブドゥル＝カーディル・アル＝ジーラーニー[2]にかけてあなたに求めます」もしくは「預言者ムハンマドﷺの権利にかけて」という風に、預言者ﷺ、またはワリー(聖人、もしくは敬虔な人)と呼ばれる人物の名にかけることによって、アッラーに対して祈願することは合法ではありません。被創造物の名にかけて[3]　別の被創造物の為に誓うことは認可されないからです。また、被創造物の名においてアッラーへ懇願する行為はさらに重大な禁止行為です。更に、アッラーに対して従順である者が、アッラーに対して人々への何らかの権利を有する訳ではないのです。

19　死者、もしくは不在する者から何かを求めることに対する裁定は何ですか？　祈願行為とは、アッラーのみがその権利を有する崇拝行為であるため、死者や不在する者から何かを求めることはシルク(項目番号41参照)と見なされます。アッラーは仰せられました。“だが彼らが、かれをさしおいて祈るものたちは、キトミール[4]さえどうすることも出来ない。あなた方が彼らに祈っても、あなた方の祈りを聞かず、聞いたとしてもあなた方に答えはしない。審判の日に彼らはあなた方が(彼らを主に)配したことさえ否認しよう。全知なる御方のように、(真実を)あなたに知らせ得る者はないのである。”【35：13−14】

また、預言者ﷺは言われています。“誰であれ、アッラーに並べて同位者に祈願しながら死ぬ者は、業火に入れられるでしょう。”(アル＝ブハーリー収録)

死者は、彼ら自身が生者の祈願を必要としています。それなのに、どうして存命中の者が死者に対して祈願することが出来るでしょうか。死者は、生者が彼らのために行なう祈願や、あるいは彼ら自身が生前行って未だその善行が持続しているような行為の報奨を受けること等以外には、既にどんな行為をすることも、報奨を受けることも出来ないのです。善行することが可能なのは生者のみなのです[5]。　誰かが祈願をする際、死者はそれにより歓喜します。一体彼ら自身がそれらを必要としているのであれば、いかにして彼らがそれを要求されるのでしょうか？

また不在者に対しての祈願に関しては、彼がそれらの要求を聞くことが出来ないのに、なぜそれらに答えることが可能でしょうか？

20　楽園と火獄は、今存在しているのですか？　はい、それらは存在しています。楽園と火獄は共に、人類が創られる前にアッラーによって創造されました。楽園と火獄は永遠なるものであり、それらが無くなることはないのです。かれの御慈悲により、人々がそこへ入るよう楽園は創られ、またかれの正義により人々がそこへ入るよう、火獄が創られたのです。そして全ての人々は、創造された目的へと進んで行くのです[6]。

21　カダル(運命)を信じるとは、どういうことですか？　それは、全ての善と悪はアッラーによる定めであり、アッラーはどんなことであれ、かれが御望みであることを実行するという、確固とした肯定のことです。預言者ﷺは言われました。“もしもアッラーが楽園と地上の住人を罰することを御望みであれば、かれはそのように

1　アル＝ブハーリーの伝承における、ウマルの以下の供述のことです。“アッラーよ！我々は（預言者ムハンマドが生きていた頃）彼によるタワッスルを求め、あなたは我々の上に雨を恵まれた。今、我々はあなたへの手段として預言者の叔父のタワッスルを求めます。それ故我々に雨のお恵みを！”

2　アブドゥル＝カーディルのみならず、他の誰の場合であってもそうです。アブドゥル＝カーディル・ジーラーニーは、その敬虔さにおいて良く知られていた学者でした。

3　例えば、「私の母にかけて」、あるいは「星にかけて」、あるいは「私の名誉にかけて」と言うことなどが挙げられます。

4　アラビア語で、ナツメヤシの実の種の周りについている薄い膜状の物質のことを意味します。つまり、この上なくたあいもない小さな物事のことを指しています。

5　これは、ムスリムその他が伝える伝承に関連しています。“人が死ぬ時、次の三つ以外、彼の所業は断絶します。（その死後も）継続的な喜捨、人々を益し続ける知識、そして彼のために祈願し続ける廉直な子である。”

6　この記述は預言者ﷺが、なぜ全ての運命が予め定められているのにも関わらず善行をすべきか、と質問された際、次のように答えられたことに基づいています。“善いことを行いなさい。なぜなら全ての物事は、それが創造された通りのことへと容易に向かうようになっているからです。”

されるでしょうし、かれは彼らに対し不正をされないでしょう。また、もしもかれが彼らに対し慈悲深くあることを御望みであれば、かれの御慈悲は彼らにとって、彼らの所業よりも更に良いものであるでしょう。もしもあなたが、ウフド山[1]ほどの量の金をアッラーの為に費やしたとしても、あなたがカダル、つまり何であれあなたに起こったことは必ず起こるべくして起こったのであり、何であれ起こらなかったことは、必ず起こらないものとして起こらなかったということを信じない限り、アッラーはそれをお受け入れにならないでしょう。もしもあなたがこのことを信じないまま死ぬのであれば、あなたは火獄へと入るでしょう。"（アハマドとアブー・ダーウード収録）

カダルを信じるとは、次の四つを信じることです。1)アッラーが全てを御存知であり、その全ての詳細に渡って御存知であると信じること。2)アッラーが天命の書にそれらの全てを既に御書きになっていることを信じること。預言者ﷺはこう言われました。"アッラーは様々な創造の定めを、かれが楽園と火獄を創造される5万年前に御書きになったのです。"（ムスリム収録）

3)アッラーが御望みであることは必ず起こり、それを阻止することは不可能であり、かれの究極の能力を無力にすることは誰にも出来ないと信じることです。何であれアッラーがお望みになったことが起きたのであり、かれがお望みにならなかったことは一度も起きなかったのです。

4)アッラーがあらゆるものの創造者、創始者であり、アッラー以外のあらゆるものはかれの創造物であると信じること。

22

人間には、彼ら自身の能力、欲求、意志があるのですか？　はい。人間には彼ら自身の意志、欲求と選択能力がありますが、それらがアッラー ﷻ の御意志から外れることはありません。アッラーは仰せられました。"だがアッラーの御望みがない限り、あなた方はこれを望むことも出来ないのである。"【81：29】

預言者ﷺは言われました。"善いことを行いなさい。なぜなら全ての物事は、それが創造された通りのことへと容易に向かうようになっているからです。"（アル＝ブハーリーとムスリム収録）

アッラーは私たちが善と悪の判断が出来るよう、私たちに知恵、そして聴覚と視覚の能力をお授けになりました。知性のある者が盗みを働いた後に、これはアッラーのお授けになった能力によって盗んだのだ、と主張するでしょうか？もしそうしたのであれば、誰も彼を許さないでしょう。彼は処罰され、人々は彼にこう言うでしょう。"アッラーはあなたにこの懲罰もお授けになったのだ。"ゆえにカダルを言い訳に悪用することは認可されません。これは不信仰につながるのです。アッラー ﷻ は仰せられました。"（アッラー以外に神々を）崇拝する者は言うであろう。「アッラーが御好みになられるならば、私たちと祖先も（他の神々を）崇めず、また何も禁じなかったであろうに。」このように彼ら以前の者も、われの懲罰を味わうまでは（真理）を信じなかった。"【6：148】

23

「イフサーン」とは何ですか？　預言者ﷺは言われました。"それは、あなたがまるでアッラーを眼前にしているかのようにかれを崇拝することです。もしそれが出来ないのであっても、かれはあなたを見ていることを知りなさい。"（アル＝ブハーリーとムスリム収録）

イフサーンとは宗教の3段階の内、最も高いものです。

24

善行が認められるための条件とは何ですか？　その条件は、以下の通りです。1)アッラーへの信仰を正し、タウヒードを固持する。アッラーはシルク（項目番号41参照）を行なう者の行為を御認めにはなりません。2)アッラーのためだけに行なう純粋な意図。3)預言者ﷺのスンナ（慣習）に従う。善行も預言者ﷺが示した通りの方法ですべきである。

1　マディーナ郊外に位置する山のこと。転じて非常に大きなものの事を指しています。

また同様にアッラーを崇拝することにおいても、宗教において明確に制定されたこれらの方法により行わなければなりません。

そしてこれらの条件の内の一つでも欠けていれば、その行為は認められなくなります。アッラーは仰せられました。“われは彼らの（現世での）行いに報いて、それを塵のようにまき散らすであろう。”【25:23】

25 ムスリム同士で意見が相違した際には、何を参考にすべきですか？　そのような場合はアッラーの書と預言者ﷺのスンナに記されているように、イスラーム法に立ち返らねばなりません。アッラーﷻは仰せられました。“あなた方は何事に就いても異論があれば、アッラーと終末の日を信じるのなら、これをアッラーと使徒に委ねなさい。”【4:59】

預言者ﷺは言われました。“私はあなた方に二つのものを残しました。これらにしっかりと忠実であれば、あなた方が迷い去ることはないでしょう。それはアッラーの書、そしてかれの預言者ﷺのスンナです。”（アハマド収録）

26 「タウヒード」には、何種類あるのですか？　タウヒードには三種類、あります。1) タウヒード・アッ＝ルブービーヤ：これは創造、供給、生と死をもたらすこと等においてアッラーが唯一であり、かれの行為は比類ないことを証言することです。預言者ﷺの時代の不信仰者たちは、彼が預言者ﷺとして任命される以前から、この種のタウヒードを認識していました。　2) タウヒード・アル＝ウルーヒーヤ：これは礼拝、誓い、喜捨などのあらゆる崇拝行為を、アッラーのみに向けることです。アッラーが諸預言者、諸啓典を御下しになったのは、このタウヒードを確立するためです。3) タウヒード・アル＝アスマー・ワッ＝スィファート：これは、アッラーとかれの預言者ﷺによって言及されたアッラーの美名と至高なる属性を、それらの意味を歪曲したり、それらが実際上の意味を伴わないとしたり、またそれらの美名と属性がいかなるものであるかを詮索したり、あるいはかれをそれらでもって被造物に類似させたりせずに信仰することです。

27 「ワリー」とは何ですか？　ワリーとは、神を強く意識する、誠実で敬虔な信仰者のことです。アッラーは仰せられました。“見なさい。アッラーのアウリヤー（ワリーの複数形）には本当に恐れもなく、憂いもないであろう。彼らは信仰し、（アッラーを）畏れていた者たち。”【10:62-63】

預言者ﷺは言われました。“本当に私のワリーとは、アッラーと誠実な信仰者たちなのである。”（アル＝ブハーリーとムスリム収録）

28 預言者ﷺの教友たちに対する私たちの義務とは何ですか？　私たちの教友たちに対する義務とは、彼らを敬愛し、彼らに満足し、彼らにアッラーの御満悦があるよう祈り、彼らに対して清い感情を持つことです。私たちは彼らの悪口を言わないように心がけ、彼らの美点と徳を称え、彼らの落ち度や彼らの間に発生した、いかなる諍いなどに触れることも控えるべきなのです。教友たちは無謬ではなかった為、過ちを犯すこともありました。しかしながら、彼らは彼らにとって最善の判断をしたのです。彼らはそれらの選択に関し、もしも正しかったのであれば二重の報奨を受け、誤ったことに関しても一つの報奨を受けるのです。[1]

彼らは的確な判断をすることを心がけた故に、その過ちは赦されるのです。彼らの無数の美徳は、彼らが犯したであろういかなる誤りをも凌ぎます。預言者ﷺは言われました。“私の教友たちを罵ってはならない。私の魂がその手にある御方にかけて、もしもあなた方の内の誰かがウフド山ほどもある金塊を費やしたとしても、（その価値は）彼らにとってのひと掴み、あるいはその半分程にも匹敵しないでしょう。”（アル＝ブハーリーとムスリム収録）

1　これはアル＝ブハーリーとムスリムによって報告されている、次の伝承に基づいています。“もしも裁判官が最善を尽くして正しいと思われる判決を下し、それが正しいのであれば、彼は二つの報奨を受けます。そして彼が最善を尽くして正しいと思われる判決を下した場合、それが例え間違っていたとしても、彼は一つの報奨を受けるのです。”

29 私たちは使徒ﷺの称賛に関して、アッラーが定められた以上に誇張すべきでしょうか？　預言者ムハンマドﷺが全ての創造において最良であり、最も高潔であるということに疑いの余地はありません。それでも、キリスト教徒がマリアの息子であるイエス（ﷺ）に対して行なったように、彼への度を過ぎた称賛を行うことは、預言者ﷺ自身がそのことを私たちに禁じられた為、認められません。彼は言われました。“私はただのアッラーの僕である。ゆえにキリスト教徒がマリアの息子（イエス）に対して行なったような、度を過ぎた称賛を私にしてはなりません。だからこう言いなさい。「アッラーの僕、かれの使徒…」と。”（アル＝ブハーリー収録）

30 「神への畏れ」には、何種類あるのですか？　神への畏れには四種類が存在します。1）第一は、義務のものです。これはアッラーに対する畏れであり、アッラーへの信仰はそもそもアッラーへの絶対的愛と、アッラーへの絶対的畏れという二つに基づいています。2）第二は、大シルク（シルク・アクバル：項目番号41参照）と見なされる畏れです。これは、偶像崇拝者によって崇められているような様々な神からの害を畏れることです。3）第三は、シルクの段階には達してはいなくとも、禁じられているものです。つまり人々への畏れから罪を犯したり、義務である行為を放棄したりすることです。4）最後は、オオカミなどの野生動物から感じる自然な畏れであり、許されているものです。

31 「全面的依拠」には何種類あるのですか？　全面的依拠には三種類が存在します。1）第一は、義務のものです。これはアッラーに対する全面的依拠であり、全ての事柄においてかれに依拠することです。例として挙げるならば、アッラーが善いことをもたらし、害を阻まれる御方であることにおいて全面的に信頼するといったことです。2）第二は禁じられているものであり、それには二種類あります。a.　大シルク（シルク・アクバル）。これは、アッラーがある現象における手段として創造されたもの（例えば太陽や月など）に対して完全なる全面的依拠を寄せることであり、それらの手段に過ぎないものが（アッラーの御力なしに）単独で利益や害をもたらすと信じるようなことです。b.　小シルク（シルク・アスガル）。これは例えるならば、ある者がアッラー以外の何者かによる供給に全面的に依拠してはいても、後者が単独の原因であるとは前者が信じていないような場合が挙げられます。そして前者の後者に対する精神的依存度が、後者が単なる原因以上にまで達しているような場合です。3）第三は購入や売却など、他者が能力内で行うことに関してそれらを全面的依拠、もしくは信頼することであり、これは認可されます。

32 「愛」には何種類あるのですか？　愛には四種類存在します。1）信仰の基盤である、アッラーへの愛。2）アッラーゆえの愛。これは、一般的に全ての信仰者に対する帰属と、彼らへの愛を指します。ムスリム個人に関しては、彼らのアッラーに対する親密さと、かれに対する忠誠の度合いによって愛すること[1]です。この類の愛は義務となります。3）アッラー以外への愛。これはアッラーのみゆえの愛にかれ以外の何ものかを加えることであり、多神教徒が彼らの神々に対して抱くような愛のことです。この類の愛は、シルク（項目番号41参照）の基盤です。4）自然な愛。自分の両親や子供たちへの愛や、食べ物に対する愛などです。この類の愛は合法です。

33 非ムスリムに対する不正は容認されますか？　不正な行いは禁じられています。預言者ﷺはハディース・クドスィー[2]において、アッラーﷻが次のように仰ったとされています。“本当に、われは自らに不正を不法とし、またわれのしもべたちにの間にもそれを禁じた。だからお互いに不正を行なってはならない。”（ムスリム収録）

34 「ビドア[3]」とは何ですか？　イブン・ラジャブは言いました。“ビドアとは、イス

1　信仰が深い者ほど、より愛されなければなりません。この範疇においては第一に預言者ムハンマドがあり、次いで残りの諸預言者があり、更には教友たち、そして敬虔さに応じて諸々の個人が来ます。
2　ハディース・クドスィー、または神聖ハディースとは、預言者ムハンマドﷺによって語られたアッラーの直接の御言葉のことです。
3　ビドア：言語的には、新しく採り入れたもの、改新したものという意味。宗教的に新しいもの、先例のないものは全て含まれる。

ラーム法の中からその合法性を証明する根拠を見出すことの出来ない、新しく始められたもの全般のことです。”宗教においては、もしも言語学上それがビドア（宗教的改新）と呼ばれても、イスラーム法において根拠となるものが認められ、その正当さが証明出来るのであれば、宗教上のビドアではありません。

35 宗教における良いビドア、悪いビドアというものは存在するのですか？　クルアーンとスンナは、イスラーム法から正当な根拠を見出すことの出来ない、いかなるビドア（宗教的改新）をも承認しません。

預言者ﷺは言われました。“誰であれ、私たちの宗教からではない崇拝行為を行う者は、その行為を拒絶されるのです。”（アル＝ブハーリーとムスリム収録）また、彼は言われました。“イスラームでは、あらゆる先例のないものはビドアであり、あらゆるビドアは逸脱なのです。”（ムスリム収録）

イマーム・マーリクは、ビドア（宗教的改新）の意味についてこのように述べています。“ビドア（宗教的改新）を始める者は、ムハンマドﷺがイスラームのメッセージを伝えることに関して偽っていたことを暗に主張しているのです。なぜならアッラーは仰せられました。“今日われはあなた方のために、あなた方の宗教を完成し、またあなた方に対するわれの恩恵を全うし、あなた方のための教えとして、イスラームを選んだのである。”【5:3】

一方で言語的意味において、ビドアを称えるハディースが一部存在します。しかしこれらの伝承で述べられている改新とは、元々イスラームで実践されていた崇拝行為であったものが一旦放棄され、それが後にムスリムたちによって再生されたものに関して言及されています。次のハディースで述べられているように、むしろ預言者ﷺはそういった合法的な崇拝行為に関して、人々に喚起するよう、私たちに対して促されています。“イスラームにおいて、良い行為を広める者は、それに対する報奨を得、彼の後にその行為に続く者達の報奨を、少しも減らされることなく得るでしょう。”（ムスリム収録）

これがウマル﷛の述べた、“これは何と良い改新なのだ！”という言葉の意味なのです。ここで述べられているウマルの改新とは、タラーウィーフの礼拝[1]のことです。それは預言者ﷺが他者に対して行なうよう促され、彼自身も集団で三日間の実践をされていたように、前もって制定されていたものです。しかしながら、彼はそれが義務であると捉えられることを恐れ、そうすることを控えられました。そしてその後のウマルの時代、彼は人々を集め、それを集団で行なうことを命じたのです。

36 「ニファーク」(偽信)には何種類あるのですか？　偽信には二種類存在します。

1) 信仰における偽信(大偽信):これは実際には信じていないにも関わらず、それを隠し、外面では信仰しているように見せかけることです。この行為はシルク(項目番号41参照)です。もしも人がこの偽信に固執して死ぬのであれば、彼は不信仰の状態で死ぬことになります。アッラー仰せられました。“本当に偽信者たちは、火獄の最下の奈落に(陥ろう)。”【4:145】この類の偽信者たちの特徴のいくつかとして、アッラーと信仰者たちを欺こうと試み、また彼らを嘲笑し、彼らに敵対する者たちが信仰者たちに対する勝利を得る援助をし、善行による現世での報奨を求め、来世に関しては求めない、などのものがあります。

2) 行為における偽信(小偽信):シルク行為ではないが、それに対する悔悟が出来なければ大偽信へとつながる、依然として危険なものです。この類の偽信者たちの特徴の一部として、喋れば嘘をつく、約束をすればそれを破る、口論をすれば悪態をつく、誓いをすればそれに背く、そして何かを任せられれば自らの虚偽を証明する、などがあります。

私たちは、これらの特徴の一つでもあてはまることのないよう、それらに対して

1　ラマダーン月に特別に行われる、夜間の集団礼拝のこと。

十分な注意を心がけねばなりません。

37 ムスリムは偽信を恐れなければなりませんか？　ムスリムは偽信を恐れるべきです。イブン・アビー・ムライカ﷜は次のような報告をしています。"私は三十人もの預言者ﷺの教友たちに会いましたが、彼らは皆、偽信行為に陥るのを恐れていました。"

またイブラヒーム・アッ＝タイミー﷜はこう述べました。"私は自分が嘘つきになることを恐れるゆえ、自分の行ないと自分の発言を比べたものです。"

またアル＝ハサン・アル＝バスリー﷜は偽信についてこう述べました。"偽信を恐れる者は信仰者以外にいない。そこにおいて安心する者は偽信者以外にいない。"またウマル﷜はフザイファ﷜に言いました。"私はアッラーにかけてあなたに嘆願する。アッラーの使徒は私をそれらの人々の一人として言及しましたか？"彼は言いました。"いいえ。私はこのことに関してあなたの後には誰にも教えません。"[1]

38 アッラーの前で最も重く、重大な罪とは何ですか？　最も重く、重大な罪はシルクです。シルクとはアッラーに対し、かれ以外の何かをかれに並列させることです。アッラーﷻは仰せられました。"実に、多神崇拝は重大な不義である。"【31:13】

また預言者ﷺは最も重い罪に関して訊ねられた際、このように答えました。"アッラーがあなたを創造されたにも関わらず、かれに他者を配すること(によってかれに匹敵する者があるとすること)である。"(アル＝ブハーリーとムスリム収録)

39 シルクには何種類あるのですか？　シルクには、大シルクと小シルクの二種類が存在します。1)大シルク。この類のシルクを犯すことは、その人をイスラームの枠組みから外すことになります。そしてアッラーはそれをお赦しになりません。[2]　アッラーは仰せられました。"本当にアッラーは、(何ものをも)かれに配することを赦されない。それ以外のことに就いては、御心に適う者を赦される。"【4:48】

この類のシルクには、四つの区分が存在します。a. 崇拝と祈願におけるシルク。b. 意図と欲求におけるシルク。c. 服従におけるシルク。これはアッラーに対する不服従行為において、被造物に服従することです。d. 愛におけるシルク。まるでアッラーを愛するかのように誰かを愛すること。2)小シルク。この類のシルクは、人はイスラームの枠組みから外れてしまうことはありません。この類のシルクの例として、崇拝においての見せかけ[3]といったような、露骨ではない形のシルクが挙げられます。

40 大シルクと小シルクの違いとは何ですか？　大小のシルクの間にはいくつかの違いが存在します。違いの内の一つとして、大シルクを犯す者は来世において不信仰者として判決を下され、永久に火獄の中に居住します。一方小シルクを犯す者については、不信仰者としての判決を下されることはなく、火獄に永久に居住することもありません。

もう一つの違いとしては、大シルクは全ての善行の価値を無にしますが、小シルクは、その特定の行為のみ無価値なものとします。

また小シルクにおいての御赦しが大シルクと同じように、悔悟を条件とするか、あるいは他の重大な罪と同様、悔悟しなくともアッラーが御望みになる限りは御赦しになるのかどうかについては見解の相違があります。どちらが正しいにせよ、小シルクが重大な問題であることに変わりはありません。

41 小シルクの例は何ですか？　小シルクの例の一部は次の通りです。1)善行をする

1　フザイファは、当時マディーナに存在していた偽信者たちについて、預言者ﷺから知らされていた唯一の者でした。しかし彼はそれを口外しないように、との預言者ﷺの秘密を守っていました。

2　つまり、もしも彼らがその状態で死んだ場合のことです。しかしながら、もしも彼らが心から悔い改めれば、アッラーは御赦しになるでしょう。

3　もしも偽信者がするように、全ての崇拝行為を純粋にアッラー以外のために行なうのであれば、これは大シルクと見なされます。

際に、どんなに小さくともそれをひけらかすこと。預言者ﷺは言われました。"例え僅かでもひけらかせば、それはシルクである。"(イブン・マージャ収録)2)アッラー以外の何か、もしくは誰かの名において誓うこと。3)縁起を信じる(担ぐ)こと。縁起とは特定の動物、または言葉、名前、土地、その他を見た際に何か悪いことが起きると予知することです。

42 小シルクに対する予防はありますか?もしも犯してしまった場合の償いはありますか? はい。それは、善行のひけらかしから自らを守ることであり、それらをアッラーのみの為に行なうことです。

またたとえ僅かなひけらかしであれ、それを予防するためにアッラーへの祈願を行なうべきです。預言者ﷺは言われました。"人々よ、このシルクを避けなさい。実に、それは蟻の足音よりも目立たないものです。"教友たちは訊ねました。"蟻の足音よりも目立たないのであれば、いかにして我々はそれを避けることが出来るのでしょうか?"彼は答えました。"こう言いなさい。「アッラーよ、私たちは故意にシルクを犯すことからあなたの御加護を求めます。そして私たちは、知らないままシルクを行なってしまうことから、あなたの御赦しを求めます。」"(アハマド収録)

またアッラー以外の何者かの名において誓いを立てた場合における償いは、預言者ﷺの伝承の中で触れられています。"誰であれ、ラートやウッザー[1] の名において誓いを立てる者には、ラー・イラーハ・イッラッラーと言わせなさい。"(アル=ブハーリーとムスリム収録)

また縁起を信じることに対する償いも、預言者ﷺの伝承の中で触れられています。"誰であれ、縁起によって彼の必要とするものから背き去る者は、シルクを犯したのです。"教友たちは訊ねました。"それに対する償いは何ですか?"彼は答えました。"こう言いなさい。「アッラーよ、あなたから来るもの以外に善は無く、あなたの御望みでない限りは悪も無く、あなた以外に崇拝すべきものは無いのです。"(アハマド収録)

43 ひけらかしには何種類あるのですか? ひけらかしには四種類が存在します。1)その行為の根本的動機が、ひけらかしであること。これは偽信者達が陥っている状態です。2)その行為がアッラーの為、そしてひけらかす為の両方であること。この類の行為、そして前述の種類はいずれも拒絶され、行なった者は来世での懲罰に値します。3)その行為自体は当初アッラーの為にされたものの、その後にそこにひけらかす意図が入った場合。もしもそのひけらかす意図と格闘し、それを放棄した場合には害はありませんが、もし欲望に屈服してしまってその意図が変わってしまった場合、行なっていた行為は無価値なものとなってしまいます。4)その行為が終わった後に、ひけらかしの意図を感じた場合。これは単なる囁きであり、その行為、または行なった者に対する影響はありません。

自らの行為をひけらかすことにつながる道は他にも沢山ある為、それらに対して大いに注意することが必要です。

44 不信仰(クフル)には何種類あるのですか? 不信仰には二種類が存在します。大クフルと小クフルです。a. 大クフルを行なった者は、イスラームの枠組みから外れると見なされます。これには五つの区分があります。1)拒否におけるクフル。2)傲慢におけるクフル。3)疑念におけるクフル。4)背反におけるクフル。5)偽信におけるクフル。b. 小クフルは罪とされますが、それを行なった者をイスラームの枠組みから外すことはありません。この類の例として、ムスリムの殺害などが挙げられます。

45 誓いを立てること[2]に関する裁定は何ですか? 預言者ﷺはそれをお勧めにはなりませんでした。彼は言われています。"実に、それは何も善いことをもたらさないのだ。"(ムスリム収録)

1 これらは預言者ﷺの時代に人々から崇拝されていた、二つの偶像の名です。
2 ここで示されている誓いとは、何らかの希望が満たされた際、特定の行為をするとアッラーに約束することです。

これは、純粋にアッラーの為に立てられた誓い[1]にも当てはまります。しかしながら、もしも墓やワリーなどの、アッラー以外の名において誓うのであれば、それは認可されず、[2]その誓いを果たすことも許されません[3]。

46 魔術に関する裁定は何ですか？　魔術は存在します。そしてアッラーが仰ったように、それは一種の幻覚なのです。“彼（モーゼ）には縄と杖が、魔術で（活きて）走るかのように見えた。”【20:66】

しかしながらクルアーンとスンナは、魔術は確かな影響力があることを報告しています。魔術は禁じられており、大罪であると見なされます。これに関して預言者ﷺは言われました。“人を火獄へと破滅させる、七つの罪を避けなさい。”彼らは訊ねました。“それらは何ですか？”彼は答えました。“アッラーに対するシルクを犯すこと、そして魔術と…”（アル＝ブハーリーとムスリム収録）

また、アッラーは仰せられました。“私たちは試みるだけだ。それで不信心になってはならない…”【2:102】

また“魔術を習いなさい。しかし、それを実践してはならない。”という伝承については、これと類似したものを含め全て捏造された虚偽の伝承であり、合法性の根拠は全く存在しません。

47 占い師や易者を訪ねることに関する裁定は何ですか？　占い師や易者を訪ねることは禁じられており、もしもある者が、彼らには幽玄界を知る能力もなく、ジン（精霊のような存在）が彼らを助けているだけなのだということを知りながら彼らのもと訪ねたのだとしても、その者の礼拝は四十日間、認められません。預言者ﷺは言われました。“誰であれ、易者を訪ねて何かを尋ねたのであれば、彼の礼拝は四十日間認められません。”（ムスリム収録）

一方ある者が易者を訪ね、彼らの主張する幽玄界の知識を信じるのであれば、彼はムハンマドﷺの宗教に対する不信仰に陥ったことになります。預言者ﷺは言われました。“誰であれ、占い師もしくは易者を訪ね、彼らの主張を信じるのであれば、彼はムハンマドに下された啓示を否定したことになる。”（アブー・ダーウード収録）

48 星々から雨を求めることは、どの時点で大小のシルクとなるのですか？　誰であれ、アッラーの御意志なしに星が影響力を有するなどと信じ、雨の原因が星に起因するなどと主張する者は、大シルクを犯しています。また星はアッラーの御意志によって影響力を有し、アッラーがそれらを雨が降るための原因として創造され、特定の星が現れた際に雨が降るよう、アッラーが組織付けたと信じるのであれば、それは小シルクを犯すことになります。これはなぜなら、何も明白かつ論理的、あるいは宗教的根拠なしにそれらの星々が何かの原因であると決め付ける（占星学）という事実からです。

しかしながら、星々を研究して季節を正確に観測することにより、一年の内のどの時期に雨が降りやすいかどうかなどを見極めること（天文学）は合法です。

49 罪には何種類あるのですか？　罪には二種類存在します。大罪と小罪です。1）大罪（カバーイル）に含まれるものとは、現世においてその行為に対する処罰が規定されたもの、あるいは来世においての処罰が関連付けられているもの、あるいはアッラー

1　このハディースにより、アッラーに誓いを立てることはマクルーフ（忌避すべきもの）とされます。なぜならそれは、あたかも人が崇拝行為をするのは、彼の希望が満たされたからだけである感になるからです。そしてもしその希望が叶わなければ、彼はその行為を行なわなかったでしょう。しかしながら、もしもアッラーに誓いを立てたのであれば、それは果たされなければなりません。

2　それは実際には大半の場合、シルクであると見なされます。なぜならその人が、墓やワリーに対し誓ったことにより彼の希望が叶うと信じることがその行為の前提となっているからです。

3　どんな誓いであれ、認可されないものを果たすことは許されません。預言者ﷺは言われています。“誰であれアッラーに服従すると誓いを立てたのであれば、服従するべきであす。しかしアッラーに服従しないと誓ったのであれば、その者は服従すべきです。”（アル＝ブハーリー収録）
また彼は仰りました。“誓いには二つあります。アッラーのため。その償いはそれを果たすことであ

の御怒り、または呪いに値する理由であると述べられているもの、またその行為を犯せば信仰が無効になると警告されているものです。2) 小罪(サガーイル)とは、上述のものには当てはまらない全ての罪のことです。

50 小罪が大罪となる原因はありますか？　はい。小罪が大罪になる原因は沢山存在します。例えば、断固としてそれらを行うこと、それらを何度もしつこく行ない続けること、それらを大したことではないと考えること、それらを自慢し、公然と行うことなどです。

51 悔悟に関する裁定は何ですか？いかにしてそれらは認めますか？　過ちを認識した直後に悔悟することは義務です。罪を犯すことに関しては、人間性の一部であるため、それ自体は重大な問題ではありません。預言者ﷺは言われました。“誰でも過ちを繰り返すものです。過ちを繰り返す者たちの中でも最善の者たちは、たびたび悔悟をする者たちです。”(アッ＝ティルミズィー収録)

また、彼は言われました。“あなた方がもし全く罪を犯さないのであれば、アッラーはあなた方を一掃し、罪を犯しつつも、アッラーの御赦しを求める別の民に取って代えられたでしょう。そしてかれは、彼らのことを御赦しになったでしょう。”(ムスリム収録)

問題は、継続的かつ頑迷に罪を犯し続けることなのであり、それらに対する悔悟を遅延することなのです。アッラーは仰せられました。“実に、アッラーが悔悟を御赦しなされるのは、知らずに悪事を犯したが、直ぐ後で悔い改める者だけである。”【4:17】

悔悟が認められるには、四つの条件が存在します。1) その罪の完全放棄(その罪を行なっている最中であれば)。2) 罪を犯したことに対する後悔の念。3) その罪を将来、繰り返さないという決意。4) その罪が他人の権利に関わっている場合、不正が行なわれた人々に対する権利の回復を遂行する。

52 悔悟は全ての罪に対して行なわねばなりませんか？悔の期間はいつ終わりますか？悔悟する者の報奨とは何ですか？　はい。悔悟は罪を犯す度に行なわねばなりません。死の間際となったり、または太陽が西から昇ったりしない限り、[1]アッラーは悔悟をお受け入れになります。もし人が悔悟を求めることに関して切実であれば、例えその罪が空にも届く程の多さでも、彼の罪は善行へと代えられるでしょう[2]。

53 ムスリムが指導者たちに負う連帯義務とは何ですか？　ムスリムたちは自分たちがそれに満足するしないに関わらず、指導者に従わねばなりません。たとえ彼らが不正であったとしても、反抗することは不法なのです[3]。また、彼らに背いたり、呪ったり、彼らに不利な祈願をしてもなりません。

その代わり、人々は彼らが公正になり、成功するよう正しく祈るべきなのです。同様に人々は彼らがアッラーに対する不服従を強いない限りは、彼らに対する服従がアッラーに対する服従そのものであると理解すべきなのです。

もしもムスリム指導者の誰かがアッラーに対しての不服従を強いた場合、その事柄に関しては服従してはなりません。しかしながら彼は依然として、他に善いことを命じる限り服従されるべきなのです[4]。預言者ﷺは言われました。“指導者の言うことを聞き、服従しなさい。たとえ彼があなたの背を打ち、財産を取り上げたとしても言うことを聞き、服従しなさい。”(ムスリム収録)

54 アッラーによる戒律と禁忌の裁定に関する英知に関して質問することは許されま

1　審判の日の大きな兆候の一つとして、太陽が東からではなく、西から昇るというものがあります。そうなればもう悔悟は受け入れられなくなり、例えその後にイスラームを受け入れたとしても、その信仰は受け入れられません。

2　この法的根拠は、次のアッラーの御言葉です。“悔悟して（イスラームを）信仰し、善行に励む者は別である。アッラーはこれらの者の、いろいろな悪行を変えて善行にされる。アッラーは寛容にして慈悲深くあられる。”【25：70】

3　彼らがムスリムである限り、彼らに反抗することは認可されません。

4　一般的裁定として、預言者ﷺが次のように言われています。“アッラーへの不服従においては、それが誰であっても服従してはいけません。服従とは、既知の善行に対してのみなのです。”（アル＝ブハーリーとムスリム収録）

すか？　はい。質問者がその英知を知ることによってのみ、彼の信仰と服従において満足するということでなければ、それは許されます。

戒律や禁忌に潜む英知を知ることは、信仰者が真実に確固としてすがることを促します。しかし質問をしない絶対的服従こそは、アッラーとかれの完璧なる英知に対する完全な信仰と献身の証拠であり、これが教友たちの状態だったのです。

55　次のアッラーﷻの御言葉の意味は何ですか？　“あなたに訪れるいかなる幸福も、アッラーからのものである。しかしあなたに起こるいかなる災厄も、あなた自身からのものである。”【4:79】上記の「幸福」は祝福を意味し、「災厄」は厳しい試練を意味します。それらのどちらもアッラーのカダル（定命）によるものです。しかしながら、幸福がアッラーに帰属されるのはかれこそが人々にそれを授ける御方であるからです。

災厄も同様にアッラーによる創造ですが、それは無意味なものではなく、賢明なる目的があります。この見地によれば、災厄でさえもアッラーが人々に授けたものだと見ることが出来ます。なぜならかれは決して悪を行なわず、かれの全ての行為は善いものであるからです。預言者ﷺは（祈願して）言われました。“全ての善はあなたの御手にあり、悪があなたに帰属されることはありません。”（ムスリム収録）

人々の行動はアッラーにより創られ、それと同時に人々によって行なわれるのです。アッラーﷻは仰せられました。“それで施しをなし、主を畏れる者、また至善を実証する者には、われは（至福への道を）容易にしよう。だが強欲で、自惚れている者、至善を拒否する者には、われは（苦難への道を）容易にするであろう。”【92:5-10】

56　誰かを殉教者（シャヒード）と呼ぶのは認められますか？　ある人を殉教者であると述べるのは、その人が楽園にいると主張するのと同じことです。スンナの徒[1]は、預言者ﷺが我々にそのことを知らせたのでない限り、誰かが楽園、もしくは火獄にいると名指しすることはありません。

その理由は、人が死んだ理由の秘密、そしてその究極的な真実と、人の最後の所業によってどのような審判が待ち受けているかを知ることは出来ないからです。更には、アッラー以外には内なる意図を知ることは誰にも出来ないからです。

しかしながら、正しい人々は良い報酬を受け、不正を行う人々は処罰を受けるだろうと我々は予期します。

57　特定のムスリムを不信仰者であると決め込むことは認められますか？　そのことを証明することが出来ない限り、またはその人物の置かれた状況にそれを否定するいくつかの要因が存在する限りは、ある特定のムスリムを不信仰者、多神教徒、または偽信者であると決め込むことは許されません。むしろ、我々は彼がムスリムであると見なし、彼に関する裁決をアッラーに委ねるのです。

58　カアバ以外の場でタワーフを行うことは認められますか？　我々がタワーフを許されている唯一の場所は聖なるカアバであり、世界中のいかなる神聖な場所であれ、聖なるカアバに類似させてはなりません。

誰であれカアバ神殿以外の場所において、そこへの敬意を示す意図でタワーフを行なうのであれば、彼はアッラーへの不服従を犯したことになります。

59　最後の日（復活の時の直前）の大きな兆候は何ですか？　預言者ﷺは言われました。”「それはあなた方が十の兆候を見るまでは訪れないでしょう。」そして彼はそれらを述べました。1)噴煙、2)ダッジャール（偽キリスト）、3)　怪獣、4)西から昇る太陽、5)マリアの息子、イエス（ﷺ）の降臨、6)ヤアジュージュとマアジュージュ（ゴグとマゴグ）、7)東西、そしてアラビア半島における三カ所の地滑り、8)そして最後

1　スンナの徒とは、初期の三世代のムスリムと彼らの後の誠実な学者たちの理解に従い、イスラームの源泉であるクルアーンとスンナに追随する人々のことを指します。

には人々を召集の地へと追いやる、イエメン地方からの燃え盛る炎である。"（ムスリム収録）

60 人類に降りかかる最大の試練は何ですか？　預言者ﷺは言われました。"アダムの創造時から最後の日まで、ダッジャール（偽キリスト）よりも大きな試練はないだろう。"（ムスリム収録）

ダッジャールとは最後の時に現れる、人間の男性です。彼の眉間には、信仰者であれば誰でも認識することの出来る、"カーフィル（不信仰者）"という文字が記されています。彼は片目であり、右目は萎んだ葡萄のように見えます。彼はまず自分の正直さを主張し、それから預言者を名乗り、次いで自らの神性を主張します。彼は特定の人々を訪れて彼らに対し呼びかけますが、彼らは彼を否定し、その主張を拒絶します。彼らの富は彼によって知らぬままに奪われ、彼らが朝起きた時には、彼らには何も残っていないでしょう。その後彼は他の者たちへと呼びかけます。彼らはその呼びかけに応じ、彼が真実であると言うでしょう。彼は空に雨を降らすよう命じ、地に草木を生やすよう命じ、それらは実際に起こります。彼は水と火と共にやって来るでしょう。彼の水は火であり、彼の火は水なのです。

信仰者は各礼拝の後、彼に関する試練に対してアッラーの御加護を求めるべきであり、もしも存命中にこの試練に遭遇するようなことがあったら、彼に対してアル＝洞窟章の初めの数節を読むべきです。また預言者ﷺが我々に命じられたように、信仰者は彼との遭遇を避け、彼の試練を恐れるべきです。"誰であれダッジャールのことを聞いたら、彼と距離を保ちなさい。アッラーに誓って、ある男は自分が信仰者であると信じて彼に向かいますが、結局は彼が創り出す大いなる疑念によって、彼に従うことになるでしょう。"（アハマドとアブー・ダーウード収録）

ダッジャールは地上に四十日間留まります。しかしそこにはまるで一年間のような一日、まるで一ヶ月間のような一日、まるで一週間のような一日が含まれ、残りの日々は通常通りのものになります。また彼は地球のあらゆる場所を回りますが、マッカとマディーナには入れません。そしてやがてイエス（عليه السلام）が降臨し、彼を倒します。

静かな対話

アブドッラー[1]という名の男性が、アブドン＝ナビー[2]という名の男性と出合い、それに関しておかしく感じました。"アッラー以外を崇拝し、かれ以外に従属することがなぜ出来るだろうか？"それでアブドッラーはアブドン＝ナビーにこう話しかけました。"あなたはアッラー以外を崇拝しているのですか？"アブドン＝ナビーは答えました。"いいえ。私はアッラー以外の何者も崇拝しません。私はムスリムであり、アッラーのみを崇拝しています。"

アブドッラー：それではなぜ、あなたの名前はアブドル＝マスィーフ[3]などに代表される、キリスト教徒のような名前なのですか？彼らはイエス（ﷺ）を崇拝している為、彼らにとってこのような名前は珍しくありません。あなたの名前を耳にする人々は、ただちにあなたが預言者ﷺを崇拝しているのだと思うでしょう。これは預言者ﷺに対するムスリムの信条に反します。ムスリムたちはムハンマドがアッラーの使徒であると信じますが、一方で彼は単なるアッラーのしもべであり、かれの崇拝者であったとも信じなければならないのです。

アブドン＝ナビー：しかし預言者ムハンマドﷺは人類における最善の御方であり、彼は全使徒の長です。私たちはこの名前をつけることによって、そこから祝福を得て、彼の高められた地位と特別な身分によってアッラーに近づこうとしているのです。私たちは預言者ﷺの地位と身分によって彼の執り成しを求めています。それだけではありません。私の兄弟の名はアブドル＝フセイン[4]で、父の名はアブドッ＝ラスール[5]です。こうした名前を付けることは、私たちの古くからの、古い伝統なのです。この件に関してあまり厳しくしないで下さい。この問題は重大なものではありませんし、宗教は簡単であるべきです。

アブドッラー：これは最初の件よりも深刻ですね。あなたはアッラーのみがお与えになるものを他者から求めるのですか？アッラーのみがお与えになりうる事柄に関して預言者ﷺや、あるいは彼よりも低い地位にあるフセインやその他の誠実な人々に呼びかける行為は、私たちが履行を命じられているタウヒードに完全に反する行為です。これは「ラー・イラーハ・イッラッラー」という証言の意味に、真っ向から反します。

これらの名前で呼び合うことの恐ろしい結末と、この問題の重要性を示す例をあなたに紹介しましょう。私の意図は、真実を明らかにしてそれに従うこと、虚偽を明らかにしてそれを避けること、そして善を勧め、悪を禁じること以外の何ものでもありません。アッラーが唯一の援助者であり、私たちはかれに全面的に依拠しています。アッラー以外によるいかなる威力もありません。しかし私が話す前に、アッラーの御言葉を紹介させて下さい。"本当の信者たちは、裁きのため、アッラーと使徒に呼び出されると、「畏まりました。従います。」と言う。"【24:51】

また、アッラーは仰せられました。"あなた方は何事に就いても異論があれば、アッラーと終末の日を信じるのなら、これをアッラーと使徒に委ねなさい。"【4:59】

さて、あなたはアッラーが唯一であると述べ、「ラー・イラーハ・イッラッラー」と証言しますが、その意味を説明することが出来ますか？

アブドン＝ナビー：タウヒードとは、アッラーの存在、かれによる楽園と火獄の創造、かれが生と死を与えること、かれによる全ての創造の管理、そしてかれが供給者であり、また維持者であり、全知全能、崇高であることを全て信じることです。

アブドッラー：もしもタウヒードがそれだけであるのなら、ファラオや彼の民、アブー・ジャハルやその他の人々は一神教徒だということになります。彼らはアッラーの存在に

1　アブドッラーとは、アッラーのしもべ・崇拝者という意味です。
2　預言者のしもべ・崇拝者という意味。
3　メシア（イエス）のしもべ・崇拝者という意味。これはアラブ人キリスト教徒に一般的な名前です。
4　フセインのしもべ・崇拝者という意味。フセインは預言者の孫であり、アリーの息子です。
5　使徒のしもべ・崇拝者という意味。

対して無知ではありませんでしたし、大多数の多神教徒もまたそうです。自らの神性を主張したファラオでさえ、心の底ではアッラーの存在と、創造の管理がかれに属することを信じていたのです。その証拠として、アッラーﷻはこう仰せられています。“彼ら(ファラオ)は心の中ではそれを認めながら、不義と高慢さからこれを否認した。”【27:14】

この認知は、彼が溺れる際に明確になっています。実際にアッラーが諸使徒を遣わされ、諸聖典を啓示され、クライシュ族[1]との戦いが行なわれたのは、崇拝行為においてアッラー以外のものを排除するタウヒードのためだったのです。崇拝行為の定義とは、アッラーがお好みになり御満悦される、あらゆる外面的及び内面的な言葉や行動のことです。

また「ラー・イラーハ・イッラッラー」という証言の「イラーハ」という言葉は、真に崇拝されるべき対象を意味します。それ故「ラー・イラーハ・イッラッラー」とは、アッラー以外の何ものも崇拝しないという意味なのです。

あなたは、なぜアッラーがノア(ﷺ)を初め、諸使徒を地上に遣わされたかを知っていますか？

アブドン=ナビー:多神教徒に対してアッラーのみの崇拝を呼びかけるため、そしてかれに帰属させられたあらゆる偶像を破棄させるためです。

アブドッラー:そうです。それから、ノアの民はどのような形でシルクを犯していましたか？

アブドン=ナビー:分かりません。

アブドッラー:アッラーがノアを彼の民に遣わしたのは、彼らがワッド、スワー、ヤグース、ヤウークやナスル[2]といった敬虔な者たちを過剰に称えていたためです。

アブドン=ナビー:ワッドやスワード、またその他の者たちは不信仰者たちの邪悪な指導者たちの名前ではなく、敬虔な者たちだったということですか？

アブドッラー:その通りです。彼らはノアの民が崇拝の対象とした敬虔な者たちでした。その後、アラブ人も彼らの風習を倣ったのです。

アブドン=ナビー:あなたの言っていることは実に聞き慣れないことですね！

アブドッラー:更に聞き慣れないことを言いましょうか？最後の預言者であり、私たちの指導者であるムハンマドﷺがアッラーによって遣わされた人々というのは、罪を犯した時にはアッラーにお赦しを乞い、アッラーを崇拝し、カアバの周りをタワーフし、サファーとマルワの丘の間のサアイを行ない、ハッジを行ない、喜捨を施していたのです。彼らはこれら全てを行っていましたが、天使や聖人たちを彼らとアッラーとの間の仲介者に仕立て上げていたのです。彼らはその仲介者たちによってアッラーに近づくことを望み、彼らの執り成しを求めていたのです。

ムハンマドが彼らに遣わされたのは、彼らの父祖であるイブラーヒーム(アブラハム)の宗教を復活させる為であり、そして彼らに対して彼らの信仰と崇拝行為はアッラー以外の何者に対しても向けられるべきでなく、アッラーのみの為に捧げられるべきだと告げることだったのです。そしてかれのみが創造者であり、かれ以外のいかなる者もそれらの権利を有することは無いのです。かれは唯一の供給者、維持者なのです。七天と七つの世界、それらが取り巻くあらゆるものは、全てかれが支配し、管理しているのです。彼らが神々と呼んで崇めているものでさえ、彼らがアッラーの支配と管理下にあることを事実上認めているのです。

アブドン=ナビー:あなたが話しているのは本当に聞き慣れないことばかりです。それらの証拠はあるのですか？

アブドッラー:証拠は沢山あります。そのうちの一つとして、アッラーﷻはこう仰せられています。“(人々に)言ってやるがいい。「天と地から、あなた方に用度を供給するのは誰か。聴覚や視覚を司るのは誰か。また死んだ物から、生命をもたらし、生から死をもたらせ

1　預言者の時代に初期のムスリムを迫害したアラブの部族。
2　ヌーフ章参照。

られるのは誰か。また全ての事物を規制統御するのは誰であるのか。」彼らは必ず「アッラー」と言おう。言ってやるがいい。「何故あなた方は、主を畏れないのか。」”【10:31】

また、アッラーはこうも仰せられています。“言ってやるがいい。「大地とそこにある全てのものは、誰のものであるか。知っているなら（言ってみなさい）。」彼らは必ず、「アッラーのものである。」と言うであろう。言ってやるがいい。「あなた方は、まだ気が付かないのか。」言ってやるがいい。「7つの天の主、栄光に満ちた至高の玉座の主は、誰であるのか。」彼らは必ず、「アッラー。」と言うであろう。言ってやるがいい。「あなた方はなお畏れないのか。全ての事物の統御は、誰の手にあるのか。（万有を）守護し、（誰からも）守護されない方（は誰か）、あなた方が知っているならば、（言ってみなさい）。」彼らは必ず「アッラー。」と言うであろう。言ってやるがいい。「それならあなた方は、どうして惑わされたのか。」いや、われは真理を下したのである。彼らは本当に嘘付きである。”【23:84−90】

これらの多神教徒はハッジの際、アッラーに対しこう唱えていました。“アッラーよ、あなたの御許に馳せ参じました。あなたの御許に馳せ参じました。あなたの御許に馳せ参じました、あなたに並ぶものはありません。あなたが所有する者以外には。あなたは彼と、彼の所有を全て有しているのです。”

この様に、多神教徒のアラブ人達はアッラーが単独で全宇宙の諸事を司っていること、つまりタウヒード・アッ＝ルブービーヤという信条を認めてはいましたが、これだけでは彼らがムスリムになることはありませんでした。　彼らが不信仰者である所以とは、アッラーへより近づく為に諸天使、諸預言者、その他の聖人といった存在の執り成しを意図しつつ祈願をしていたという事実なのです。それ故、全ての祈願、宣誓、犠牲、救済の以来やその他全ての崇拝行為は、アッラーのみへと向けることが義務なのです。

アブドン＝ナビー:もしタウヒードの意味があなたの言う様に、アッラーの存在の認知、そして彼の全宇宙の完全支配を認めるだけではなければ、他にどういう意味があるのですか？

アブドッラー:アッラーが諸使徒を遣わされ、諸聖典を啓示されたのは、アッラーのみへの崇拝を指示するタウヒードの為でした。当時の多神教徒はこれを拒否していたのです。このタウヒードが要求することとは、祈願、宣誓、犠牲、救済や援助の頼み等のいかなるものに関しても、アッラー以外の存在を崇拝の対象としないということです。これは「ラー・イラーハ・イッラッラー」という言葉の中で意図されているタウヒードです。

多神教徒達は「イラーフ」という言葉が、諸天使、諸預言者、諸聖人、木々、墓、もしくはジン[1]であれ、彼らが崇拝をする全対象であることを理解していました。彼らは「イラーフ」という言葉が創造主、供給者、統治者だとは理解していませんでした。なぜなら既述の通り、彼らはアッラーのみがこれらの特徴を備えていることを知っていたからです。預言者ﷺは彼らに対し、この「ラー・イラーハ・イッラッラー」というシャハーダにおけるタウヒードの言葉、そしてただそれを口先で述べるだけでなく、その実践における履行の義務を伝えるために遣わされたのです。

アブドン＝ナビー:あなたはあたかも多神教徒であるクライシュ族が、今日の多くのムスリムよりもこの言葉の意味に関して知識があったと言っているようですが。

アブドッラー:そうです。これが悲しい現実なのです。無知な不信仰者達でさえ、預言者ﷺがこの言葉において、アッラーのみを崇拝し、アッラー以外に崇拝されるあらゆるものの拒否と不信仰を意味していたこと知っていたのです。

預言者ﷺが彼らに対して「ラー・イラーハ・イッラッラー！」と言った時、アッラーが言及されているように、彼らはこう言ったものなのです。“彼は多くの神々を、一つの神にしてしまうのですか。これは全く、驚きいったことです。”【38:5】

しかしながら、彼らはアッラーが全宇宙を支配する唯一の御方だということを信じていました。最も無知な不信仰者や多神教徒ですらこの事実を知っているのであれば、現在

1　ジンとは人類に類似する不可視の創造物であり、自由意志を持っています。“精霊”や“魂”という言葉で一般的に知られています。

自分たちをムスリムだと主張する沢山の人々がこの言葉の意味を知らないということは実に奇妙なことなのです。

大勢のムスリムは、イスラームとは単にこのタウヒードの言葉の意味も知らずに口頭で唱えることだけであると思っています。無知なクライシュ族の多神教徒達でさえラー・イラーハ・イッラッラーの意味を知っていたというのに、ただ口先だけでイスラームを信仰していると主張するような人々からは一体何が期待出来るでしょうか！

アブドン＝ナビー：しかし私はアッラーに何者をも配しません。実際私はアッラー以外に創造者、供給者、維持者はなく、同位者や配偶者のないアッラー以外にはいかなる者も私たちを利害する力がないことを証言します。また私はムハンマドﷺでさえ私たち、更には彼自身をも利害する力は備えておらず、アリー、フセイン、アブドル＝カディール・アル＝ジーラーニーやその他の者たち、預言者ﷺより地位の低い者達も同様であると証言します。しかし私は罪深い人間であり、これらの聖人たちはアッラーの御許で特別な地位を有しているので、私は彼らに対し、彼らの特別な地位による執り成しを求めるのです。

アブドッラー：既に私が述べた様に、預言者ﷺが戦った人々は、あなたの今言ったことさえ認識していたとクルアーンには述べられています。彼らは、彼らの偶像はこの宇宙においていかなる面においても何らの力を有さないことを知っていましたが、ただそれらの特別な地位による執り成しだけを求めたのです。私は既にクルアーンから、この証拠を提示しています。

アブドン＝ナビー：しかしそれらの節々は偶像を崇拝している人々に関して啓示されたのですよ！あなたは諸預言者や諸聖人を偶像と同等視しているのですか？

アブドッラー：既に私が述べた様に、それら一部の偶像はノア（عليه السلام）の時代同様、特定の聖人から名前を取られているのです。不信仰者達がそれらの執り成しを求めたのは、ただそれらがアッラーの御許で高い地位を有していると信じたからなのです。この証拠は次のアッラーﷻの御言葉です。“だがかれを差し置いて（他に）保護者を求める者は、「私たちが彼ら（偶像、神々）に仕えるのは只私たちがアッラーの御側に近づくためである。」と言う。”【39：3】

あなたの主張する、「あなたは諸預言者や諸聖人を偶像と同等視しているのですか？」という質問に対する答えは、次のアッラーの御言葉にあるように、預言者ﷺが遣わされた時代の一部の不信仰者は諸聖人に対して祈願していたと言う事実です。“誰が最もアッラーの喜びに近づけるのか、彼らが祈っているものたちでさえ、かれの慈悲を待望し、懲罰を恐れている。本当に主の懲罰こそ、用心すべきである。”【17：57】

その他の人々は、次のアッラーﷻの御言葉にあるよう、イエス（عليه السلام）や彼の母マリアに対して祈願していました。“またアッラーがこのように仰せられた時を思え。「マルヤムの子イーサーよ、あなたは『アッラーの他に、私と私の母とを2柱の神とせよ。』と人々に告げたか。」かれは申し上げた。「あなたに讃えあれ。私に権能のないことを、私は言うべきでありません。”【5：116】

また一部の多神教徒たちは次のアッラーの御言葉が示すように、諸天使に対し祈願していました。“一斉に彼らを召集なされる日。かれは天使たちに向かって仰せられよう。「これらの者は、あなた方を崇拝していたのか。」”【34：40】

これらの節々では偶像を崇拝する人々、そして諸天使、諸預言者、諸聖人を崇拝する人々に対し、アッラーが不信仰者と同等であると見なされていることが証明されています。あなたはこのことを良く熟考するべきです。預言者ﷺはこれらの人々を区別せずに戦ったのです。

アブドン＝ナビー：不信仰者はそれらから利益を求めていましたが、私はそうしません。私はアッラーのみが利害をもたらし、全てを支配されている御方であると証言します。私はアッラーﷻ以外にこれらのことを求めません。諸聖人にはこれらを施行する力がありません。私はただ彼らに対し、アッラーの御前で私のための執り成しをしてくれるよう望んでいるのです。

アブドッラー:あなたの言っていることは、不信仰者たちが言っていたことと全く同じなのですよ。アッラーﷻの御言葉がその証拠です。“彼らはアッラーの他に、彼らを害せず、また益のないものに仕えて、「これら(の偶像・神々)は、アッラーの御前で私たちを執り成すものです。」と言う。”【10:18】

アブドン＝ナビー:しかし私はアッラー以外の何者をも崇拝しません。彼らの助けを求め、祈願をすることは崇拝行為ではありません！

アブドッラー:あなたに尋ねますが、あなたはアッラーがあなたに対して全ての崇拝行為を純粋にアッラーのみに行なうよう義務付けられたこと、そしてそれはアッラーの権利であるということを認めますか？アッラーは次のように仰せられています。“彼らの命じられたことは、只アッラーに仕え、かれに信心の誠を尽し、純正に服従、帰依して、礼拝の務めを守り、定めの喜捨をしなさいと、言うだけのことであった。”【98:5】

アブドン＝ナビー:はい、その通りです。アッラーはこれを私の義務とされました。

アブドッラー:それではあたなに尋ねます。アッラーがあなたに対して義務とされたことを説明出来ますか？純粋にアッラーのみを崇拝するということはどういう意味だと思いますか？

アブドン＝ナビー:この質問の意味がよく分かりません。

アブドッラー:私の言うことを理解出来るよう、注意深く聞いてください。アッラーﷻは仰せられました。“謙虚にまた目立たない隠れたところで、あなた方の主に祈れ。かれは教えに背く者を御好みになられない。”【7:55】

　祈願することはアッラーに対する崇拝行為ですか？

アブドン＝ナビー:はい、これは崇拝の基本行為です。ハディースにはこうあります。“祈願とは崇拝行為である。”(アフマド、アブー・ダーウード収録)

アブドッラー:あなたがそれを崇拝行為であると認めるのであれば、もしあなたが報奨を求め、畏敬の念で昼夜アッラーに祈願したとして、それからあなたが預言者、天使、または墓地で聖人に同じ要望の祈願をすれば、この崇拝行為であなたはアッラーに他者を配したことになりますか？

アブドン＝ナビー:はい、そうすれば私はアッラーに他者を配したことになります。それは正しく、明解です。

アブドッラー:別の例を挙げましょう。アッラーﷻはこのように仰せられています。“さあ、あなたの主に礼拝し、犠牲を捧げなさい。”【108:2】

　あなたがそれを理解し、このアッラーの指示を動物の犠牲を捧げることにより従うのなら、その犠牲を捧げるという行為はアッラーのための崇拝行為ですか？

アブドン＝ナビー:はい、それは崇拝行為です。

アブドッラー:ではあなたが預言者、またはジン、あるいはアッラーと並べて他者に対して動物の犠牲を捧げることは、アッラーに対して同位者を配したことになりますか？

アブドン＝ナビー:はい、それは間違いなくシルクです。

アブドッラー:私がこれら二つの祈願と犠牲を捧げる行為の例を挙げたのは、祈願は最も重要な言葉による崇拝の一つであり、犠牲を捧げる行為は最も重要な行為による崇拝の一つだからです。

　しかしながら崇拝行為はこれら二つの種類に限られている訳ではありません。実際には宣誓したり、御加護を求めたり、救済を懇願したりと様々な様式があるのです。

　それではクルアーンが啓示された当時の多神教徒たちは、諸天使、諸聖人、偶像のアッ＝ラートその他を崇拝していましたか？

アブドン＝ナビー:はい、していました。

アブドッラー:彼らは祈願、犠牲、御加護を求め、救済の懇願をし、それらに全面的に依拠すること以外の崇拝行為を行なっていましたか？彼らは自身がアッラーのしもべであり、

かれの完全な統制下にあり、アッラーが全てを支配している事実を認識しつつも、それらの高い地位ゆえにアッラー以外のものたちの執り成しを求め、彼らに祈願し、頼っていたのです。この事実は日の目を見るよりも明らかです。

アブドン＝ナビー：あなたは預言者ﷺの執り成しを否定するのですか？

アブドッラー：いいえ、私は全くそれを否定している訳ではありません。彼は現実に執り成しをするのであり、彼の執り成しは認められるのです。

私は彼の執り成しに期待しています。しかしこの執り成しの事実は完全にアッラーの指示に基づいているのです。かれﷻは仰せられました。“言ってやるがいい。「執り成し（の許し）は、全てアッラーに属する。”【39：44】

執り成しはアッラーのお許しのみによって認められるのです。かれﷻは仰せられました。“かれのお許しなくして、誰がかれの御許で執り成すことが出来ようか。”【2：255】

アッラーのお許しがない限りは、預言者ﷺでさえも絶対に執り成すことは出来ません。かれﷻは仰せられています。“…かれが受け入れる者の他は、執り成しをしない。”【21：28】

そしてアッラーが次のように仰せられているように、かれはタウヒード以外は御満悦されないのです。“イスラーム以外の教えを追求する者は、決して受け入れられない。また来世においては、これらの者は失敗者の類である。”【3：85】

もし私たちが、全ての執り成しは完全にアッラーによる指示、そしてただかれのお許しのみによるのであることに同意し、また預言者ﷺ自身、あるいは他の誰であれ、アッラーが認可されなければ誰を執り成すことも出来ず、更にこの執り成しは真にアッラーのみの崇拝（タウヒード）を行なう者に許されるのであることに同意するのであれば、執り成しはアッラーのみに属する権利であることが明確なはずです。

この理由により、私はアッラーに、かれの預言者ﷺの執り成しを次のように求めます。「アッラーよ、私から預言者の執り成しを奪わないで下さい」「アッラーよ、私はあなたに彼が私のために執り成しをしてくれることを求めます」

アブドン＝ナビー：祈願を叶えることが出来ない誰かに何かを求めることは許可されない、ということに私たちは同意しましたが、アッラーは預言者ﷺに執り成しの権利をお与えになりました。そのため、彼にはそれを実行する力があります。それによって私は彼が可能に出来ることを彼に求めることが許可されており、またこうすることにより彼をアッラーに配しているわけではありません。

アブドッラー：それは、もしアッラーがそれをお許しになったのであればの話です。しかしアッラーは仰せられています。“それでアッラーと同位に配して他の者に祈ってはならない。”【72：18】

執り成しを求めるということは、一種の祈願なのです。預言者ﷺに執り成しの権利をお与えになった御方（アッラー）は、私たちに対し祈願の際にはかれ以外にはそれがいかなる人物や物体であっても呼びかけることを禁じられたのです。

また別の重要な点として、執り成しが預言者ﷺ以外の人々にも認められるということがあります。なぜなら諸天使、思春期の前に死んだ子供たち、そして諸聖人なども同様に執り成しの権利が与えられるからです。それではアッラーが彼らにも執り成しを許可するからといって、彼らに執り成しを求めることは認められるでしょうか？

もしあなたが肯定すれば、あなたは再びアッラーがクルアーンにおいて述べられた諸聖人の崇拝に逆戻りしたことになります。そしてあなたがそれを否定するのであれば、前にあなたが「預言者ﷺに対し、アッラーが彼に権利を授けられたために彼の執り成しを求めることが出来る」という主張は無効になります。

アブドン＝ナビー：しかし私はアッラーへの崇拝に他者を配しません。諸聖人の助けを求めることはシルクではありません。

アブドッラー：あなたはアッラーの崇拝におけるシルクの禁止が姦通・不貞の禁止より

も重大であり、アッラーはシルクの罪をお赦しにならないことを認めますか？

アブドン＝ナビー：はい、認めます。その事実はクルアーンにおいて非常に明確です。

アブドッラー：あなたはたった今、あなたがシルクを犯すことを否定しました。あなたはアッラーに誓って、あなたの言うシルクの種類と何を犯していけないのかを私に説明して頂けないでしょうか？

アブドン＝ナビー：シルクとは偶像の崇拝であり、自己をそれらに向けることであり、それらから何かを求めたり、または畏れたりすることです。

アブドッラー：では偶像の崇拝とは何ですか？あなたはクライシュ族の不信仰者たちはそれらの木片や石像が供給し、それらに対し祈願する者たちの諸事を管理していると信じていたと思いますか？私が説明したように、彼らはそう信じてはいなかったのです。

アブドン＝ナビー：私もそうは信じていません。私は偶像崇拝とは木片や石、墓やその他に自己を向け、祈願したり犠牲を捧げたりし、それが行なわれるのはアッラーに近づくため、あるいはそれらの行為がもたらす祝福から害を遠ざけるためだと主張することです。

アブドッラー：そうです。これは人々が石や墓などで行なっている行為です。また、あなたはシルクが偶像の崇拝であることに触れましたが、あなたが意味するのはそれが言及された行為のみに限られ、諸聖人を頼りにし、彼らへの祈願はシルクには分類されないということなのですか？

アブドン＝ナビー：はい、そういう意味です。

アブドッラー：それではこれらの、諸預言者、諸聖人や諸天使を頼ることの不法性を明確に述べ、そしてそれを行なう人々の不信仰を指し示すクルアーンの節々をどのように解釈するのですか？

アブドン＝ナビー：諸天使や諸預言者に対し祈願する人々はこの理由によって不信仰者と呼ばれた訳ではありません。彼らが不信仰者になったのは、諸天使をアッラーの娘たち、そしてイエス・キリストをアッラーの息子と呼んだからです。私たちはアブドル＝カーディルをアッラーの息子と言ったり、ザイナブをアッラーの娘とは言いません。

アブドッラー：アッラーに子女がいると宣言することは、私たちが話しているものとは全く異なる種類の不信仰です。アッラーﷻは仰せられています。“言え、「かれはアッラー、唯一なる御方であられる。アッラーは、自存され、御産みなさらないし、御産れになられたのではない”【112：1–3】

誰であれこれを否定する者は不信仰者であり、例えこの章の最後の部分を否定しなくともそうなのです。“かれに比べ得る、何ものもない。”【112：4】

また、アッラーはこのように仰せられています。“アッラーは子をもうけられない。またかれと一緒の別の神もない。そうであったら、それぞれの神は自分の創ったもので分裂しお互いに抜き出ようとして競い合う。アッラーに讃えあれ。（かれは）彼らの配するものを（超越される）”【23：91】

それ故、アッラーはこれら二つの不信仰を区別されています。別の根拠としては、多神教徒が祈願の対象にしていたラート（有名な多神教徒の偶像）が誠実だったからといって、彼がアッラーの息子になるわけではないのです。

同様にジンを崇拝する人々は、それらをアッラーの息子たちにするわけではありません。四大法学派であるハナフィー、マーリキー、シャーフィイー、そしてハンバリー学派の書物はそれぞれ背教と背教者に関する章を置き、誰であれアッラーが子女を有すると主張する者はイスラームから背教した者であるとし、また誰であれアッラーに同位者を配する者も同じく背教者であるとしています。これは、彼らがこれら二つの多神論を区別していたことを示しています。

アブドン＝ナビー：しかしアッラーはこう仰せられています。“アッラーに親しい者には本当に恐れもなく、憂いもないであろう。”【10：62】

アブドッラー：それは事実です。しかし彼らは崇拝されるべきではありません。それらは今

や、アッラーと並べて崇拝されているのです。

しかしアッラーに親しい者を愛し、それらの良い手本に従うのは私たちの義務でもあります。私たちは彼らを拒否する一部の離反者とは違い、彼らにまつわる奇跡的出来事を認めなければなりません。アッラーの宗教であるイスラームとは両極の中道なのです。

アブドン＝ナビー：クルアーンの啓示が下された時代の人々は「ラー・イラーハ・イッラッラー」という信仰証言をしませんでした。彼らはまた、アッラーの使徒ムハンマドﷺの預言者性をも拒否しました。彼らは審判の日やクルアーンの正当性を否定し、それらが何らかの魔術であると主張しました。

一方私たちはアッラー以外に神はなく、ムハンマドがアッラーの使徒であると証言します。私たちはクルアーンを信じ、来世と復活を信じ、礼拝、斎戒をします。いかにしてあなたは、私たちが彼らのようであると言うことが出来るのですか？

アブドッラー：もし誰かがアッラーの使徒ﷺの正当性を認知する一方で彼を罵つのならば、彼は不信仰者でありイスラームの範疇内にはいないという学者間の意見の一致があります。

同様に、この原則はクルアーンの一部を信じ、別の一部を信じない者にも当てはまります。またはタウヒードと礼拝の義務を認知しつつも喜捨の義務を拒否する者、あるいはこれら全てを認知しつつもラマダーンの斎戒を拒否する、またはハッジの義務を拒否する者にも当てはまるのです。

預言者ﷺの時代の一部の人々がハッジの義務を履行しなかった際に、アッラーは彼らに関する啓示を下されています。“この家への巡礼は、そこに赴ける人々に課せられたアッラーへの義務である。背信者があっても、まことにアッラーは万有に（超越され）完全に自足されておられる方である。”【3：97】

誰であれ、復活を否定する者は不信仰者であるということは、ムスリム間で一致した意見です。それゆえアッラーはかれの書において、誰であれイスラームにおける一部の事柄のみを信じ、別の部分を信じないような者は疑いなく不信仰者であると明確にされているのです。

ムスリムは、イスラームにおける全ての規定を遵守するよう命じられています。あなたはイスラームの一部の規定のみを信じ、別の部分を信じなかいような者たちが不信仰者であると認めますか？

アブドン＝ナビー：はい、認めます。それはクルアーンの中でも明確です。

アブドッラー：それ故、預言者ﷺが正当であると主張しつつも礼拝の義務を否定する者、またはイスラームの全てを認めつつも復活を否定するような者は四代法学派全てにおいて不信仰者であり、クルアーンの中においてもそれは明確なのです。

タウヒードは預言者ﷺによりもたらされた義務の中でも最も重要なものであり、それは礼拝、喜捨、斎戒や巡礼よりも重要なのです。例えその人物が残りのイスラームの義務を果たし、預言者に従ったとしても、全ての預言者の宗教であるタウヒードを否定することが不信仰でないということが出来るでしょうか？！アッラーに讃美あれ！それは何という無知でしょうか！

預言者ﷺと共にイスラームを受け入れ、アッラーの他に神はなくムハンマドはアッラーの使徒である、と証言し、礼拝やその呼びかけをしていたヤマーマ[1]のハニーファ一族と預言者ﷺの教友たちが戦った事実を熟考してください。

アブドン＝ナビー：しかしその人々はムサイリマがアッラーの預言者だと証言したのです。私たちはムハンマドが最後の預言者であると言います。

アブドッラー：しかしあなた方はアリー・ブン・アビー・ターリブやアブドル＝カーディル・アル＝ジーラーニーやその他の者たちを預言者や天使の位に高め、さらにはアッ

1　これはタウヒードとムハンマドの預言者性を証言しながらも、ムサイリマという偽預言者にも重きを置き、彼がアッラーの啓示を受けたと主張した部族です。

ラーと同位にまで配したりもします。

もし誰かが何者かを預言者ﷺと同位に配することが不信仰と見なされ、その人物が背信者と見なされるとするのなら、彼の信仰証言や礼拝は彼を益しないことになります。誰かを神性の位階にまで高めることは更なる冒涜です。

他の点としては、もしも先人達を不信仰者であると判断する理由が、彼らの預言者、クルアーン、復活などへの不信仰、加えてシルクを犯したことによるのであれば、全法学派の学者たちが著した"背信者に対する判決"に関しては何と言いますか？彼らは様々な種類の不信仰に触れた後、それぞれが、そしてそれのみによりその人物をイスラームの枠組みから外すと裁定しています。これらの中には一部の人々にとって行なったとしても大したことではないと映るもの、例えばアッラーのお怒りを買う言葉を、実際に信じてはいなかったとしても冗談半分や嘲笑的に言ったりすることが含まれます。

それらの人々に関して、次のクルアーンの節が啓示されています。"言ってやるがいい。「あなたがたは、アッラーとかれの印と使徒を、嘲笑していたではないか。」「弁解するには及ばない。あなたがたは確かに一度信仰に入って後、不信心になった。"【9:65-66】

彼らは、言った事柄に関しては本気ではなく単に冗談であったと主張しました。しかしアッラーは、彼らが預言者と共にタブークの遠征に同行したにも関わらず、彼らがムスリムになった後に不信仰に陥ったと明確に宣言されたのです。

別の例として、預言者ﷺの教友たちがノン・ムスリムによって崇拝されていた木の側を通りかかった際、彼らは預言者にノン・ムスリムと同じような木を指定するよう求めました。預言者ﷺはその時、彼らの要求はイスラエルの民がモーゼに対して求めたこととそっくりだと、アッラーにかけて謹厳な宣誓をしました。アッラーは仰せられています。"彼らが持っている神々のような一柱の神を、わたしたちに置いてくれ。"【7:138】

アブドン＝ナビー：しかしイスラエルの民とその木に対して彼らの武器をぶら下げるよう頼み、縋ろうとした人々は、単にその要求から彼らが不信仰者になったわけではありません。

アブドッラー：彼らはその要求を実行しなかったために不信仰者にはなりませんでした。もし彼らがそれを実行していれば不信仰者になっていたでしょう。もしそれらの預言者ﷺが咎めた者達が、預言者ﷺに逆らい、禁止された後にその木を得たのであれば、彼らは不信仰を犯したことになったでしょう。

アブドン＝ナビー：私はウサーマ・ビン・ゼイドに関する逸話に関して悩みを抱えています。彼は"ラー・イラーハ・イッラッラー"と叫んだ後に（戦闘において）ある人物を殺害しました。預言者ﷺは彼にこう言って非難しました。"ウサーマよ！あなたは彼がラー・イラーハ・イッラッラーと言った後に殺したのですか？"

また預言者ﷺはこのようにも言われています。"私はすべての人々がラー・イラーハ・イッラッラーと言うまで彼らと戦うよう命じられています。"

これら二つのハディースと、あなたが先ほど言ったことはいかにして調停されるでしょうか？私をお導き下さい、そしてアッラーがあなたをお導きなりますよう。

アブドッラー：預言者ﷺがラー・イラーハ・イッラッラーと言うユダヤ人と戦ったことは良く知られています。教友たちは、アッラー以外に神はなく、ムハンマドはアッラーの使徒であると証言し、礼拝さえ行なっていたムサイリマの追従者と戦いました。

あなたが今認めたよう、復活を否定する人々は不信仰者なのです。同様に、イスラームの柱のいずれかを否定する者は、たとえ彼がラー・イラーハ・イッラッラーと言ったとしても不信仰者なのです。いかにしてイスラームの根幹を否定する人々がこのラー・イラーハ・イッラッラーという言明をし、それが受け入れられないのと同時に、すべての預言者により説かれた最も重要な基礎であるタウヒードを否定する者たちに認められるでしょうか？

私はあなたがこれらのハディースを正確に理解しているとは思えません。このウサーマのハディースで預言者ﷺが彼を非難したのは、ラー・イラーハ・イラッラーと言ってイ

スラームに改宗した後に彼を殺害したからです。ウサーマはこの男が命を恐れたために言っただけだと思ったのです。

誰であってもイスラームの信仰を主張する者はそれに反する行為をしない限りは守られるべきです。アッラーは仰せられています。“信仰する者よ、あなたがたがアッラーの道のために出動するときは、(慎重に)事態を見きわめ、あなたがたに挨拶する者に向かって、「あなたがたは信者ではない。」と言ってはならない。あなたがたは現世の生活上の消えやすい財貨を求めるが、アッラーの御許にはおびただしい戦利品がある。以前あなたがたもそうであったが、アッラーは御恵みを与えられる。だから(慎重に)行動しなさい。誠にアッラーは、あなたがたの行うことを熟知なされる。”【4:94】

あなたが触れた2番目のハディースは同じ意味を伝えます。イスラームとタウヒードを公言する誰であれ、その人物がそれに反する行為をしない限りは行動に移さないということです。

この主張は預言者が同じくウサーマに対して言った言葉により裏付けられています。“あなたは彼がラー・イラーハ・イッラッラーと言った後に殺したのですか？”

…そしてこうも言われています。“私はすべての人々がラー・イラーハ・イッラッラーと言うまで彼らと戦うよう命じられています。”

…またハワーリジュ派に対してもこう言われています。“どこであれ彼らを見つければ殺害しなさい。”

…ハワーリジュ派の人々は、預言者の教友たちが自分たちの崇拝を彼らと比べて卑下するほど熱烈な崇拝とアッラーの称賛をしていたのです！

ハワーリジュ派は教友たちから学び、イスラームを証言し、多様な崇拝を行なっていましたが、これらすべては彼らがイスラーム法を明確に犯した際、教友たちが彼らを殺すことの抑制にはなりませんでした。

アブドン＝ナビー:それでは、人々がアダム、そしてノア、そしてアブラハム、そしてモーゼ、そしてイエスから助けを求めるであろうという真正ハディースの報告の事実に関してあなたは何と言いますか？彼らは皆弁明をし、最終的に人々はムハンマドの助けを求めるのです。これはアッラー以外から助けを求めることはシルクではないことを示しています。

アブドッラー:あなたは物事を混乱させています。私たちは現存する人物から助けを求めることは、その人物に援助の能力があれば間違いではないことを認めます。

これはアッラーがモーゼ()に関して仰せられたことに類似しています。“かれの一派の者が、敵方の者に対し、かれに加勢を求めた。”【28:15】

またこれは戦時、もしくはその他の諸事において、彼らの能力が許すのであれば誰かが他者の助けを求めることと類似しています。

私たちが咎めるのは崇拝行為と見なされる種類の助けの懇願であり、諸聖人の墓地における懇願、または彼らが現存しない場合、そして彼らに対してアッラーにしか出来ないものを求める場合です。

しかしながら復活の日に人々は、審判が開始されるよう、そしてその場の悲惨な状況を天国に入る人々のために楽にしてもらえるよう、アッラーへ祈願してくれるよう諸預言者たちの助けを求めるのです。この種の懇願は、現世でも来世でも認められています。それは例えば、あなたがある敬虔な人物に実際に出会い、“私のためにアッラーへ祈願してください。”と頼むことです。

これは預言者の教友たちがその人生の中で行なったことと同じなのです。しかし彼が逝去したあと、彼らはそれを止めたのです。アッラーがそのような冒涜を禁じられますように。彼らは預言者の墓でそのようなことは一度もしませんでした。歴史を遡っても学者

たちは単に預言者ﷺの墓においてアッラーへと祈願すること[1]さえ非難してきました。

アブドン＝ナビー：イブラーヒーム（ﷺ）が炎の中に投げ入れられた時の逸話があります。彼が炎に向かって投げられ、炎に入る直前の空中でジブリール（天使ガブリエル（ﷺ））が現れたことに関してあなたは何と言いますか？ジブリールは彼に尋ねました。"あなたは助けが必要ですか？"彼はこう答えました。"もしそれがあなたからなのであれば、私にはそれが必要ではありません。"

もし助けを懇願することがシルクであれば、ジブリールはそれをイブラーヒームに申し出なかったでしょう。

アブドッラー：このいかがわしい主張は先程のそれと同じものです。さらにその伝承は真正でさえありません。

しかし、それが真正であったとしても、ジブリールはこの出来事において彼を助ける能力が実際にあったのです。アッラーは仰せられています。"ならびない偉力の持主（ジブリール）が、かれ（ムハンマド）に教えたのは"【53:5】もしアッラーﷻがジブリールに対し炎を取り、その周りと山々を取って東西のどこかに投げることを許可したのであれば、かれにそうすることは出来たでしょう。ここでは、裕福な人物が貧しい人物の必要としているお金を貸そうと申し出たが、その貧しい人物はそれを拒否し、代わりにアッラーの供給を待って、いかなる人物も彼に対する優位性や功績を取らせないようにするかのようなものなのです。これはそのような崇拝、そして現在では一般的にシルクと見なされる懇願とは比べようがないのです。

兄弟よ、あなたは預言者ムハンマドﷺが遣わされる前の人々は現在の人々が犯すシルクよりも軽いものを犯していたことを知るべきです。これは三つの原因が考えられます。

1. 過去の多神教徒は生活が楽な時のみアッラー以外のものを崇拝し、苦境に陥るとアッラーのみへと祈願したのです。これは次の節において証明されています。"かれらは船に乗っていると、アッラーに信心の誠を尽くして祈る。だがかれが、陸に無事に送って下さると、たちまちかれらは偶像を拝みだし、…"【29:65】

アッラーﷻはこうも仰せられています。"大波が天蓋のようにかれらを覆う時は、アッラーに祈り、誠を尽くしてかれに傾倒しなさい。だが、かれらを無事陸地に着かせると、かれらの中の或る者は、（善と悪の中間の）あやふやな状態になる。だが二心ある者、不信心な者の外は、誰もわれの印を否定しない。"【31:32】

預言者ﷺが戦われた多神教徒たちはアッラー、そしてその他に対し、安楽な状態においてのみ祈願していました。困難な状態になるとアッラーのみに祈願し、その他の神を破棄したのです。しかし今日の多神教徒たちは安楽、困難に関わらずアッラー以外に祈願するのです。もしも彼らに困難がもたらされると、彼らはこう叫びます。"ヤー・ラスールッラー！（おお、神の使徒よ！）"、"ヤー・フセイン！"そしてさらに他者に祈願するのです。不幸にもごく僅かな人々しかこの点を理解していないのです。

2. 過去の多神教徒たちはアッラーのもとで真に高い地位を有する真に敬虔な人々、例えば諸預言者、諸聖人、諸天使、もしくは最低でも石や木などのアッラーに従順な創造物に対して祈願していました。しかしながら現在の多神教徒たちは最も不道徳、かつ邪悪な人々（彼らの独裁者や邪悪な指導者など）に対する祈願をするのです。

諸聖人、または神に従順である木や石に対するこれらの信念を持つ人々は、その悪や腐敗において知られている人々に対する信念を持つ者たちよりは上なのです。

3. 預言者ﷺの時代においてシルクを犯した大半の人々は、アッラーの独占的に崇拝される権利（タウヒード・アル＝ウルーヒーヤ）を犯したのであり、かれの支配と主権（タウヒード・アッ＝ルブービーヤ）を犯したわけではないのです。しかしながら今日では人々はアッラーの支配と主権とならんで独占的に崇拝される権利さえ犯しているのです。例え

1　そうする人々は、その祝福された場所により、アッラーが彼らの祈願を認可する可能性が増加すると考えているのです。

ば彼らは“自然”が宇宙の諸事をコントロールし、生死などをもたらす存在だとします。

それではこれまでに触れてきた大きな問題をそれぞれ挙げて締結しようとおもいます。

タウヒードが心において信じられ、言葉によって言明され、行動によって実行される信仰である事実に不一致はありません。もしこれらのどれかが履行されなければ、その人はムスリムではないのです。もしもその人物がタウヒードを認めつつも実行をしない場合、彼はファラオやイブリース[1]のような(真実を知りながらも傲慢に反抗をした)頑迷な不信仰者なのです。

多くの人々はこの件に関し、ここで触れられたことは真実であり正しいと主張しますが、彼らは居住地の法律や人々の慣習でそれが認められないという環境により、それを実際に履行しないという過ちを犯します。危害を加えられないよう、彼ら同士で合意を交わし、彼らをおだてなければならないと言うのです。

しかしこの件に関して議論をする人物は、大部分の不信仰者のリーダーたちは真実を知っているが、粗末な説明をするだけで履行をしないということを理解していないのです。アッラーは彼らに関して仰せられています。“かれらは僅かな代償でアッラーの印を売り、（人びとを）かれの道から妨げた。本当にかれらの行ったことは、大悪である。”【9:9】

同様に、誰であれタウヒードを公言しつつもそれを理解せず、心で信じていると思い込んでいる者は偽信者であるとされます。こういった人物ははっきりとした不信仰者よりも劣ると見なされるのです。これはアッラーの御言葉により証明されています。“本当に偽信者たちは、火獄の最下の奈落に(陥ろう)。あなたはかれらのために、援助する者を見いだせない。”【4:145】

この問題は過去の人々に関する教訓を考えれば明確になります。一部の人々はカールーンのように、真実を知りながらも世俗的財産を失うことを恐れて履行しませんでした。またハーマーンのように社会的地位、あるいはファラオのように権力・領土を失うことを恐れる者もいました。

また偽信者のように外面的にはタウヒードを認めつつも内面では信じない者もいるでしょう。彼らに対して何を本当に信じているのかを尋ねても、彼ら自身も分からないのです。

ここでアッラー ﷻの書から、ふたつの節を理解することがきわめて重要になります。“言ってやるがいい。「あなたがたは、アッラーとかれの印と使徒を、嘲笑していたではないか。」「弁解するには及ばない。あなたがたは確かに一度信仰に入って後、不信心になった。”【9:64-65】

もしも預言者ﷺと共にビザンチンへと遠征した者達がたとえ冗談でも口から出た言葉によって不信仰になったのであれば、資産を失うことによる恐れ、地位や権力、もしくは誰かに対するおだてから不信仰の言葉を発するのなら、それはもっと悪い種類のシルクなのです。

その理由としては、通常何かを冗談で言う者は、発言したことを信じている訳ではなく、他者をよろこばせる目的で言うのです。他方で、創造物に対する欲望、もしくは恐怖から不信仰の発言や行為をする者は、真に悪魔の約束を信じているのです。アッラーは仰せられています。“悪魔は貧窮をもってあなたがたを脅し、また恥じ知らずの行いを命じる。”【2:268】

…そしてその処罰を恐れたのです。アッラーは仰せられています。“かの悪魔は、かれの追従者たちを、恐れさせるだけである。”【3:175】

またこの人物はアッラーの約束を信じず、畏れないのです。“だがアッラーは寛容と恩恵をあなたがたに約束されておられる。”【2:268】

“だからかれら(悪魔とその追従者たち)を畏れないでわれを畏れなさい。”【5:3】

1　イブリースとは悪魔の名前です。

既述の人物の状況がその通りだとしましょう。彼はアッラーの友人・同盟に入れられるでしょうか。それとも悪魔の友人・同盟なのでしょうか？

次の節はアッラーによる御言葉です。“アッラーを信仰した後、信仰を拒否する者。ただし心に信仰を堅持し、安心大悟している者で強迫された者の場合は別である。不信を表わして満足する者、かれらにはアッラーの激怒が下り、厳しい懲罰があろう。これはかれらが、来世よりも現世の生活を愛しているためで、アッラーは信仰を拒否する民を御導きにならない。”【16:106–107】

アッラーは信仰に堅固な者が強制的にされたのではない限り、不信仰の行ないやその言葉を宣言する者に対しては誰であれ、お赦しになりません。

彼らは不信仰者であり、その行為が恐れによるものや欲望、誰かに対するおだて、あるいは母国や家族、部族、資産への愛、冗談によるものなどの理由に関わらず、赦されないのです。既述の節にあるよう、唯一赦される者は強制的に言わされた者、または行なわされた者のみです。

しかしながら、この節が示しているのは、人が強制されるのは不信仰の言行だけであり、特定の教義を内面的に信じ込まされることは絶対にないのです。アッラーは仰せられています。“これはかれらが、来世よりも現世の生活を愛しているためで、アッラーは信仰を拒否する民を御導きにならない。”【16:107】

…かれはこの節で、それらの人々が懲罰を受けたのは信仰や無知によるもの、宗教への憎悪や不信仰への愛ではないと明確にされています。彼らが懲罰を受けたのは世俗的享楽への愛であり、それを宗教の上に置いたことなのです。そしてアッラーが最も良く御存知です。

この辺でもう、あなたは主に悔悟し、かれに帰依し、あなたの行なっていることを止めるべきではないでしょうか。あなたはこの件がいかに重要かつ危険であるかをもう十分に聞いたではありませんか。

アブドン＝ナビー：私はアッラーのお赦しを求め、かれに帰依します。私はアッラー以外に崇拝に値する神はなく、ムハンマドがアッラーの使徒であると証言します。私は以前にアッラーと並べて崇拝していたものを破棄します。

また、私はアッラーが私の過去に対し容赦されることを懇願し、かれのご慈悲と哀れみによって私をお慈しみになること、そして来世でかれに御会いするまで私をタウヒードと正しい信条・信仰に堅固であるよう懇願します。私の兄弟アブドッラーよ、あなたが私にしてくれた誠実な助言、そして私の名前アブドン＝ナビーへの譴責に対し、私はあなたがアッラーから善い報奨を頂けるよう懇願します。実に宗教とは誠実な助言なのです。

私はこれから自分をアブドッ＝ラフマーン（最も慈悲深き者のしもべ）と呼ぶことを宣言します。私の間違った信仰に対して叱責して頂きありがとうございました。もし私がこの信仰を持ってアッラーに御会いしていたのであれば、火獄の懲罰から救われることはなかったでしょう。

最後にひとつお伺いしたいのですが、現在多くの人々が行なう非難の対象となるべき行為とは、外にどんなものがあるのでしょうか？

アブドッラー：もちろんお答えします。よく聞いておいてください。学者たちの意見に相違がある諸問題において、様々な意見を自分に都合良いよう解釈・採用し、それが試練となるようなことはしないで下さい。現実にはアッラーのみがそれらの問題の正しい解釈を御存知なのです。

確固たる知識を持つ人々に従って下さい。彼らにとって曖昧な意味を持つクルアーンの節々について、彼らはこう言うのです。アッラーは仰せられています。“それで知識の基礎が堅固な者は言う。「わたしたちはこれ（クルアーン）を信じる。これは凡て主から（賜わったもの）である。」”【3:7】

論争の的になる問題に関しては、預言者ﷺの御言葉に従う者たちのようであってください。“疑いのあるものに対しては、疑いのないものに代えなさい。”（アハマドとアッ＝テ

ィルミズィー）“疑い深い件を避ける者は、彼自身の宗教と名誉を守るのです。”（ムスリム）”あなたの心を乱すのは罪であり、それを誰かに見られることをあなたは嫌悪するのです。”（ムスリム）

…そして、“判断・決断を自らの心に求めなさい。判断・決断を自らの心に求めなさい（預言者ﷺはこれを三度繰り返しました）。善徳はあなたの魂を癒し、罪はそれを乱します。たとえ人々があなたに対する判決を下したとしてもです。（アハマド）

✸虚偽の欲望に従うことを止めて下さい。アッラーはこのように仰せられて注意を促されています。“あなたがたは自分の虚しい願望を、神様として崇めている者を見ないか。”【45：23】

　特定の人物や意見に関して狂信してはなりません。なぜならそれはあなたの真実への追従を妨げるからです。

✸真実とは信仰者のなによりも究極の目標であり、いったんそれが明確になれば、それに追従すべきなのです。アッラーﷻは仰せられています。“かれらに、「アッラーが啓示されたところに従え。」と言えば、かれらは、「いや、わたしたちは祖先の道に従う。」と言う。何と、かれらの祖先は全く蒙昧で、（正しく）導かれなかったではないか。”【2：170】

✸不信仰者たちへの盲目的追従に注意して下さい。預言者ﷺはこう言われています。“誰であれ人々を模倣する者は、その仲間なのです。”（アブー・ダーウード）

✸アッラー以外へと全面的依拠・確信を寄せることに注意して下さい。かれﷻは仰せられています。“アッラーを全面的依拠する者には、かれは万全であられる。”【65：3】

✸アッラーへの不服従が伴う場合、いかなる創造物に従ってはなりません。預言者ﷺは言われています。“創造主への不服従が伴うのであれば何らかの創造物に従うことは認可されません。”（アハマドとアル＝ハーキム）

✸アッラーに対して悪い考えを持つことに注意してください。アッラーはハディース・クドスィー（預言者ﷺにより報告されたもの）において仰せられています。“われは、われのしもべの期待に応える者なのである。”（アル＝ブハーリーとムスリム）

✸悪魔から身を守る目的で、または何かが起こる前や起こった後にそれを治癒する目的などで魔除け・お守りなどの類似品を身に付けることから注意してください。

✸護符や幸運を招くお守りなどを、邪視を避ける目的で身に付けることに注意してください。それは偶像崇拝の一形態なのです。預言者ﷺは言われています。“何かを身に付ける者（お守り、魔除け等）は放っておかれるのです。”（アハマドとアッ＝ティルミズィー）

✸木々、石、建物、遺跡や人工物から祝福を求めることから注意してください。これはシルクの一形態なのです。

　縁起を担ぎ、実際にそれに基づいた行為をすることに注意してください。これはシルクの一形態であり、預言者ﷺはこう言われています。“縁起を担いで実行に移すことはシルクです。縁起を担いで実行に移すことはシルクです。縁起を担いで実行に移すことはシルクです。”（アハマドとアブー・ダーウード）

✸魔術師、占星家、および不可視の知識を主張する者（占い師、易者など）を信じないよう、注意してください。多くの雑誌や新聞には彼らの予言に欄が設けられ掲載されています。これらの主張を真実とすれば、それはシルクであり、アッラー以外には誰も不可視の世界をご存知ではないのです。

✸雨が降るのは特定の星々が起因しているとする主張から注意してください。これはシルクです。アッラーのみが降雨をもたらすのです。

✸それが誰であれ、また何であれアッラー以外に対して誓いを立てることから注意してください。これはシルクです。預言者ﷺは言われています。“アッラー以外において誓いを立てる者は、誰であれ不信仰となり、シルクを犯したのです。”（アハマドとアブー・ダーウード）

　これは預言者の名や信頼性、地位、加護、あるいは命にかけて誓いを立てることも含ま

れます。

✸時間、または風、熱波や寒波など自然現象を呪うことから注意してください。実にそれは、それらを創造し、その効果を定めたアッラーを呪うことと同様の行為なのです。

✸なにか不愉快なことが起きた後に'もしも…だったなら'と言うことから注意してください。これはあなたに対する悪魔の扉を開け、アッラーの天命(カダル)への対立を起こすのです。

何かが起きた時にはこう言いましょう。"アッラーはそれをお定めになり、かれがお望みであればそれは起きるのです。"墓地をモスクとすることから注意してください。そして墓地のあるモスクでは礼拝をしないでください。アッラーの使徒はこう言われています。"実に、あなたがたより以前の人々は、彼らの諸預言者の墓地を崇拝の場として使っていました。私はあなたがたが墓地を崇拝の場として使用することを禁じます。"(ムスリムとアブー・アワーナ)

✸預言者ﷺが語ったとされる偽造の報告に騙され、それが真実であると肯定することに注意してください。特にそれが特定の人物からのタワッスルであるとされる場合や、その人物の国の敬虔な人々からだと主張される場合です。この件に関しては数多くの悪質な嘘があり、それらには"私の地位によりワスィーラ(アッラーへ近づく)を求めなさい。なぜなら私の地位はアッラーの御許において偉大だからです。"といった主張や、"あなたが危機的状況に陥った場合、墓地に眠る人々から助けを求めなさい。"また、"アッラーは墓地に眠るすべてのワリーに対して天使を遣わせ、(彼らに祈願する)人々の需要を満たします。"そして、"あなたがたが石に対して良い感情を抱くのなら、それはあなたを益するでしょう。"などの主張が含まれます。

✸預言者の聖誕祭、アル=イスラーとミィラージュの夜(夜の旅と昇天)、シャアバーン月の中間の夜などの人々によって捏造された、いわゆる宗教的行事を祝うことに注意してください。これらを祭日とする根拠は、預言者ﷺ、教友たち、また私たちよりも彼らを愛し、善行に熱心だった人々からも存在しないのです。もしそれらの祭日に少しでも徳があったのであれば、教友たちは競ってそれらを行なったでしょう。

信仰証言
ラー・イラーハ・イッラッラー

“ラー・イラハー・イッラッラー“は楽園へのカギであることが伝承されています。しかし、これを言うだけで誰にでも楽園の扉が開かれるのでしょうか？

ワハブ・イブン・ムナッビフは次のような質問をされました。“「ラー・イラーハ・イッラッラー」は本当に楽園へのカギなのでしょうか？」彼は答えました。”はい。しかしすべてのカギには刻みがあります。もしもあなたのカギに正しい刻みがあれば、扉は開かれるでしょう。もしあなたのカギに正しい刻みがなければ、扉は開かれないでしょう。”

必ず必要な正しい刻みは何であるかは、預言者ﷺからの多数の伝承により報告されています。例えば彼ﷺはこう言われました。“誰でも‘ラー・イラーハ・イッラッラー’と心から言う者です。”また、このようにも言われています。“心に確信を持ち…”また、“心から切実に…”とも言われています。これらの伝承は、このカギが楽園の扉を開くには、‘ラー・イラーハ・イッラッラー’が意味することへの服従が必要とされ、そして日常生活におけるその絶え間ない実践が求められることを明確にしています。

クルアーンとスンナからの根拠により、イスラーム学者たちは、この言葉が楽園へのカギとなり、それを言う人物を益するには、特定の条件が満たされ、特定の要素が伴わないことが必須とされると結論付けています。

これらの条件は以下の通りです。

❶知識：これは無知の反対語です。すべての言明には意味があるように、人はラー・イラーハ・イッラッラーの意味を知らねばなりません。この言葉の意味とは、アッラーのみが崇拝に値することを証言し、それ以外の崇拝の対象をすべて拒否することです。それゆえ、この言葉は“アッラー以外には何者も崇拝に値しない”という意味なのです。次のアッラーﷻの御言葉は、人はその意味をしねばならない根拠です。“只真理を実証する者は別である。かれらは（使徒を）知っている。”【43：86】

また、預言者ﷺは言われました。“誰であれ、アッラー以外に崇拝される権利がないこと（ラー・イラーハ・イッラッラー）を知りながら死んだ者は楽園に入るのです。”

❷確信［疑念の対義］：確信とはアッラー以外に崇拝される権利はないこと（ラー・イラーハ・イッラッラー）を、疑念を全く持たずに信じることです。アッラーﷻは真の信仰者をこのようにご説明されました。“本当に信者とは、一途にアッラーとその使徒を信じる者たちで、疑いを持つことなく、アッラーの道のために、財産と生命とを捧げて奮闘努力する者である。”【49：15】

この言葉を単に述べるだけでは事足らず、その意味の完全な確信がなければなりません。そうでない場合は完全な偽信となります。預言者ﷺは言われました。“私はアッラー以外に崇拝をされる権利がなく（ラー・イラーハ・イッラッラー）、私はかれの使徒であることを証言します。これら二つ（の証言）に疑念のない者たちは、楽園のみが彼らの行き着く場所なのです。”（ムスリム）

❸容認：もしこの言葉に関する知識があり、それを確信しているのであれば、それを発言する人物には影響があるでしょう。すなわちその人物はイスラームを受け入れることにより、この言葉の求めるものを心と舌（発言）をもって受け入れるということです。誰であれタウヒードの呼びかけを拒否する者は、それを受け入れないのであり、つまりそれが傲慢、頑迷、嫉妬などから来る理由であれ、彼は不信仰者なのです。アッラーﷻはその傲慢さによりタウヒードを拒否した者に触れられています。“かれらは、「アッラーの外に神はありません。」と告げられると、いつも高慢になった。そして、「気狂い詩人のために、わたしたちの神々を捨ててなるものですか。」と言っていた。”【37：35–36】

❹追従：これはタウヒードへの完全なる追従です。これは信仰における本当のテストであり、外面的証明でもあります。それはすなわちアッラーが制定されたものに従い、かれの禁

じられたものを慎むことです。アッラーﷻは仰せられています。"誰でも善行に励み、真心を尽くしてアッラーに傾倒する者は、堅固な取っ手を確り握った者である。"【31:22】これは絶対的服従を意味します。

❺誠実：対義は嘘をつくことです。これは証言を誠実に述べることであり、誠実さに欠ける証言は偽信であるからです。この証拠はアッラーﷻの御言葉です。"…かれらは、心にもないことを舌の先で言う。"【48:11】

❻愛情：信仰者はこの言葉とそれに伴うもの、またこの言葉に従う人々を愛するべきです。この愛情のしるしとしては、たとえ自分の欲に反するものであれ、アッラーが愛されるものを優先することです。信仰者はアッラーとかれの使徒を愛し、アッラーとかれの使徒の敵を憎むべきなのです。そして使徒ﷺの例にならい、彼の導きを認めるべきなのです。

❼純粋な意図：これは、アッラーの御顔とかれの御満悦のみを求めてこの言葉を言う、という意味です。アッラーﷻは仰せられています。"かれらの命じられたことは、只アッラーに仕え、かれに信心の誠を尽し、純正に服従、帰依して、礼拝の務めを守り、定めの喜捨をしなさいと、言うだけのことであった。これこそ真正の教えである。"【98:5】

また、預言者ﷺはこう言われています。"アッラーは、'アッラー以外に崇拝に値するものはない'（ラー・イラーハ・イッラッラー）と証言し、かれの御顔（御満悦）を求める者には誰であれ、火獄を禁じられたのです。"（アル＝ブハーリーとムスリム）

私たちはこれらの条件をすべて念頭に置き、最後の息までこの言葉に従わねばなりません。

ムハンマドﷺはアッラーの使徒であることの証言

死者は墓の中で三つの質問を受けます。もし彼らがそれらの質問に正しく答えれば彼らは救われ、もしも間違えれば破滅が待ち構えます。これらの質問のひとつは、'あなたの預言者ﷺは誰か？'[1]というものです。これらの質問には、その証言の条件を満たす者、そしてアッラーがこの質問の答えを吹き込み、直面する試練への断固とした態度を授けられた者以外には答えることが出来ません。

これらの人々は、富や親族が助けてくれなくなる日（審判の日）に、利益をもたらされる者です。'ムハンマドﷺはアッラーの使徒である（ムハンマドゥッラスールッラー）'という証言に必要とされる条件は以下の通りです。

❶アッラーの仰せられる、預言者ムハンマドﷺへの服従。"使徒に従う者は、まさにアッラーに従う者である。"【4:80】

またアッラーﷻは次のようにも仰せられています。"言ってやるがいい。「あなたがたがもしアッラーを敬愛するならば、わたしに従え。そうすればアッラーもあなたがたを愛でられ、あなたがたの罪を赦される。アッラーは寛容にして慈悲深くあられる。」"【3:31】

これに加え、楽園へ入る認可は預言者ﷺへの服従も条件とされます。彼は言われています。"私の追従者の一団は、拒む者以外、楽園に入れられるでしょう。"彼らは言いました。"おおアッラーの使徒よ、拒む者とは誰のことでしょうか？"彼は言いました。"私に従う者たちは楽園に入り、私に従わない者たちは拒む者です。"（アル＝ブハーリー）

預言者ﷺを真に敬愛する者たちは彼に従わねばなりません。なぜなら従順さとは、愛に伴う自然な感情だからです。預言者ﷺを敬愛していると主張しつつも彼に従わない者たちは、その主張に偽りがあるのです。

❷預言者ﷺが私たちに与えた全ての知識への信念。誰であれ、真正の報告とされる彼の言葉を自分の都合や欲望によって偽りであるとする者は、アッラーとかれの使徒ﷺへ虚偽を配したのです。使徒ﷺは宗教における過ちから守られています。アッラーは次のように仰せられています。"また（自分の）望むことを言っているのでもない。それはかれに啓示された、御告げに外ならない。"【53:3-4】

❸彼ﷺの禁じられた、あるいは咎められたもの全てを避けること。まず第一に避けるべきものはシルクであり、次に大罪、それからマクルーフ（嫌悪されるべき事柄）です。信仰者が預言者ﷺを愛するほど、彼の信仰は増幅されます。信仰者の信仰が増幅すれば、アッラーは彼の中に善行への愛、そして不信仰、邪悪、不従順への憎しみを据えられます。

❹預言者ﷺにより定められた方法以外ではアッラーを崇拝しないこと。アッラーの使徒は、彼が教えた方法以外でのいかなる崇拝も認められなかったため、これは非常に重要です。彼は言われました。"誰であれ、私たちの宗教において何かを改新するのであれば、それは拒否されます。"（ムスリム）

それゆえ、あらゆる新奇な崇拝はアッラーにより認められません。

注意：預言者への愛情は、義務であるということを確信しなければなりません。彼への愛は一般的な愛情ではなく、自己愛を含め、あらゆるものの中でも最も確かな愛情でなければなりません。誰かがなにかを愛する時には、彼はその対象を自分自身の上におき、相思相愛の為の努力をするでしょう。それゆえ、預言者ﷺを真に愛する者は、その愛情が表に出て来るのです。その人は彼に従順で、スンナを履行し、命令を守り、彼の行為を倣います。その人は彼が禁じたものを慎み、イスラームの実践、またはそれ以外であれ実行に励み、苦楽において彼のように振る舞おうとします。従順さとは愛情からによる果実であり、それなくして愛は真実ではないのです。

1　残る二つの質問は"あなたの神は誰か？"、"あなたの宗教は何か？"

人が預言者ﷺを愛していることを示すしるしとは、以下の通りです。

1) 発言において彼のことをたびたび触れ、彼にアッラーの称賛を送ること。人がなにかを愛すときには、それを頻繁に触れるものです。

2) 彼に会いたいと望むこと。他者を愛する者は、愛の対象に会いたいと望むものです。

3) 彼の名前が触れられた際に敬意を表すること。イスハークは言いました。預言者ﷺの死後、教友たちが彼に触れる際、彼らは崩れ落ち、鳥肌を立てて咽び泣いたのです。

4) アッラーとかれの使徒ﷺが憎むものを憎み、アッラーとかれの使徒ﷺに敵意を示す者達に対して敵意を示すこと。また彼のスンナから背き、宗教に改新（ビドア）をもたらす者からも遠ざかるべきなのです。

5) 預言者ﷺの家族、彼の妻たち、移住者（ムハージルーン）や協力者（アンサール）からなる教友たちのように、預言者ﷺが愛した人々を愛し、そして彼らを憎み、敵意を示し、呪う者達を憎み、敵とすること。

預言者ﷺを愛しているしるしとは、彼の崇高な言動と品格を模倣することです。預言者ﷺはその言動において、人類に最良の手本を示しています。アーイシャは彼についてこう述べました。“預言者の言動は、クルアーンのそれと同じでした。”これは、彼がクルアーンの中で命じられていないどんな行為も行なわなかったという意味です。彼は人々の中で最も勇敢で、戦闘においても最たる勇ましさを示しました。彼は人々の中で最も親切でもあり、ラマダーン中にはさらに親切になりました。彼は他人に対して最も誠実であり、最も寛容でした。彼は一度も自分が被った不正への復讐をしたことがありませんでしたが、同時にアッラーの掟に関しては人々の中で最も厳しかったのです。彼は人々の中で最も謙虚で、穏やかな性格でした。彼は隔離された処女よりも控え目だったのです。彼は家族に対して最も優しく、創造物に対して最も慈悲深く、他者に対しても慈悲深くあるよう、促されました。アッラーよ、彼と彼の御家族、彼の妻たち、彼の教友たちと、誠実に彼に追従した人々に復活の日まであなたの称賛を送り、あらゆる害から彼らを遠ざけたまえ。

浄化

礼拝はイスラーム信仰における第二の柱であり、清浄な状態で行なわれなければ有効となりません。浄化は水、もしくは土類によって行なわれます。

水の種類:1)ターヒル:これはそれ自体が清浄できれいだと見なされる種類の水であり、他のものを浄化します。この種類は人の不浄な状態を取り除き、穢れを清めます。2)ナジャス:二種類の水はナジャスと見なされます。A)(たとえ少量であれ)不浄物の混ざった微量の水。B)不浄物の混ざった多量の水。そしてこの不純物により味、色、または匂いが変化している場合。

注意:大容量の水は、不純物によって色、味、匂いのいずれかの性質が変化しない限り不純とはなりません。しかし微量の水である場合は(その性質の変化の有無に関わらず)不純物が混ざった時点で不純であるとされます。およそ210リットルで多量であると見なされ、それ以下は少量とされます。

食器:(自分の家を)金、または銀以外の素材で作られたもの以外の食器や家具の使用、および装飾は認可されています。これらの用具で自らを浄化すること(そしてそれ以外の用途)は罪ですが、清浄さは保たれます。また不信仰者の食器や衣服を使用することは、それらが不浄である確証がない限り、認可されています。

認可されない動物の皮:食べることが認可されていない動物の皮は不浄とされます。それらの動物は二種類あります。1)たとえイスラーム方式の屠殺をされた場合でも食用が認可されない動物。2)非イスラーム方式の屠殺をされた場合のみ食用が認可されない動物。

しかしながら、後者の皮でもなめされた方法によっては、乾いた固体などの飲用以外での使用が許されています。

不浄物の除去:肛門、陰部から排出される不純物から自らを清める行為はイスティンジャーと呼ばれ、尿道と肛門をきれいな水で洗うことによって尿や大便などを除去します。石、葉、または紙が使用された場合はイスティジュマールと呼ばれます。

イスティジュマールの際に使用されるものは認可される類の清浄なもので、きちんと該当部をきれいに出来るものでなければなりません。食品の使用[1]は認可されず、最低三つ以上の石(および類似物)が使用されなければなりません。何かが肛門、陰部を通過した際に、イスティンジャー、およびイスティジュマールによって自らを清めることは義務行為です。

いつであれ、大小便などの生理的欲求を満たす際、必要以上にその場に留まること、また他者が使用する水の中、通路、人々が集う場、もしくは果実のなる木の元に用を足すことは禁じられます。同じくカアバ(キブラ)の方角を向いて用を足すことも禁じられています。

用を足す場にアッラーの御名が記されたものを持ち込むこと、用を足す最中に話をすること、もしくはひび、穴の中に排尿(または排便)することは(その中に動物の巣があるかもしれないため)嫌悪されます。また、右手で陰部を触れること、および建物内でカアバ(キブラ)の方角を向くこともされるべきではありません。しかし上記のすべては、必要に迫られた場合であれば認可されます。

浄化の過程においては、洗浄、拭い取りを奇数回行ない、石(か類似したもの)と水の双方を使用することが望ましいとされます。

スィワーク(ミスワーク):口と歯の浄化にスィワークを使用することは、預言者ﷺスンナです。これは特に礼拝の前、クルアーン朗誦の前、ウドゥーにおいて口をすすぐ際、モスクまたは家に入る前、またはいつでも口臭のある際に行うことが奨められています。

浄化の際、もしくはスィワークを用いる際には右側から始めることが好ましく、(不浄物などの)何かを除去する際には左手を使うことが望まれます。

---

1 骨やふんも含まれます。

清め(ウドゥー):ウドゥーにおける重要な要素[1]は以下の通りです。

1)顔の洗浄(1回)、そして口の濯ぎ(マドマダ)、鼻から水を吸い込み、吹き出す鼻腔のすすぎ(イスティンシャーク)が含まれます。

2)指先から肘までを含む、手から腕への洗浄。(1回)3)両耳を含んだ頭部全体の拭い。(1回)4)足の指先からくるぶしを含む、足首までの洗浄。(1回)5)ここまで述べられた通りの、順序正しいウドゥー。6)洗浄する部位から部位へと続く、長い休止を伴わない連続性。

ウドゥーの義務行為[2]は、開始の際に"ビスミッラー(アッラーの御名において)"と言い、朝目覚めた際、いかなる器の中に両手を入れるよりもまえに、両手を三回洗浄することです。

ウドゥーでの称賛に値する行為[3]は以下の通りです。✸スィワークの使用。✸顔の洗浄前に両手と両腕をひじまで洗うこと。✸顔の洗浄前(後ではない)に口と鼻腔をすすぐこと。✸斎戒中でないときの、念入りな口と鼻腔のすすぎ。✸髭の濃い男性はそこを濡れた手で拭うこと。✸身体の右側から始めること。✸各部を二回、あるいは三回洗浄すること。✸右手にすくった水を鼻腔から吸い込み、左手を使って排出すること。✸洗浄の際に身体の各部を擦ること。✸身体の各部をしっかりと洗浄すること✸完了の際、真正のハディースによるドゥアーを言うこと。

ウドゥーにおいて嫌悪される行為(マクルーハート)は、極端に冷たい、もしくは熱い水を使用すること、各部を三回以上洗うこと、各部に付いた水を振るい落とすこと、目の中まで洗うことが含まれます。ウドゥー後にタオルで拭くことに関しては認可され、マクルーフとは見なされません。[4]

注意:ただ単に口の中に水を含むだけ、あるいはすくった水を鼻に当てがうだけでは足りません。実際に口の中で水をすすぎ、鼻腔の中まで(においを嗅ぐように)水を吸い込まなければなりません。また、その水は(呼気によって)吹き出されなければなりません。これが唯一の正しい方法です。

ウドゥーの作法:✸心の中で意図(ニーヤ)をする。✸'ビスミッラー'(神の御名において)と言う。✸両手を洗う。✸口をすすぐ。✸鼻で水を吸い取り、吹き出す。✸顔を洗う。✸(指先を含めた)両手、そして両腕を肘まで洗う。✸前部から始め後部まで頭全体を拭う。✸耳の外側を拭き、ぬれたままの指先を入れて内部を拭う。✸足を(指先から)くるぶしの上まで洗う。

注意:もしも男性の髭が濃くないのであれば、その部分の皮膚は洗われなければならず、濃い場合は外的部分の洗浄で事足ります。

クフや靴下の上から拭う:両足を覆う革靴(靴下)、もしくはそれに類似したものはクフと呼ばれ、それがウール、もしくは類似した生地であればジャウラブ(靴下)と呼ばれます。

ウドゥーの際には、クフと靴下だけがその上を拭うことが許されています。

クフと靴下の上を拭うには、以下の条件が必要となります。1)それらはウドゥーやグスルを行った後の、清浄な状態の時に履かれていること。2)それらが履かれたのはウドゥーかグスル(タヤンムムは含まれない)を行った後の清浄な状態であること。3)洗浄される部位を完全に覆っていること。4)それらが認可されるものである(盗まれたものや禁じられた生地ではない)こと。5)それらには不浄物が付着していないこと。

ターバンの上を拭う:ターバンの上を拭うことは、次に述べられる条件によって認めら

1　重要な要素:ルクン(複. アルカーン)。意図的に行なわれなかった場合、ウドゥーのやり直しが求められるもの。

2　義務行為:ワージブ、またはファルド(複. ワージバート、ファラーイド)。意図的、無意識に関わらず、それらが行なわれなかった場合でもウドゥーやり直しの義務は発生しませんが、意図的に行なわれなかった場合は罪と見なされます。

3　称賛に値する行為:ムスタハッブ。これらの行為は報奨を受けますが、行なわなくとも罪ではありません。

4　一部の学者たちはタオルで拭うことが嫌悪されると見なします。

れます。1)男性であること。2)ターバンによって一般的に覆われる部分がきちんと覆われていること。3)それが行なわれるのはウドゥーのみであること(グスルは認められない)。4)それが着用されたのはウドゥーかグスル(タヤンムムは含まれない)を行った後の清浄な状態であること。

スカーフ(ヒマール)の上を拭うこと:女性が頭部の覆いを濡れた手で拭うことは、次に述べられる条件によって認められます。1)女性であること。2)顎の下まで巻かれる種類のものであること。3)それが行なわれるのはウドゥーのみであること。(グスルは認められない)4)それが着用されたのはウドゥーかグスル(タヤンムムは含まれない)を行った後の清浄な状態であること。5)スカーフによって一般的に覆われるべき部分がきちんと覆われていること。

クフ、靴下、ターバン、スカーフの上を拭うことの出来るのは、居住地での場合はそれらを着用して24時間以内であり、旅行者(礼拝の纏めが許される、85キロ以上の距離)であれば72時間となります。

居住地にいる者にとって拭うことが出来ると見なされるのは、最初にその生地を着用して拭った時間から、翌日の同じ時間まで(24時間)です。

拭いの範囲:クフの上を拭う際、濡れた手の指を少し開いた状態で、足の指先の位置からくるぶしまでとされます。

注意:もしも旅行中であると見なされる者が拭い、その後居住地に戻った場合、もしくはその逆の場合、もしくは最初にいつ拭ったのかを忘れてしまった場合、その人物は居住者と同様であると見なすべきです。

ギプスと包帯:ギプスや包帯等、傷口を覆うものは、次の条件を満す限り、その上を拭うことが出来ます。1)ギプスや包帯をする必要性がある場合。2)傷口を適切に覆う部位を必要以上に超過していない。3)ギプスや包帯が拭われつつも、他の部位は通常通りに洗われること。

ギプスや包帯が必要以上に施されている場合は、危害の恐れがない限り、超過している部分を取り外さなければなりません。

注意:✸両足のクフを拭う際には、右側から始めるよりも、同時に拭った方が良いとされます。✸クフの後ろ側や裏側(底)を拭うことは認可されておらず、これらの部位を拭い、必要な部位を拭わないのであればそれは事足りません。✸クフを拭う代わりに洗うこと、または1回以上拭うことは嫌悪されます。✸ターバンやスカーフに関しては、その大半を拭うことが必須です。[1]

ウドゥーを無効にするもの:1)陰部または肛門から、尿、大便、放屁、膿、血液、精液、前立腺液、体液など何かが排出された場合。2)睡眠や気絶などの意識の喪失。座っている際や立っている際の“うとうと”は含まれません。3)尿道もしくは肛門以外による尿や大便の排出。4)大量の出血など、尿や大便以外の不浄物が体内から排出された場合。5)ラクダの肉を食べた場合。6)(衣服などの)覆いの上からではなく、直接陰部に触れた場合。7)性的欲望を伴った状態で他者の陰部に触れた場合。8)イスラームからの背教。

清浄の状態であることを確信した後、その状態が破れたかもしれないという疑念が出た場合、どちらであれ自分が確信する状態に従うべきです。

沐浴(グスル):沐浴が必要となる事柄は以下の通りです。

1)欲望による射精後、または快感を伴うかどうかに関わらない夢精。2)亀頭部の外陰への挿入。射精の有無は関係ありません。3)イスラームへの改宗時。それが初めての時、または背教後かどうかは関係ありません。4)月経。5)産後出血。6)ムスリムの死亡時。

グスルの必須行為:大穢後に自らを清める意図を持ち、グスルを行うことは必須とされます。その後、口と鼻のすすぎを含めた全身を洗うのであれば十分です。

1　それは一部だけが拭われる、靴や靴下のようなものであると見なされます。

完全なグスルは次の８項目を必要とします。1)始める際に‘ビスミッラー’と言うこと。2)器に両手を入れる前に、それらを洗うこと。3)陰部の不浄物を洗い流すこと。4)ウドゥーを行うこと。5)頭に水を三度浴びせること。6)全身に水を浴びせること。7)両手で身体をこすること。8)身体の右側から始めること。

小穢の状態において禁じられた行為:1)クルアーンに触れること。2)カアバの周りをタワーフすること。

大穢の状態において禁じられた行為:1)クルアーンの朗誦。2)モスク(マスジド)に入ること。

大穢の状態において嫌悪される行為:1)性行為後にすぐ睡眠すること、またはウドゥーなしの射精。2)沐浴の際に水を無駄に流すこと。

乾燥沐浴(タヤンムム):タヤンムムの条件は以下の通りです。

1)水が無い、もしくは使えない状況で行なわれること。2)燃やされた、もしくは焦げた砂塵を用いないこと。

タヤンムムにおける必須要素:1)顔全体を拭うこと。2)両手を手首まで拭うこと。3)連続性。4)この順序通りに行なうこと。

タヤンムムを無効にするもの:1)ウドゥーを無効にする行為。2)タヤンムムが水の無い状況によって行なわれたのであれば、水が使えるようになった時点。3)元々タヤンムムを行うことを有効にした状況の変化、例えばある人物が病気によりタヤンムムを行なったのであれば、その回復。

タヤンムムにおいて称賛される行為:✸大穢の状態で自らを清めるために行なわれる場合、順序正しく、連続的に行なうこと。✸必要であってもなるべく遅延すること。✸ウドゥー完了の際に言われる同じドゥアーを言うこと。タヤンムムの際、砂塵を何度もはたくことは望ましくありません。

タヤンムムの作法✸心で意図(ニーヤ)して開始します。✸そして‘ビスミッラー’(神の御名において)と言います。✸そして両手で一回、砂塵を打ちます。✸次に両手のひらで顔と髭を撫でるように一度拭います。✸そしてまず左手のひらで右手の甲を拭い、次に右手のひらで左手の甲を拭います。

不浄物の除去:不浄物には三種類が存在します。

1)二種類の不浄な生物:

A)犬や豚のように汚れており、不浄(ナジャス)な動物とその派生、そして猫よりも大きな、食べることの禁じられた鳥類と動物。この部類に当てはまる動物の尿、糞、汗、精液、乳、粘液と嘔吐物は汚れており、不浄であるとされます。

B)純粋で清浄(ターヒル):純粋で清浄とされる生物には三種類があります。

a. 人間の身体の全部位は、精液、汗、唾液、粘液、母乳、そして女性器の湿り気を含め、清浄とされます。尿、大便、射精前に微量に出る透明な液体(カウパー線液)、前立腺液、血液は不浄とされます。

b. 食用に合法な動物、その尿、糞、汗、精液、乳、粘液、嘔吐物、射精前に微量に出る透明な液体、前立腺液は清浄とされます。

c. ロバ、猫やネズミなどの、人間にとっての食用が禁じられ、接触が困難な動物は、その唾液と汗以外は不浄とされます。

2)死骸:人間、魚、イナゴの死骸、そしてサソリ、蟻、蚊などの血流の無い昆虫以外、すべての死骸は不浄とされます。

3)無生物:土、石など生命の無いすべての物質は、上記されていない限り清浄とされます。

注意:✸あらゆる種類の血液、膿、傷口から出る分泌液は不浄ですが、清浄とみなされるものからの場合、礼拝中であれば少量は見過ごされます。✸清浄な血液には二種類ありま

す。魚の血、そして合法な動物の屠殺後に残った血は清浄とされています。✸生きた動物から切り取られたいかなる部位、及び胎児になる前の肉塊は、すべて不浄です。✸不浄物の除去には特定の意図が伴われる必要がありません。それ故、例えばもし雨がそれを(意図せずに)清めた場合、それは清浄となります。✸清浄な状態は穢れたもの、あるいは不浄物に触れた場合、あるいは踏みつけた場合でも無効とはなりませんが、その不浄物は身体、靴、または衣服から取り除かれなければなりません。

不浄物の浄化は以下の状況に限られています。✸清めには清浄な水が用いられるべきである。✸絞り擦られる種類の洗浄される衣服は、水から取り出して絞り擦られなければなりません。✸洗うだけでは汚れが落ちない場合、こすり取るなどして除去されねばなりません。✸犬による不浄は水で七回洗い、八回目は土か石鹸で洗われなければなりません。

有益なメモ:

✸ もしも土が尿のような液体の不浄物によって汚れている場合、水をかけることによって色と臭いが消えるまで洗浄されなければなりません。もしも土が糞のような固体によって汚れている場合、それ自体とその残存物は取り除かれなければなりません。

✸ 水以外では汚物、不浄物を取り除けない場合は、水が使用されなければなりません。

✸ 不浄物の箇所がはっきりと分からない場合、不浄物が付着していると予想される部位とその周辺が確実に落ちたと思われるまで洗浄されなければなりません。

✸ 任意の礼拝の為にウドゥーを行なった者は、同じウドゥーで義務の礼拝を行うことが出来ます。

眠りに入った者、もしくは放屁した者は、ガスそのものは不浄でないため、イスティンジャーを行ないません。礼拝その他の崇拝行為を行なうにはウドゥーで事足りるでしょう。

女性の生理出血に関する裁定

月経

以下で述べられる'ハイド'とは子宮からの定期的な出血であり、'イスティハーダ'とは病気などが原因の、定期的ではない子宮からの出血です。[1 2]

質問	裁定
月経が始まる最も早い年齢と、最も遅い年齢はいくつですか？	最も早い年齢での月経はおよそ9歳で始まります。それよりも早い時期の膣からの出血はイスティハーダとみなされます。月経で最も遅い年齢はありません。
月経が最も早く終るのはいつですか？	最小で24時間です。それよりも短いのであればイスティハーダとみなされます。
月経が最も長く続くとどれ位の期間ですか？	最長で15日間続くことがあります。それよりも長引けばイスティハーダとみなされます。
ふたつの月経の間で清浄だとみなされる最小の時間は何ですか？	最低で13日間です。もしもこの期間終了前に出血すれば、それはイスティハーダとみなされます。
大多数の女性の月経はどれ位続くのですか？	7～9日です。
大多数の女性はふたつの月経間の間、どれ位清浄さを保つのですか？	23日～24日です。
妊娠中の出血は月経の一種ですか？	茶色、黄色などの妊娠中のいかなる出血もイスティハーダとみなされます。
女性はいかにして月経の終了を知ることが出来ますか？	月経の終了を知るには二つの方法があります。 1）月経終了時に見られる白い液体の排出によるもの。 2）出血の停止、または白い液体を見られない者は、茶か黄色の排出物によって知ることが出来ます。
女性の清浄時に見られる膣からの排出に関する裁定は何ですか？	透明か白色の排出、そして粘液は不浄とみなされませんが、血液、そして茶や黄色の排出物は不浄とみなされます。しかしながら、それらはどちらもウドゥーを無効にし、排出が続くのであればイスティハーダとみなされます。
膣からの茶色や黄色の排出物に関する裁定は何ですか？	それが月経の直前か直後であれば月経とみなされ、それ以外であればイスティハーダとみなされます。
もしも月経が通常通りの時間に始まらない場合はどうなるのですか？	前の月経から最低13日間が過ぎているのであれば、月経の兆候が見られる限り月経であるとみなされますが、そうでなければイスティハーダとみなされます。
もしも月経が通常より長引いたり、短かったりすればどうなるのですか？	月経の最長期間である15日間が過ぎない限りは通常の月経であるとみなされます。

1　月経（ハイド）とイスティハーダの違いは次のものが含まれます：1）月経の血は黒に近い濃い赤色ですが、イスティハーダの血は鼻血のような鮮やかな赤色です。2）月経の血は濃く、固体物が含まれている場合がありますが、イスティハーダのそれは薄く、傷口から流れ出る血のようにおびただしい出血をします。3）月経の血は通常、不快で強い臭いがありますが、イスティハーダのそれは一般的な血と同じものです。

2　月経中では礼拝、斎戒、性交、クルアーン朗誦、マスジドに留まること、クルアーンに触れること、離婚といった禁じられた行為があります。

例えば出血が一ヶ月間のような長期に渡った場合、女性はどうするべきですか？	その場合、以下の三つのシナリオのうちのひとつが当てはまります。1)もしもその女性がはっきりと一ヶ月のいつ通常通りの月経が始まるかを知っており、出血の種類を見極めることが出来れば　(月経、もしくはイスティハーダ)、彼女は通常の月経かどうかを考察することが出来ます。[それよりも後であればイスティハーダとみなされます。]2)もしもその女性がはっきりと一ヶ月のいつ通常通りの月経が始まるかを知っているが、その期間がどれ位続くかが分からない場合、それを月経が始まってからの6、7日間と推測します(大半の女性の平均期間)。[それよりも後であればイスティハーダとみなされます。]3)もしもその女性が、彼女の月経期間を知っているが一ヶ月のいつに始まるかが分からない場合、彼女はその月の始まりから、自分の知っている分だけ推測します。[それよりも後であればイスティハーダとみなされます。]

産後出血（ニファース）

質問	裁定
女性が出産したとしても、出血が見られない場合はどうなるのですか？	その場合、ニファースの裁定は彼女には当てはまらず、そして義務の沐浴はしなくてもよく、彼女の斎戒も破れません。
もし彼女に出産の兆候が見られれば？	出産の兆候である、出血と羊水を伴う陣痛はニファースとはみなされず、イスティハーダとみなされます。
出産時に伴う出血は？	たとえ胎児が完全に出ていなくとも、あるいは部分的に出ていたとしてもこれはニファースとされます。この際に出来なかった礼拝をやり直す必要はありません。
出産とみなされるのはいつからですか？	胎児が母親の子宮から完全に出次第、日数を数え始めるべきです。
ニファースの最短期間は何ですか？	最短期間は定められていません。それ故、出産後に出血が止まりしだい、彼女は沐浴をして礼拝を再会する必要があります。彼女は礼拝を再開するために40日間が過ぎるのを待つべきではありません。
ニファースが持続する最長の期間は何ですか？	最長期間は40日間であり、この後に見られる出血はニファースとみなされません。この期間が過ぎたのであれば、その40日の期間の終わりに、彼女の出産前に通常月経が始まっていた日と重ならない限り、女性にとって沐浴をし、礼拝の再開をすることが義務となります。[その場合、彼女はその出血を月経であるとみなします。]
もし女性が双子、またはそれ以上を出産するとどうなるのですか？	ニファースの計算を始めるのは、第一番目の子が生まれてからです。
流産した際の出血はどうなるのですか？	流産された胎児が80日目、もしくはそれ以下であれば、その出血はイスティハーダとみなされ、もしも90日目かそれ以上であれば、その出血はニファースとみなされます。もしも80日目と90日目の間だったら、その規定は胎児の成長段階によって決まります。もしも胎児に人間の特徴が出ていたのなら、その出血はニファースであり、それがなければイスティハーダとなります。

もし出血が40日を前に止まり、その後また再開した場合はどうすればいいのですか？	もしも40日目を前に出血が止まり、彼女が清浄とみなされれば、彼女は沐浴をして礼拝が出来るようになります。出血が40日間の期間を前に再開したのであれば、彼女は再び礼拝を中止し、[彼女が再び清浄な状態に戻るまで]それをニファースとみなします。彼女は40日間の期間が終るまで、これを繰り返すことが出来ます。

注意：

- イスティハーダの状態にある女性が礼拝を行なうのは義務であり、彼女は各礼拝でウドゥーを行なわなければなりません。
- 日没前に清浄になった女性は、その日のズフルとアスルの礼拝を行ない、ファジュルの前に清浄になった場合、その前のマグリブとイシャーの礼拝を行なわなければなりません。
- もしも礼拝の時間になった後、月経またはニファースの状態になり、その礼拝を行なっていなければ、清浄になった後にその礼拝をやりなおす必要はありません。
- 月経かニファースが済んだ女性は、グスル（沐浴）を行なう前に編まれた髪を解かなければなりません。（性行為後にグスルを行なう女性はそうする必要がありません。）
- 女性の夫にとり、月経かニファースの状態にある妻と性交をすることは合法ではありませんが、性交以外の性的満悦を得ることは許されています。
- 女性の夫にとり、イスティハーダの状態にある妻と性交をすることは嫌悪されますが、そこに強い欲求がある場合は認められています。
- イスティハーダの状態にある女性は、陰部を洗浄した後、ウドゥーを各礼拝ごとにすることが義務付けられています。
- 女性がハッジやウムラの為に月経を延期させる薬品を摂取することは、彼女の健康に全く害を及ぼさないことを前提に認められています。

礼拝（サラー）

アザーンとイカーマ(アザーン — 集団礼拝への呼びかけ、イカーマ — 礼拝開始の告知)はともに、旅行中ではない男性(居住地にいる状態)にとっての連帯義務(ファルド・キファーヤ)であり、個人で礼拝を行なう者と旅行者にとってのスンナです。女性がそれらを行なうことは嫌悪(マクルーフ)されています。

アザーンとイカーマはどちらも時間前にされることは認めらませんが、夜明け前の礼拝(ファジュル)のアザーンは別とされます。その二つのうちの一つ[1]は夜半を回り次第、呼びかけることが可能です。

礼拝の必要条件(シュルート):1)イスラーム。2)精神が健常であること(アクル)。3)成人していること（15歳以上が成人とみなされます。それ以下の年齢でも、射精・生理があった男児・女児は成人同様の扱いとなります。）、思慮分別のつくこと。4)可能な限り不浄物から清められていること。5)礼拝時間に入っていること。礼拝時間とは、以下の通りです。ズフル(正午過ぎ)の礼拝の時間は、太陽が天頂から傾き始めて影が実体と同一の長さになるまでです。アスル(午後)の礼拝の時間は、ズフルの時間が終わって影の長さが実体の倍になるまでが好ましいですが、状況次第では日没まで延ばされることも可能です。マグリブ(日没)の礼拝の時間は、日没後から、空の赤みがかった黄昏が消えるまでです。イシャー(夜)の礼拝の時間は、夜半まで[2]ですが、必要とされれば夜明け前まで延長されます。ファジュル(夜明け)の礼拝の時間は夜明け[3]と共に始まり、日の出をもって終了します。6)身体の恥部を不透明なもので覆うこと。十歳を過ぎた男性の恥部とは、へそ上から膝関節までであり、思春期を迎えた女性の恥部は、礼拝においては顔以外の体全体です。7)可能な限り、身体、衣服、そして礼拝の場にいかなる不浄物も付着していないこと。8)可能な限り、礼拝の方角(キブラ)を向いていること。 9)意図(ニーヤ)。

礼拝における必須要素、または柱(アルカーン[4]): 1)可能な者は、礼拝で起立(キヤーム)すること。2)礼拝の開始時にアッラーフ・アクバル(タクビーラートル＝イフラーム)と言うこと。この声明によって、礼拝に関係のない言動はすべて禁じられます。3)アル＝ファーティハ章の朗誦。4)立礼(ルクーウ)。5)ルクーウ後の起立。6)ルクーウ後、完全に直立していること。7)身体の七箇所(両足、両膝、両手のひら、そして額と鼻を含む顔面部)を用いた平伏礼(スジュード。単:サジダ)。8)サジダ後の座立、そして二度目のサジダ。9)信仰証言(タシャッフド)をすること。10)タシャッフドの為の座り。11)最後の座りにおける預言者への祈りの言葉。 12)“アッ＝サラーム　アレイクム　ワラハマトゥッラー”と言い(タスリーム)、礼拝を終了すること。13)これらの柱をすべて適切に行ない、各動作において安定が見られること。14)これらすべての柱を上記の順番通りに行うこと。

これらの柱が行なわれない限り、礼拝は有効ではありません。もしもこれらのどれかが礼拝の一単位(ルクーウ)で行なわれなかった場合は、それが意図的か忘却によるものかに関わらず、そのルクーウは無効となります。

礼拝における義務行為(ワージブ[5]):1)タクビーラートル＝イフラームとは別の、全タクビーラートの完了(“アッラーフ　アクバル[6]”と言うこと)。2)ルクーウ後に直立の際、合同礼拝であれば、イマームによって、そうでなければ個人によって“サミアッラーフ　リマ

1　ファジュルの礼拝には二つのアザーンがあり、ひとつめはタハッジュド（任意の深夜礼拝）のものであり、もうひとつはファジュルのものです。

2　夜半とは午前零時のことではなく、マグリブとファジュルの中間の時間のことです。

3　空に最初に暁の光が差す時です。

4　ここで触れられている柱とは、それが行なわれないとやり直しをされない限り、礼拝が無効とされる諸行為のことです。

5　ここで義務行為と述べられるものの意味は、それらが行なわれなかった場合に二回の忘却のサジダが行なわれなければなりませんが、そうする限りは実際にやり直さなくてもよいものです。

6　“アッラーは至大なり”。

ンハミダ[1]”と言われること。3)ルクーウ後に直立された後、“ラッバナー　ワラカル＝ハムド[2]”と言うこと。4)ルクーウ中に一度“スブハーナ　ラッビヤル＝アズィーム[3]”と言うこと。5)サジダ中に一度“スブハーナ　ラッビヤル＝アアラー[4]”と言うこと。6)ふたつのサジダの合間に“ラッビグフィル　リー[5]”と言うこと。7)最初のタシャッフドを言うこと。8)最初のタシャッフドで座っていること。

誰でもこれらの八つの義務行為を意図的に疎かにする者は、その礼拝は無効となります。それらのどれかが忘却によって行なわれなかった場合、その人物は二つの忘却のサジダを行なわねばなりません。

礼拝において称賛される諸行為(スンナ[6]):それらには言葉と行ないの二種類があります。スナンを行なわないのは、たとえそれが意図的であれ礼拝を無効とはしません。

言葉によるスナンは以下の通りです:✸礼拝開始のドゥアーを言うこと。✸アッラーに悪魔からの御加護(アル＝イスティアーザ)を求めること。✸アッラーの御名によってクルアーンの朗誦を始めること。(バスマラ)✸アル＝ファーティハ章の朗誦後、声に出して“アーミン”と言うこと。✸アル＝ファーティハの後、クルアーンからいくつかの節を朗誦すること。✸イマームが声高に朗誦すること。(マアムーム、またはその後ろの追従者が声に出すことは禁じられますが、個人での礼拝ではどちらかを自由に選択が出来ます)✸“ラッバナー　ワラカル＝ハムド“と言った後に、”ハムダン　カスィーラン　タイイバン　ムバーラカン　フィーヒ　ミルアッ＝サマーワーティ　ミルアル＝アルディ…”と言うこと。✸“スブハーナ　ラッビヤル＝アズィーム”、“スブハーナ　ラッビヤル＝アアラー”、“ラッビグフィル　リー”をルクーウ、サジダ、そして座っている時に各三回ずつ言うこと。✸最後に“アッサラーム　アライクム　ワ　ラフマトゥッラー”と言う前にドゥアーをすること。

行為におけるスンナは以下の通りです:✸タクビーラートル＝イフラームの際、ルクーウで上半身を曲げる際とそこから起立に戻る際、そして最初のタシャッフドの後に立ち上がる際に両手を挙げること。✸起立の際、胸下で右腕を左腕の上に乗せること。✸サジダをする位置に視線を固定すること。そして起立では両足を肩幅に広げること。✸サジダに行く際には膝頭から地面に降りて両手を付き、その後額を付けること。✸サジダ中に膝と腹、そしてふくらはぎと膝がお互いに付かないようにすること。✸ルクーウ中に膝頭同士が付かないようにすること。✸サジダ中に両かかとが上を向き、足の指が地面にきちんと位置し、指同士の間隔をある程度離しつつそれらがキブラの方角を向くように維持すること。✸サジダの際に両手を肩と平行になるよう位置させ、指同士の間隔を閉じること。✸立ち上がる際にまず両足に体重をかけ、その次に両手で両膝を支えつつ起き上がること。✸最初のタシャッフドで座る際には右足を立て上げ、左足を右側に倒してクッションのようにして座ること(イフティラーシュと呼ばれる二種類の座法に関しては、この本の最後に付属しているチャートを参照にして下さい)。✸最後のタシャッフドでは、右すねの下に左すねを入れ込みつつ、右足を立て上げて右側の尻で座ること(タワッルクと呼ばれる三種類の座法に関してはチャートを参照にして下さい)。✸二つのサジダの間では、両膝の上に両手の指を閉じたまま乗せ、キブラの方向に向けること。✸右手の中指と親指で輪を作り、アッラーを思い起こしながらドゥアーする際には人差し指でキブラの方向を指し、アッラーﷻの唯一性を象徴させること。✸最後の挨拶(タスリーム)の際に右から左へと頭を向けること。

忘却のサジダ:サジダの際にクルアーンを朗誦するなどの間違いを犯した場合は、[二度の]忘却のサジダを行なうことがスンナです。何らかのスンナの行為をし忘れた場合も忘却のサジダを行うことは認可されています。しかしながらルクーウ、サジダ、起立や座

1　“アッラーよ、彼を賛美する者の声をお聞き下さい”。
2　“私たちの主よ、あなたにこそ称賛あれ”。
3　“偉大なる私の主に称えあれ”。
4　“至高なる私の主に称えあれ”。
5　“主よ私を赦したまえ”。
6　スンナの複数形。

りを余分に付け足したり、礼拝が終る前に挨拶をしたり、クルアーンの朗誦で明確な間違いを犯してその意味が変わった場合、また何かの義務行為を怠ってしまった場合やその疑念がある場合は、忘却のサジダが義務行為（ワージブ）となります。

義務の忘却のサジダを意図的に怠った場合、その礼拝は無効となります。この二つのサジダは最後の挨拶の前、もしくは後に行うことが出来ます。しかしながら、礼拝の終了後しばらく経った後まで忘却のサジダをし忘れたのであれば、それは必要ではなくなります。

礼拝の説明：

✸礼拝の方角を向くことから始め、“アッラーフ　アクバル”と言います。

✸イマーム（先導者）が全タクビールを声高に言い、追従者に聞こえるようにしますが、追従者は静かに言います。

✸最初のタクビールでは、両手を両肩の位置まで挙げ、胸下で右腕を左腕の上に乗せます。

✸視線をサジダの位置に固定し、真正のハディースで報告されている開始のドゥアーを言います。例えば次のものがあります。“スブハーナカッラーフンマ　ワ　ビハムディカ、ワ　タバーラカスムカ、ワ　タアーラー　ジャッドゥカ、ワ　ラー　イラーハ　ガイルカ。”

“アッラーよ、あなたに賞賛と讃美あれ。あなたの御名は祝福に溢れ、あなたのご偉力は至高です。あなたの他に真に崇拝すべきものはありません。”

✸そして“アウーズ　ビッラーヒ　ミナッ＝シャイターニッ＝ラジーム”（私はアッラーに呪われし悪魔［シャイターン］からのご加護を求めます。）と言い、次に“ビスミッラーヒッ＝ラフマーニッ＝ラヒーム”（慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。）と言います。

✸これらは全部小声で呟かれるべきです。次に、イマームであり、声を出す礼拝時間（ファジュル、マグリブ、イシャー）であれば、開端章を声に出して朗誦します。イマームの後ろの追従者たちが、声を出して朗誦される時間帯に静かにすることは推奨されており、静かにされる時間帯（ズフル、アスル）ではそうすることが義務行為です。

そして、クルアーンの中から希望する箇所を朗誦します。ファジュルとマグリブの礼拝では短い章からの“ムファッサル”朗誦をすることが奨められ、それ以外では中程度の長さの章からが奨められます。より長いムファッサルの章はカーフ章［50］から消息章［78］までで、消息章から朝章［93］までは中程度の長さであるとされ、朝章から人々章［114］までは短いものであるとされています。イマームはファジュルの礼拝、そしてマグリブとイシャーの礼拝の最初の2ラカーで声を出して朗誦します。それ以外の礼拝では静かにされなければなりません。

✸そしてタクビーラトル＝イフラームで行なわれたように両手を挙げ、“アッラーフ　アクバル“と言い、ルクーウの姿勢に移ります。両手は両膝頭にしっかり乗せ、指の間隔を開き、頭が身体の中心部（それより低くても高くてもいけません）まで下げ、背筋が真っ直ぐ伸びるようにします。そして、“スブハーナ　ラッビヤル＝アズィーム”（“偉大なる私の主に称えあれ。”）と三回言います。

✸そして頭を上げ、“サミアッラーフ　リマン　ハミダフ”（“アッラーは、かれを賛美する者の声をお聞きになられる。”）と言いながら起立の姿勢に戻り、両手を挙げて“ラッバナー　ワ　ラカル＝ハムド”（“私たちの主よ、あなたにこそ賞賛あれ。”）と言った後、次の言葉を加えます。”ハムダン　カスィーラン　タイイバン　ムバーラカン　フィーヒ。ミルアッ＝サマーワーティ　ワ　ミルアル＝アルディ　ワ　ミルア　マー　シッタ　ミン　シャイイン　バアドゥ”（“この上なく沢山の、素晴らしい、祝福に溢れた賞賛あれ。あなたへの讃美は天地にあるもの、そしてあなたの望むその他全ての物を満たします。”）

✸そして“アッラーフ　アクバル”と言いながらサジダの姿勢に移ります。サジダの際には頭部の額と鼻、両手のひら、両膝頭、両足の指がキブラの方向を向きつつ地面に着き、腹部と両膝、そして両膝と両ふくらはぎはお互いに離れているべきです。そしてサジダ中に“スブハーナ　ラッビヤル＝アアラー”（“崇高なる私の主に称えあれ。”）と言います。この言葉は何度言っても良いですが、自分の希望する祈願をすることも認められます。

✸そして頭を上げ、“アッラーフ　アクバル”と言って左脚の上に座りつつ、右足を立て上げ、かかとが上を向き、足の指がキブラを向くようにします。そして、“ラッビグフィルリー、ワルハムニー、ワジブルニー、ワルファアニー、ワルズクニー、ワンスルニー、ワハディニー、ワアフアンニー”（“主よ、私を赦し、私にお慈悲をかけ、私を正し、私の位階を上げ、私に恩恵を与え、私を助け、私を導き、私を赦して下さい。”）と言います。

✸そして以前と同じようにサジダをし、頭を上げて“アッラーフ　アクバル”と言いながら立ち上がり、最初と同じように二度目のラクアを行ないます。

✸そしてイフティラーシュの状態で座り、最初の証言（アッ＝タシャッフド　アル＝アウワル）として、右腕を右膝の上、左腕を左膝の上に置き、右手で拳を握りつつ、中指と親指で輪を作り、人差し指をキブラの方向に指して、次のように言います。“アッ＝タヒッヤートゥ　リッラーヒ　ワッ＝サラワートゥ　ワッ＝タイイバートゥ、アッ＝サラーム　アライカ　アイユハン＝ナビーユ　ワ　ラフマトゥッラーヒ　ワ　バラカートゥフ、ワッ＝サラーム　アライナー　ワ　アラー　イバーディッラーヒッ＝サーリヒーン。　アシュハドゥ　アッラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワ　アシュハドゥ　アンナ　ムハンマダン　アブドゥフ　ワ　ラスールフ。”（“全ての讃美と祈りとよき言葉はアッラーに（捧げられます）。預言者よ、あなたの上に平安とアッラーのご慈悲と祝福がありますように。私たちに、そしてアッラーの敬虔なしもべたちに平安あれ。私はアッラー以外に真に崇拝すべきものは無いことを証言します。私はムハンマドがアッラーのしもべであり使徒であることを証言します。”）

✸そして立ち上がり、第三番目、第四番目のラクアを行ない、それら二つは最初の二つよりも短めにします。それらではアル＝ファーティハ章を朗誦し、最後の証言（アッ＝タシャッフド　アル＝アヒール）としてタワッルクの状態で座り、最初の証言と同じことを言いますが、次のものを追加します。“アッラーフンマ　サッリ　アラー　ムハンマディン　ワ　アラー　アーリ　ムハンマディン　カマー　サッライタ　アラー　イブラーヒーマ　ワ　アラー　アーリ　イブラーヒーマ、インナカ　ハミードゥン　マジードゥ、ワ　バーリク　アラー　ムハンマディン　ワ　アラー　アーリ　ムハンマドゥ　カマー　バーラクタ　アラー　イブラーヒーマ　ワ　アラー　アーリ　イブラーヒーマ、インナカ　ハミードゥン　マジードゥ。”（“アッラーよ、あなたがイブラーヒームと彼の一族に栄光をお与えになったように、ムハンマドとムハンマドの一族にも栄光をお与え下さい。あなたこそ全ての讃美と栄光の主です。そしてあなたがイブラーヒームと彼の一族を祝福されたように、ムハンマドとムハンマドの一族を祝福して下さい。あなたこそ全ての讃美と栄光の主です。”）

　次を加えるのはスンナです。“アウーズ　ビッラーヒ　ミン　アザービンナール、ワ　アザービル＝カブル、ワ　フィトゥナティル＝マハヤー　ワル＝ママートゥ、ワ　フィトナティル＝マスィーヒッダッジャール”（“私はアッラーに業火の懲罰、墓の懲罰、生と死の試練、偽メシアの試練からのご加護を願います。”）

　それからクルアーンとスンナで触れられている他のドゥアーを付け加えることも許されます。

✸そして顔を右に向けて“アッ＝サラーム　アライクム　ワ　ラフマトゥッラー”（“あなたがたにアッラーの平安とご慈悲がありますように”）と言い、次に左に向けて同じことを言います。

　礼拝の完了において、他のドゥアーをすることは預言者ﷺのスンナとして、ハディースに記録されています。[1]

1　それらの一部は、次の通りです。“アスタグフィルッラー”（私はアッラーのお赦しを求めます）と三度言い、そして次のように言います“アッラーフンマ　インナカ　アンタッ＝サラーム　ワ　ミンカッ＝サラーム　タバーラクタ　ヤー　ザル＝ジャラーリ　ワル＝イクラーム”（アッラーよ、あなたこそが平安の主で、平安はあなたからのものです。崇高さと栄誉の主に称えあれ。）。また、“ラー　イラーハ　イッラッラー、ワフダフ　ラー　シャリーカラフ、ラフル＝ムルク　ワラフル＝ハムド、ワ　フワ　アラー　クッリ　シャイイン　カディール。ラー　ハウラ　ワ　ラー　クウワタ　イッラー　ビッラー、　ラー　イラーハ　イッラッラー　ワラー　ナアブ

病人の礼拝：✸もしも、病気により立つことが困難をもたらすか、それが無理な場合は、座って礼拝を行うことが出来ます。もしも座って礼拝をするのが無理であれば、身体の横側に横たわって礼拝をすることが出来ます。それが無理であれば仰向けに寝て行ないます。✸もしもルクーウ、そしてサジダが行なえないのであれば、（体による）合図でそれを象徴させるべきです。✸もしも礼拝を行えなかった場合、遅れてでも良いのでそれをやり直すべきです。✸もしも各礼拝をその時間帯に行なえなかったのであれば、ズフルとアスル、マグリブとイシャーを、それぞれの各時間帯に纏めて行なうことが出来ます。

旅行者の礼拝：✸もしも旅路が約80キロ以上であり、合法とされる旅行であれば、ズフル、アスル、そしてイシャーの礼拝を4ラクアから2ラクアに短縮することが出来ます。✸もしも目的地に4日以上留まる意思がある場合 – 20の義務礼拝 — それらは通常通りの方法で行なわれ、短縮されるべきではありません。✸その場に居住するイマームの後ろで礼拝を行なう場合、通常通りの完全な礼拝がされなければなりません。✸もしも旅路のなかで、居住者として行なわれる礼拝、またはその逆をやり忘れ、それを思い出したのであれば、後に完全な方法でやり直されなければなりません。✸望むのであれば、旅行者であっても完全な礼拝を行うことが出来ますが、短縮するのであれば、より好まれます。

金曜礼拝（サラートル＝ジュムア）：✸この礼拝はズフルよりも優れているとされます。これは独立した礼拝であり、ズフルの短縮形ではありません。これを4ラクアとして礼拝することは認められず、ズフルの意思において、またはアスルと纏めて行なうことは、合法的理由があるに関わらず許されません。

奇数礼拝（サラートル＝ウィトル）：✸この礼拝はスンナであり、イシャーの後、ファジュルの前に行なわれなければなりません。✸ウィトルの最小ラクア数は1ラクアであり、最大ラクア数は11ラクアです。2✸ラクアごとに挨拶（タスリーム）をすることが好まれます。✸すべてのラクアを連続的に行うこと、または4、6、8と行なうこともでき、それら偶数の後には奇数のラクアを行なって完了させます。7、5、3✸、もしくは9ラクアを一括に礼拝することが出来ます。✸最小限のウィトルの形としては、3ラクアと2回のタスリームをすることです（すなわち2ラクア行なった後にタスリームをし、別に1ラクアをしてまた最後にタスリームをすることです）。また、ウィトルの後に2ラクアを行なうことも認められています。

葬儀（ジャナーザ）：✸亡くなったムスリムの体を洗浄し、白布で包み、葬儀の礼拝後に彼を埋葬の場まで運んで埋葬をすることはすべて集団義務（ファルド・キファーヤ）です。✸イスラームにおけるジハードの殉教者は、洗浄されるべきでも、白布に包まれるべきでもなく、死んだ状況そのままで埋葬されるべきであり、彼らのための葬儀礼拝を行なうことは認められています。✸ムスリム男性の白布は３枚の布で構成され、女性の場合は５枚（腰

ドゥ　イッラー　イッヤーフ、ラフン＝ニァマトゥ　ワラフル＝ファドル　ワ　ラフッ＝サナーウル＝ハサン、ラー　イラーハ　イッラッラー　ムフリスィーナ　ラフッ＝ディーン　ワ　ラウ　カリハル＝カーフィルーン。ラー　マーニア　リマー　アァタイタ、ワラー　ムァティヤ　リマー　マナァタ、ワラー　ヤンファウ　ザル＝ジャッディ　ミンカル＝ジャッド。”（唯一で並ぶ者無き御方、アッラー以外に真に崇拝すべきものはいません。主権と讃美はかれの御許にあり、かれは全能の御方です。至高至大のアッラーの他にいかなる威力も強大なるものもありません。アッラー以外に真に崇拝すべきものはなく、私たちはかれ以外を崇拝しません。恩恵と超越性はかれにこそ属し、そしてかれにこそよき誉れがあります。アッラー以外に真に崇拝すべきものはいません。例え不信者たちが忌み嫌おうとも、私たちはアッラーに誠意を尽して仕えます。あなたが与えたものを禁じる者はなく、あなたが禁じれば他に与える者はおりません。（現世における）どんな優れた境遇も、あなたの御許での真の幸福を益することはありません。）また、ファジュルの礼拝、そしてマグリブの礼拝の後、次を付け加えることが出来ます。“ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワフダフ　ラー　シャリーカ　ラフ、ラフル＝ムルク　ワラフル＝ハムド、ユフイー　ワ　ユミートゥ、ワ　フワ　アラー　クッリ　シャイイン　カディール。”（唯一で並ぶ者無き御方、アッラー以外に真に崇拝すべきものはなし。主権と讃美はかれにこそ属します。かれは生と死を与える御方。そしてかれこそは全能の御方です。）すべての礼拝後、各人は次のように言うべきです。“スブハーナッラー”（アッラーに称えあれ）“アルハムドゥリッラー”（アッラーにこそすべての称賛あり）“アッラーフ　アクバル”（アッラーは最も偉大なり）を各３３回ずつ言い、百回目には、“ラー　イラーハ　イッラッラー　ワフダフ　ラー　シャリーカ　ラフ、ラフル＝ムルク　ワ　ラフル＝ハムド　ワ　フワ　アラー　クッリ　シャイイン　カディール。”（唯一で並ぶ者無きアッラー以外に崇拝されるべきものはありません。主権と讃美はかれにこそ属し、かれは全てにおいて全能です。）それからアーヤトゥル＝クルスィー（2：255）、イフラース章（112）、アル＝ファラク章（113）、そしてアン＝ナース章（114）を朗誦します。ファジュルの礼拝とマグリブの礼拝後では、これらの章3回ずつ朗誦すべきです。

巻き、頭部の覆い、上半身の覆い、そして全身を覆うもの2枚）です。✸イマーム、または単独で礼拝する者のスンナとしては、男性では胸部と並ぶ位置に立ち、女性では体の中心部と並ぶ位置に立つことです。✸立った状態で“アッラーフ　アクバル”と4回言い、それらすべてで両手を挙げます。最初に言う“アッラーフ　アクバル”の後、アッラーの御加護を求め、“ビスミッラー”と言い、アル＝ファーティハを黙誦します。そして2度目の“アッラーフ　アクバル”の後、預言者ﷺに対する挨拶をします。3度目の“アッラーフ　アクバル”の後、故人のためにアッラーへドゥアーをします。4度目の“アッラーフ　アクバル”の後、しばらく立ってから“アッ＝サラーム　アライクム”と右側に一度だけ言います。手による測定以外、地面の高さよりも墓地を盛り上げること、しっくいを塗ること、キスすること、近くで香を焚くこと、何かを書くこと、そこに座るかその上を歩くこと、いかなる種類の照明を灯すこと、その周りを周回すること、その上にモスクを建てること、もしくはモスクのなかに墓地を設置することはいずれも禁じられた行為です。さらには、墓地の上に建てられた墓廟（または建築物）は、取り壊されなければなりません。

✸嘆き悲しむ親族に対する慰めや、悔やみの言葉のことばに関しては何も制限はありません。例えとして、“アザム　アッラーフ　アジラク　ワ　アフサン　アザアク　ワ　ガファラ　リ　マイタク”（あなたの報奨をアッラーが増加し、あなたの嘆きに対してあなたに善きものを据え、あなたの故人をお赦しになりますように。）不信仰者の親族を亡くしたムスリムに対しては、“アザム　アッラーフ　アジラク　ワ　アフサン　アザアク”（あなたの報奨をアッラーが増加し、あなたの嘆きに対してあなたに善きものを据えますように。）と言います。

✸自分の死後に家族が嘆き悲しむと分かっている者が、そうするべきでないと遺書を残すことは義務行為となります。そうでなければ彼らの嘆きにより、彼は懲罰を受けることになります。

✸イマーム・シャーフィイーは、遺族が集会を開き、人々が彼らに悔やみの言葉を述べるのを待つことは嫌悪されると言っています。その代わり、彼らは男女を問わず、日常生活に戻るべきであるとします。

✸悲嘆に暮れる家族に対して、食事を用意することはスンナであり（彼らが悲しみに打ちひしがれているため）、彼らの食事から食べること、彼らの家を訪れる人々に対して食事を用意することは嫌悪されます。

✸墓地を訪れることは、そのための旅行が伴わない限りはスンナです。また、ノン・ムスリムの墓地を訪れることも認められています。非ムスリムがムスリムの墓地を訪れることは、禁じられるべきではありません。

✸ムスリムの墓地を訪れる際に、次のものを言うことはスンナです。

“アッサラーム　アライクム　アハラッディヤーリ　ミナル＝ムッミニーナ　ワル＝ムスリミーン、ワ　インナー　インシャーアッラーフ　ビクム　ラーヒクーン、ヤルハムッラー　アル＝ムスタクディミーナ　ミンナー　ワル＝ムスタアヒリーン、ナスアルッラーハ　ラナー　ワラクムル＝アーフィヤ、アッラーフンマ　ラー　タフリムナー　アジラフム、ワ　ラー　タフティンナー　バアダフム、ワグフィル　ラナー　ワ　ラフム”（“あなたがたに平安あれ、信仰者とムスリムである墓地の居住者たちよ。アッラーが御望みであれば、実に私たちはあなたがたの内に加わるのです。あなたがたの内の以前の者、そしてこれからの者をアッラーがお赦しになりますように。私たちは、自身の、そしてあなたがたの幸福をアッラーに求めます。アッラーよ、私たちへの報奨を拒まないでください。そして私たちを彼らの後に誘惑しないでください。そして私たちと彼らをお赦し下さい”）。

✸白布にクルアーンの節を書き、不敬を示すことは禁じられています。それを承認する真正の報告は何もありません。

✸故人に対する包括的なドゥアーとしては、次のように言うことです。“アッラーフンマグフィル　ラフ　ワルハムフ、ワ　アーフィヒ　ワアフ　アンフ、ワ　アクリム　ヌズラフ、ワ　ワッスィウ　ムドゥハラフ、ワグスィルフ　ビル＝マーイ　ワッ＝サルジ　ワル＝バルディ、ワ　ナッキヒ　ミナル＝ハターヤー　カマー　ナッカイタッ＝サウバル＝

アブヤダ　ミナッ＝ダナス、ワ　アブディルフ　ダーラン　ハイラン　ミン　ダーリヒ、ワ　アハラン　ハイラン　ミン　アハリヒ、ワ　ザウジャン　ハイラン　ミン　ザウジヒ、ワ　アドゥヒルフル＝ジャンナタ、ワ　アイズフ　ミン　アザービル＝カブリ　ワ　ミン　アザービン＝ナール”（“アッラーよ、彼を赦し、彼にご慈悲を与え、彼を癒し、お守り下さい。そして彼によい住まいを与え、その入り口を広げ、水と雪と雹で彼を清めて下さい。そしてあなたが白い服を汚れから清浄にされたように、彼をその過ちから清めて下さい。そして彼に（生前の）彼の住処よりも素晴らしい住処を、彼の（生前の）家族よりも素晴らしい家族を、彼の（生前の）配偶者より素晴らしい配偶者を引き換えにお与え下さい。そして彼を楽園に入れ、墓の災難と業火の懲罰から彼をお護り下さい。”）。

二大祭日（イードル＝フィトル、イードル＝アドハー）の礼拝：✸この礼拝は集団義務（ファルド・キファーヤ）であり、その時間帯はドゥハーの礼拝と同じく、日の出後です。もしも人々がイードの日であることを午後まで知ることが出来なかったのであれば、その翌日にやり直しの礼拝として行なわれるべきです。✸その条件は二つの説教を除き、ジュムアの礼拝と同じものです。ジュムアの二つの説教は礼拝の前にされますが、イードの二つの説教は礼拝の後にされます。✸その場において、礼拝の前後に任意礼拝をすることは嫌悪されています。✸この礼拝には二つのラクアがあります。最初のラクアでは、礼拝の開始としてタクビーラトル＝イフラーム（“アッラーフ　アクバル”）が言われ、続けざまに六回、“アッラーフ　アクバル”と言った後にアッラーへのご加護を求め、クルアーンを朗誦します。次のラクアでは”アッラーフ　アクバル”と五回言ってクルアーンを朗誦します。各タクビールでは両手が挙げられます。それからイマームはアッラーのご加護を求め、アル＝ファーティハ章、そして至高者章［87］を最初のラクアで朗誦し、続いて圧倒的事態章［88］を二番目のラクアで朗誦します。それからイマームは金曜礼拝と同じように説教をしますが、それと違うのはアッラーフ　アクバルと何度も繰り返すことです。✸もしもこの礼拝が任意礼拝のように行なわれた場合であっても、それは正しく、認められます。なぜならタクビールは付加的であり、それらの間に行なうアッラーへの称賛と預言者ﷺへの挨拶はスンナであるからです。

皆既日（月）食（アル＝クスーフ、またはフスーフ）の礼拝：✸これはスンナの礼拝であり、時間帯は皆既日食、または月食の始まりから終わりまでです。✸日（月）食が終ってから、遅れて礼拝を行うことは出来ません。それはクルアーンの朗誦が含まれる、2ラクアで構成されます。最初のラクアでは、アル＝ファーティハと長い章が朗誦されるべきであり、そして長いルクーウをします。それから頭を上げ、通常の礼拝通りに“サミアッラーフ　リマンハミダフ、ラッバナー　ラカル＝ハムド”（“アッラーは、かれを賛美する者の声をお聞きになられる。私たちの主よ、あなたにこそ賞賛あれ。”）と言います。✸その後、通常の礼拝のように、サジダには行きませんが、その代わりにまたアル＝ファーティハに続いて長い章を朗誦します。そして再び長いルクーウを行ないます。その後頭を上げて直立します。✸それから二つの長いサジダを行ないます。✸そしてタシャッフドを言った後にサラームを言います。✸もしも誰かが遅れて来て、最初のラクアを逃した場合、後にそのラクアをやり直します。

雨乞いの礼拝（サラートル＝イスティスカーア）：干ばつや雨不足の際にこの礼拝を行うことはスンナです。この礼拝のやり方は、サラートル＝イードと同じですが、礼拝後の説教がない点で異なります。

ここでのスンナは、礼拝後に外套を裏返すことによって、状況が変わることへの楽観を表すことです。

注意：合同礼拝の列を真っすぐにすることを預言者ﷺは命じられています。“あなたがたが列を真っすぐにしないのであれば、アッラーはあなたがたに相違をもたらすでしょう。”

そしてヌァマーン・イブン・バシールはこう語っています。“私は礼拝中に人が隣同士で肩と肩、膝頭と膝頭、足首と足首を合わせていたのを見ました。”

合同礼拝は男性にとっての義務であり、旅行中であっても可能な限り行なわなければなりません。

喜捨（ザカー）

ザカーが義務となる富の種類とは、次の4つです。1)遊牧する家畜。2)農作物。3)動産。（金銀、紙幣など）4)商品。

次の５つの条件が合うと、ザカーは義務となります。1)イスラーム2)(奴隷でない)自由人3)"ニサーブ" (金銀などでザカーが課される一定の量の超過)の所有4)完全かつ安定した所有権5)(農作物以外では)一年間の所有。

遊牧する家畜のザカーに関しては、３種類が存在します。それらはラクダ、牛、ヤギと羊です。それらに対するザカーは２つの条件によって義務となります。

1)それらの動物が一年以上遊牧されていること。2)それらが搾乳、生殖のために飼われているのであり、労働のためではないこと。もしもそれらが商用であれば、商品であると見なされます。

ラクダのザカー
4 頭、もしくはそれ以下:ザカーは発生しません。
24 頭、もしくはそれ以下:５頭につき、羊１頭が課されます。
25–35 頭:1才の雌ラクダ１頭か、それがない場合は２才の雄ラクダ１頭
36–45 頭: 2才の雌ラクダ1頭
46–60 頭: 3才の雌ラクダ1頭
61–75 頭:4才の雌ラクダ1頭
76–90 頭:2才の雌ラクダ2頭
91–120 頭:3才の雌ラクダ2頭
120 頭以上: 各40 頭につき、2才の雌ラクダが課せられ、各50 頭につき、3才の雌ラクダが課せられます。
牛のザカー:
30 頭以下:ザカーは課せられません。
30–39 頭:1才の子牛
40–59 頭:2才の子牛
60 頭以上:各30 頭につき1才の子牛。そして各40頭につき2才の子牛が課せられます。
羊とヤギのザカー:
40 頭以下:ザカーは発生しません。
40–120 頭:羊1頭
121–200 頭:羊2頭
201–399 頭:羊3頭
400 頭以上:各100 頭につき、羊１頭が課せられます。

果物・穀物のザカー:それは次の3つの条件により義務となります。1)それらが大麦・小麦の穀粒、レーズンやナツメヤシの実などの果物など、貯蔵数によって測ることが出来る場合。しかし新鮮野菜や豆類など、貯蔵数によって測られない場合、ザカーは発生しません。2)それが653キロの最小量(ニサーブ)に達した場合。3)ザカーの支払いが義務となった時(果物・作物に成熟が見られ、収穫の準備が出来ていること)に、その農作物の所有権が支払い者にある場合。

農産物のザカー:✸灌漑によって生産されたものでない農産物、すなわち雨水または自

然の川、泉などによる生産は、10％（10分の1）のザカー率が課せられます。✸灌漑、労働によって収穫された農産物のザカーは、５％（20分の1）です。✸部分的に労働によるもの、また部分的にそうでないものは、より多く依拠していた方に従います。その測定は労働に使われた日数に従います。

動産のザカー：1）金：ザカーが金に課せられるのは、それが85グラムに達してからです。２）銀：ザカーが銀に課せられるのは、それが595グラムに達してからです。

貨幣に関しては、その通貨（紙幣）、形式に関わらず、それらが上記の金、もしくは銀の価値と同等になった際に課せられます。

金・銀の価格は時と場所によって異なるなめ、そのザカーは貧者にとってその２つから都合の良い方に基づかれるべきです。動産・貨幣のザカーとは40分の１（2.5％）です。

日常的に使用される宝石・装飾類にザカーは発生しません。しかし商用、貯蓄用はザカーの支払いが行なわれなければなりません。女性が通例通りに金や銀の装飾品を着用するのは認められています。食器類に少量の銀が用いられること、また男性の指輪や眼鏡などに少量の銀が用いられることは認められています。

金が食器類に用いられること、また男性がそれを用いることは禁じられていますが、ボタンや金歯などの、その他の必要とされる用途に際し、女性を模倣しないことを条件として、ごく微量であればその使用が許されます。

変動する富を持つ場合、つまり一時期は増加し、また一時期は減少する場合は、たとえ一年間が過ぎていないのであっても勘定の日を設け、自らの富を計算し、そこから40分の1（2.5％）を支払います。

サラリーを受け取る者、または不動産の貸し出しから一定の収入がある者は、そこから一定の貯蓄がない限りはザカーの義務はありません。貯蓄の額が一定量に達しており、それを一年間に渡って自ら所有し続けたのであれば、そこからのザカー支払いは義務となります。もしそれの計算が困難であれば、上記のように、勘定の日を定めて決定します。

負債のザカー：もしも裕福な者にお金を貸し付けている、または債務者に十分な資金があり、彼からお金を取り戻すことが可能であるのなら、たとえ多額であれ、各年における貸し付け返済分のザカーが計算され、支払われなければなりません。

しかしその貸し付けが破産者にある場合、その人物の返済は不確定であり、管理権が伴わないためザカーは発生しません。

商品のザカーは発生するのは、次の４つの条件のみです。1）ザカー支払い者がそれを所有している場合。2）彼がそれを商用にする意図がある場合。3）それらが金銀と同様に最低量に達している場合（そのふたつのうちの少ない方）。4）それらの所有から1年が過ぎていること。

それら4つの条件が満たされているのであれば、勘定の時点においての価値を支払う義務が生じます。もしそれら商品がザカーの最小量に達しておらず、金・銀、その他の貨幣を所有しているのであれば、それらを商品価値に付加して最小量に達するようします。もしそれら商品に関し、衣服、家や車などの個人使用を意図するのであれば、それらにザカーは発生しません。意図が変われば（再び商用とすることに気が変わったのであれば）、意図が変わった時点からの1年間を計算してザカーを支払います。

ザカートル＝フィトル：これはラマダーン最後の夜、そしてイードの日における、すべての自分と家族を養って余る、余剰食料を持つムスリムにとっての義務行為です。ザカートル＝フィトルとは、その地域の主食を2キロと4分の1キロ与える行為です。その量は男女を問わず、各人とその扶養家族です。

イードの日、イード礼拝の前にそれを渡すことが好まれています。それをイード礼拝の後まで遅延することは認められていませんが、イードの1日、または2日前に渡すことは認められます。また、一人に集団分、もしくはその逆の量を渡すことも認められています。

ザカーの配布は、その期限までに行なうことが義務行為であり、保護者は子供たち、または

精神異常者の代理で行なう責任があります。

責任者が個人的にそれを支払い、人々にそれを知らせることはスンナです。誰の代理でそれを行なうのかという意図を伴われていなければなりません。

ここで述べられておかなければならない重要な点として、任意的喜捨は、たとえその人の富のすべてが差し出されたのだとしても、義務のザカーには値しないということです。

ザカーはその国の困窮者が住む地域へ渡されることが好まれますが、重大な要求がある場合、他の国に送ることも許されています。富が規定量に達し、ザカーが課せられるのであれば、そのザカーを二年分、前払いすることは適切であり、認められています。

ザカーの受け取りに値する人々とは

1) 衣食に事欠く貧窮者。1) 一般的に貧乏な者。3) ザカーを集配する役人。4) イスラームに対する付加的な魅力を必要としているムスリム、またはノン・ムスリム。6) 奴隷や捕虜の解放。6) 合法的負債に苦しんでいる人々の救済。7) アッラーの道におけるジハードに努力する者。8) 祖国から離れている旅行者。

彼らはその要求に応じた量を与えられるべきであり、ザカーの集配人に関しては、彼らがたとえ裕福であっても、合意に基づいた公正な給料が与えられます。

もしもハワーリジュ(預言者ﷺの教友たちから離反したムスリムのグループ)やブガート(誠実なイマームに反抗した者たち)がその地域の支配権を握ったとしても、彼らにザカーを渡すことは義務を遂行したことになります。もしもそれらの支配者が強制的にザカーを取るか、合意の上であるか、また彼らが公正な支配者か、不正な支配者かには関わりなく、それは義務を遂行したことになります。

ザカーを不信仰者(イスラームに対する付加的な魅力を要する者たち以外)、奴隷、裕福な者、自らの扶養者、またはバニー・ハーシム(預言者ﷺの子孫)に渡すことは、その義務を果たしません。

もしも、知らずにザカーを必要としない者に与えてしまい、後になってそれに気付いた場合、その人物が貧者であると思い込んでおり、後に彼が裕福な者であったと気付いた場合以外、彼の義務は果たされません。

任意の喜捨:アッラーの使徒ﷺは言われました。“実に、信仰者の死後になっても彼の元に届く善行とは、彼が教え、公表した知識。また彼のために祈願する敬虔な息子、クルアーンの写本(ムスハフ)、彼が築いたモスク、彼が築いた旅行者のための休憩所、彼が築いた水路。そして彼が健康のうちに費やした喜捨のすべて。これらすべては彼の死後も、彼の元に届くのです。”(イブン・マージャ)

斎戒（スィヤーム）

斎戒：斎戒とは、ラマダーン月を斎戒、断食することの出来る、すべての健全であり、かつ思春期をすでに迎えているムスリムに課せられた義務であり、月経または産後出血のある女性は免除されます。子供でもそれが可能であれば、慣れることの出来るよう、斎戒するべきです。

ラマダーン月の開始は、次の二つのどれかによって知ることが出来ます。1)信頼のあるムスリム(男女)による、新月の確認。2)シャアバーン月の30日間の完了。

義務の斎戒時間帯は、ファジュルからマグリブまでです。ファジュルの前に斎戒の意図を持ちます。

斎戒を無効にするもの：斎戒は次の事項により無効となります。1) 男性器の女性器への挿入による性行為。これによりその日の分の斎戒はやり直しとなり、奴隷の解放、またはそれが不可能である場合は２ヶ月間を連続で斎戒することにより、罪を償わねばなりません。それがどちらも不可能な場合、60人の貧者に食事をさせるか、またはこれも不可能であれば、何もしなくても済みます。2) キス、抱擁、自慰などによる射精。夢精の場合は何もしなくても済みます。3) 意図的に飲食をした場合。斎戒中であることを忘れてそうしたのであれば、斎戒はそのまま継続され、日没まで斎戒をします。4) 献血、吸玉療法などによる放血。医療検査や、故意でない負傷などによる少量の出血であれば、斎戒は無効となりません。5) 意図的な嘔吐。

斎戒は次の事項から無効とはなりません。✸砂埃などが喉奥に入ること。✸うがい中、水が喉奥に意図的ではなく入ること。✸想像による射精。✸夢精。✸意図的ではない出血。✸意図的ではない嘔吐。

もしもまだ夜であると勘違いして飲食をし、実際は明確に日が昇っていた場合は、その日の分をやり直さなければなりません。まだ夜であると勘違いしつつも飲食をし、日の出かどうかが明確に分からなかった場合は無効とはなりませんが、日没かどうかはっきりと分からずに飲食をした場合で、実際には日が沈んでいなかったのであれば、その日の分をやり直さなければなりません。

斎戒が免除される者とは：✸合法的な理由がない限り、斎戒をしないことは禁じられています。✸月経、もしくは産後出血が見られた女性は斎戒を中断しなければなりません。✸誰かの命を救うことが斎戒を中断する条件であれば、その人物は斎戒を中断することが義務となります。✸旅行の長さが礼拝の短縮を認められるものであり、旅行者にとって斎戒が困難である場合、斎戒の中断はスンナとなります。✸また、病人にとって斎戒することによる危害が予想される場合、斎戒の中断はスンナとなります。✸居住者が日中に旅行をしなければならない場合、斎戒を解くことは認められています。✸妊娠中、または授乳をしている母親は、斎戒による子供、または自分への危害が予想される場合、斎戒をしないことが認められます。✸上記に述べられたすべての該当者は、斎戒を行なえなかった分のやり直しが求められます。✸妊娠中、または授乳をしている母親は、自分の子供への危害を恐れて斎戒しなかった場合のみ、斎戒の出来なかったそれぞれの日数分、貧者に食事を与えるべきです。✸もしも年齢による衰え、または回復の見込めない慢性病によって斎戒がされなかった場合、ラマダーンの日数分を毎日、貧者への食事の提供がされるべきであり、斎戒のやり直しは求められません。誰でも合法的な理由によって、翌年のラマダーン後までやり直しが延期された場合、彼らはそのやり直しだけで済みますが、合法的な理由なく延期された場合、同じ日数分のやり直しに加え、その日数分の貧者への食事の提供がされなければなりません。合法的な理由により、やり直しが出来ないまま死んだ場合、それによる罪はなく、やり直しもありません。もし合法的な理由がなかった場合は、同じ日数分、貧者への食事が提供され、さらに故人の代わりに、親族の誰かによる斎戒のやり直し(ラマダーンのもの、あるいは宣誓によるもの)が望ましいとされます。すべてのアッラーへの宣誓は、アッラーへの不服従が伴わない限り、果たされなければなりません。

✸もしも誰かが合法的な理由により斎戒を行なっておらず、その理由がその日の内に失効

した場合、同様に非ムスリムがイスラームを受け入れた場合、または女性の月経が終了した場合、または病人の病気が治癒した場合、または旅行者が旅路から戻って来た場合、または子供が思春期を迎えた場合、または一時的に精神異常の状態だった者が正気に戻った場合、これらすべての者はそれらの状況が発生したのが日中であり、日没までの斎戒を行なったとしても、その日分の一日をやり直さなければなりません。✸ラマダーンの斎戒が免除されている者の代わりに、誰かが斎戒を行なうことは認められていません。

任意の斎戒：✸最も良い任意の斎戒とは、一日おきに行なわれるものです。✸その次に良いとされるのは、月曜日と木曜日の斎戒です。✸その次は、(イスラーム太陰暦)毎月の満月の3日間13日、14日、15日の斎戒です。✸ムハッラム月とシャアバーン月の大半を斎戒するのはスンナです。✸また、アーシューラーの日(ムハッラム月第10日)と、アラファの日(ズル＝ヒッジャ月第9日)、シャウワール月の6日間の斎戒もスンナです。✸ラジャブ月、毎金曜日・土曜日、そして疑念の日(シャアバーン月第13日)に限定して斎戒をすることは嫌悪されます。イードル＝フィトル、そしてイードル＝アドハーの両日に断食をすることは禁じられています。また、タシュリークの3日間(ズル＝ヒッジャ第11、12、13日)に斎戒することも、ハッジ・アッ＝タマットゥ、もしくはキラーン(巡礼・ハッジ項参照)の屠殺を行なえなかった償いをする者以外は禁じられています。

注意：

✸性交後のような大穢の状態にある者、もしくは月経中か産後出血のある女性が暁前に清浄になった場合、沐浴を暁が見えた後まで延期すること(しかし日の出の前まで)は認められています。また沐浴前に暁前の食事(スフール)を摂ることも認められます。これは斎戒を無効としません。✸ラマダーン中の完全な斎戒を目的として、女性が月経を遅らせる経口避妊薬を摂ることは、彼女自身の健康に影響をもたらさないことを前提に認められています。✸斎戒中の者が口内の唾・粘液を飲み込むことは許されています。✸預言者ﷺは言われました。“私の国家が、斎戒の解除を急ぎ(日没次第、食事を取ること)、遅い時間に暁前の食事を取り続ける限り(暁の直前まで食事を取ること)、善き道に残るだろう。”(アハマド)✸また、彼はこのようにも言われています。“この宗教は人々が斎戒を解くことに急ぐ限り、成功を続けるだろう。なぜならユダヤ教徒とキリスト教徒は、それを遅延するからだ。”(アブー・ダーウード)✸斎戒を解く際にドゥアーをすることは、預言者ﷺが次のように言われたことから好まれています。“斎戒中の者が、斎戒を解く際に捧げるドゥアーは、拒否されることがないのだ。”(イブン・マージャ)預言者ﷺは次のようなドゥアーをしたことが報告されています。“ザハバッ＝ザマウ　ワブタッラティル＝ウルークワサバタル＝アジル　インシャーアッラー”(アブー・ダーウード)(のどの渇きは癒され、血は養われ、報奨は確約された。それがアッラーの御心にかなうのであれば。)✸新鮮なナツメヤシの実で斎戒を解くことはスンナです。新鮮なナツメヤシがないのであれば、乾燥したナツメヤシの実が食されます。それらがどちらもなければ、水で斎戒を解くべきです。

✸斎戒中の者は、コホル(伝統的薬用アイシャドウ)の着用、目薬、耳薬の使用を学者たちの見解の相違がありますが、避けるべきです。それらの薬剤の使用が必要に迫られた場合、たとえ液体喉薬であれ、使用することは構いません。

✸斎戒中はいつであれ、スィワークを使用することはスンナです。イスラーム法学者による正しい見解として、その使用が嫌悪される時間帯はありません。✸斎戒中の者は、人の陰口や悪いうわさの流布、虚偽などのすべてを慎まなければなりません。もしも誰かが斎戒中の者を罵ったり、怒らせたりした場合は、こう言われるべきです。“私は斎戒中です”。そして斎戒とは関係ない自らの舌と肢体によるすべての罪深い行為を避けるべきなのです。預言者ﷺは言われました。“虚偽を言い、それに従った行動を止めない者が飲食を止めたとしても、アッラーはそれをお受け入れにならないでしょう。”(アル＝ブハーリーとアハマド)✸斎戒中の者が食事に呼ばれ、斎戒明けの食事を取って、主催者のためにドゥアーをすることは、たとえ彼が斎戒中でなくともスンナです。✸神威の夜(ライラトル＝カドル)は一年間で最も優れた夜です。それはラマダーン月の最後の10日間のどれかにもたらされます。✸最もそれに近いであろうと強調されているのは、27日目の夜です。この夜に行

なわれる善行は、1000ヶ月（約83年）分よりも優れます。✸この夜は白っぽい暁と、穏やかな気候などの目に見て取れるしるしがあります。

✸ラマダーン中は、特に最後の10日間、崇拝に最善を尽くすべきであり、それらの夜に礼拝に立つのを逃さないよう、細心の注意が払われるべきです。✸もしもイマームと一緒にタラーウィーフの礼拝を行なうのであれば、彼がタラーウィーフを完了するまで立ち去らなければ、一晩中礼拝をしたと記録されるのです。✸任意斎戒を始めた人がそれを完了させることはスンナですが、義務ではありません。もしも意図的に斎戒を解いたのであっても、そのやり直しをする必要はありません。

お篭り（イイティカーフ）：

イイティカーフとは、モスク（マスジド）のなかで崇拝行為のために留まることです。

その条件とは、大穢の状態ではないこと、そして食事、排便、または義務のグスルなどといった、どうしても必要に迫られている場合以外にはマスジドの外に出ないことが求められます。

本当に必要な場合以外でマスジドの外に出た場合、または性交を行なった場合、イイティカーフは無効となります。イイティカーフは年間を通していつでもすることが出来ますが、ラマダーン中、とくにその最後の10日間に行うことが奨められています。

イイティカーフにおける最小の期間は自由ですが、最低一日一夜を継続すればより良いとされます。女性は夫の許可がない限り、イイティカーフを行なうべきではありません。

ここでのスンナとは、アッラーへの崇拝行為を増加させることであり、一般的に許されている行為に耽ること、そして重要でないことをすべて避けることです。

(大巡礼(ハッジ)と小巡礼(ウムラ

ハッジとウムラは、以下の者に該当する一生に一度の義務です。

1)ムスリム。2)精神が健全な者。3)思春期に達した者。4)奴隷でない自由人。5)交通手段や糧を賄うことの出来る資力があること。

女性には、夫かマハラムが巡礼に伴われていなければならないという、6つ目の条件があります。(マラハムとは夫、または兄弟、父、叔父などの、イスラーム法においてその女性が結婚することの出来ない者のことをいいます。)

女性がハッジをマハラム抜きで行なった場合、ハッジは依然として有効とされますが、その条件を満たさなかったことによる罪が伴います。

もし誰かが必要とされる富と手段を持ちながらも、死ぬまでにハッジを怠った場合、その故人の富を使って代理のハッジとウムラを行なうべきです。

非ムスリム、および精神異常者のハッジは有効ではありません。しかし子供や奴隷は、彼らの義務には数えられませんが、ハッジを行うことは許されます。また、貧者がお金を借りてハッジを行うことは正しいとされています。

もしも誰かのハッジを代理で行なった者が、まだ自分のハッジを行なっていなかったのであれば、そのハッジは行なった者のハッジであると数えられます。

イフラーム:イフラームの状態に入ろうとする者が、その前に沐浴し、香水を身につけ、通常の(縫い目のある)衣服を脱ぎ、縫い目のない2枚の白い布地を身にまとうこと(片方で下半身を覆い、もう片方を肩の上にまとう)はスンナです。

ウムラのみを意図する者は、次のように宣言します。“ラッバイカッラーフンマ　ウムラタン”(アッラーよ、あなたの御許にウムラとして馳せ参じます)。ハッジを意図する者は上記の“ウムラタン”の代わりに、“ハッジャタン”と入れ替えます。さらに、それら双方を意図する者は、“ハッジャタン　ワ　ウムラタン”と言います。

もしも何らかの要因によってハッジの完了が妨げられるのを恐れるのであれば、次の様に言うことによって、その宣言に条件を加えるべきです。“ファ　イン　ハバサニー　ハービス　ファ　マヒッリ　ハイス　ハビスタニー”(“もしも私が何かに妨害された場合、私の行き着く所は、その妨害によるものです”)。

ハッジの種類:

ハッジを行なう者は、次の三つの選択肢があります。タマットゥウ、イフラード、そしてキラーンです。

1)最善とされるものは、タマットゥウであり、これはハッジが行なわれる月(シャウワール、ズル=カアダ、ズル=ヒッジャ)にウムラのためのイフラームの状態に入り、ウムラ後に一度イフラームの状態を終了します。それから(同じ年に)ハッジのためのイフラームの状態に入り、諸儀礼を終了させます。2)イフラードとは、ハッジだけのためにイフラームに入ることです。3)キラーンとは、一回のイフラームでウムラとハッジを合わせることか、もしくはまずウムラのためだけにイフラームに入り、カアバ聖殿の周回を開始するまえにハッジを追加することです。

一度、ハッジを意図する者が旅行の旅路に着いた場合(イフラームの状態に入った後)、彼はこのように言うべきです。“ラッバイカッラーフンマ　ラッバイク。ラッバイカ　ラーシャリーカ　ラカ　ラッバイク。インナル=ハムダ　ワン=ニァマタ　ラカ　ワル=ムルク。ラー　シャリーカ　ラク”(“只今参ります、主よ、只今参ります。只今参ります、完全に比類なき御方よ、只今参ります。全ての賛美は、恩恵は、そして主権はあなたのもの。あなたこそ比類なき御方です。”)これはタルビヤと呼ばれます。

これを声に上げて何度も繰り返すことは、さらなる報奨に値します。しかし、女性がタルビヤで声を上げることは控えられるべきです。

イフラームの状態で禁じられた行為は9つです。

1) 散髪。2) 爪切り。3) 男性が縫い目のある衣服を着ること。どうしても縫い目の無い布地を入手することが出来なければ例外とされ、その場合はズボンの着用が許されます。また、サンダルを見つけることが出来なければ、クフ(革靴下)の着用が(足首を覆っている部分を切り落とすことで)許されます。これによる償いは必要ありません。4) 頭部を覆うこと。5) 香水を身につけること。6) 通常認められている類の狩猟。7) 結婚と婚約。これらは禁じられていますが、償いは定められていません。8) 妻への性的行為へとつながる前戯。もしもこれが行なわれれば、羊一頭の屠殺、または３日間の斎戒、または6人の貧者への食事の提供といった償いが求められます。9) 性交。もしもこれがイフラームの状態のなかで行なわれれば、ハッジは無効となります。彼はハッジを翌年再び行なうと共に、ラクダ一頭を屠殺し、マッカの困窮者へと配布することによってそれを償わねばなりません。もしもそれがハッジ儀礼の第一部とイフラームの状態が終った後に行なわれたのであれば、ハッジは無効とはなりませんが、ラクダ一頭の屠殺による償いのみが必要となります。もしもウムラの最中に性交が行なわれたのであれば、そのウムラは無効となり、羊一頭の屠殺が捧げられた上に、もう一度ウムラを繰り返さなくてはなりません。ハッジとウムラを共に無効とする要素は、性交のみなのです。

✸ハッジの儀礼において男性に適用される事項は女性にも適用されますが、女性に関して唯一異なるのは、縫い目のある衣服の着用許可です。しかし、彼女らはイフラームの際に完全なブルカやニカーブ(目の部分だけが開いている種類のベール)、そして手袋の着用が許されません。[1]

フィドヤ(償い)の捧げ:フィドヤには二種類があります。

1)複数の選択肢から選ぶことの出来るフィドヤ:これは散髪、爪切り、縫い目のある衣服の着用、または頭部を何かで覆った場合に適用されます。それらのフィドヤとしては、三日間の斎戒、六人の困窮者に対する食事(一キロ半の当地の主食)の提供、または羊一頭の屠殺から選択することが出来ます。狩猟による野生動物の殺害には、牛の屠殺が求められます。もしそれが可能でなければ、殺した動物と同等の市場価格を喜捨として差し出さなければなりません。

2)フィドヤを捧げるにあたって決められた方法でなければならないもの:これはタマットゥウとキラーンを行なう者が行なわなければならない羊一頭の屠殺、そしてイフラームの状態で性交渉を行なった者のラクダ一頭の屠殺が含まれます。もしもタマットゥウとキラーンを行なう者で、イフラームの最中に性交渉を行なったが、既述の動物を見つけることが出来なかった場合、または購入する資力がない場合、彼らはハッジ中に三日間、帰省時に七日間の斎戒を行なわなければなりません。フィドヤ(償い)はマッカの困窮者のみに支払われなければなりません。

マッカ入りに際して:ハッジかウムラを行なう者がマッカ入りするときには、規定されたドゥアーを捧げなくてはなりません。その後、タマットゥウを行なう者であればウムラの周回(タワーフ)を始め、イフラードかキラーンを行なう者であれば、到着のタワーフを行ないます。

タワーフの開始に際しては、右肩はさらけ出して左肩は白布をまとい(イッティバーウ)、黒石(アル＝ハジャル・アル＝アスワド)から開始します。黒石は手で触れるか、可能であればキスをすることが望ましいとされます。どちらも可能でなければ手を挙げて合図し、"ビスミッラー・ワッラーフ・アクバル"(アッラーの御名において)と言います。

これは各周で繰り返されます。自らの左側をカアバに固定し、その周りを七周し、最初の３周では可能な限り、歩幅を小刻みに早足で進みます(ラマル)。イエメン柱[2]を通り過ぎる際は、可能であれば右手でそこに触れます。

1　女性はイフラームの状態に入った後、非マハラム男性の前では衣服の一部で顔を隠すことが出来ます。その方法としては頭頂部から顔の位置までベールを垂らすか、またはいかなる種類のベールでも使用出来ますが、ニカーブ着用に関して禁じられた行為に注意しなくてはなりません。

2　黒石の直前の柱。

イエメン柱と黒石の中間では、次のドゥアーがされます。“ラッバナー　アーティナー　フィッドゥニヤーハサナタンワフィル＝アーヒラティ　ハサナタン　ワ　キナー　アザーバン＝ナール”(“私たちの主よ、現世における最善をお授け下さい。そして来世における最善をお授け下さい。そして業火の懲罰から私たちをお護り下さい”)(雌牛章2:201)。

周回中には、希望するドゥアーをすることが出来ます。周回後、アブラハムの立ち処(マカーム・イブラーヒーム)の後方で二ラクアの礼拝を行ない、可能であれば不信者たち章(109)と純正章(112)を誦みます。それから、可能な限りザムザムの泉からの水を飲みます。

その後、黒石に戻って右手でそれに触れ、ムルタザム(黒石と扉の間)でドゥアーをします。そしてサファーの丘に登り、“アブダ　ビマー　バダアッラーフ　ビヒ”(私はアッラーが始めたことから始めます。)と言って、サアイ(サファーとマルワ間の巡行)を始めます。

それから、次の意味を持つアッラーの節を朗誦します。“本当にサファーとマルワは、アッラーの印の中である。だから聖殿に巡礼する者、または(小巡礼のためにそれを)訪れる者は、この両丘をタワーフしても罪ではない。進んで善い行いをする者には、本当にアッラーは嘉し、それをよく御認め下さる。”(2:158)。

それから“アッラーフ　アクバル”と言った後“ラー　イラーハ　イッラッラー”と言い、カアバの方向を向いて両手を掲げ、ドゥアーします。

そして丘を降りて、緑色の印がある場所まで歩きます。緑色の印に辿り着いたら、そこから次の緑色の印まで、可能な限り疾走します。その後、マルワまで歩き、サファーで行なった同じ儀礼を繰り返します。

そしてそこから下り、同じことを7度(7巡)繰り返します。丘から丘の間が一巡と見なされます。その後、ハッジを行なうタマットゥウのウムラ以外は、頭髪を剃るか短くします(剃る方がより良いとされています)。

キラーンかイフラードを行なう者に関しては、イードの日にアカバの諸柱(ジャムラートル＝アカバ)で小石が投げられるまではタワーフ・アル＝イファーダを行なうことが許されません。女性はタワーフでの最初の３周の早足とサファーとマルワ間の早足をしないこと以外においては、男性と同様です[1]。

ハッジの詳細:ズル＝ヒッジャの8日(ヤウムッ＝タルウィヤ)もしも巡礼者がマッカ入りしているのであれば、イフラームの状態に入ってミナーに向かい、9日の夜(イスラームの日付では日没から新しい一日が始まります。つまり一般的にはまだ8日の夜です)をそこで過ごします。

翌朝、ズル＝ヒッジャ9日の日が昇れば、アラファの平地へ進みます。ズフルとアスルの礼拝を、ズフルの時間に短縮・纏めて行ないます。

巡礼者はアラファの平地であれば(ウラナ渓谷以外の場所であれば)、どこにでも滞在出来ます。そして次のドゥアーをするべきです。“ラー　イラーハ　イッラッラー　ワフダフ　ラー　シャリーカ　ラフ、ラフル＝ムルク　ワ　ラフル＝ハムド、ワ　フワ　アラー　クッリ　シャイイン　カディール”(“唯一で並ぶ者無き御方、アッラー以外に真に崇拝すべきものはいません。主権と讃美はかれの御許にあり、かれは全能の御方です”)。ここでは切実なドゥアーに励み、悔悟を求め、アッラーに近づけるよう切願するべきです。日が沈むと、ムズダリファへと向かいながらタルビヤし、アッラーを思い起こします。

ムズダリファに到着後、マグリブとイシャーの礼拝を短縮・纏めておこないます。それからそこで夜を過ごします。

ファジュルの時間になれば、早い時間にそれを行ない、明るくなるまで(実際には日の出前まで)ドゥアーを続けます。それから再び出発し、ムハッスィルの谷を通過する際は、可能であれば急ぐべきです。

巡礼者がミナーに到着すると、小石(ヒヨコ豆よりは大きく、ヘーゼルナッツよりは小さ

1　女性はウムラ、またはハッジの完了にあたって剃髪はしません。その代わり、髪を束ねて指先ほどの長さを切り落します。

いもの)で大石柱(ジャムラトル＝アカバ)に投石が開始されます。投石の際は"アッラーフ　アクバル"と言ってそれぞれの石を手を上げつつ投げます。それらの石は実際に石柱に当たらなくとも、その周りの囲いに入ることによって条件は満たされます。最初の投石までには、タルビヤを止めておきます。それから剃髪、もしくは散髪をします。剃髪の方がより良いとされています。それから動物を屠殺して犠牲に捧げます。

投石と剃髪(または散髪)によってイフラームの状態から出て、"禁忌を脱する状態"(アッ＝タハッルル・アル＝アウワル)に入り、性交以外の禁止されていた事項が許されるようになります。そしてハッジの完了における義務である、タワーフル＝イファーダの実行へと移ります。

最後に、タマットゥを行なっているか、到着のタワーフの際にサアイを行なわなかった場合は、サファーとマルワ間のサアイを行ないます。

ここまで終了すれば、性交を含む、すべてのイフラームにおける禁止事項が解禁(アッ＝タハッルル・アッ＝サーニー)となります。それからミナーに戻ってタシュリークの2夜(ズル＝ヒッジャ第11日と12日)をそこで過ごすことは義務であり、太陽が傾き始めれば3石柱に各7つの小石を投げます。それぞれの合間にドゥアーをしながら最初のジャムラから始め、次に中央、そしてジャムラタル＝アカバへと投石します。

ジャムラタル＝アカバへと投石した後にはドゥアーをしません。二日目にも同じ要領で投石を行ないます。もしも二日目の日没前、つまりズル＝ヒッジャ第12日にそこから出たいのであれば、それも可能です。しかしながら、ミナーにいる間に日が沈んだのであれば、3日目まで滞在しなければならず、3日目の投石が行なわれなければなりません。しかし、群衆に阻まれてミナーから出ることが出来ないうちに日が沈んだのであれば、それは別とされます。この場合、たとえ日没後にまだ帰途に着く意図があるのなら、それを行なうことは可能です。

キラーンを行なう者は、タマットゥウの者が動物を犠牲に捧げるのと同様、動物の犠牲を捧げることが義務である点に関して、イフラードの者と異なります。

帰省を希望する者は、別れのタワーフ(タワーフル＝ワダーア)を行なうまでは帰途に着くべきではなく、それをマッカにおける最後の儀礼とします。しかし月経中、または産後出血のある女性は、その義務から免除されます。

タワーフル＝ワダーアの最中に、何らかの用事に心を奪われてしまった者は、タワーフル＝ワダーアのやり直しが行なわれなければなりません。タワーフル＝ワダーアを行なわずにマッカを去ってしまった者は、まだ近くにいる場合は再びマッカに戻ってからそれを行ない、遠く離れてしまい戻れない場合、フィドヤとして動物を屠殺し、犠牲に捧げます。

ハッジの柱(アルカーン)には4つがあります。1)イフラーム(そしてハッジを行なうという意図も含まれます）2)アラファでの滞在(アル＝ウクーフ)3)カアバの周回(タワーフル＝イファーダ)4)サファーとマルア間の巡行(サアイ)。

ハッジの義務(ワージバート)には7つがあります。1)定められた場所(アル＝ミーカート)からイフラームに入ること2)夜までのアラファ滞在3)ムズダリファで夜半までを過ごすこと4)タシュリークの日々はミナーで夜を過ごすこと5)ジャマラートへ小石を投石すること6)剃髪および散髪7)別れのタワーフ(タワーフル＝ワダーア)。

ウムラの柱(アルカーン)には3つがあります。1)イフラーム2)周回(ウムラのタワーフ)3)ウムラのサアイ。

ウムラの義務には２つがあります。1)定められた場所(アル＝ミーカート)からイフラームに入ること2)剃髪および散髪。

アルカーンのいずれかを行なわなかった者のハッジ、およびウムラは完了せず、無効となります。義務を怠った者は、動物を犠牲に捧げることによって償う必要があります。ハッジとウムラでのスンナを行なわなかった者には罪はありません。

タワーフを行なうには13の条件があります。1)イスラーム2)精神的に健常であること3)確固とした意図4)タワーフ開始時間を過ぎていること5)可能な限り陰部を覆い隠してい

ること6)児童以外、大小の穢れから清められていること7)7周の完了とそれに対する確信8)カアバを体の左側に保つこと。そうでない場合は周回をやり直すことになります9)逆方向に歩かないこと10)肉体的に可能な者は歩行すること11)周回を連続的に行うこと12)マスジド・アル＝ハラーム内で周回を行うこと13)黒石から周回を開始すること。

タワーフにおけるスンナ行為には、右手で黒石に触れてキスすること、その付近で"アッラーフ　アクバル"と言うこと、右手でイエメン柱に触れること、左肩をさらけ出し(イッティバーウ)、小刻みな早足で進むこと(ラマル)、タワーフ中にドゥアーし、アッラーを思い起こすこと、カアバに近づくこと、そしてその後２ラクアを行うことが含まれます。

サファー・マルワ間の巡行(サアイ)には9つの条件(シュルート)があります。1)イスラーム2)精神が健全であること3)意図4)連続的な巡行5)肉体的に可能な者は歩行すること6)7巡の完了7)二丘間の距離を踏破すること8)正しいタワーフの後に行なわれること９)サファーから始め、マルワにて完了させること。

サアイにおけるスンナ行為には、小穢と不浄物から清められていること、陰部が覆われていること、サアイの最中にアッラーを思い起こすこと、走らなければならない区間で疾走すること、丘の上まで登ること、そしてタワーフの直後にサアイをすることが含まれます。

注意:ジャマラートでの投石は、一日の投石を翌日にずらすこと、または各投石日をタシュリークの最後の日まで延期することが認められていますが、決められた日に行なわれることが最善であるとされます。

ウドヒヤ — ハッジを行なっていない者たちが捧げる犠牲の動物

犠牲の動物を捧げることは、強調されたスンナ行為です。屠殺を意図する者は、ズル＝ヒッジャの始まりから動物を屠殺し終えるまで、散髪および爪切りをしないべきです。

アキーカ — 新生児のために行なわれる犠牲動物の屠殺

これはスンナ行為であり、男児の場合は2頭の羊を屠殺し、女児の場合は一頭の羊となります。新生児の出生七日後にそれらの動物が屠殺されれば最善です。また、新生児の頭を剃髪し、その重さと同重量の銀を喜捨として差し出します。

その他の徳と裁定

✸悪魔は、人間を次の7つの落とし穴のどれかに落そうと策略します。悪魔はそのなかでも最も罪深いもの、そしてそれがだめならその次のもの、と望むのです。これら７つを最も罪深いものから順から見ていきましょう。

1) 多神教・偶像崇拝によってアッラーに同位者を配すこと（シルク）、そして不信仰（クフル）2) 宗教における改新（ビドア）と、預言者ﷺと彼の教友たちの残した道から背き去ること3) 大罪（カバーイル）を犯すこと4) 小罪（サガーイル）を犯すこと5) 許された行為を過剰に行なおうと駆り立てること6) 崇拝において、より義務的なものや報奨の大きなものよりも別の行為を行なおうと駆り立てること7) ムスリムを悩ませ、苛（さいな）ませる悪魔を人間とジンのなかから送り出すこと。

✸罪とは、それから悔悟すること、アッラーからの御赦しを求めること、善行、試練と苦難への遭遇、喜捨すること、他者によって自らの御赦しを求める祈願をしてもらうことなどの、数々の行為によって赦罪されます。

もしも現世でアッラーによって罪が許されなかった場合は、その人は墓場、あるいは復活の日、あるいは火獄によって罰せられます。アッラーがその人物から罪を取り除いて浄化されたのであれば、その人物が真の一神教（タウヒード）において死んだ場合、アッラーの御心と御慈悲のみによって楽園に入ることが許されます。もしも多神教、偶像崇拝、不信仰もしくは大きな偽信において死んだのであれば、その人物は火獄に入れられ、永久にそこで暮らすことになるのです。

✸罪と不服従行為は、人に多大なる影響を与えます。心への影響は、疎外感、屈辱感、病気としてもたらされます。また、罪人とアッラーとの間の障壁も作り出します。

それは宗教にも同様の影響をもたらします。さらに、それはアッラーへと服従する傾向をも取り去ります。またアッラーの使徒、諸天使、信仰者たちの祈願からも剥奪されるのです。暮らしへの影響は、生活の糧とそれによる祝福の欠乏、そしてさらなる貧困をもたらすのです。

個人への影響としては、人生の祝福がなくなり、苦難が増えます。個人の所業への影響として、それらは受け入れられなくなります。社会への影響として、不安や危険を生み出し、物価を増加させ、統治者の圧制を強め、敵を増やし、干ばつその他をもたらします。これらすべてとそれ以外のものは、罪による結果なのです。

✸心の平安や幸福感、不安からの解放はすべての人々が望む到達点であり、これらによってのみ、人々は完全なよい人生を送ることが出来るのです。

これらは宗教的、自然的、そして実践的手段によって得ることができ、それらすべては信仰者のみによって融合されるのです。なぜなら信仰者のみが、次のものを併せ持つからです。1) アッラーへの信仰 2) アッラーの戒律への遵守と、禁止事項の忌避 3) アッラーの創造への言葉、行為、様々な善行による慈善 4) アッラーの宗教における諸事と、人生と現世に関する有益な知識と行為への専心 5) 将来と過去の行為へ不安を抱く代わりに、現在の状況とプラス材料への集中 6) アッラーへの頻繁な念 7) 内面的・外面的なアッラーによる祝福の頻繁な言及 8) 自身よりも身分の低いものに（慈悲の目で）目を配り、身分の高い者や裕福な者への妬みを抱かないこと 9) 不安材料の払拭に努力し、真の幸福を得るための尽力 10) アッラーの使徒が私たちに教えたように、アッラーのご加護を求め、不安からの解放を求めること” アッラーは、次のように言う者に対し、幸福をもって不安と憂鬱を取り除いて下さいます。‘アッラーフンマ　インニー　アブドゥク　ワブヌ　アブディク、ワブヌ　アマティク、ナースィヤティー　ビヤディク、マーディン　フィーヤ　フクムカ　アドゥルン　フィーヤ　カダーウク、アスアルカ　ビクッリスミン　フワ　ラカ　サンマイタ　ビヒ　ナフサク、アウ　アッラムタフ　アハダン　ミン　ハルキク、アウ　アンザルタフ　フィー　キタービク、アウィスタアサルタ　ビヒ　フィー　イルミル＝ガイビ　インダク、アンタジュアラル＝クルアーナ　ラビーアカルビー、ワ　ヌーラ

サドゥリー、ワ　ジラーア　フズニー　ワ　ザハーバ　ハンミー’（アッラーよ、私はあなたのしもべであり、あなたのしもべの息子であり、あなたの女のしもべの息子であり、私の前髪はあなたの御手のなかにあり、あなたの私にたいする命令は遂行され、あなたの私に対する定めは完全に公正です。私はあなたに、あなたに属する、あなたが自ら名乗られるすべての御名において、もしくはあなたの書で啓示された、またはあなたが何らかの創造物に教えられた、または不可視の正解におけるあなただけの知識として保護されたものにおいて、あなたがクルアーンを私の人生の癒しとし、心の光とし、それによって悲しみを去らせ不安から解放してくれるよう求めます。”）

✸イブラーヒーム・アル＝ハワースは言いました。“心の癒しには５つのものがある。クルアーンを熟考とともに朗誦すること。腹を空に保つこと。夜間に礼拝に立つこと。夜明け前に羞恥心とともにドゥアーすること。誠実な人々と一緒に過ごすこと。”

✸誰であれ、大きな苦難が訪れてその苦しみを軽減したい者は、それがより大きかったかもしれない状況を想像し、（苦難に対する忍耐と努力による）多大なる報奨のことを思うべきです。

✸預言者ﷺは12ラクアの任意礼拝を毎日行なっていたことが確認されています。それらは、ファジュルの礼拝前の2つ、ズフルの礼拝前の4つと礼拝後の2つ、マグリブの礼拝後の2つ、イシャーの礼拝後の2つです。

　また彼は、ズルフ、アスル、そしてジュムアの礼拝の前に4ラクア、ズフル、マグリブ、イシャーの礼拝の後に4ラクア、マグリブのアザーン後に2ラクア、そしてウィトルの後に2ラクアの任意礼拝を行なっていたことが確実な典拠によって報告されています。

✸もしもクルアーンを記憶から朗誦する者が、写本からの朗誦よりもその意味の熟考・反映が出来るのであれば、それが最善であるとされます。しかし（その意味の熟考に関して）記憶から、もしくは写本からの朗誦にどちらも違いがないのであれば、写本からの朗誦がより良いとされます。

✸任意礼拝の禁じられている特定の時間帯にそれらをおこなうことは禁じられています。それらは、1）暁から日の出まで、そして太陽が地平線上から短い槍ほどの長さまで昇るまで2）太陽が天頂に達し、傾き始めるまでの時間帯3）アスルの礼拝後から日没まで。

たとえこれらの時間帯内であっても、モスクへの敬礼の礼拝（タヒーヤトル＝マスジド）、タワーフ後の2ラクア、ファジュルのスンナの礼拝、葬儀の礼拝、ウドゥー後の2ラクア、朗誦のサジダ、感謝のサジダは行うことが正しいとされます。

✸預言者ﷺのモスクに入った者は、まず2ラクアの敬礼の礼拝を行ない、名誉ある預言者廟[1]を訪れ、礼拝方向（キブラ）を背にして墓廟を向き、羞恥心と伏せがちの目、そして心一杯に満たした敬意と畏怖の念を、あたかも預言者ﷺが目の前にいるかのように持ち、“アッ＝サラーム　アライカ　ヤー　ラスーラッラー”と言います。これに何かを加えること（例えば“ワ　ラフマトゥッラーヒ　ワ　バカラートゥフ”など）も許されます。

　それから腕ほどの長さを右に進んで、“アッ＝サラーム　アライカ　ヤー　アバーバクル　アッ＝スィッディーク”（あなたに平安あれ、誠実なる者、アブーバクルよ）と言い、次に“アッ＝サラームアライカ　ヤー　ウマラ　アル＝ファールーク”（あなたに平安あれ、真実と虚偽を分け隔てる者、ウマルよ）と言い、そして“アッラーフンマ　イジズィヒマー　アン　ナビーイヒマー　ワ　アニル＝イスラーム　ハイラー”（“アッラーよ、彼ら二人に預言者に従ったこと、そしてイスラームを助けたことにる報奨を与えたまえ”）と言います。そしてキブラの方向を向き、墓廟を体の左側に来るようにし[2]、　アッラーへドゥアーします。

1　名誉ある預言者廟は元来、モスク外にあった彼の妻アーイシャの家の中にありましたが、その後教友たちの次の世代によって拡張されたモスクの敷地内に収められました。その場を訪れる際に特別な作法や決まりごとはありません。

2　それ故、彼はラウダと呼ばれる、預言者廟と彼のミンバル（説教壇）の間にある祝福された場所に立つことになります。預言者ﷺはそこを、楽園からの庭園（ラウダ）のひとつであると述べています。

✸結婚をすることは、性欲を持つ者たち、そして姦通の罪を犯す恐れのない者たちにとってのスンナです。また、性欲を持たない者たちにとっても認められています。しかし性欲を持ち、姦通を犯してしまう恐れのある者たちにとっては義務行為です。その義務はハッジの遂行よりも先に行なわれるべきです。女性を眺めること、女性と一緒に隔離されることは、誘惑の源泉であることから不法行為であるとされています。

男性と女性の合法的結婚が行なわれるには、次の条件が満たされなければなりません。1) 男女一組を特定すること。それ故、例えばある男性が“私の娘たちをあなたに結婚させよう。”と言うことは認められません。2) 新郎と新婦の合意。新郎は成熟しており、正しく導かれていること、そして新婦は自由人であり、思慮分別のあること。3) 女性の保護者。なぜなら女性は自分で婚姻を取り決めることが出来ず、保護者が女性にとっての適格者を彼女と結婚させることを拒否した以外には、合法的な保護者以外には結婚の取り決めが出来ません。結婚を取り決める一番の適任者は、彼女の父親であり、次に祖父、曾祖父及びそれ以上、または彼女の息子、孫以降、または彼女の実兄弟、そして父方の叔父です。(保護者が全くいない者に関しては、統治者が保護者の役割を果たします) 4) 証人。成熟した、精神健全で誠実な2人の男性の証人の出席が必須です。5) その男女が同じ乳母を持つ間柄や、血縁・婚姻関係にはないこと。

結婚が永久に認められない複数の要素があります。

1) 血縁関係：母親、祖母、及びそれ以上または娘、息子の娘(孫)、そしてそれ以降、妹、妹の娘、またはその息子か娘の娘、または兄弟の娘とその娘、またはその息子か娘の娘、及びそれ以降、母方、もしくは父方の叔母及びそれ以上。

2) 同一の乳母を持つ乳兄弟：この禁令は、結婚に関しても上記の血縁関係と同一のものです。

3) 婚姻関係：妻の母、祖母たち、また父、または祖父及びそれ以上の妻たち、自分の息子の妻、その娘たち、及びそれ以降。

一時的に結婚が禁じられる要素は2種類です。

1) 複数の女性。例えば姉妹の混合、女性とその叔母、など2) いずれ経過する理由によるもの。例えば当時まだ結婚中だった女性など。

息子と娘は、アッラーへの服従として彼らの両親に対しても常に従わなければなりませんが、希望しない相手との結婚に関しては従う必要がありません。これに関する命令には従わなくても良く、それは重大な失礼にも当たりません。

✸離婚：清浄な状態の妻と二つの月経期間の間に性交渉を行った後、夫が妻の月経中、または産後出血中に彼女と離婚することは認められません。これらの時間に離婚をすることは認められていませんが、もしも実際に行なってしまった場合、それは合法であると見なされます。

離婚は合法的な理由がない限り、行なうことが嫌悪されますが、必要な場合は認められています。離婚は、破壊的結婚生活に留まることが有害である場合はスンナです。離婚に関して両親に従うことは義務ではありません。一度に妻へ1回以上の離婚宣告をすることは認められていません(例えば“私はあなたと3回離婚する”、または“夜空の星の数だけ”、または“砂漠の砂粒の数だけ”と言うことなど)。

離婚宣告は(月経中ではなく)、清浄な状態において、まだ夫が妻と性交渉を持っていない時にのみ行なわれるべきです。その後、彼は1回の宣言によって彼女と離婚し、規定された待ち時間(イッダ)が過ぎるまで彼女と別れます。

結婚の状態(タラーク　アッ＝ラージイ)に夫が戻って来る可能性を期待出来る女性は、居住する家を出ることが禁じられます。なぜなら彼にとって規定された待ち時間(イッダ)内に彼女を追い出すことは禁じられているからです。

離婚は口頭で宣言されること(または文面によるもの)によって有効となり、意図のみでは有効とされません。

✸定められた期間(イッダ)の種類:イッダには複数の種類があります。1)妊娠中の女性のイッダは、出産するまでです。2)未亡人のイッダは4ヶ月と10日間です。3)月経期間中に離婚した女性(タラーク　ビドイー)のイッダは離婚後３度の完全な月経周期が終るまでです。4)月経のない女性のイッダは3ヶ月間です。

イッダ期間中は、結婚状態に戻って来る期待の出来る夫を持つ女性にとり、その夫とおなじ家に留まることは義務行為であり、彼にとって彼女を見ること、そして彼女とふたりきりになることはイッダ期間が終るまでは認められています。恐らくアッラーは彼らを和解させるでしょう。

女性が夫のもとに戻り(ラジャア)、離婚を無効化にすることは、例えば“ラジャアトゥキ”(“私はあなたに戻ります［復縁します］”)のような夫による明確な宣言、もしくは性交渉によってです。彼女を結婚の状態に戻す行為には、彼女の合意は必要とされません[1]。

✸誓約(アイマーン):誰かが真剣に誓約をした場合、その誓約が以下の4つの条件に当てはまる場合、その誓約の償いを行なわなければなりません。

1)その誓約が意図的に行なわれた場合。もしも誰かがただ単に“アッラーにかけて”または“いいえ、アッラーにかけて”と会話の中で真剣な誓約の意図なしに言われた場合、それは故意なき誓約(ラグウ)と呼ばれ、償われるべき誓約とは見なされません。2)その誓約が将来的に可能とされることに対して行なわれ、彼自身が嘘をつくことによって、それが事実であるとでっち上げられたのであり、未詳の定義付けられていない過去の出来事に対してではないこと(それはヤミーン　アル＝ガムースと呼ばれ、大罪です)、もしくは将来的にかれ自身が本当に起こると確信していたが、それが起こらなかった場合。3)誓約する人物が、強要されたのではなく、自らの自由意志で行なった場合。4)誓約した人物が、その誓約通りに行動しなかったか、誓約した事柄に反した行為をした場合。

誓約をする者が、“インシャー　アッラー”(“もしアッラーがそれをお望みであれば”)と言い、それに条件付けたのであれば、以下の２つの条件に該当する場合、償いをする必要はありません。1)その“もしアッラーがそれをお望みであれば”という条件が、誓約の内容と直接つながっている場合。2)その人物が例えば“ワッラー、インシャー　アッラー”(アッラーにかけて、もしアッラーがお望みであれば)などと言い、誓約を条件付けた場合。

誓約をした人物が、その内容よりも別のものがより有益であることに気付いた場合、最初の誓約を償って、より有益なものを選ぶことはスンナ行為です。

✸誓約に対する償い(カッファーラ　アル＝ヤミーン)とは、10人の困窮者のそれぞれに半サーア(約１キロ半)の食料を与えるか、衣服の提供、または奴隷一人の解放が求められます。貧しいためにこれらの償いを差し出すことが出来ない者は、3日間連続の斎戒をしなくてはなりません。それらを差し出すことが可能な裕福な者が斎戒をするのは適切ではありません。

誓約を破る前、またはその後に償いをすることは認められています。同じ誓約を何度も破ったものは、ひとつの償いで事足ります。しかし、ひとつ以上の事柄に関して誓約を破ったのであれば、それぞれの償いが必要となります。

✸礼拝の最中、もしくは外でアッラーを思い起こすことは、それが口に出されて自分の耳、または周りの人々に聞こえるのでない限り、誓約には数えられません。

✸宣誓(ナズル)。宣誓には様々な種類が存在します。1)一般的な不特定の宣誓:誰かが“もしアッラーがその病人を治癒されたら…”と言ったにも関わらず、何をするかを明確に述べなかった時。この場合、誓約をして病人が治った場合に償いをするのと同じように、それを償う必要があります。

2)怒りに任せた、または口論の際の宣誓:例えば“もしも私があなたと話せば、一年間の

1　もしも彼女がその後、合法的な理由によって夫と留まりたくないと希望した場合、彼女は“フルゥ”と呼ばれる、妻側による無効宣告を提出することが出来ます。

斎戒をします。”のような、自分自身を助長するため、または何かを止めようとするための意図を持って条件的に宣誓をした場合、宣誓した内容を果たすか、または前述されたカッファーラ　アル＝ヤミーンの償いを行なう必要があります。

3)許される宣誓:例えば“私は自分の服を着ることを宣誓します”と言った場合、裁定としては彼にはその宣誓を果たすか、カッファーラ　アル＝ヤミーンのように、宣誓の償いを行うことが出来ます。

4)嫌悪される宣誓:例えば“私は妻と離婚すると宣誓します。”と言った場合。ここでの裁定は、カッファーラ　アル＝ヤミーンを行ない、宣誓を果たさないことがスンナです。しかし、そういった宣誓を果たした場合、カッファーラを行なう必要はありません。

5)不服従の宣誓:例えば“私は窃盗をすると宣誓します。”と言った場合。ここでの裁定は、その宣誓を果たすことが禁じられ、カッファーラ　アル＝ヤミーンを行うことが義務となります。もしも彼が宣誓を果たした場合、彼には罪がありますが、カッファーラは行ないません。

6)服従行為の宣誓:例えば“私はこの義務礼拝を行なうと宣誓します。”と言い、それによってアッラーへ近づこうと意図した場合。もしもそのような宣誓を病気からの回復などに条件付けて行なった場合、回復がもたらされた場合は宣誓を果たすことが義務となります。もしも宣誓が何かに条件付けられていない場合、それは必ず果たされなければなりません。

✸故人への悲嘆(イフダード):女性が故人を3日間以上に渡って悲嘆することは認められていません。その女性の夫が故人の場合は例外で、彼女は4ヶ月と10日間、哀悼することが義務行為となります。

この期間中に、未亡人が口紅などの化粧や、指輪などの貴金属・宝石類、また香水や明るい色彩の衣服(赤、黄など)を着用することは認められていません。しかし、爪切りや沐浴、毛髪の整え、むだ毛の処理などは認められます。哀悼期間中に女性が着るべき衣服や色(黒など)は定められていません。

その期間中、未亡人は夫と暮らした家に留まることが義務であり、必要な用事のない限り、そこを出ることは認められていません。その場合も、その用事は日中に行なわれるべきです。

✸乳母による授乳関係(ラダーア):同一の乳母を持つ者の関係は、血縁関係と同じであり、次の3つの条件により、結婚が禁じられます。1)その乳が出産によって生産されたのであり、他の理由ではない場合。2)授乳期がその乳児の出産から２年間以内の場合。3)その乳児が５回以上に渡って個別の授乳を受けたこと。授乳とは乳房の乳首を吸ったことにより、乳が飲まれたことを意味します。それによって満腹になったかどうかは必要とされません。ラダーアは必要経費の出費、遺産相続の権利を生み出しません。

✸遺言と証言(ワスィーヤ)[1]:遺言と証言を残すのは、その人物が誰かに借りを作っており、証明書や法律上の正当な書類を持たない場合の義務となります。そのような場合、彼はそれらの人々に対する責任として遺言を残します。

裕福な者が、富の5割を(イスラーム法において)正当な相続人でない、貧しい親族、または一般的な困窮者や学者、誠実な人々に譲ることはスンナです。

貧しい者に相続人が居る場合、自分の富を相続人以外に譲渡することは嫌悪されていますが、それら相続人が裕福である場合は認められます。自分の相続人以外に、富の３割以上を譲渡することは禁じられています。また、たとえ小さな額であれ、決定している相続人に譲渡することは、本人の死後に他の相続人が許可をしない限りは禁じられています。

もしも遺言者が“私の気が変わった”“私はこれを無効にした”と同様のことを言ったのであれば、それは無効となります。

彼が遺言の文頭を次のように書くことが推奨されます。“慈悲あまねく慈愛深きアッ

1　ここで言及されている遺言と証言は、クルアーンとスンナによって、特定の範疇に入る親族に対して与えることが決められている額の、義務の相続権以外のものであることにご注意下さい。

ラーの御名において。ここに書くことは(遺言者の名を挿入)が望むことである。彼はアッラー以外に崇拝に値する神はなく、かれには同位者や協力者もなく、ムハンマドはかれに仕える忠実な使徒であり、楽園、火獄は真実であり、復活の時がやがて来ることに疑いはなく、アッラーは墓で眠る者たちを蘇らせるのです。私は、後に残す家族がアッラーをかれの権利において畏れ、彼らが自分たちの諸事に関してそれぞれ修正し、彼らが真の信仰者であるのなら、アッラーとかれの使徒に従うべきなのです。私は彼らに対して、イブラーヒームが彼の息子に死の際に行なったことと同じことを行ないます。 'わたしの子孫よ、アッラーはあなたがたのために、この教えを選ばれた。だから必ずムスリムとして死なねばならない。'"

✸預言者ﷺに対してアッラーの平安と祝福の挨拶を送るときは、アッ=サラート(ここでは祝福、賞揚、称賛の意)とアッ=サラーム(ここではすべての害からの平安と安全の意)を合わせることが推奨されています。

また、たとえばアブーバクル'サッラッラーフ　アライヒワサッラム'(アッラーの祝福と平安が彼にありますように)、もしくは'アライヒッ=サラーム'(彼に平安がありますように)と言うように、諸預言者以外に"アッラーの祝福と平安が彼にありますように"と言うのは嫌悪されますが、次の様に、預言者と一緒に付け加えて言うことは、学者間の合意によって許されています。'アッラーフンマ　サッリ　アラー　ムハンマディン、ワアラー　アーリ ムハンマディン、　ワッ=アスハービヒ　ワ　アズワージヒワズッリーヤティヒ'("アッラーよ、ムハンマドと彼の家族、そして彼の教友たちと妻たちと子孫を祝福してください。")

✸教友たち(サハーバ)と彼らの追従者たち(タービイーン)と彼らに学んだ学者たち、敬虔な崇拝者たち、そしてすべての善き正しいムスリムたちにアッラーのご慈悲があるよう求めるのは好ましいとされます。例えば、アブーハニーファ、マーリク、アッ=シャーフィイー、アハマド(に言及して)'ラディヤッラーフアンフム'("アッラーが彼らにご満悦されますように")、そして'ラヒマフムッラー'("アッラーのご慈悲が彼らにありますように")と言います。

✸屠殺:地上に住んでいる食用に合法な動物は、屠殺されることを条件として飼育されます。

屠殺には4つの条件があります。1)屠殺者は健全な精神の持ち主であること。2)屠殺に使われる道具が、使用の禁じられている歯や爪類以外のものであること(そして非常に鋭利なナイフの使用が好まれます)。3)気管、食道、そして頸動脈を二つとも、もしくは片方切ること。4)ナイフで切り付ける前に"ビスミッラー"(神の御名において)と言うこと。この場合はアラビア語以外で言うことも認められます。また、その際に"アッラーフアクバル"(アッラーは至大なり)と言うことはスンナです。これはつい忘れてしまった場合や無知であった場合には求められませんが、通常は行なわれるべきです。

✸狩猟:銃による合法的野生動物の狩猟は認められています。これは意図的に狩りをするもの(食料確保のための狩猟)に認可されています。しかし競技や趣味として行なわれることは嫌悪されています。猟師が狩りの過程で人々の家屋や農地を損傷するのであれば、その行為は禁じられます。

狩猟は次の4つの条件によって認められます。1)猟師は屠殺者と同じ諸条件を満たすこと。2)狩猟道具が鋭利や槍や矢のように、猟と屠殺において合法的道具であること。狩猟道具が犬やハヤブサのような捕食動物の場合、適切な訓練が施されていること。3)猟師が遊戯を意図する場合。すなわち、彼の意図は獲物の捕獲ではなく、意図または狙いなしに撃つことは認められません。4)捕獲道具を放つ際に"ビスミッラー"と言うこと。この条件は忘却による免除がありません。よって"ビスミッラー"と言い忘れた場合、捕獲された獲物を食べることは認められません。

✸食糧:これはすべての飲食を含みます。食に関する一般的基準としては、(明確に禁じられているもの以外は)すべて認可されていることです。その認可は次の三つの条件に従います。1)食糧が清潔、清浄であること。2)それが有害でないこと。3)それが忌み嫌われたものでないこと。

血、腐肉などのすべての不浄(ナジャス)な食糧は非合法とされます。毒などのすべての有害なものは禁じられます。ふん、尿、シラミ、ノミなどの忌み嫌われるものも同様に禁じられます。一部の禁じられる陸生動物には、家畜のロバ、犬歯で狩猟する捕食動物(ハイエナ以外)のライオン、チーター、犬、豚、猿、猫、キツネ、リスです。

鷲、ハヤブサ、鷹、トビ、フクロウなどの、爪で狩猟するすべての鳥類は禁じられています。ハゲワシ、コンドル、コウノトリなどの、すべての死肉を食べる鳥類も禁じられます。コウモリ、ネズミ、ミミズ、ゴキブリ、甲虫、ヤモリなど、世界中のムスリムが不快を催すものも禁じられます。

イスラーム法がその殺傷を命じる害虫・毒虫のサソリ、または殺傷を禁じる蟻、または食用に合法なものと違法なものの交配によるもの、例えばハイエナとオオカミの雑種なども禁じられます。

野生の雌ロバと種馬の交配であるラバなどの、合法な２種の食用に適する動物による雑種は禁じられていません。

アラブ人にとって未知だった動物、そしてイスラーム法において明確に述べられていない動物は、それらに最も似通ったアラビア半島ヒジャーズ地方の動物が参考とされ、不法なものに似通っていれば不法となり、合法なものに似通っていれば合法となります。もしもその動物が合法と不法のどちらにも似た中間であれば、不法裁定が優先されます。

牛、馬やキリン、兎、トビネズミ、サバクツノトカゲ、ガゼル、鹿、またダチョウ、ニワトリ、孔雀、オウム、鳩、スズメ、アヒルなどの鳥類、その他の水鳥類、そしてカエル、ヘビ、ワニを除く水生動物などはすべて認可されています。

不浄物、汚物、汚水を肥料とされた農産物を食べることは認められています。しかし、不浄物の味や臭いが明白であれば、それは禁じられます。また木炭、砂埃や泥を食べることも嫌悪されます。

タマネギやニンニクを調理しないで食べることも嫌悪されています。飢餓に苦しむ者は、助かるために何を食べても良いですが、(健康に良い食事が取れるまでは)差し迫った栄養不足を満たす目的のみであるべきです。

✸陰部：人の陰部とは、あらわにすることが恥じられるべき部位を指します。ここでは、礼拝(サラー)中と周回(タワーフ)において、覆われていなければならない陰部について言及します。

10歳になった少年の陰部は、へそ上から膝頭まででであり、7歳から10歳までは性器と肛門のみです。成人女性の陰部は顔、両手、両足以外の全身です。もしも彼女の礼拝、周回中に腕が露出すれば、彼女の崇拝行為は無効となります。

陰部は礼拝時間外でも覆われていることが求められ、必要性のない限り、暗がりの中、または個室であってもあらわにすることは嫌悪されます。医療診断、割礼など、必要性に応じてあらわにするのであれば、それは認められます。

✸モスク(マスジド)に関する裁定：その地域の要求性に応じて、モスクを建設することは義務です。

モスクはアッラーﷻにとって、最も愛されている場所です。そこで歌うこと、拍手すること、楽器の演奏、非合法的な詩の朗唱、男女の混合、性交渉、物品の売買を行うことはすべて禁じられています。

もしも誰かがモスク内で売買をした場合、その人物に次のように言うことはスンナです。“ラー　ラッバハッラーフ　ティジャーラタク”(“アッラーがあなたの商いに利益をもたらしませんように”)。またモスクで紛失品の公表をすることも禁じられており、その人物へ次のように言うことはスンナです。“ラー　ラッダハッラーフ　アライク”(“アッラーがそれをあなたに返却されませんように”)。

モスク内で子供たちを教えること、婚姻契約を結ぶこと、(法廷として)裁判の審査をすること、合法的な詩の朗唱、お篭り中(イイティカーフ)、またはそれ以外の時の睡眠、客人

や病人による睡眠、そして昼寝はすべて認められています。

モスクの中では雑音、喧騒、口論、余計な会話や大声で話すことを慎み、静かにすることがスンナです。またモスクは必要のない限り、反対側へ出るための通り道にされるべきではありません。モスクのなかで必要のない現世的な会話をすることも嫌悪されます。

モスクの絨毯、電灯、電気は、結婚式または弔詞に使用されるべきではありません。

✸イブン・アル＝ジャウズィーは言いました。“最も大きな懲罰とは、その人物が自分の罪によって懲罰されていることに気付かないことである。それに関して喜ぶといったことは、例えば自分の不法な収入に満足して誇りに思い、犯罪を犯すことに卓越するような、いっそう酷い懲罰である。”

✸時間：先人たちは無用なものに時間を無駄にすることを警告しました。時間とは畑のようなものであり、ひとつの種をまけば、やがて千の種をもたらします。賢人は種をまく機会を逃すでしょうか。それとも面倒くさがり、それを遅延するでしょうか？

✸飲食、衣服、家賃など慣習的なものの必要経費を、夫が妻（と子供たち）に支払うことは義務行為です。

✸動物の保有者が、それらに餌や水を与え、世話することは義務行為です。この義務に従うことを拒否した場合、そうするよう強制されなければなりません。もしも誰かが頑迷にその義務の不服従を続けるようである場合、またはその義務の履行が不可能である場合、彼はその動物を売るか、貸し出されるか、食用が可能であれば屠殺されることが強制されなければなりません。

動物を呪うこと、過度に負担をかけること、子孫が害されるような方法で乳を与えることは、それらを叩くこと（訓練のために軽く叩くことを除く）、顔に焼き印を押すことと同様にすべて禁じられています。

✸人や動物の写真や絵のついた衣服の着用、またはそれらを壁に掛けること、そしてそれら販売は、すべて大罪として禁じられています。

✸姦通（ズィナー）は多神崇拝、偶像崇拝の次に来る、最も深刻な大罪のひとつです。イマーム・アハマドはこう述べています。“私は姦通以外、殺人よりも大きな罪を知らない。”

この犯罪には段階があり、最も重大なものは夫のいる女性との行為、または親類、隣人との行為です。最も憎むべきものは同性愛行為です。

✸アッラーはかれのご慈悲により、私たちが息子や娘を持つことの出来る恩恵を授けられました。実にそれらは、現世における無比の美です。同時にそれらは試練と誘惑の源泉であり、アッラーはこのように仰せられています。“あなたがたの富や子女は、一つの試みである。”

父親は真摯に、自らの責任の元でそれらの養育に励まなければなりません。アッラーは仰せられています。“あなたがた信仰する者よ、人間と石を燃料とする火獄からあなたがた自身とあなたがたの家族を守れ。”

そして預言者ﷺは言われました。“あなたがたの一人一人は牧夫であり、各々にはその群れに対する責任がある…”子供が思春期に達したからといって、父親・保護者の責任が終り、それから自由になるのではありません。もしも彼が、それらに切実な助言や訓練をするのを怠り、現世における諸事の危害から守ることを怠るのであれば、彼はこの信用を破ったことに対する痛ましい懲罰の、厳しい警告を受けるに値するのです。アッラーの使徒ﷺは述べられました。“アッラーに集団を指導する義務を任せられた者が、その集団に対して不正直なまま死んだのであれば、アッラーは彼が楽園に入るのを禁じられるだろう。”（サヒーフ・ブハーリー）

✸禁欲主義、そして現世における装飾の破棄（ズフド）：真の禁欲主義とは、人を強くするものや、彼を善い生活へと確立させるもの、また来世へと続く誠実な道を破棄することではありません。これは偽りの禁欲主義であり、無知から来るものです。

真の禁欲主義とは現世における過剰なもの、そして自存のために絶対に必要とはされないものを破棄することです。これが預言者ﷺと彼の教友たちの道だったのです。

合法的なドゥアーと
ルクヤ（まじないの一種）

アッラーがその創造に添えられた自然の流れを熟考する者は、試練や苦難はすでに定められた事象であることを知るでしょう。アッラーﷻは仰せられています。“われは、恐れや飢え、と共に財産や生命、（あなたがたの労苦の）果実の損失で、必ずあなたがたを試みる。だが耐え忍ぶ者には吉報を伝えなさい。”（2:155）

もしも誠実な人々は試練や苦難を味わうことがないと考える者は、重大な間違いを犯しています。なぜなら試練と苦難は信仰のしるしであるからです。預言者はある者に、つぎのように尋ねられました。“最も試練を受ける者たちは誰ですか？”彼は答えました。“諸預言者、そして誠実な者たち、そして卓越した者たち、そして善き道に従う者たちである。人はその宗教により試みを受けるのだ。もしも彼が宗教を確固として信じるのなら、彼の試練は増えるだろう。そして弱点があるのなら、彼はそれを軽減されるだろう。”

これらの試練はアッラーがそのしもべを愛しているしるしであり、預言者ﷺは言われました。“もしもアッラーが人々を愛すのであれば、かれはそれらを試みるのだ。”（アハマドとアッ＝ティルミズィー）

それらの試練はアッラーがそのしもべに善いものを望んでいるしるしなのです。預言者ﷺは言われています。“もしもアッラーがそのしもべに善いものを望むのなら、かれは現世においての懲罰をお急ぎになるだろう。もしもかれがそのしもべに善いものを望まなければ、かれはその罪を復活の日まで一括して抑えておき、（その罰で）彼を強打するのです。”（アッ＝ティルミズィー）

これらの試練は罪の償いとして働き、それはほんの僅かな痛みでさえも含まれます。預言者は言われました。“ムスリムはとげの刺さり傷から来るちょっとした疼痛、または大きな激痛からも害されはしません。それにより木が落葉するように（罪が彼から落ちていくように）、アッラーが彼の罪を赦されるからです。”（アル＝ブハーリーとムスリム）

これらの理由により、誠実なムスリムが数々の試練を受けるのは、過去の罪の償いか、楽園における地位の向上のためなのです。もしも彼が実際に罪深いのであれば、それらは彼の過去の罪の償いと、それらの罪の危険性を思い起こさせるものなのです。アッラーは仰せられています。“人間の手が稼いだことのために、陸に海に荒廃がもう現われている。これは（アッラーが）、かれらの行ったことの一部を味あわせかれらを（悪から）戻らせるためである。”（30:41）

試練には様々な種類があります。それらのひとつは、例えば富が増えることなど、人に幸福が訪れることです。または、恐怖や飢餓、そして富の減少など、災難がもたらされることです。アッラーは仰せられました。“われは試練のために、凶事と吉事であなたがたを試みる。”（21:35）

別の種類の試練としては、邪視による病気や死、魔術による嫉妬などが含まれます。預言者ﷺは言われました。“私の国家において死を遂げた者は、アッラーの定命によるもの以外では、邪視によるものである。”（アッ＝タヤーリスィー）

予防：“予防は治療に勝る”とよく言われているように、私たちは邪視や魔術からの保護を事前に対策すべきです。予防法は多く存在します。以下はそれらの一部です。

- 自分自身の一神論、そしてアッラーへの信仰を強化し、かれのみが全創造の支配者であると信じ、多くの善行をすること。
- アッラーに対する良い感情を保ち、かれに信頼を置くこと。病気や災難が訪れただけで邪視を空想することは、それ自体が一種の病気なのです。
- もしも誰かが邪視を発すること、または魔術を使うことで知られているのであれば、恐怖からではなく、予防策としてその人物を可能な限り避けるべきです。

✸何か素晴しいものを見かけたら、アッラーの祝福（タブリーク）に言及しつつ、かれを称賛するべきです。預言者ﷺは言われました。“もしもあなたが自分自身のなかに、もしくは富のなかに、もしくはあなたの愛する兄弟のなかに祝福を見出したのであれば、それに対してアッラーを称賛すべきです。邪視は実際に存在するのです。”ここでの“タブリーク”とは、“バーラカッラーフ　ラク”（あなたにアッラーの祝福がありますように）と言うことであり、“タバーラカッラー”（アッラーこそが祝福である）ではありません。

✸自身を魔術から防ぐ別の手段としては、毎朝マディーナ産ナツメヤシの実（アジワ）を７つ食べて一日を迎えることです。

✸私たちはアッラーへ避難を求め、かれを信頼し、かれに対して良い感情を持ち、様々な形の真正なドゥアーをすることによって、朝に夕に、邪視と魔術からアッラーのご加護を求めるべきです。これらのドゥアーとまじないには、次の二つの要素により、その強さの増えるものと減るものがあります。1）アッラーによる啓示が真実であり、アッラーのご慈悲によってそれらは有益であるとする、自らの信念。2）それらのドゥアーとまじないを、耳と心を研ぎ澄ました状態で、唇と舌を使っていかに頻繁に行なっているかによります。なぜなら預言者ﷺが言及されているように、注意散漫な心で行なわれるドゥアーは聞き入れられないからです。

ドゥアとまじないの時間：朝方のドゥアーはファジュルの礼拝後に行なわれるべきであり、夕方のドゥアーはアスルの礼拝後に行なわれるべきです。もしもそれらを忘れてしまった場合、思い出し次第行なわれます。

邪視による危害を受けている兆候：ドゥアーとまじない（ルクヤ）による治癒は医学と矛盾しません。クルアーンは自然的、生理的、そして精神的な治癒です。もしも、誰かが身体的病気を全く持たない健康体であれば、魔術による危害は以下のような兆候を見せます。一時的な頭痛、顔色の黄ばみ、多量の汗と排尿、食欲減退、肌のかゆみや何かが這うような感触、極端な寒気と発熱、動悸と胸騒ぎ、腰（背）痛と肩の痛み、鬱、呼吸困難、不眠症、イライラ、過度な怒りや恐怖、過剰なゲップや吐息、気怠さや無気力感、眠気、明白な医学的根拠のないその他の健康状態。

邪視の影響を受けている者は、その程度によって以上の一部、またはすべての症状が発生します。

信仰者は自らの信仰と心をもって、確固とした態度で望まなければなりません。これらの症状が現れたとしても、惑わしや偽の疑念の犠牲になってはなりません。それらから解放されるにはさらなる困難を伴うからです。

上記のような症状を持つ人々は、ごく健康な人々、または肉体的な病気を持つ人々の双方です。それらの症状は、胸部の締めつけ、憂鬱、気怠さなど、信仰心の弱さが原因の場合もあり、そういった場合は自分とアッラーとの関係をしっかりと見つめ直さなければなりません。

もしもその病気の原因が実際に邪視[1]によるものであれば、治療には次の二つの方法があります。1）邪視を行なった嫉妬者が特定されているのであれば、その人物は水浴びをするよう求められます。そして影響を受けた人物はその同じ水、またはその一部を浴びるべきです。2）嫉妬者が特定されていないのであれば、それはルクヤ（イスラーム法により許されている、まじないの一種）、ドゥアー（祈願）、そしてヒジャーマ（吸玉療法）により治療されます。

病気が魔法、黒魔術（スィフル）[2]によるものであれば、その治療は以下のものからのひと

1　邪視はジンによる害であり、誰にもたらされるかはアッラーの意思によると定義されています。その原因は、憧れの眼差し（邪視）を放つ人物のそばに悪魔がいた場合、そしてアッラーへの唱念や礼拝などのそれを防ぐものが何もない場合とされます。これは次の真正のハディースによって確証されています。“邪視は存在するのである。”（サヒーフ・ブハーリー）別の伝承ではこのように伝えられています。“そして悪魔とアダムの子の嫉妬が随行するのだ。”（アハマド）それがアイン（眼）と呼ばれるのは、それが使用されるからであり、それが実際に害を加えるわけではありません。これは目の見えない盲人でさえ、他人に邪視を送ることが確認されていることにより証明されています。

2　スィフルとは、それを意図した者（加害者）が結び目を作ること、または呪文や邪悪な呪い、言行などによって被

つが用いられます。

1)呪文がかけられた場所が特定されているのであれば、その場へ行き、魔術の呪文の結び目をほどき、ムアッウィザターン（アル＝ファラク章［113］とアン＝ナース章［114］）を朗唱し、その結び目と、呪文に用いられた道具を焼却します。

2)クルアーンの朗唱からなるアッ＝ルクヤ・アッ＝シャルイーヤ、特に“ムアッウィザターン”とアル＝バカラ章、そして様々な（スンナからの）ドゥアーが用いられます。

3)次の２種類からなる魔術の無効化、ヌシュラが用いられます。a．不法であるヌシュラ。すなわち魔術師を訪れ、魔術によって魔術を無効化すること。b．合法であるヌシュラ。すなわちスィドルの木から７枚の葉を取り、石臼で粉状にし、次のクルアーンの章を３回ずつ朗唱すること。アル＝カーフィルーン章（108）。アル＝イフラース章（112）。アル＝ファラク章（113）。アン＝ナース章（114）。そしてそれを水につけ、被害者にそれを飲ませ、それで体を清めます。以上の手順は、被害者が治癒するまで繰り返されるべきです。（以上の治療法は、アブドッ＝ラッザークにより、彼の著書アル＝ムサンナフにおいて報告されている方法です。）

4)魔術が食物によって行なわれた場合は、嘔吐の誘発、または下剤を服用して腸をきれいにすることによるその効果の撃退。食物以外の方法であれば、ヒジャーマ[1]を行なうこと。

ルクヤの条件：1)アッラーの御名と性質において行なわれるべきであること。2)アラビア語、もしくは意味深長な言葉であるべきこと。3)まじない自体が治癒をもたらすのではなく、すべての治癒はアッラーからもたらされるという信念に基づいていること。

ラーキー（ルクヤを行なう者）の条件：1)その人物が敬虔な、神を畏れるムスリムであること。なぜならその人物がよりアッラーに近いほど、効果が増すため。2)ルクヤの最中、舌で唱えることに心を集中させ、真摯にアッラーと向き合っている人物であること。また、もしも被害者が自分でルクヤを行なうのであれば、なお良いとされます。なぜなら通常他人は他の諸事に心を奪われており、当事者であれば、他人よりも自分に何が起きているのかをより鋭く感じているため。アッラーは、かれに対してドゥアーをする危機的状況の者を応じると約束されています。

ルクヤの治療を受ける者の条件：

1)その人物が誠実な信仰者であることが望まれます。なぜならルクヤの効力はその影響を受けている人物の信仰心の強さに左右されるとされているからです。アッラーは仰せられています。“われがクルアーンで下したものは、信者にとっては癒しであり慈悲である。だが不義の徒にとっては只損失の種である。”（17：82）

2)その人物は、アッラーに対して切実に自身を癒すように祈願しなければならないこと。

3)その人物は、もしも治癒の兆候がすぐに表れなかったとしても焦らないこと。なぜならルクヤはドゥアーの一種であり、それが聞き入れられるのを急ぐのであれば、逆に聞き入れられないからです。預言者ﷺはこう言われています。“あなたがたの内で、‘私は祈願したが、それは聞き入れられなかった。’と言ってしびれを切らせる者は、その祈願を聞き入れられないのです。”（アル＝ブハーリーとムスリム）

ルクヤを行なう方法：

1)ルクヤを唱え、ごく少量の唾液と共に息を吹きかける。

2)息を吹かずにルクヤを唱える。

害者の心と体に影響をもたらす魔法、もしくは黒魔術です。それは病気や死を誘発し、また被害者の妻との性交渉を不可能とし、または夫と妻の関係を破壊して離婚に追いやります。それらの一部は偶像崇拝、神への冒涜、不信仰（イスラームからの背信）によって引き起こされます。それらは最も深刻で重大な罪のひとつに数えられます。

1　ヒジャーマ（吸玉）は多くの真正ハディースで触れられています。アハマドとアン＝ナサーイーは報告しています。“最も優れた治療のひとつとは、吸玉である…”（アル＝ブハーリー、ムスリム）アッラーは吸玉によって多くの邪視や魔術による肉体的・精神的な病気を癒されるでしょう。

3) それを唱えた後、唾液を指先に付け、それを砂埃に混ぜ、患部を撫でる。

4) 苦痛のある患部をマッサージしながら、ルクヤを唱える。

預言者の伝承によって、ルクヤとして用いられるクルアーンの節々は、以下の通りです。

アル＝ファーティハ章(1)。玉座節(2:255)。アル＝バカラ章の最後の2節(2:385−386)。

“本当に天と地の創造、また夜と昼の交替の中には、思慮ある者への印がある。または立ち、または座り、または横たわって(不断に)アッラーを唱念し、天と地の創造に就いて考える者は言う。「主よ、あなたは徒らに、これを御創りになったのではないのです。あなたの栄光を讃えます。火の懲罰からわたしたちを救って下さい。”(3:190−191)

﴿وَأَوْحَيْنَا إِلَىٰ مُوسَىٰ أَنْ أَلْقِ عَصَاكَ فَإِذَا هِيَ تَلْقَفُ مَا يَأْفِكُونَ ﴿١١٧﴾ فَوَقَعَ الْحَقُّ وَبَطَلَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١١٨﴾ فَغُلِبُوا هُنَالِكَ وَانْقَلَبُوا صَاغِرِينَ﴾ [1]

﴿أَمْ يَحْسُدُونَ النَّاسَ عَلَىٰ مَا آتَاهُمُ اللَّهُ مِنْ فَضْلِهِ﴾ [2] ﴿وَإِذَا مَرِضْتُ فَهُوَ يَشْفِينِ﴾ [3]

﴿وَيَشْفِ صُدُورَ قَوْمٍ مُؤْمِنِينَ﴾ [4] ﴿قُلْ هُوَ لِلَّذِينَ آمَنُوا هُدًى وَشِفَاءٌ﴾ [5]

﴿قَالُوا يَا مُوسَىٰ إِمَّا أَنْ تُلْقِيَ وَإِمَّا أَنْ نَكُونَ أَوَّلَ مَنْ أَلْقَىٰ ﴿٦٥﴾ قَالَ بَلْ أَلْقُوا فَإِذَا حِبَالُهُمْ وَعِصِيُّهُمْ يُخَيَّلُ إِلَيْهِ مِنْ سِحْرِهِمْ أَنَّهَا تَسْعَىٰ ﴿٦٦﴾ فَأَوْجَسَ فِي نَفْسِهِ خِيفَةً مُوسَىٰ ﴿٦٧﴾ قُلْنَا لَا تَخَفْ إِنَّكَ أَنْتَ الْأَعْلَىٰ ﴿٦٨﴾ وَأَلْقِ مَا فِي يَمِينِكَ تَلْقَفْ مَا صَنَعُوا إِنَّمَا صَنَعُوا كَيْدُ سَاحِرٍ وَلَا يُفْلِحُ السَّاحِرُ حَيْثُ أَتَىٰ﴾ [6]

﴿وَنُنَزِّلُ مِنَ الْقُرْآنِ مَا هُوَ شِفَاءٌ وَرَحْمَةٌ لِلْمُؤْمِنِينَ وَلَا يَزِيدُ الظَّالِمِينَ إِلَّا خَسَارًا﴾ [7]

﴿لَوْ أَنْزَلْنَا هَٰذَا الْقُرْآنَ عَلَىٰ جَبَلٍ لَرَأَيْتَهُ خَاشِعًا مُتَصَدِّعًا مِنْ خَشْيَةِ اللَّهِ﴾ [8] ﴿فَارْجِعِ الْبَصَرَ هَلْ تَرَىٰ مِنْ فُطُورٍ﴾ [9]

﴿وَإِنْ يَكَادُ الَّذِينَ كَفَرُوا لَيُزْلِقُونَكَ بِأَبْصَارِهِمْ لَمَّا سَمِعُوا الذِّكْرَ وَيَقُولُونَ إِنَّهُ لَمَجْنُونٌ﴾ [10]

﴿ثُمَّ أَنْزَلَ اللَّهُ سَكِينَتَهُ عَلَىٰ رَسُولِهِ وَعَلَى الْمُؤْمِنِينَ﴾ [11]

﴿فَأَنْزَلَ اللَّهُ سَكِينَتَهُ عَلَىٰ رَسُولِهِ وَعَلَى الْمُؤْمِنِينَ وَأَلْزَمَهُمْ كَلِمَةَ التَّقْوَىٰ﴾ [12]

﴿لَقَدْ رَضِيَ اللَّهُ عَنِ الْمُؤْمِنِينَ إِذْ يُبَايِعُونَكَ تَحْتَ الشَّجَرَةِ فَعَلِمَ مَا فِي قُلُوبِهِمْ فَأَنْزَلَ السَّكِينَةَ عَلَيْهِمْ وَأَثَابَهُمْ فَتْحًا قَرِيبًا﴾ [13]

﴿هُوَ الَّذِي أَنْزَلَ السَّكِينَةَ فِي قُلُوبِ الْمُؤْمِنِينَ لِيَزْدَادُوا إِيمَانًا مَعَ إِيمَانِهِمْ﴾ [14]

不信者たち章(108)。純正章(112)。黎明章(113)。人々章(114)。

---

1 “その時われはムーサーに、「あなたの杖を投げなさい。」と啓示した。すると見よ。それは彼らの瞞ものを(皆)呑み込んでしまった。こうして真理が現われ、彼らの行ったことは虚しくなり、彼らは打ち負かされ、縮み上がってしまった。”(7 : 117-119)

2 “それとも彼らは、アッラーが恩恵を施されたために、人びとを妬むのか。”(4 : 54)

3 “また病気になれば、かれはわたしを癒して下さいます。”(26 : 80)

4 “そしてかれは信者の人びとの胸を癒される。”(9 : 14)

5 “言ってやるがいい。「それは信仰する者にとっては導きであり、治療である。」”(41 : 44)

6 “彼らは言った。「ムーサーよ、あなたが投げるか、それともわたしたちが先に投げようか。」かれ(ムーサー)は言った。「いや、あなたがたが先に投げなさい。」すると見るがいい。かれには縄と杖が、魔術で(活きて)走るかのように見えた。それでムーサーは、少し心に恐れを感じた。われは言った。「恐れるには及ばない。本当にあなたが上手である。あなたの右手にあるものを投げなさい。かれらが作ったものを呑み込め。魔術師の誤魔化しに過ぎない。魔術師は何処から来ても、(何事も)成功しない。」”(69-20 : 65)

7 “われが(段階を追って)クルアーンで下したものは、信者にとっては(精神的な)癒しであり慈悲である。だが不義の徒にとっては只損失の種である。”(17 : 82)

8 “もしもわれがこのクルアーンを山に下したならば、それはきっと遜って、アッラーを恐れて粉々に砕けるのを見るであろう。”(59 : 21)

9 “それで改めて観察しなさい。あなたは何か裂け目を見るのか。”(67 : 3)

10 “不信心者は警告を聞く時、その(物凄い)目付きで、あなたを凡んど倒れんばかりにする。彼らは言う。「本当に彼は憑かれた者です。」”(68 : 51)

11 “その後アッラーは、使徒と信者たちの上にかれの安らぎを下し、またあなたがたには見えなかったが、軍勢を遣わして不信心な者たちを懲罰された。”(9 : 26)

12 “それでアッラーは、使徒と信者の上に安らぎを下し、かれらに自制の御言葉を押し付けられた。”(48 : 26)

13 “彼らがあの樹の下であなたに忠誠を誓った時、アッラーは信者たちに、ことの外御満悦であった。かれはかれらの胸に抱くことを知り、彼らに安らぎを下し、手近な勝利をもって報われた。”(48 : 18)

14 “かれこそは、信者たちの心に安らぎを与え、彼らの信心の上に信心を加えられる方である。”(48 : 4)

預言者の伝承:

✸“アスアルッラーハ　アル＝アズィーマ　ラッバル＝アルシル＝アズィーミ　アンヤシフィヤク”[1]これを7回。

✸“ウイーズカ　ビカリマーティッラーヒッ＝ターマティ　ミン　クッリ　シャイターニン　ワ　ハーンマティン　ワ　ミン　クッリ　アイニン　ラーンマ”[2]　これを3回。

✸“アッラーフンマ ラッバン＝ナースィ、アズヒビル＝バッスィ、イシフィ　アンタッ＝シャーフィ　ラー　シファーア　イッラー　シファーウカ　シファーアン　ラー　ユガーディル　サカマン”[3]これを3回。

✸“アッラーフンマ　アズヒブ　アンフ　ハッラハー　ワ　バルダハー　ワ　ワサバハー”　これを1回。

✸“ハスビヤッラーフ　ラー　イラーハ　イッラー　フワ　アライヒ　タワッカルトゥワフワ　ラッブル＝アルシル＝アズィーム”[4]　これを7回。

✸“ビスミッラーヒ　アルキーカ　ミン　クッリ　ダーイン　ユッズィーカ　ワ　ミンシャッリ　クッリ　ナフスィン　アウ　アイニ　ハースィディン　アッラーフ　ヤシフィーカ。ビスミッラーヒ　アルキーカ。”、これを3回。

✸“ビスミッラーヒ、これを3回。　アウーズ　ビイッザティッラーヒ　ワ　クドラティヒ　ミンシャッリ　マー　アジドゥ　ワ　ウハーディル”[5]そしてこれを７回。

注意:

1)“被害者は邪視を発した嫉妬者の尿を飲まなければならない”、または“被害者の邪視の影響は嫉妬者の死によって無効になる”等の、邪視にまつわる愚かな迷信を信じることは認められません。

2)邪視による影響を恐れ、革、縄や紐などで出来たお守りや魔除けを使用することは禁じられています。預言者ﷺは言われています。“誰であれ何かを吊るす者は、その責任を負わされることになるのです。”(アッティルミズィー)。もしもそれにクルアーンの節が含まれている場合、イスラーム法学における見解の相違が存在しますが、それを避けるに越したことはないでしょう。

3)“マーシャーアッラー”(アッラーの御心であれば)や、“タバーラカッラー”(アッラーこそに称賛あれ)と描いたり、剣やナイフ、眼の絵、クルアーンを車の中に入れたり、家の中にクルアーンの節を掲げたりすることによって邪視が防がれるわけではありません。実際、禁じられているお守りによる場合もあるのです。

4)病人は、アッラーが彼のドゥアーを聞き入れられることを確信し、治療に時間がかかり過ぎていると不平を抱くべきではありません。もしも病人が、薬を一生摂らなければならないと言われても、あまり不満を言いませんが、なぜルクヤをしばらく行なって何も見られなければ心配するのでしょうか？病気を患う者は、クルアーンから朗唱されるすべての文字に報奨があり、それが10倍になることを知るべきです。彼は祈願をしてアッラーの許しを請い、沢山の喜捨を行なうべきなのです。これらが病気の癒しをもたらすのです。

5)合同でクルアーンの朗唱をすることは、預言者のスンナに反しており、その効果は薄いとされます。CDプレーヤーなどでクルアーン朗唱を聞くことに完全に依存するのも同様です。なぜならその人にはルクヤを行なう者の条件のひとつである、クルアーンを朗唱し

1　(“私は至高なるアッラー、壮大なる玉座の主があなたを治癒されるよう求めます。”)

2　(私はあなたのために、完全なアッラーの御言葉によって、全てのシャイターンと毒を持つ生物から、そして悪をもたらす全ての邪視からのご加護を求めます)、

3　(人類の主、アッラーよ、彼の害を取り除き、癒してください。あなたこそは癒しをもたらす御方であり、あなた以外の癒しはないのです。あなたの癒しはいかなる病をも残しません)、

4　(私にはアッラーだけで充分です。かれの他に真に崇拝すべきものはありません。私はかれに身を委ねました。かれは偉大なる玉座の主であられます)、

5　(神の御名において。私はアッラーの御力とかれの能力に、私が受けた、その影響を懸念している悪からの御加護を求めます)、

ようという意図がないからです。しかしながら、CDプレーヤーでクルアーンを聞くことにも一定の益はあります。病人が癒されるまでルクヤを繰り返すことは、その人物に疲れが出るまではスンナです。その場合、ルクヤを行なう人物はその量を減らし、病人に疲れやイライラが出ないようにすべきです。クルアーンからの特定の節や、預言者ﷺが行なった祈願から特定の回数を繰り返すことは、スンナからの合法な証拠がない限りは正しくありません。

6)ルクヤのまじないを唱えている者が、実際には魔法や黒魔術(スィフル)を行なっている兆候というものがあります。その人物の見かけの信仰深さに騙されてはなりません。彼はクルアーンの朗唱から始め、そのうち別のものに切り替えるでしょう。彼は人を欺く意図で日常的にモスクに通い、アッラーを頻繁に念じるのです。これらの詐欺に騙されてはなりません。十分に注意してください。

魔術師の兆候の一部:✸治療には必要ないにも関わらず、病人の名前、そしてその人物の母親の名前を尋ねること。✸病人の衣服(シャツなど)の一切れを求めること。✸(ジンを喜ばせるために)病人に対してある特徴を持つ動物の屠殺を求めること。その血を病人に塗り付けること。✸はっきりとした意味を持たない、もしくは何の意味も持たないお守りのまじないを書き付けること。✸アル＝ヒジャーブと呼ばれる、文字や数字の書かれた正方形やデザインのある紙切れを病人に渡すこと。✸病人に対し、一定時間を(暗い)部屋で自らを隔離するよう求めること(アル＝ハジバ)。✸病人に対して、一定期間は水を触れないよう求めること。✸病人に対して何かを土の中に埋めることを求めるか、または何かの紙を燃やすか、香として焚くよう求めること。✸病人以外に誰も知らないはずの個人情報(彼の名前、居住地、病名など)を病人に告げ知らせること。✸その場に入った途端、または電話で話すか手紙を出した途端に病気の診断をすること。

7)スンナの民の見解として、ジンが人に"憑依"する(人間の身体に取り憑く)ことは有り得るとしています。これは次のアッラー ﷻのお言葉によって証明されています。"利息を貪る者は、悪魔にとりつかれて倒れたものがするような起き方しか出来ないであろう。"(2:275)。クルアーン注釈学者たちは、この節の"マッス"(触る、取り憑く)という言葉が悪のジンが人に取り憑くことによりもたらされる錯乱状態のことであるという見解で一致しています。

注意:ハサド(嫉妬、羨み)とは他人の持っている祝福、能力、長所を自分も欲することです。それはたびたび邪視を発します。妬みは大罪のひとつに数えられます。これはあらゆる罪の元であり、アッラーが背かれた最初の原因です。嫉妬が原因でイブリース(ルシファー)はアダムへと平伏することを拒否し、カービル(カイン)は弟を殺したのです。

ハサドの治癒:真正ハディースで報告されているように、嫉妬が大罪であること、そしてそれは炎が乾いた薪を燃やし尽くすように、善行を燃やし尽くすことを知ること。アッラーが他者に祝福を授けているのは、かれによる定命と叡智によること、それゆえ、アッラーによる定命を認めないことはかれに反抗することであり、それはアッラーの定命に対する信仰の弱さのしるしであると知ること。自分が好み、感心するものに対して"マーシャーアッラー。バーラカッラーフ　ラク"(アッラーがそれをお望みであれば。あなたにアッラーの祝福がありますように)と言うこと。これは自分の善意を示します。嫉妬しないことに対する報奨を知ること。預言者ﷺからの真正の伝承は、眠りにつくまでに他者に対しての嫉妬が心の中に微塵もない者は、大きな報奨があることを確認します。預言者ﷺが彼の教友のひとりに楽園の吉報を伝えたとき、アブドッラー・イブン・アムル・イブン・アル＝アース ؓはその人物の家に(彼の崇拝を観察する目的で)泊まり、嫉妬心の欠如が彼の吉報の理由であることを突き止めたのです。

祈願（ドゥアー）

すべての創造物は、アッラーを緊切に必要としています。私たちは、アッラーのみが持ち、与えるものを必要としているのです。かれ㉚はそれらの必要性を超越し、何も必要としません。

アッラーに祈願し、何かを求めることは、アッラーが私たちに課された義務であり、至高者であるかれはこのように仰せられています。“それであなたがたの主は、仰せられる。「われに祈れ。われはあなたがたに答えるであろう。」だがわれに仕えるのに高慢な者たちは、必ず面目潰れの中に地獄に陥るであろう”(40:60)。

預言者㊣は言われました。“アッラーに何も求めない者は、かれを怒らせるのだ。”従って、アッラーはかれのしもべが祈願することに対してお喜びになるのです。かれは、かれに対して絶えまず祈願する者を愛でられるのです。

かれは祈願を御自身に引き寄せます。預言者㊣の教友たちはこの事実を感じ取り、どんなに小さなことでもアッラーから求めることをいとわず、また（自らを卑下して）他者にそれらの欲求を求めることもしませんでした。

彼らのアッラーへの愛情と、アッラーの彼らへ対する寵愛は、アッラー㉚による次の節の具現なのです。“われのしもべたちが、われに就いてあなたに問う時、（言え）われは本当に（しもべたちの）近くにいる”（2：186）。

ドゥアーはアッラーにとってはとても素晴しいものであるため、かれには大きな地位を占め、それは定命を変えることも出来るのです。[1]

ムスリムのドゥアーは、それが聞き入れられる条件が満たされており、無効にする条件を避けている限り、聞き入れられることに疑念の余地はないのです。預言者㊣が次のように言われているように、ドゥアーを行なう者には３つのなかから１つが与えられるのです。“もし罪深いことや関係を断つことがそのなかに含まれていないのであれば、ドゥアーによって何かを祈願するムスリムに対して、アッラーは３つのうちの１つをお与えになるでしょう。かれはその祈りを聞き入れるか、来世のために蓄積されるか、同価値とされる分の罪を免除されるのです。”彼らは言いました。“それでは、私たちは多くのものを祈願します。”彼は言われました。“アッラーはさらに多くのものを持たれるのです。”（アハマドとアッ＝ティルミズィー）。

祈願（ドゥアー）には２種類があります。

1）礼拝や斎戒などの、崇拝の祈願。2）何かを求め、得ようとする祈願。

最も良い善行に関する相違：崇拝行為として、クルアーンを朗唱すること、アッラーを思い起こすこと、そして祈願することのどれが優れているのでしょうか？

一般的には、クルアーン朗唱が最も良いとされ、次にアッラーへの唱念（思い起こすこと）、次にアッラーへの祈願（ドゥアー）となります。

しかし、状況に応じて、最も良いものよりもその下のものが上に来る場合があります。例えば、（ハッジ中の）アラファの日に行なわれる祈願は、クルアーン朗唱よりも優れているとされています。同様に、真正の伝承で報告されている方法で、日々の義務礼拝の後に行なうアッラーへの唱念は、クルアーン朗唱よりも優れているとされています。

祈願が認められるための諸条件：私たちの祈願が聞き入れられるためには、外的、そして内的な条件が存在します。

外的条件：祈願をする前に、喜捨、ウドゥーによる浄化、礼拝、礼拝方向（キブラ）を向くこと、両手を掲げてドゥアーすること、アッラーに値することを称賛すること、祈願の中において彼の美名と性質に言及することに代表されるような善行を行なっていること等が条

1　これは次の伝承で言及されています。“定命されたものを戻すのは、祈願だけなのです…”（イブン・マージャ）ここでの意味は、祈願は定命の一部であるということです。それはアッラーによって導かれることによってアッラーへ祈願をするということです。

件となります。そのドゥアーが楽園を求めるものであれば、アッラーの慈悲と慈愛を念じて祈願します。もしも犯罪者や圧制者に対するドゥアーであれば、アッラーの慈善や慈悲、親切さの御名において言及すべきではなく、施行者、支配者、征服者などの御名においてされるべきです。また、ドゥアーが認められる要因のひとつとしては、その始まり、中間、そして最後に、預言者ﷺに対しての挨拶を送ることが挙げられます。他の重要とされる要因とは、自らの罪と過ちを認めること、アッラーの祝福に感謝すること、そして真正な報告において触れられている、最もドゥアーが聞き届けられる時間帯を有効に活用することです。

それらの時間帯は多数あり、以下はその代表的なものです。

1日の間を通して：✸アッラーがこの世界の上に直接降りて来るとされる、夜の最後の3分の1。✸礼拝の呼びかけ（アザーン）と礼拝開始の告知（イカーマ）の間。✸ウドゥーの後。✸平伏礼（サジダ）の最中。✸礼拝のなかの最後の挨拶の前。✸義務礼拝の後。✸全クルアーンの朗誦が完了した後。✸旅行中の状態。✸圧制者に対する祈願。✸差し迫った危機的状態での祈願。✸両親の子供に対する祈願。✸ムスリム兄弟に対する祈願。✸戦争においてふたつの軍隊が対峙した際。

週間を通して：✸金曜日、特にその日最後の１時間。月間を通して：✸ラマダーン月の斎戒を解く前後、そして斎戒を始める前の日の出前の食事（スフール）の際。✸ラマダーン月最後の１０日間。✸ズル＝ヒッジャ月のアラファの日。✸モスクなどの高潔な場において。✸マッカのアル＝ハラーム・モスク、特にカアバ聖殿の黒石と扉の間、イブラーヒームの立ち処、サファーとマルワの両丘の頂上、アラファ平地、ムズダリファ、ミナー、ザムザムの泉飲み場において。

祈願を認められるための内的条件としては：ドゥアーに先立つ真摯な悔悟の決意。不正に権利を奪われたであろう人物の権利を帰属させること。自らの衣食住をすべて合法的収入によってまかなうこと。多くの善行を行うこと。すべての禁止事項を忌避すること。疑いのある事柄、およびに間違った欲望をなくすこと。礼拝中は心を集中させること。アッラーに信頼を寄せること。アッラーのご加護に関して強く期待すること。謙遜しつつアッラーへと避難を求めること。慎ましく祈願を繰り返すこと。アッラーの返事を信じること。祈願に際して誰にも注意を払わないこと。

祈願の受諾を遮るもの：

アッラーに対する祈願が受諾されない場合、またはそれがなかなか聞き入れられない場合があります。それには以下に挙げられるような、多くの理由があります。

✸アッラー以外に対して祈願された場合（これは偶像崇拝であり、最も重大な罪、そして祈願が受諾されない一番の理由です）。✸詳細を述べ過ぎた場合、たとえば地獄の灼熱と寒さ、そして暗闇からの救いを求めるよりは、一般的に火獄からの救いを求めるだけの方が良いとされます。✸他者あるいは自分に対する不正な祈願。✸罪をもたらすもの、または他人との関係を切断する祈願。✸祈願に対しての受諾に条件を付けた場合。たとえば、“アッラーよ、もしもあなたが御望みであれば、私をお許しください。”と言うことや、それと同様なもの。✸または“私は祈願しましたが、全く反応がありません。”と言って受諾を焦り、淡々と、あるいは憔悴して祈願を止める場合。✸ぼんやりと、または無頓着な心で祈願する場合。✸適切な作法で祈願をしない場合。たとえば、預言者ﷺは、ある人物が彼に対して敬礼せずに祈願するのが聞こえたため、その人物に対して言われました。“これは早すぎます。”そして彼は彼を呼び、または別の人物に対して言われました。“あなたが祈願をするときは、まずアッラーを称えて賞揚し、預言者に対する敬礼を送り、それからあなたの望む祈願をしなさい。”（アブー・ダーウードとアッ＝ティルミズィー）。✸現世で永久に生きることが出来るように望むなど、既に定められている事柄、あるいは終ったことに対して祈願する場合。✸韻を踏ませたり、芸術的表現を用いて祈願をした場合。アッラーは仰せられています。“謙虚にまた目立たない隠れたところで、あなたがたの主に祈れ。かれは教えに背く者を御好みになられない。”（7:55）イブン・アッバースは言いました。“祈願に韻を踏ませないよう、注意しなさい。本当に私の経験上、アッラーの使徒と教友たちは一度もそうしたことがありませんでした。”（アル＝ブハーリー）。✸声を過度に上げた場合。アッラーは仰せられています。“祈りの折には、声高に唱えてはならない。ま

た(余り)低く唱えてもいけない。その中間の道をとれ。"(17:110)アーイシャは言っています。"これは祈願に関して下された節です。"

最も望ましい祈願の作法とは、以下の順番通りにアッラーへ祈ることです。1)第一に、アッラーを称え、賞揚します。2)第二に、預言者ﷺに対して敬礼をします。3)第三に、自分の罪に対して悔悟を求め、過去の過ちを認めます。4)第四に、自分の受けている数々の祝福を感謝します。5)第五に、ジャワーミウ(包括的)と呼ばれる、クルアーンで述べられている祈願、または預言者ﷺ、そして敬虔な先人たちから伝えられている真正の報告から、自分のための祈願をします。6)最後に、預言者ﷺに対する敬礼で祈願を締めくくります。

記憶されるべき最も重要なドゥアー

ドゥアーの時間帯	預言者ﷺが行なったドゥアー
就寝前	"ビスミカッラーフンマ　アムートゥ　ワ　アハヤー"[1]
起床後	"アルハムドゥリッラーヒッ=ラズィー　アハヤーナー　バァダ　マーアマータナー　ワ　イライヒン=ヌシュール"[2]
悪夢を見て恐怖したとき	"アウーズ　ビカリマーティッラーヒッ=ターンマーティ　ミン　ガダビヒ　ワ　ミン　シャッリ　イバーディヒ。ワ　ミン　ハマザーティッ=シャヤーティーニ　ワ　アン　ヤハドゥルーン"[3]
夢を見たとき	"もしも良い夢を見たのであれば、それはアッラーからであり、かれを称賛し、その夢を人に話してもかまいません。しかし悪い夢であれば、それはシャイターンからであり、その悪からアッラーのご加護を求め、その夢を人に話してはなりません。そうすればその夢はあなたを害しないでしょう。"
家を出るとき	"アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビカ　アン　アディッラ、アウ　ウダッラ、アウ　アズィッラ、アウ　ウザッラ、アウ　アズリマ、アウ　ウズラマ、アウ　アジュハラ、アウ　ユジュハラ　アライヤ"[4]
モスクに入るとき	モスクに入るときは、右足から先に入ってこう言います。　"ビスミッラーヒ、ワッ=サラートゥ　ワッ=サラーム　アラー　ラスーリッラー。アッラーフンマフタフ　リー　アブワーバ　ラハマティク。"[5]
モスクから出るとき	モスクから出るときは、左足から先に出てこう言います。　"ビスミッラーヒ　ワッ=サラートゥ　ワッ=サラーム　アラー　ラスーリッラー。アッラーフンマフタフ　リー　アブワーバ　ファドゥリク。"[6]
新婚への言葉	"バーラカッラーフ　ラカ、ワ　バーラカ　アライカ、ワジャマア　バイナクマー　フィー　ハイル。"[7]
ロバやニワトリの鳴き声を聞いたとき	"ロバの鳴き声を聞いたときは、シャイターンからアッラーのご加護を求めなさい。なぜならそれが鳴いたのはシャイターンを見たからです。カラスかニワトリの鳴き声を聞いたときは、アッラーの恩恵を求めなさい。なぜならそれが鳴いたのは天使を見たからです。"　"犬の吠える声とロバの鳴き声を夜に聞いたのであれば、アッラーのご加護を求めなさい。"

1　(アッラーよ、あなたの御名において私は死に、そして生きます。)
2　(私たちを死なせた後に生き返らせ、また死後、かれの御許に私たちを復活させるお方アッラーに称えあれ。)
3　(私はアッラーの完璧な御言葉をもって、かれのお怒り、懲罰、かれのしもべのもたらす悪、シャイターンの囁き、そしてシャイターンが私のもとへやって来ることからのご加護を求めます。)
4　(アッラーよ、私は自分が迷い迷わされることから、また過ちを犯し犯されることから、また不正を働き働かれることから、また無知に陥り無知に陥らされることから、あなたにご加護を求めます。)
5　(アッラーの御名において、そしてアッラーの使徒に祝福と平安あれ。アッラーよ、あなたのご慈悲の扉を私にお開き下さい。)
6　(アッラーの御名において、アッラーの使徒に祝福と平安がありますように。アッラーよ、私にあなたの恩恵をお恵み下さい。)
7　(アッラーがあなたを祝福しますように。そしてかれがあなたがた2人に対し善をもって結束させますように。)

あなたにアッラーの為に愛していますと言った者に対する言葉	アナス﷛によると、ある男が預言者と共にいた際、別の男が彼らの前を通ったのを見た男は預言者に言いました。“アッラーの使徒よ、私はあの男を本当に敬愛しています。”預言者は男に言いました。“そのことを彼に告げたのですか？” 彼は言いました。 “いいえ。” 預言者は言いました。“では彼に告げなさい。”男は彼のところへ行き言いました。“インニーウヒッブカ　フィッラー”（私はアッラーの為にあなたを敬愛しています。）彼は答えました。“アハッバカッラズィー アハバブタニー ラフ”（アッラーの為に私を敬愛するあなたをアッラーが愛されますように）。
ムスリム兄弟のくしゃみを聞いたとき	“あなたがたがくしゃみをしたら、“アルハムドゥリッラー”（アッラーにすべての称賛あれ）と言いなさい。そしてその兄弟か仲間はこう言うのです。“ヤルハムカッラー”（アッラーがあなたを慈しまれますように）。そして彼はこう返事します。“ヤハディークムッラーフ　ワ　ユスリフバーラクム”　（アッラーがあなたを導き、正されますように）。もしもノン・ムスリムがくしゃみをしてアッラーを称えたのであれば、“ヤハディークムッラー”と言い、アッラーのご慈悲を求めずに、彼の導きを求めます。
何かを心配するとき	✸”ラー　イラーハ　イッラッラーフル＝アズィームル＝ハリーム。ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ラッブル＝アルシル＝アズィーム。ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ラッブッ＝サマーワーティ　ワ　ラッブル＝アルディ　ワ　ラッブル＝アルシル＝カリーム” [1] ✸”アッラーフ　アッラーフ　ラッビー　ラー　ウシュリク　ビヒ　シャイアン。” [2] ✸”ヤー　ハイユ　ヤー　カイユーム、ビラフマティカ　アスタギース” [3] ✸”スブハーナッラーヒル＝アズィーム” [4]
敵に対するドゥアー	“アッラーフンマ　ムジュリヤッ＝サハービ　ムンズィラル＝キターブ。サリーアル＝ヒサーブ。イフズィミル＝アハザーブ。アッラーフンマフズィムフム　ワ　ザルズィルフム。” [5]
物事に困難を見出したとき	“アッラーフンマ　ラー　サハラ　イッラー　マー　ジャアルタフ　サハラー。　ワ　アンタ　タジュアルル＝ハズナ　イザー　シッタ　サハラー” [6]
借金の約束を果たすとき	“アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビカ　ミナル＝ハンミ　ワル＝ハザン。ワル＝アジュズィ　ワル＝カサル。ワル＝ジュブニ　ワル＝ブフル。ワ　ダライッ＝ダイニ　ワ　ガラバティッ＝リジャール。” [7]
トイレに入るとき	トイレに入るときはこう言います。“アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビカ　ミナルフブスィ　ワルハバーイス。” [8]そこから出るときは、こう言います。”グフラーナカ” [9]
礼拝中の悪魔の囁きに対して	預言者ﷺは、礼拝中の悪魔の囁きに悩まされていた教友に対してこう言われました。“それはハンザブという悪魔です。彼の気配を感じたときは彼からアッラーのご加護を求め、あなたの左側に3回唾を吹きなさい。”

1　（偉大かつ寛大なアッラー以外に真に崇拝すべきものはなく、偉大なる玉座の主であるアッラー以外に真に崇拝すべきものはなく、天地の主・貴い玉座の主アッラーの他に真に崇拝すべきものはありません）。
2　（アッラー、アッラーこそ私の主、私はかれに何ものも並べて拝しません）。
3　（不死の者よ、完全なる自存者よ、わたしはあなたのご慈悲から助けを求めます）。
4　（偉大なるアッラーに称えあれ）。
5　（アッラーよ、啓典を下された御方よ、清算を敏速になされる御方よ、敵軍を敗走させて下さい。アッラーよ、彼らを揺るがせ敗走させて下さい）。
6　（アッラーよ、あなたが容易くしたことだけが容易くなるのです。あなたが望めば悲しみも容易くなります）。
7　（アッラーよ、苦悩と悲しみから、無能と怠惰から、臆病と吝嗇から、借金の重みと男たちの圧制からのご加護を求めます）。
8　（アッラーよ、私は男女の悪魔からあなたにご加護を求めます）。
9　（あなたのお許しを）。

サジダのとき	✸″アッラーフンマグフィル　リー　ザンビー　クッラフ、ディッカフ　ワ　ジッラフ、ワ　アウワラフ　ワ　アーヒラフ、ワ　アラーニヤタフ、ワ　スィッラフ。″[1] ✸″スブハーナ　ラッビー　ワ　ビハムディク、　アッラーフンマグフィル　リー。″[2] ✸″アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビリダーカ　ミン　サハティク。ワ　ビムアーファーティカ　ミン　ウクーバティク。ワ　アウーズ　ビカ　ミンカ　ラー　ウフスィー　サナーアン　アライカ　アンタ　カマー　アスナイタ　アラー　ナフスィク。″[3]
クルアーン朗誦によるサジダのとき	“アッラーフンマ　ラカ　サジャットゥ　ワ　ビカ　アーマントゥ、ワ　ラカ　アスラムトゥ。サジャダ　ワジュヒヤ　リッラズィー　ハラカフ、ワ　サウワラフ、ワ　シャッカ　サムアフ　ワ　バサラフ、タバーラカッラーフ　アハサヌルハーリキーン。”[4]
礼拝を終えるまえに	“アッラーフンマ　インニー　ザラムトゥ　ナフスィー　ズルマン　カスィーラン、ワ　ラー　ヤグフィルッ＝ズヌーバ　イッラー　アントゥ。ファグフィル　リー　マグフィラタン　ミン　インディカ　ワル＝ハムニー、インナカ　アンタル＝ガフールッ＝ラヒーム。”[5]
礼拝を終えたあとに	“アッラーフンマ　アインニー　アラー　ズィクリカ、ワ　シュクリカ、ワ　フスニ　イバーダティク。”[6] “アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビカ　ミナル＝クフリ、ワル＝ファクリ、ワ　アザービル＝カブル。”[7]
善行をした者に対して	善行を受けた者は行なった者に対し“ジャザーカッラーフ　ハイラン”（アッラーがあなたを報奨しますように）と言って感謝します。それに対しての返事は“ワ　ジャザーク”（そしてあなたにも報奨を）、または“ワ　イイヤーク”（そしてあなたへも）です。
雨を見たとき	“アッラーフンマ　サイイバン　ナーフィアン”[8] と2、3度言います。 “ムティルナー　ビファドリッラーヒ　ワ　ラフマティヒ”[9]
風が吹き荒れるとき	“アッラーフンマ　インニー　アスアルカ　ハイラハー　ワ　ハイラ　マー　フィーハー　ワ　ハイラ　マー　アルサルタ　ビヒ。ワ　アウーズ　ビカ　ミン　シャッリハー　ワ　シャッリ　マー　フィーハー　ワ　シャッリ　マー　アルサルタ　ビヒ”[10]

1　（アッラーよ、大きいものも小さいものも、最初のものも最後のものも、知られているものもまだ知られていないものも、私の罪を全てお赦し下さい）。
2　（私たちの主アッラー、あなたを称えます。アッラーよ、私をお赦し下さい）。
3　（アッラーよ、私はあなたのご満悦によってあなたの怒りからの、そしてあなたのお赦しによってあなたの懲罰からの、あなたによってあなたからのご加護を求めます。私はあなたが御自身を讃美されたようにあなたを讃美することは出来ません）。
4　（アッラーよ、私はあなたにサジダし、あなたを信仰し、あなたに従いました。私の顔はそれを創造し、形造り、そこから耳と目を刻み分けた御方に平伏します。最高の創造主アッラーに称えあれ）。
5　（アッラーよ、私は自分自身に沢山の不正を働きました。そして罪を赦される御方は、あなたをおいて他にありません。ですから私を赦し、私にご慈悲を垂れて下さい。あなたこそよく赦す御方、慈悲深き御方であられます）。
6　（アッラーよ、あなたを唱念すること、あなたへの感謝、あなたをよく崇拝することにおいて私に力をお貸し下さい）。
7　（アッラーよ、私はあなたに不信仰、貧困、そして墓の懲罰からのご加護を求めます）。
8　（アッラーよ、これを有益な降雨として下さい）
9　（アッラーの恩恵とご慈悲によって私たちに雨がもたらされました）。そして降雨時のドゥアーは認められるため、自分の望みを祈願します。
10　（アッラーよ、私はあなたにこの風による良いこと、その中にある良いこと、そしてそれと共にあなたが送られた良いことを求めます。また私はこの風による悪いこと、その中にある悪いこと、そしてそれと共にあなたが送られた悪いことからあなたのご加護を求めます）。

三日月を見たとき	“アッラーフンマ　アヒッラフ　アライナー　ビル＝ユムニ　ワル＝イーマーニ　ワッ＝サラーマティ　ワル＝イスラーム、　ヒラール　ハイリン　ワ　ルシディン、　ラッビー　ワ　ラッブカッラー”[1]
旅人に別れを告げるとき	“アスタウディウッラーハ　ディーナカ　ワ　アマーナタカ　ワ　ハワーティーマ　アマリク”[2] そして旅人はこのように返事します。“アスタウディウクムッラーハ　アッラズィー　ラー　タディーウ　ワダーイウフ”[3]
旅行のとき	“アッラーフ　アクバル。アッラーフ　アクバル。アッラーフ　アクバル。スブハーナッラズィー　サッハラ　ラナー　ハーザー　ワ　マー　クンナー　ラフ　ムクリニーン、ワ　インナー　イラー　ラッビナー　ラムンカリブーン、アッラーフンマ　インナー　ナスアルカ　フィー　サファリナー　ハーザルビッラ　ワッタクワー。ワ　ミナルアマリ　マー　タルダー。アッラーフンマ　ハウウィン　アライナー　サファラナー　ハーザー。ワトゥウィ　アンナー　ブゥダフ。アッラーフンマ　アンタッサーヒブ　フィッサファル。ワルハリーファトゥ　フィルアハル。アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビカ　ミン　ワァサーイッサファリ、ワ　カアーバティルマンザリ、ワ　スーイルムンカラビ　フィルマーリ　ワルアハル。”[4] そして帰ってきたら、“アーイブーナ、ターイブーナ、アービドゥーナ、リラッビナー　ハーミドゥーン”[5]
就寝のとき	✸“アッラーフンマ　アスラムトゥ　ナフスィー　イライク。ワ　ファウワドゥトゥ　アムリー　イライク。ワ　アルジャアトゥ　ザハリー　イライク。ラハバタン　ワ　ラグバタン　イライク。ラー　マルジャア　ワ　ラー　マンジャー　ミンカ　イッラー　イライク。アーマントゥ　ビキタービカッラズィー　アンザルタ　ワ　ビナビーイカッラズィー　アルサルタ”[6] ✸“アルハムドゥリッラーヒッラズィー　アトゥアマナー　ワ　サカーナー、ワ　カファーナー、ワ　アーワーナー。ファカム　ミンマン　ラー　カーフィヤ　ラフ　ワ　ラー　ムウウィー”[7] ✸“アッラーフンマ　キニー　アザーバカ　ヤウマ　タブアス　イバーダク”[8] ✸“スブハーナカッラーフンマ　ラッビー　ビカ　ワダァトゥ　ジャンビー、ワ　ビカ　アルファウフ　イン　アムサクタ　ナフスィー　ファ

1　（アッラーよ、三日月と共に祝福、信仰、平安、そしてイスラームを私たちにもたらしてください。素晴しい導きの日月と共に。私とあなたの主こそはアッラーです）。
2　（私はあなたとの別れと、あなたの宗教、信頼性、そして最後の所業をアッラーに託します）。
3　（私は託されたものを失うことのないアッラーに対して、あなたとの別れを託します）。
4　（アッラーは偉大なり。アッラーは偉大なり。アッラーは偉大なり。これらのもの（移動手段、乗り物のこと）を私たちに服従させた御方を讃えます。これは私たち自身では出来なかったことです。本当に私たちは，私たちの主の御許に必ず帰るのです。アッラーよ、私たちはこの私たちの旅において、善行と敬虔さを請います。そしてあなたのご満悦される行いを求めます。アッラーよ、私たちのこの旅を容易くして下さい。そしてその距離を縮めて下さい。アッラーよ、あなたは旅の道連れであり、家族の後見人です。アッラーよ、私はあなたに旅の困難と風景がもたらす倦怠さから、そして財産と家族に万一のことがないよう、あなたにご加護を求めます）。
5　（私たちは帰り、悔悟し、崇拝します。そして私たちの主を称えます。）と付け加えます。
6　（アッラーよ、私は我が身をあなたに服従させ、私のことをあなたに委ねました。そして私の顔をあなたに向け、私の背中をあなたの庇護のもとに置きます。あなたを望み、あなたを畏れて。あなたからの避難所も救済もあなた以外にはありません。私はあなたが下されたあなたの啓典と、あなたが遣わされたあなたの預言者を信じます）。
7　（私たちに食べさせ、飲ませ、満足させ、住まいを与えられるアッラーに賞賛あれ。十分に満足することなく、保護され安らぐ場所もない者たちも山ほどいるというのに）。
8　（アッラーよ、あなたのしもべが復活させられるその日、私をあなたの罰からお守り下さい）。

	グフィル　ラハー。ワ　イン　アルサルタハー　ファハファズハー、ビマー　タハファズ　ビヒ　イバーダカッ＝サーリヒーン。”[1] クルアーンの最後の２章(アル＝ファラクとアン＝ナース章)を読み、両手の平に息を吹きかけ、頭・顔を始め、全身をその両手で撫でます。 毎晩眠りに就く前にアッ＝サジダ章、アル＝ムルク章を読むべ。
礼拝を始めるとき	“アッラーフンマ　バーイド　バイニー　ワ　バイナ　ハターヤーヤカマー　バーアッタ　バイナル＝マシュリキ　ワル＝マグリブ。アッラーフンマ　ナッキニー　ミン　ハターヤーヤ、カマー　ユナッカッ＝サウブル＝アブヤドゥ　ミナッ＝ダナス。アッラーフンマグスィルニー　ミン　ハターヤーヤ　ビッ＝サルジ　ワル＝マーイ　ワル＝バラドゥ”[2]
モスクへ礼拝に行くとき	“アッラーフンマジュアル　フィー　カルビー　ヌーラン、ワ　フィー　リサーニー　ヌーラン、ワ　フィー　サムイー　ヌーラン、ワ　フィー　バサリー　ヌーラン、ワ　ミン　ファウキー　ヌーラン、ワ　ミン　タハティー　ヌーラン、ワ　アン　ヤミーニー　ヌーラン、ワ　アン　シマーリー　ヌーラン、ワ　ミン　アマーミー　ヌーラン、ワ　ミン　ハルフィー　ヌーラン、ワジュアル　フィー　ナフスィー　ヌーラン、ワ　アァズィム　リー　ヌーラン、ワ　アッズィム　リー　ヌーラン、ワジュアル　リー　ヌーラン、ワジュアルニー　ヌーラー。アッラーフンマ　アァティニー　ヌーラン、ワジュアル　フィー　アサビー　ヌーラン、ワ　フィー　ラハミー　ヌーラン、ワ　フィー　ダミー　ヌーラン、ワ　フィー　シャアリー　ヌーラン、ワ　フィー　バシャリー　ヌーラー。”[3]
アッラーの導きを求めるとき(イスティハーラ)のドゥアー	預言者ﷺは次のように言われています。“もしあなた方が何かに迷ったら任意の2ラクアの礼拝をし、それからこう言うのだ。‘アッラーフンマ　インニー　アスタヒールカ　ビイルミカ、ワ　アスタクディルカ　ビクドゥラティカ、ワ　アスアルカ　ミン　ファドゥリカル＝アズィーム。ファインナカ　タクディル　ワ　ラー　アクディル、ワ　タァラム、ワ　ラー　アァラム、ワ　アンタ　アッラームル＝グユーブ。アッラーフンマ　イン　クンタ　タァラム　アンナ　ハーザル＝アムラ(ここで最善の決断や選択を求めるところの問題を述べる)ハイルッリー　フィー　ディーニー　ワマアーシー　ワ　アーキバティ　アムリー(あるいはこう言うアージリアムリー　ワ　アージリヒ)ファクドゥルフ　リー　ワ　ヤッスィルフ　リー　スンマ　バーリク　リー　フィーヒ。ワ　イン　クンタ　タァラム　アンナ　ハーザルアムラ　シャッルッリー　フィー　ディーニーワ　マアーシー　ワ　アーキバティ　アムリー(あるいはこう言う、アージリアムリー　ワ　アージリヒ)ファスリフフ　アンニー　ワスリフニー　アンフ。ワクドゥル　リヤルハイラ　ハイス　カーナ　スンマ　ラッディニービヒ”[4]

1　(私の主であるあなたの御名において、私は体を横たえました。そしてあなたによって起き上がります。ですから、もしあなたが私の魂を(その死でもって)引きとめられるのなら、それにお慈悲をおかけ下さい。そしてもしそれを解き放って生き続けさせるというのなら、あなたの敬虔なしもべたちを守るところのものでもって、それをお守り下さい)

2　(アッラーよ、私と私の過ちの間を東西の間を遠ざけたように遠ざけて下さい。アッラーよ、白い服が汚れから清められるように私を私の過ちから清めて下さい。アッラーよ、雪と水と氷で私を私の過ちから清めて下さい)。

3　(アッラーよ、私の心に光を、私の舌に光を、私の聴覚に光を、私の視覚に光を、私の上から光を、私の下から光を、私の右に光を、私の左に光を、私の前から光を、私の後ろから光を、私の魂に光をお与え下さい。そして私のために光を強くして下さい。光を強くして下さい。私のために光をお与え下さい。私を光にして下さい。私に光をお与え下さい。私の神経に光を、肉に光を、血に光を、髪に光を、皮膚に光をお与え下さい)。

4　(アッラーよ、私はあなたの知識による選択を求めます。あなたのお力を求めます。私は偉大なるあなたの恩恵を求めます。あなたこそは何事も可能な御方で、私は無力です。あなたこそご存知で、私は無知です。あなたは不可視なる世界をご存知の御方です。アッラーよ、しかじか(ここで最善の決断や選択を求めるところの問題を述べる)が私の宗教と生活と事の結末にとって最善であるとご存知ならば(あるいは次のように言う：「私の現世と来世にとって最善であるとご存知ならば」)、私にそれを可能にし、容易くして下さい。それからそれにおいて私を祝福して下さい。そしてもしそれが私の宗教と生活と事の結末にとって悪いとご存知ならば(あるいはこう言う：私の現世と来世にとって悪いとご存知ならば」)、それを私から遠ざけ、そして私をそれから遠ざけて下さい。そしてそれがどんなことであろうと、最善の事を私に可能にして下さい。それからそれによって私を満足させて下さい)。

預言者ﷺが行なった包括的なドゥアー	✸″アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビカ　ミン　スーイル＝カダーイ　ワ　ミン　ダラキッ＝シャカーイ ワ　ミン　シャマータティル＝アアダーイ　ワ　ミン　ジャハディル＝バラー″[1] ✸″アッラーフンマグフィルリー　ハティーアティー　ワ　ジャハリー　ワ　イスラーフィー　フィー　アムリー　ワ　マー　アンタ　アアラム　ビヒ　ミンニー、アッラーフンマグフィルリー　ジッディー　ワ　ハズリー　ワ　ハタイー　ワ　アムディー　ワ　クッル　ザーリカ　インディー、アッラーフンマグフィルリー　マー　カッダムトゥ　ワ　マー　アッハルトゥ　ワ　マー　アスラルトゥ　ワ　マー　アアラントゥ　ワ　マー　アンタ　アアラム　ビヒ　ミンニー　アンタル＝ムカッディム　ワ　アンタル＝ムアッヒル　ワ　アンタ　アラー　クッリ　シャイイン　カディール″[2]✸″アッラーフンマ　アスリフリー　ディーニー　アッラズィー　フワ　イスマトゥ　アムリー　ワ　アスリフリー　ドゥンヤーヤッラティー　フィーハー　マアーシー　ワ　アスリフリー　アーヒラティヤッラティー　フィーハー　マアーディー　ワジアリル＝ハヤータ　ズィヤーダタッリー　フィー　クッリ　ハイリン　ワジアリル＝マウタ　ラーハタッリー　ミン　クッリ　シャッル″[3]✸″アッラーフンマ　インニー　アスアルカル＝フダー　ワッ＝トゥカー　ワル＝アファーファ　ワル＝ギナー″[4] ✸″アッラーフンマ　アーティ　ナフスィー　タクワーハー、ワ　ザッキハー　アンタ　ハイル　マン　ザッカーハー　アンタ　ワリーユハー　ワ　マウラーハー。アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビカ　ミン　イルミン　ラー　ヤンファウ　ワ　ミン　カルビン　ラー　ヤフシャウ、ワ　ミン　ナフスィン　ラー　タシバウ、ワ　ミン　ダアワティン　ラー　ユスタジャーブ　ラハー″[5]✸″アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビカ　ミン　ザワーリ　ニアマティカ　ワ　タハッウリ　アーフィヤティカ　ワ　フジャーアティ　ニクマティカ　ワ　ジャミーイ　サハティク″[6]

1　（アッラーよ、定命における悪いこと、悲惨なこと、敵の嘲笑、そして過酷な試練からのご加護を求めます）。

2　（アッラーよ、私の過ち、無知、諸事における無節制、そしてあなたが私自身よりもよく知っていることからお許し下さい。アッラーよ、私の真面目な行ないと冗談の行ない、間違った行為と意図的な行為、そして私の行なうすべてのことをお赦し下さい。アッラーよ、私が自分の前後に送り出したもの、そして公然に、または秘密裏に行なったこと、そして度を超えて行なったものと、あなたが私自身よりもよく知っていることからお赦し下さい。あなたこそは最初であり、最後なのです。そしてあなたこそが全能者なのです）。

3　（アッラーよ、私にとって最も守るべき諸事である、私の宗教［の実践と理解］を正してください。そして私の現世での生活を正してください。そして私が辿り着く所である来世［への道］を正し、私の人生においてあらゆる良いものを増加し、私の死をあらゆる悪からの休息としてください）。

4　（アッラーよ、私はあなたのお導き、あなたへの畏敬の念、貞節さと満悦を嘆願します）。

5　（アッラーよ、私をあなたを畏敬する者にしてください。そして私の魂を浄化してください。あなたこそは最もよく浄化する御方です。あなたこそは保護者であり庇護する友なのです。アッラーよ、私はあなたに無益な知識から、またあなたを畏れない心から、また満足しない欲望から、そして叶うことのない祈りからのご加護を求めます）。

6　（アッラーよ、私はあなたによる祝福の喪失、あなたによる良い状況の除去、あなたによる素早い懲罰、そしてあなたのお怒りのすべてから、あなたのご加護を求めます）。

最も有益な取引

ズィクルッラー(アッラーへの唱念)

アッラーは人類を他の創造物より優れさせ、舌を自在に操って会話が出来るようにしました。また、人類は自らに授けられた祝福を善悪のどちらに使うかを選択することが出来ます。もしも善いことに使うのであれば、現世におけるよろこびと楽園での高い住処が与えられるでしょう。もしもそれ以外に使うのであれば、現世と来世のどちらにおいても破滅が待ち構えるのです。アッラーを念じることは、人が行なうことのなかでも(クルアーンの朗誦の次に来る)、2番目に最も良い行為なのです。

ズィクルッラー(アッラーへの唱念)の徳

ズィクルの徳に言及するハディースは多く伝えられています。それらの中には次の預言者ﷺの言葉が含まれています。“あなたがたの行なうことの出来る最も良い行為であり、あなたがたの王にとり最も純粋かつその地位において最も高い行為であり、また金や銀を浪費するよりも良く、敵に遭遇して彼らの首を刎ね、あなたがたの首が刎ねられることよりも良いことを教えましょうか。”教友たちは言いました。“アッラーの使徒よ、ぜひとも教えてください！”預言者ﷺは言いました。“それはアッラーを思い起こすことです。”(アッ＝ティルミズィー)

また彼ﷺはこうも言っています。“主を思い起こす者とそうでない者は、生者と死者ほどの差があるのだ。”(アル＝ブハーリー)

また、このようにも言われています。“アッラーﷻは仰せられています。‘われはしもべがわれを思うその思いの通りにあり、彼らがわれを念じれば彼とともにある。もし彼がわれを彼自身の中で念じれば、われも自分自身の中で彼を念じる。もし彼が集団でわれを念じるのであれば、われは彼らよりよい一団(天使たち)において彼を念じる。もし彼がわれに手のひら分だけ近付けばわれは片腕分だけ近付くだろう。そしてもしわれに片腕分だけ近付けば、われは両腕分だけ近付くだろう。もし彼がわれへと歩いてきたらわれは彼へと走っていくだろう。”(アル＝ブハーリー)

彼ﷺはこのようにも言われています。“ムファッリドゥーンたちは他の人々の先を行くのだ。”教友たちは言いました。“アッラーの使徒よ、ムファッリドゥーンとは誰のことなのでしょうか？”彼ﷺは答えました。“絶えずアッラーのことを思い起こす男女のことである。”(ムスリム)

また、彼は教友たちのひとりに次のような助言をしています。“あなたの舌を、アッラーへの唱念によって絶えず湿らせていなさい。”(アッ＝ティルミズィー)

アッラーへの唱念を奨励するこれらのようなハディースは、数多く残されています。

報奨の増加

クルアーン朗誦の報奨が増加されるように、善行への報奨も、以下の条件によって増加されます。

1)その人物の心の中にあること、そして彼の信仰と真摯さ、アッラーへの敬愛とそれに基づいた行為。2)アッラーへの唱念とそれによる熟考によって舌によるものだけではないとき。

誰でもこれら2つの条件を満たすのであれば、アッラーは彼の罪をお赦しになり、完全な報奨をお与えになるでしょう。またこれら2つに関して欠けている者は、その欠けたものに基づいた罪の赦しと報奨を得るでしょう。

アッラーへの唱念の利益

- それはアッラーのご満悦を得ると同時に悪魔を追い払い、弱め、恥をかかせ、堕落させます。
- それはアッラーへの敬愛、親密さ、意識と畏れを育みます。また信仰者がアッラーに縋

り、悔悟し、従う結果につながります。

心のなかの憂鬱さ、心配事を取り除き、喜びや活気、強さと純粋さをもたらします。人間の心には、アッラーへの唱念のみによって満たされる穴や隙間があり、アッラーへの唱念のみによって柔らかくされる硬さがあるのです。

- アッラーへの唱念は心への癒しです。それはいかなる悦びでさえ比べるの出来ない強い悦びをもたらします。アッラーへの唱念を怠るのであれば、それは病気につながるのです。
- アッラーへの唱念の不足は偽信の兆候であり、アッラーへの唱念の豊富さは信仰心の強さとアッラーへの真の愛情の兆候です。人が何かを愛するときは、頻繁にそれを思い起こすはずです。
- 信仰者がアッラーをたびたび念ずることによって喜びのときであれかれを思い起こすことにより、かれは困難のとき、特に死や昏睡状態であっても信仰者と共にあるのです。
- アッラーへの唱念は、アッラーの懲罰からの救いであり、アッラーの慈悲による平安の源泉、そして諸天使は念じる者のためにアッラーの許しを請うのです。
- アッラーへの唱念によって舌を忙しく動かすことは、愚かなことや陰口、意見の相違、虚偽、その他の禁じられた不快な行為から人を遠ざけます。
- アッラーを念じることは最も簡単であると同時にすべての崇拝行為のなかでも最も有徳であるとされます。また、それは楽園へと近づけるのです。
- アッラーを念じる者の顔は、敬意の念と荘厳さを引き起こす甘美な光で明るくなります。アッラーを念じることは、現世の人生と墓地、そして来世における光なのです。
- アッラーを念じることにより、アッラーは諸天使によってそれを行なう者へと平安と祝福を送り、アッラーはかれを念じる者たちを誇りとし、諸天使にそれを示すのです。
- 最も卓越した崇拝者とは、最も良くアッラーﷻを念じる者であり、最も卓越した斎戒者とは、斎戒中も頻繁にアッラーを念じる者なのです。

アッラーを念じることは困難を容易にし、複雑なことを単純にし、過酷さを柔和にします。それは崇拝者に供給と、肉体の強さをもたらすのです。

イブン・タイミーヤは述べました。“アッラーへの唱念は、魚にとっての水のようなものである。魚が水から切り離されると、魚には何が起こるだろうか？”

朝晩のアッラーへの唱念

	アッラーへの想念	量と時間帯	効果と徳
1	アーヤトル＝クルスィー 玉座の節（2:255）[1]	✸に1回 ✸夜に1回 ✸義務礼拝の後	✸悪魔を追い払います。 ✸楽園へと入る理由のひとつです。
2	アル＝バカラ章の最後の2節［2:285-286］[2]	✸夜、もしくは就寝前に1回	すべての悪にたいしてこれだけで十分になります。
3	アル＝イフラース章［112］， アル＝ファラク章［113］， アン＝ナース章［114］．	✸朝に3回 ✸夜に3回	彼にはこれだけで十分となります。
4	“ビスミッラーヒッラーズィーラー　ヤドゥッル　マアスミヒシャイウン　フィル＝アルディワ　ラー　フィッ＝サマー。ワ　フワッ＝サミーウル＝アリーム”[3]	✸朝に3回 ✸夜に3回	突然の惨事に見舞われることなく、何事にも害されることがなくなります。
5	“アウーズ　ビカリマーティッラーヒッターンマーティ　ミン　シャッリ　マー　ハラク”[4]	✸夜に3回、もしくは旅の途中に休憩をとり、一晩をそこで過ごすとき。	これは宿所にいかなる害が加わることも防ぎます。
6	“ビスミッラー。　タワッカルトゥアラッラー。ワ　ラー　ハウラ　ワラー　クウワタ　イッラー　ビッラー”[5]	✸住居から旅立ちに出るとき。	これはその日彼から悪魔を遠ざけます。
7	“ハスビヤッラーフ　ラー　イラーハ　イッラー　フワ　アライヒタワッカルトゥ　ワ　フワ　ラッブルアルシルアズィーム”[6]	✸朝に7回 ✸夜tに7回	アッラーは彼に対してこれだけで十分とし、彼の現世と来世における諸事の悩み事を世話されます。

1　アッラーフ　ラー　イラーハ　イッラー　フワル＝ハイユル＝カイユーム。ラー　タアフズフ　スィナトゥン　ワ　ラー　ナウム。ラフ　マー　フィッ＝サマーワーティ　ワ　マー　フィル＝アルドゥ。マン　ザッラズィー　ヤシュファウ　インダフ　イッラー　ビイズニヒ。ヤアラム　マー　バイナ　アイディーヒム　ワ　マー　ハルファフム。ワ　ラー　ユヒートゥーナ　ビシャイイン　ミン　イルミヒ　イッラー　ビマー　シャー。　ワスィア　クルスィーユフッ＝サマーワーティ　ワル＝アルダ　ワ　ラー　ヤウードゥフ　ヒフズフマー。ワ　フワル＝アリーユル＝アズィーム。

2　アーマナッ＝ラスール　ビマー　ウンズィラ　イライヒ　ミッ＝ラッビヒ　ワル＝ムウミヌーン。クッルン　アーマナ　ビッラーヒ　ワ　マラーイカティヒ　ワ　クトゥビヒ　ワ　ルスリヒ。ラー　ヌファッリク　バイナアハディン　ミッ＝ルスリヒ。ワ　カールー　サミアナー　ワ　アタアナー　グフラーナカ　ラッバナー　ワ　イライカル＝マスィール。ラー　ユカッリフッラーフ　ナフサン　イッラー　ウスアハー。ラハー　マー　カサバトゥ　ワ　アライハー　マクタサバトゥ。ラッバナー　ラー　トゥアーヒズナー　イン　ナスィーナー　アウアフタアナー。ラッバナー　ワ　ラー　タハミル　アライナー　イスラン　カマー　ハマルタフ　アラッラズィーナ　ミン　カブリナー。　ラッバナー　ワ　ラー　トゥハンミルナー　マー　ラー　ターカタ　ラナー　ビヒ。ワ　アフ　アンナー　ワグフィル　ラナー　ワルハムナー　アンタ　マウラーナー　ファンスルナー　アラルカウミルカーフィリーン。

3　（その御名とともにあれば、天地にあるいかなるものも害することのないアッラーの御名において。そしてかれは全てを聞き知る御方です）。

4　（私は完全なるアッラーの御言葉に、かれがお創りになった悪からのご加護を求めます）。

5　（アッラーの御名において。私はアッラーにこの身を委ねます。至高至大のアッラーの他にいかなる威力も強大なるものもありません）。

6　（私にはアッラーだけで充分です。かれの他に真に崇拝すべきものはありません。私はかれに身を委ねました。かれは偉大なる玉座の主であられます）。

8	“ラディートゥ　ビッラーヒ　ラッバン、ワ　ビル＝イスラーミ　ディーナン、ワ　ビムハンマディン　ナビイヤー”[1]	✸朝に3回 ✸夜に3回	アッラーは彼を満足させます。
9	朝にはこう言います。“アッラーフンマ　ビカ　アスバハナー。ワ　ビカ　アムサイナー。ワビカ　ナハヤー、ワ　ビカ　ナムートゥワイライカン＝ヌシュール”[2]	✸朝に1回 ✸夜に1回	これを言うことが推奨されている伝承があります。
	夜にはこう言います。“アッラーフンマ　ビカ　アムサイナー。ワ　ビカ　アムサイナー。ワビカ　ナハヤー、ワ　ビカ　ナムートゥワイライカル＝マスィール”[3]		
10	“アスバハナー　アラー　フィトゥラティル＝イスラーム。ワ　アラー　カリマティル＝イフラース。ワ　アラー　ディーニ　ナビーイナー　ムハンマディン　サッラッラーフアライヒ　ワ　サッラム。ワ　アラー　ミッラティ　アビーナー　イブラーヒーマ　ハニーファン　ムスリマン　ワ　マー　カーナミナル＝ムシュリキーン”[4]	✸朝に1回	預言者ﷺはこのドゥアーを捧げていました。
11	朝にこう言う者は…”アッラーフンマ　マー　アスバハ　ビー　ミン　ニアマティン　アウ　ビアハディン　ミン　ハルキク。　ファミンカ　ワハダカ　ラー　シャリーカ　ラク。ファラカル＝ハムドゥ　ワ　ラカッ＝シュクル”[5] 夜にこう言う者は…”アッラーフンマ　マー　アムサー　ビー　ミン　ニアマティン　アウ　ビアハディン　ミン　ハルキク。　ファミンカ　ワハダカ　ラー　シャリーカ　ラク。ファラカル＝ハムドゥ　ワ　ラカッ＝シュクル”[6]	✸朝に1回 ✸夜に1回	…朝と晩にアッラーに感謝したことになります。

1　（私はアッラーが主であり、イスラームが宗教であり、そしてムハンマドが使徒であることに満足しました）。
2　（アッラーよ、あなた（のご意志）により朝を迎えました。あなたにより夜を迎えました。あなたにより私たちは生き、あなたにより私たちは死にます。そして（死後蘇らされ）集められる先はあなたの御許です）。
3　（アッラーよ、あなた（のご意志）により夜を迎えました。あなたにより朝を迎えました。あなたにより私たちは生き、あなたにより私たちは死にます。そして戻る先はあなたの御許です）。
4　（私たちはイスラームという天性のもとに、そして純正の言葉のもとに、そして私たちの預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の宗教と、純正なムスリムでシルクを犯す者ではなかった私たちの祖イブラーヒームの宗教のもとに朝を迎えました）。
5　（アッラーよ、私あるいはあなたの創造物の誰かが朝を迎えた恩恵は、唯一で並ぶもの無きあなたからのものです。ですからあなたを讃美し、あなたに感謝します）。
6　（アッラーよ、私あるいはあなたの創造物の誰かが晩を迎えた恩恵は、唯一で並ぶもの無きあなたからのものです。ですからあなたを讃美し、あなたに感謝します）。

12	″アッラーフンマ　インニー　アスバハトゥ。ウシュヒドゥカ　ワ　ウシュヒドゥ　ハマラタ　アルシカ、ワ　マラーイカティカ　ワ　アンビヤーアカ　ワ　ジャミーア　ハルキカ、ビ　アンナカ　アンタッラーフ　ラー　イラーハ　イッラー　アンタ　ワハダカ　ラー　シャリーカ　ラク。ワ　アンナ　ムハンマダン　アブドゥカ　ワ　ラスールク″[1]	✸朝に4回 ✸夜に4回	誰でも4回言う者は、アッラーがその人物から（火獄の）火を分け隔てます。
13	″アッラーフンマ　ファーティラッ＝サマーワーティ　ワル＝アルドゥ　アーリマル＝ガイビ　ワッ＝シャハーダティ　。ラッバ　クッリ　シャイイン　ワ　マリーカフ。アシュハドゥ　アッラー　イラーハ　イッラー　アントゥ。アウーズ　ビカ　ミン　シャッリ　ナフスィー、ワ　ミン　シャッリッ＝シャイターニ　ワ　シルキヒ。ワ　アン　アクタリファ　アラー　ナフスィー　スーアン、アウ　アジュッラフ　イラー　ムスリム″[2]	✸朝に1回 ✸夜に1回 ✸就寝前に1回	これを言う人物は悪魔の囁きから守られます。
14	“アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビカ　ミナル＝ハンミ　ワル＝ハザン。ワル＝アジュズィ　ワル＝カサル。ワル＝ブフリ　ワル＝ジュブン。ワ　ガラバティッ＝ダイニ　ワ　カハリッ＝リジャール”[3]	✸朝に1回 ✸夜に1回	これを言う人物は不安、悲しみや借金の苦しみから和らげられます。
15	“アッラーフンマ　アンタ　ラッビー　ラー　イラーハ　イッラー　アントゥ。ハラクタニー　ワ　アナ　アブドゥク。ワ　アナ　アラー　アハディカ　ワ　ワアディカ　マスタタァトゥ。アウーズ　ビカ　ミン　シャッリ　マー　サナアトゥ。アブーウ　ラカ　ビニアマティカ　アライヤ、ワ　アブーウ　ビザンビー　ファグフィル　リー　ファインナフ　ラー　ヤグフィルッ＝ズヌーバ　イッラー　アンタ”[4]	これは赦しを請うための最も良いドゥアーです。（朝に1回と夜に1回。）	誰でも夜の始まりにこのドゥアーを捧げてその夜に死んだ者は、楽園に入れられます。そして朝の始まりにこのドゥアーを捧げてその日中に死んだ者も楽園に入れられます。
16	“ヤー　ハイユ　ヤー　カイユーム。　ビラハマティカ　アスタギース　アスリフ　リー　シャアニー　クッラフ。ワ　ラー　タキルニー　イラー　ナフスィー　タルファタ　アイン”[5]	✸朝に1回 ✸夜に1回	預言者ﷺは彼の娘ファーティマにこれを言うことを勧めました。

1　（アッラーよ、私は朝を迎えました。私は、あなたがあなた以外に真に崇拝すべきものがない唯一の並ぶ者無きアッラーであり、ムハンマドがあなたのしもべでありあなたの使徒であるということを、あなたとあなたの玉座を支える天使たちとその他の天使たち、全てのあなたの創造物の証言でもって証言します）。

2　（アッラーよ、不可視なる世界と可視なる世界を知る御方よ、天地の創造主よ、万物の主・支配者よ、私はあなた以外に真に崇拝すべきものはないことを証言します。そして自分自身の悪、シャイターンとシルクの悪から、あなたにご加護を求めます。そして自分自身を害すること、或いは誰か他のムスリムを害することからの庇護をあなたに求めます）。

3　（アッラーよ、苦悩と悲しみから、無能と怠惰から、吝嗇と臆病から、借金の重みと男たちの圧制からのご加護を求めます）。

4　（アッラーよ、あなたは私の主であなたの他に真に崇拝すべきものはありません。あなたは私をあなたのしもべとして創造されました。私は出来る範囲であなたとの契約と約束を守ります。私はあなたに私の成した悪からのご加護を求めます。そして私に対するあなたの恩恵と私自身の罪を認めて、あなたの御許へ帰り行きます。ですから私を御赦し下さい。あなた以外に罪を赦される方はいません）。

5　（永遠に生き、自存する御方よ、私はあなたの慈悲によるお慰めを求めます。私に関する全ての物事を正し、私を一瞬たりとも見放さないで下さい）。

17	“アッラーフンマ　アーフィニー　フィーバダニー。アッラーフンマ　アーフィニー　フィー　サムイー。アッラーフンマ　アーフィニー　フィー　バサリー。ラー　イラーハ　イッラー　アントゥ。アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビカ　ミナル＝クフリ、ワル＝ファクル。ワ　アウーズ　ビカ　ミン　アザービル＝カブル。ラー　イラーハ　イッラー　アントゥ。”[1]	✸朝に3回 ✸夜に3回	預言者ﷺがこのドゥアーを行なっていたことが報告されています。
18	“ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワハダフ　ラー　シャリーカ　ラフ、ラフル＝ムルク　ワ　ラフル＝ハムドゥ　ワ　フワ　アラー　クッリ　シャイイン　カディール”[2]	✸朝に1回、または10回 ✸夜に1回、または10回	✸奴隷の解放と同等とされます。 10 ✸の報奨を受けます。 10 ✸の罪が赦されます。 10 ✸の位が上げられます。 ✸ その人は悪魔から守ります。
19	“スブハーナッラーヒ　ワ　ビハムディヒ　アダダ　ハルキヒ、ワ　リダー　ナフスィヒ、ワ　ズィナタ　アルシヒ　ワ　ミダーダ　カリマーティヒ”[3]	✸朝に3回	これは早朝から午前半ばまでアッラーを想念することよりも優れているとされます。

1　（アッラーよ、私の肉体を、聴覚を、視覚をお守り下さい。あなたの他に真に崇拝すべきものはありません。アッラーよ、私はあなたに不信仰からのご加護を求めます。そして墓の懲罰からのご加護を求めます。あなたの他に真に崇拝すべきものはありません）。
2　（唯一で並ぶ者無き御方、アッラー以外に真に崇拝すべきものはなし。主権と讃美はかれにこそ属します。そしてかれこそは全能の御方です）。
3　（創造物の数だけ、（アッラー）御自身の御満悦を得るまで、玉座の装飾の重さだけ、そして御言葉が書かれたインクの量だけ私はアッラーを称賛し、アッラーを讃えます）。

イスラームにおいて報奨のある言葉や行為

	有徳な言葉、または行為	預言者ﷺの伝承による、その報奨と徳の証拠
1	“ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワハダフラー　シャリーカ　ラフ、ラフル＝ムルク　ワラフル＝ハムドゥ　ワ　フワ　アラー　クッリ　シャイイン　カディール”	“誰であれ、‘ラー　イラーハ　イッラッラーフワハダフ　ラー　シャリーカ　ラフ、ラフル＝ムルクワラフル＝ハムドゥワ　フワ　アラー　クッリ　シャイイン　カディール’（唯一で並ぶ者無き御方、アッラー以外に真に崇拝すべきものはなし。主権と讃美はかれにこそ属します。そしてかれこそは全能の御方です）と1日に100回言う者は、奴隷を10人解放するのと同様であり、彼には100の善行が記録され、100の悪行が消されるであろう。また彼はその日、夜になるまで悪魔から守られ、彼よりも善行を重ねている者以外には、彼に勝る者はいないのである。”　［アル＝ブハーリーとムスリム］
2	“スブハナッラー、アルハムドゥリッラー、ラーイラーハ　イッラッラー、アッラーフ　アクバル”	“私は昇天の夜にイブラーヒームと出会い、彼は私にこう告げました‘ムハンマドよ、あなたの国家に平安の挨拶を伝え、彼らに楽園の土は純粋、かつその水は甘く、その谷は香り良く、そこの若木は　スブハーナッラーヒ　ワル＝ハムドゥリッラーヒ　ワラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワッラーフ　アクバル、ワ　ラー　ハウラ　ワ　ラー　クウワタ　イッラー　ビッラー”（アッラーに讃美あれ、そしてアッラーに称えあれ、アッラー以外に神はなく、アッラーこそが至大なり。至高至大のアッラーの他にいかなる威力も強大なるものもないのである。）”（アッ＝ティルミズィー）
3	“スブハーナッラー”と言い、“スブハーナッラーヒ　ワビハムディヒ”　と言い、　“スブハーナッラーヒル＝アズィーム”と言うこと	✸”誰であれ、朝と晩に‘スブハーナッラーヒ　ワビハムディヒ’　（アッラーに讃美と称賛あれ）　と100回言う者は、たとえ彼の罪の数々が海の泡のように多くとも、それらは容赦されるだろう。そして彼よりも沢山言うもの以外は、誰も彼に優れないであろう。” ✸”ふたつの表現は簡単に言うことができ、価値は重く、その慈悲において最も寛大な御方に愛されているのだ。それらは‘スブハーナッラーヒ　ワビハムディヒ’（アッラーに讃美と称賛あれ）　、そして　‘スブハーナッラーヒル＝アズィーム’（壮大なるアッラーに讃美あれ）である。”
4	“スブハーナッラーヒル＝アズィームワビハムディヒ”	“誰であれ、‘スブハーナッラーヒル＝アズィームワビハムディヒ’　（壮大なるアッラーに讃美と称賛あれ）と言う者は、彼のために楽園にヤシの木が植えられるであろう。”
5	“ラー　ハウラ　ワラー　クウワタ　イッラー　ビッラー”	［預言者ﷺは言われました］　“私があなたに楽園にある宝のなかの宝へと導くことを望まないか？”私は言いました。”もちろんですとも！”　彼は言いました。“ラー　ハウラ　ワ　ラー　クウワタ　イッラー　ビッラー（アッラーの他にいかなる威力も強大なるものもありません）。”

6	集まりの後に行なう罪滅ぼしの礼拝	“誰であれ、騒々しい無益な集まりから立ち去る前に、‘スブハーナカッラーフンマ　ワ　ビハムディク。アシュハド　アッラー　イラーハ　イッラー　アントゥ。アスタグフィルカ　ワ　アトゥーブ　イライク’(アッラーよ、あなたに讃美と称賛あれ。私はあなた以外に真に崇拝すべきものはないと証言し、あなたにお赦しを請い、悔悟します)と言う者は、その集まりに参加した罪が償われるであろう。”
7	預言者ﷺへの敬礼	“誰であれ、私に1回敬礼を送るものは、アッラーが彼に10回敬礼を送り、10の過ちを免除し、10の位を上げるであろう。”　－ 別の伝承では、”そして彼のために10の善行を記録するであろう。”となっています。
8	クルアーン朗誦の徳	“誰であれ、毎晩50節を朗誦する者は、怠慢な者とは記録されない；100節を朗誦する者は、忍耐強い従順な者であると記録される；　200節を朗誦する者は、復活の日、クルアーンが不利な立証とならない；そして500節を朗誦する者は、多大な恩恵の報奨が記録される。”
9	アル＝イフラース章朗誦の徳	✸”誰であれ、‘クル　フワッラーフ　アハド’　を10回読む者は、アッラーが彼のために楽園に家を築くであろう。”（アハマド）”‘クル　フワッラーフ　アハド’　とはクルアーンの3分の1に値するのだ。”
10	アル＝カハフ章を暗唱すること	“誰であれ、アル＝カハフ章の最初の10節を記憶する者は、偽キリスト(アッ＝ダッジャール)の害から保護されるだろう。”
11	礼拝を呼びかける者（ムアッズィン）の報奨	✸”…礼拝の呼びかけを聞くすべての人類とジンは、復活の日、その者のために証言するのである。”✸”礼拝を呼びかける者は、復活の日に最も長い首を持つであろう。”
12	礼拝を呼びかける者の後に復唱し、ドゥアーを捧げること	“礼拝の呼びかけを聞き、‘アッラーフンマ　ラッバ　ハーズィヒッ＝ダアワティッ＝ターンマティ、ワッ＝サラーティルカーイマ。アーティ　ムハンマダニル＝ワスィーラタ　ワル＝ファディーラ。ワブアスフ　マカーマン　マハムーダニッラズィー　ワアッタフ’(アッラーよ、この完成された呼びかけと繰り返し続く礼拝の主よ、ムハンマドに天国における高い位階と栄誉を与え、あなたが彼に約束されたところの賞賛に溢れた位階に彼を蘇らせたまえ)と言った者は、復活の日に私の執り成しが彼に合法とされるであろう。
13	完璧なウドゥー	“誰であれ、ウドゥーを行ないそれを完璧にする者は、指や足の爪の下からも体から罪が取り除かれるだろう。”
14	ウドゥーの後のドゥアー	“ウドゥーをしっかりと行ない、‘アシュハドゥ　アッラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワ　アンナ　ムハンマダン　アブドゥッラーヒ　ワ　ラスールフ’(私はアッラー以外に真に崇拝すべきものは無いことを証言します。私はムハンマドがアッラーのしもべであり使徒であることを証言します)　と言う者には皆、楽園の８つの扉が開かれ、それらの内の望む扉のどれからでも入ることが出来るだろう。”（ムスリム）

15	ウドゥー後の礼拝	“ウドゥーをしっかりと行ない、顔と心をアッラーに向けて2ラクアの礼拝をするムスリムには、楽園がもたらされるであろう。”(ムスリム)
16	モスク(マスジド)への歩み	“誰であれ、合同モスクへと行く者は、そこからの帰途も同様に、彼の一歩により罪が消され、次の一歩では善行が記録されるのだ。”(アハマド)
17	モスクの訪問	“誰であれ、モスクを訪れるか、そこから帰途に就くものは、アッラーが彼のため、その度に楽園の場を設けられるであろう。(アル=ブハーリーとムスリム)
18	金曜礼拝の準備をし、早めにモスクを訪れること	✸”誰であれ、ジュムアの日(金曜日)に沐浴をして念入りに洗い、乗り物に乗らず歩き、早めにモスクへ行き、イマームの近くに寄り、彼の話しをよく聞き、無駄話をしない者は、その歩みの一歩一歩が一年間の斎戒行為と礼拝に等しい報奨を受けるであろう。”[アブー・ダーウード、アッ=ティルミズィー、アン=ナサーイー、イブン・マージャ] ✸”金曜日、沐浴して可能な限りきれいにし、香油、もしくは家にある香水を身につけてモスクへ行き、隣り合わせで座っている人々の間に割って入らず、定められた(任意)礼拝を行ない、話しをせずに説教を行なうイマームに耳を傾ける者に、アッラーはその金曜日ともう一方の金曜日の間の彼の罪を赦すであろう。”(アル=ブハーリー)
19	礼拝の最初のタクビール(アッラーフ　アクバル)	“誰であれ、アッラーのために40日間を合同で礼拝し、最初のタクビールに到達した者は、次のふたつから自由になるであろう。それらは業火と偽信である。”
20	合同の義務礼拝	“合同での義務礼拝は、個人で行なわれるそれよりも27度勝る。”
21	イシャーとファジュルを合同で行なうこと	“誰であれ、イシャーを合同で行なう者は、夜の半分を礼拝に立ったと同じであると見なされるだろう。そして誰であれファジュルを合同で行なう者は、一晩中礼拝に立っていたと同じであると見なされるであろう。”
22	1列目で礼拝すること	“もしも人々が、礼拝の呼びかけと1列目のことを知っており、くじを引く以外にそこに到達出来ないのであれば、くじを引いたであろう。”
23	日常的に任意礼拝を行なうこと	“誰であれ、日夜12ラクア(の任意礼拝)行なう者は、楽園で家が築かれるであろう。それらはズフル前の4つ、後の2つ、マグリブ後の二つ、イシャー後の二つ、そしてファジュル前の2つである。”
24	女性が家で行なう礼拝	“ある女性が預言者ﷺを訪れて言いました。‘アッラーの使徒よ、もしあなたと共に礼拝が出来れば。’彼は言いました。‘私はそれを心得ている。[しかし]あなたにとっては、あなたの家の中の最も隠れた場所で行なう礼拝のほうがあなたの部屋で行なうものよりも優れているのだ。そしてあなたの部屋で行なう礼拝の方が、あなたの家で行なう礼拝よりも優れている。そしてあなたの家で行なわれる礼拝は、あなたの人々のモスクで行なわれる礼拝よりも優れている。そしてあなたの人々のモスクで行なわれる礼拝は、私のモスクで行なわれる礼拝よりも優れている。”
25	豊富に行なわれる任意礼拝	“サジダを沢山行ないなさい。なぜならひとつのサジダでアッラーはあなたを一段階かれに近づけられ、またひとつの過ちを取り除かれるのだ。”

26	ファジュル前の任意礼拝と義務のファジュル礼拝	✸"ファジュル前の任意の2ラクアは、この世とその中にあるすべてのものに勝るのだ" ✸ "誰であれ朝の礼拝を行なう者は、アッラーの庇護下にあるのだ。"
27	日の出後の朝の礼拝(サラートッ＝ドハー)	"毎朝、人のすべての間接には喜捨が課せられるため、各タスビーフ(‘スブハーナッラー’と言うこと) は喜捨行為であり、各タハミード (‘アルハムドゥリッラー’と言うこと) は喜捨行為であり、各タハリール (‘ラー　イラーハ　イッラッラー’と言うこと) は喜捨行為であり、各タクビール (‘アッラーフ　アクバル’と言うこと)は喜捨行為であり、すべての善の奨めは喜捨行為であり、すべての悪の禁止は喜捨行為である。午前半ば(ドハー)に行なう2ラクアの立礼はそれらのすべてに値するのである。"
28	礼拝を行なった場に座り続け、アッラーを想念すること	"天使たちは、人が礼拝の場に留まり、ウドゥーの状態を保ち続ける限り、その人のためにこう祈るのである。‘アッラーフンマグフィル　ラフ’(アッラーよ、彼をお許しください。)、‘アッラーフンマルハムフ’(“アッラーよ、彼にご慈悲をお垂れ下さい”)。
29	ファジュルの合同礼拝後、日が昇るまでアッラーを想念し、2ラクアの礼拝をすること	"誰であれ、ファジュルの礼拝を合同で行ない、日が昇るまで座ってアッラーを想念し、2ラクアの礼拝を行なう者は、大小の巡礼(ハッジとウムラ)の3度の完遂に値する報奨を受けるのである"
30	夜中に起き上がり、妻を起こす者	"誰であれ、夜中に起き上がり、妻を起こして共に2ラクアの礼拝を行なう者たちは、アッラーを頻繁に想念した男女の内に記録されるであろう。"
31	任意礼拝のために夜中に起き上がろうと意図するが眠気に負けた者	"日常的な夜中の任意礼拝を眠気によって見逃してしまう者はいない。アッラー ﷻ はその礼拝の報奨を記録し、彼の眠りを喜捨とされるからだ。"
32	夜中に起きた者のドゥアー	"誰であれ夜中に起き上がり、‘ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワフダフ　ラー　シャリーカ　ラフ。ラフル＝ムルク　ワ　ラフル＝ハムド　ワ　フワ　アラー　クッリ　シャイイン　カディール。アルハムドゥリッラー、スブハーナッラー、ラー　イラーハ　イッラッラー、アッラーフ　アクバル、ラー　ハウラ　ワ　ラー　クウワタ　イッラー　ビッラー’(唯一で並ぶ者無き御方、アッラー以外に真に崇拝すべきものはいません。主権と讃美はかれの御許にあり、かれは全能の御方です。アッラーよ、あなたに賞賛と讃美あれ。アッラー以外に真に崇拝すべきものはなし。アッラーは偉大なり。アッラーの他にいかなる威力も強大なるものもなし。)と言った後、‘アッラーフンマグフィルリー’(アッラーよ、私をお許し下さい)と言うか、ドゥアーを捧げる者には、アッラーがお答えになるだろう。そして彼がウドゥーをして礼拝を行なえば、その礼拝は認められるだろう。"

33	義務礼拝後に、‘スブハーナッラー、ワル＝ハムドゥリッラー、ワッラーフ　アクバル’とそれぞれ33回ずつ言い、最後に一度‘ラー　イラーハ　イッラッラー’と言い終らせること	“礼拝後に、スブハーナッラー、アル＝ハムドゥリッラー、そしてアッラーフ　アクバル(アッラーに讃美あれ。すべての称賛はアッラーにあり。アッラーは偉大なり。)とそれぞれ33回ずつ言って計99回とし、最後の100回目にラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワフダフ　ラー　シャリーカ　ラフ。ラフル＝ムルク　ワ　ラフル＝ハムド　ワフワ　アラー　クッリ　シャイイン　カディール(唯一で並ぶ者無き御方、アッラー以外に真に崇拝すべきものはいません。主権と讃美はかれの御許にあり、かれは全能の御方です)と言う者は、たとえ海の泡のように罪があったとしても、それらは赦されるのだ。”
34	玉座の節（アーヤトル＝クルスィー）を義務礼拝後に朗誦すること	“誰であれ、アーヤトル＝クルスィー(玉座の節[2:255]）を各義務の礼拝後に朗誦すれば、彼が楽園に入るのを阻止するのは死のみである。”
35	病人の訪問	“朝に別のムスリムを訪れるムスリムには７万の天使たちが彼のために晩まで祈るであろう。晩に別のムスリムを訪れるムスリムには、７万の天使たちが彼のために朝まで祈り続けるであろう。そして彼には楽園の庭園があるだろう。”
36	一神教の言葉(タウヒード)を言って死ぬこと	“‘ラー　イラーハ　イッラッラー’（“アッラー以外に神はなし”）と言って死ぬしもべは、楽園に入るであろう。”
37	(悲しみで)苦悩する人を弔慰する者	✸”誰であれ、苦悩する者に対して弔慰の言葉を送る者は、同様の報奨が与えられるであろう。” ✸”兄弟の難儀に際して弔慰をする信仰者へ、アッラーは名誉の衣服をまとわせるであろう。”
38	死人を洗浄し、その人物の過ちを隠す者	“誰であれ、死人を洗浄し、その人物の過ちを隠す者は、アッラーが40倍の赦しを与えるであろう。”
39	葬儀の礼拝、そして墓地での埋葬まで葬列について行くこと	“誰であれ、葬儀の礼拝が終るまでそれを目撃した者は1つのキラートに値する報奨を受けるであろう。そして誰であれ埋葬までそこに留まる者ついて行く者は２つのキラートの報奨を受けるであろう。”誰かが尋ねました“2つのキラートとは何ですか？”彼は答えました。”2つの山のようなものだ。”イブン・ウマルﷺは言いました。“我々はどれだけ多くのキラートを見逃したことか！”
40	モスクを建てる者、またはその援助をする者	“誰であれ、アッラーのためにモスクを建てる者は、たとえそれが小さな巣のようなものであれ、アッラーは楽園に彼のための家をお建てになるであろう。”

41	貨幣の浪費と喜捨	“天使が舞い降りて、ふたりの内の片方に、‘アッラーよ、費やす者にさらにお与え下さい。’と言い、そしてもう一方に‘アッラーよ、費やさずに保留する者から、あなたの恩恵を保留して下さい。’と言わない朝はないのだ。”
42	喜捨	✸”富とは喜捨によって減るものではないのだ。ムスリムの雅量は増加するのでなく、アッラーによって名誉が増加されるのだ。謙遜さは増えるのではなく、アッラーによって位が上げられるのだ。” ✸”1ディルハムが10万ディルハムを超えたのだ。” 彼らは尋ねました。”それはどうしてでしょうか？” 彼は言いました。”2ディルハムを持つ男がそのうちの1つを喜捨として差し出し、別の男が彼の富を元に10万ディルハムを喜捨したからである。”（アン＝ナサーイー、イブン・フザイマ）
43	利息を付けずに貸し出すこと	“別のムスリムに２回の貸し付けをするムスリムは、そのうちの１回が喜捨と同じようなものである。”
44	苦難のなかにある他人の欠点を大目に見ること	“ある男が貸し付けをしていたが、彼は自分の使用人に‘もし困難に直面している者を見かけたら、容赦してあげなさい。そうすればアッラーが我々を赦してくれるだろう。’その後彼はアッラーに出会い、赦されたのだ。”
45	アッラーのための斎戒	“誰であれ、アッラーのために1日を斎戒した者は、アッラーによって彼の顔は火獄から70年分の距離を遠ざけられるだろう。”
46	毎月3日間、およびアラファ の日とアーシューラーの日に斎戒すること	✸”毎月3日間の斎戒をし、ラマダーン月の斎戒を毎年行なうことは、一年中の斎戒に等しいのだ。” ✸彼ﷺはアラファの日の斎戒に関して質問され、こう答えました。”それは前年と翌年の罪を帳消しにするのだ。” ✸彼ﷺはアーシューラーの日の斎戒に関して質問され、こう答えました。”それは前年の罪を帳消しにするのだ。”
47	シャウワール月の6日間の斎戒	“誰であれ、ラマダーン月の30日間の斎戒の後にシャウワール月の6日間の斎戒をした者は、あたかも一年中斎戒していたかのようである。”
48	タラーウィーフの礼拝を、イマームが終えるまで行なうこと	“人が導師（イマーム）と共に礼拝し、彼が終るまで続ければあたかも一晩中礼拝していたと数えられるであろう。”
49	敬虔な巡礼（アッラーによる承認）	✸”誰であれ、アッラーのために巡礼を行ない、不適切な行為やみだらな行為を行なわなければ、まるで新生児のように（罪のない状態に）なって帰ってくるであろう。” ✸敬虔な巡礼の報奨とは、まさに楽園そのものである。”
50	ラマダーン月中のウムラ	“ラマダーン中のウムラは、巡礼に値するのだ。”別の伝承ではこのように述べられています。“私と共の巡礼に値する。”

51	ズル＝ヒッジャ月最初の10日間の善行	✸”アッラーにとって(ズル＝ヒッジャ月の)最初の10日間よりも善行が寵愛される日々はない。” 彼らは言いました。”アッラーの使徒よ、アッラーのための戦いよりもですか？” 彼は答えました。 ”アッラーのための戦いよりもだ。ただし男が彼の魂と全財産をかけて出て行き、何も持たずに帰って来たときだけは別である。”
52	ウドヒヤの屠殺	預言者ﷺの教友たちは言いました。 “アッラーの使徒よ、ウドヒヤとは何ですか？” 彼は答えました。 “あなたがたの父であるイブラーヒームのスンナである。” 彼らは言いました。 “アッラーの使徒よ、それによって我々は何を受けるのですか？” 彼は答えました。 “あなたがたの髪の毛の数ほどの善行である。” 彼らは言いました。 “アッラーの使徒よ、羊毛の分もでしょうか？” 彼は答えました。 “そして羊毛の数の分の善行もである。”
53	良い意図を持ち、出来る限りの行為をする者は楽園における最高の階級を得ること	“この国家は次の4人に例えることが出来る。ひとりはアッラーが富と知識を授けた者であり、彼は自分の知識に従って富を適切に費やす。またひとりはアッラーによって知識を与えられているものの富を持たず、しかし真摯な意図を持って‘もしも私に富が与えられていたのならば、私は彼(富と知識のある者)のような行ないをしただろう。’という者。アッラーの使徒ﷺは付け加えました。 “彼らは共に、等しい報奨があるのだ。” もうひとりはアッラーによって富を与えられているものの知識を持たず、自分の富を無駄に浪費する者。そしてひとりはアッラーによって富も知識も与えられておらず、‘もしも私に富が与えられていたのならば、私は彼(富はあるが知識のない者)のような行いをしただろう。’と言う者。アッラーの使徒ﷺは再び付け加えられた。 “彼らは共に、等しい罪があるのだ。”
54	博学な者の報奨	“知識ある学者が敬虔な崇拝者の上にもつ優越性は、私があなたがたの上に持つ優越性のようなものである。“そしてアッラーの使徒ﷺは言われました。” 実に、アッラーとかれの諸天使、そして天と地の住人たちは、たとえ穴のなかの蟻や魚であれ、人々に善きことを教える者のために祝福を祈るのである。”
55	アッラーのために傷を負うこと	“私の魂がその手の中にある御方にかけて、アッラーの道において傷を負う者は、復活の日にその血から麝香の香りがするのである。”
56	アッラーのために敵の見張りをする者	“アッラーのために見張り役を一日することは、この世とそのなかにあるすべてのものに勝り、楽園にあるあなたがたのむち打ち場は、この世とそのなかにあるすべてのものに勝るのである。”
57	アッラーのために戦士たちを装備させる者	“誰であれ、(アッラーのための)戦いに赴く戦士を装備する者は、彼自身、戦地に赴いた(に等しい)のであり、また誰であれ戦地に赴いた戦士の家族の面倒を見る者は彼自身、戦地に赴いた(に等しい)のである。”
58	アッラーに対し、真摯に殉教を求める者	“誰であれ、アッラーに対して真摯に殉教を求める者は、たとえ床で死んだのであれ、アッラーは彼を殉教者の階級にお上げになるだろう。”
59	アッラーへの畏敬の念で泣くこと、そしてアッラーのための見張り番	“ふたつの目は火獄に触れないだろう。アッラーへの畏敬の念で涙する目；　そしてアッラーのための見張りにおいて眠らない目である。”

60	試練	“疲労、困難、不安、鬱、不快、悲しみ、または刺による痛みから苛（さいな）まされるムスリムはいないのだ。なぜならアッラーはそれらによって彼の罪を帳消しにするからである。”
61	焼灼、まじない、縁起を避ける者	“預言者ﷺは、諸国家の人々が彼の前に示される夢を見た。彼は自分の国家のなかの7万人が清算されることなく楽園に入るのを見、彼らは焼灼やまじないをせず、縁起を担がない人々であり、その代わりにアッラーを信頼する人々である。”
62	幼児を失った者たち	“罪を犯す年頃になる前（思春期前）の3人の子供たちを失ったムスリムは、アッラーによって楽園に入れられるのだ。”
63	視力を失う試練に直面し忍耐する者	“実に、アッラーは仰せられている。‘もしわれがしもべの寵愛するふたつの目において彼に試練を課し、彼が忍耐強くあれば、われは楽園をもって彼を報いよう。’”
64	アッラーのために何かを避ける者	“あなたは全能かつ荘厳なるアッラーのためには何も断つことがない。なぜならアッラーがそれよりも良いものを授けられるからだ。”
65	舌と陰部を保護する者	“誰であれ、下顎骨の間にあるものと両脚の間にあるものを守る者は、私が楽園を約束しよう。”
66	家に入る際、もしくは食事の際にアッラーの御名を口にする者	“もし人が自宅に入るときにアッラーを想念し、食事をすれば悪魔はこう言うだろう。‘ここには夜を明かす場所も食物もない。’そしてもし彼が自宅に入るときにアッラーを想念しなければ、悪魔はこう言うだろう。‘夜を明かす場所が見つかった。’そしてもし彼が食事のときにアッラーを想念しなければ、悪魔はこう言うだろう。‘夜を明かす場所と夕食が見つかった。’”
67	飲食後、または新しい衣服を着用する際にアッラーを称える者	✸“誰であれ、食後に‘アルハムドゥリッラーヒッラズィー　アトゥアマニー　ハーザー、ワ　ラザカニーヒ、ミン　ガイリ　ハウリン　ミンニー　ワ　ラー　クウワ（私の力が少しも介在することのないところにおいて、これを私に食べさせ、お恵みになったアッラーに称えあれ）　と言う者は、それ以前の罪をアッラーがお赦しになるだろう。” ✸なにかを飲んだときにはこう言うべきです。“アルハムドゥリッラーヒッラズィー　サカーニー　ハーザー…”（私にこの飲みものをお授けになったアッラーに称えあれ） ✸新しい衣服を着用するときにはこう言うべきです。“アルハムドゥリッラーヒッラズィー　カサーニー　ハーザー…”（私にこの衣服をお与えになったアッラーに称えあれ）。
68	自分たちの試練を軽減させたい者たち	ファーティマは預言者ﷺに使用人が欲しいと希望したため、彼は彼女とアリーにこう言いました。“使用人を持つことよりも良いことを教えようか。あなたが床につくとき、‘アッラーフアクバル’（アッラーは偉大なり）と34回言い、‘アル＝ハムドゥリッラー’（アッラーに称賛あれ）と33回言い、‘スブハーナッラー’（アッラーに讃美あれ）　と33回言うことだ。これはあなたにとって使用人よりも良いのだ。”

69	性交前のドゥアー	“もしあなたがたのひとりが妻と交わる際、‘ビスミッラー。アッラーフンマ　ジャンニブナッ＝シャイターナ、ワ　ジャンニビッ＝シャイターナ　マー　ラザクタナー’(アッラーの御名において。アッラーよ、私たちからシャイターンを退けて下さい。そして私たちに授けて下さったものからシャイターンを退けて下さい)と言うのであれば、アッラーが彼らに子供をもうけられた際、悪魔はその子供を害することが出来ないだろう。”
70	娘たちに対する卓越した処遇	“誰であれ、娘の養育において試練を課せられた者は、それらは彼にとって業火からの遮りとなるのだ。”
71	夫を満悦させる妻	✸”もしも女性が1日に５回礼拝し、1ヶ月間の斎戒をし、自分の陰部を守り、夫に従うのであれば、彼女は‘望む門から楽園に入れ’と言われるだろう。” ✸”いかなる女性であれ、夫が彼女に満悦したまま死ぬ者は楽園に入るだろう。”
72	血縁関係を維持すること	“誰であれ、暮らしの糧を大幅に増加させたい者、寿命を延ばしたい者は、自分の血縁関係を維持することだ。”
73	孤児の後見人となること	“この私、そして孤児の後見人は、楽園におけるこれらふたつのようである。”そう言って彼は自分の人差し指と中指を示した。
74	未亡人や孤児たちの世話に努力する者	“未亡人や孤児たちの世話をする者は、あたかもアッラーの道において戦う者のようであり、座ることなく礼拝に立ち続ける者のようであり、斎戒を解くことなく継続させる者のようである。”
75	良き振る舞い	✸”人は良き振る舞いによって、常に斎戒・礼拝をする者と同じ階級に到達する。” ✸”…そして良き振る舞いによって楽園の最上階の家を手に入れるのだ。”
76	動植物に対する慈悲・哀れみ	✸”アッラーは慈悲深いしもべたちに対してのみ慈悲を示される。この地上に生きるものたちに対して慈悲深くありなさい。そうすれば天上の御方はあなたに慈悲を示されるだろう。”
77	ムスリムに対する博愛	“自分が欲しいものを自分の兄弟のためにも欲しいと思うようにならない限り、あなたがたは信仰していないも同然なのだ。”
78	慎み深さと恥じらい	✸”慎み深さがもたらすのは、善きものだけである。” ✸”慎み深さとは信仰の一部である。” ✸”慎み深さ、香水、スィワーク、そして婚姻の四つは、預言者のスンナである。”

79	先に挨拶をすること	ある男が預言者ﷺのもとを訪れ“アッサラーム　アライクム”（あなたに平安がありますように）と言いました。預言者は“10だ。”と言われました。別の男がやって来て“アッサラーム　アライクム　ワ　ラフマトゥッラー”（あなたに平安とアッラーの慈悲がありますように）と言いました。そして預言者は“20だ。”と言われました。また別の男がやって来て　“アッサラーム　アライクム　ワ　ラフマトゥッラーヒ　ワ　バラカートゥフ”（あなたに平安とアッラーの慈悲と祝福がありますように）と言いました。そして預言者は“30だ。”と言われました。それらは（10倍ずつ増加する）善行の意味です。
80	出会いの握手	“ふたりのムスリムが出会い、握手で迎え合ったのならば、別れる前に彼らの罪は赦されるのだ。”
81	ムスリム兄弟の名誉を守る者たち	“自分のムスリム兄弟の名誉を守る者は、復活の日、アッラーが名誉をお守りになるだろう。”
82	誠実な者たちを愛し、共に過ごすこと	“あなたは、自分の愛する者たちと共に過ごす。”アナス・イブン・マーリクۻは教友たちに関し、彼らは何事についても喜ばなかったが、このハディースに関してそれと同じ位喜んだと述べています。
83	アッラーのためにお互いを敬愛する者たち	“荘厳なる全能者アッラーは仰せられました。‘われの荘厳さのためにお互いを敬愛する者たちには光の説教壇があり、預言者たちや殉教者たちでさえ、彼のようになれればと思うほどなのである。’”
84	ムスリム兄弟のためにドゥアーする者たち	“誰であれ、その場にいないムスリム兄弟のためにドゥアーする者は、彼を担当する天使が‘アーミン　ワ　ラカ　ビミスラフ’（この祈りに応えたまえ。そしてあなたにも同様のものがありますように）と言うであろう。”
85	ムスリム男女のための赦しを請う者	“誰であれ、ムスリム男女のための赦しを請う者は、アッラーは彼のために信仰する男女それぞれの善行を記録されるだろう。”
86	他者を善いことへと導く者	“誰であれ、他者を善いことへと導く者は、彼が導いた者と同じ報奨を受けるだろう。”
87	道に落ちている障害物を取り除くこと	“道を塞ぎ、人々を悩ませていた木を切ったため、楽園で動き回る男を私は見た。”
88	善行を継続的に行うこと	“実に、アッラーはあなたが退屈になるまでは退屈になられない。アッラーの御前で最も愛されている行為とは、それがたとえ小さく、少ないものであったとしても、継続的に行なわれるものである。”
89	口論、虚偽を避けること	“私は、たとえ自分が正しいのであっても口論をしない者のための、楽園の端にある家、そしてたとえ冗談であっても嘘をつかない者のための、楽園の中央にある家の保証人である。”

90	怒りを抑える者	“誰であれ、可能な限り自分の怒りを抑える者に対し、アッラーは復活の日、皆の前で彼を呼び出し、魅惑の目を持つ乙女たちの中から望みのままに選ぶことをお許しになるだろう。”
91	ムスリムのために災難を和らげ、物事を容易にし、保護し、助けること	“誰であれ、信仰者から世俗的な災難を取り除く者には、アッラーが彼から復活の日の大いなる災難を取り除くだろう。誰であれ、何かを必要としている者を助ける者には、アッラーが彼を現世と来世において助けるだろう。誰であれ、ムスリムを保護する者には、アッラーが彼を現世と来世において保護するだろう。アッラーは兄弟を援助するしもべを援助される…”
92	善行を意図する者と悪行を意図する者	“誰であれ善行を意図した者は、それを行なわなかったとしても、ひとつの完全な善行が記録されるだろう。誰であれそれを行なえば、10の善行、または最大で700の倍数分が記録されるだろう。誰であれ悪行を意図した者は、それを行なわなかったとすれば、ひとつの完全な善行が記録されるだろう。もしもそれを行なえば、ひとつの悪行が記録されるだろう。”
93	アッラーを信頼すること	“もしあなたが、公正な御方であるアッラーを信頼したとすれば、まるで空っぽの腹で飛んで行った鳥が満腹になった戻って来たかのように、糧を授けられるだろう。”
94	公正な為政者、誠実な若者、モスクへの愛情、アッラーのための愛など	“アッラーは7種の者に対し、かれ以外の陰が出来ない日にその陰の中にお入れになるだろう。それらは公正な為政者、アッラーへの崇拝において育てられた若者、モスクを愛して止まない男、アッラーのためにお互いを敬愛し、アッラーのためだけに会い、別れる2人、高貴な生まれの魅惑的な女性に誘惑されたにも関わらず、‘私はアッラーを畏れます’と言う男、あまりにも密かに施しをするため、その左手は右手が何を差し出しているのかを知らない者、そして独りのときにアッラーを想念し、その目から涙が溢れ出す者である。”
95	諸事における正義	“実に、公正な者たちは光の説教壇と共に、アッラーの右手に立ってかれの御前に出るであろう。そしてアッラーは両手とも右手なのである。彼らはその判断、家族、そして責任を負うものに関して公正な者たちである。”

イスラームにおける禁止事項

	禁止事項	預言者ﷺのハディースによる根拠
1	傲慢、自惚れ	“ほんの僅かでも傲慢さを持つ者は、楽園に入れないだろう。”傲慢さは真実を拒絶し、人々を見下すことです。
2	ひけらかしの偽信と高い地位を望むこと	✸”誰であれ、地位を獲得するために自分を演じる者は、アッラーが彼を晒け出すであろう。” ”誰であれ、ひけらかすために自分を演じる者は、アッラーが彼の偽信を世に知らしめるだろう。”
3	恥知らずで残虐な性格	“復活の日において、アッラーの御前で最悪の人物とは、その恥知らずな性格と残虐性を恐れ、人々が避ける人物である。”
4	嘘	“人々を笑わせるために嘘の作り話をする者に災いあれ！彼に災いあれ！彼に災いあれ！”
5	罪と誘惑	“誘惑とは人の心にとって、藁絨毯の藁縄のようである。ひとつひとつの誘惑に堕ちていく度、心は黒い斑点に蝕まれていくのだ…。”
6	スパイや盗み聞き	“誰であれ人々の話しを盗み聞きし、彼らがそれを嫌悪した場合、または彼から逃げた場合、復活の日には彼の耳に溶けた鉛が注がれるだろう。”
7	肖像	✸”絵書きたちは復活の日、最も酷い懲罰を受けるだろう。”✸”天使たちは、犬がいる家、もしくは肖像がある家には入らないのだ。”
8	中傷する者	✸”中傷する者は楽園に入ることはない。” ”ナミーマ” とは、争いを巻き起こすために他人の言葉を言い回すことです。
9	陰口	“陰口とは何か知っているか？” 彼らは言いました。 “アッラーとその使徒が最も良くご存知です。” 彼は言いました。 “あなたの兄弟が嫌がるであろうことを述べることだ。” 誰かが言いました。 “アッラーの使徒よ、もしも私の言うことが彼に当てはまるのであれば？” 彼は言いました。 “あなたの述べることが彼に当てはまるのであれば、それは陰口であり、当てはまらないのであれば、それは虚偽の告発である。”
10	呪い（罵り）	✸ “信仰する者を呪うことは、彼を殺すようなものである。” ✸ “人々を呪う者たちには、復活の日、執り成しも証人もないであろう。”
11	秘密の暴露	“復活の日において、アッラーの御前で最悪の人物とは、自分の妻と個人的関係を築いておきながら、彼女の秘密を暴露する者である。”

12	ムスリムに対する不信仰の告発	“自らの(ムスリム)兄弟に対して‘不信仰者よ’と言うときは、どちらか一方が不信仰者なのである。もしもその主張が正しければ、その事実は確定され、そうでなければ彼自身がそうなるのである。”
13	実の父親以外を血縁であると主張すること	✱”意図的に自分の父親でない誰かを自分の血縁であるとする者は、楽園に入ることが禁じられるのだ。” ✱”…そして誰であれ、自分の父親(の親権)を否定する者は、不信仰を犯したのである。”
14	ムスリムを恐怖させること	✱”ムスリムを恐怖させることは認可されない。” ✱”誰であれ、鉄の塊(武器)を自分の兄弟に向ける者は、彼がそれを下げるまで天使たちに呪われるであろう。”
15	偽信者や悪人に対して名誉ある者、または指導者のような待遇をすること	“偽信者に対して ‘サイイド’ (名誉ある者、指導者) と言ってはならない。彼があなたがたの中の名誉ある者、または指導者であれば、それはアッラーのお怒りを買うであろう。”
16	女性が墓地を訪れること	✱”アッラーは頻繁に墓地を訪れる女性を呪われる。” ✱ウンム・アティーヤは言いました。 ”私たちは葬列の参加を禁じられていましたが、強要はされていませんでした。”
17	責任を負う人々を欺くこと	“アッラーが一定の集団に責任を負わせたしもべが死の際に彼らに対して不誠実だったまま死んだ場合、彼はアッラーによって楽園に入ることが禁じられるであろう。”
18	知識なく宗教的裁定を宣言する者	“誰であれ、宗教的裁定を知識なく宣言する者には罪があるのだ。”
19	(正当な理由なく)離婚を求める女性	“何の害も受けていないにも関わらず離婚を求める女性は、アッラーによって楽園の芳香が禁じられるであろう。”
20	動物にベルを付けること	✱”天使たちは、犬もしくはそれらにベルを付ける旅団には同行しないであろう。”✱”ベルは悪魔が使う風の楽器である。”
21	金曜合同礼拝に行かない者	“誰であれ、怠慢によって金曜日合同礼拝を(連続的に)3回休んだ者は、アッラーによって偽信者の判を押されるであろう。(つまり、正当な理由なく休んだ場合。)
22	土地を奪うこと	“誰であれ、たとえ手のひら程の大きさであっても所有されている土地を不当に奪う者は、アッラーによって復活の日に7つの地球分の土地の中で囲まれるであろう。”

23	アッラーの怒りを買うような会話	“実に、人は注意もせずにアッラーのお怒りを買うような言葉を発するが、そのような者は火獄の中に70年分の深さまで投げ込まれるであろう。”
24	アッラーを思い起こさず話し続けること	“アッラーを思い起こさずに話し続けないことだ。実に、アッラーが思い起こされない長い会話は心を頑なにするのだ。”
25	カツラを着用すること、他人に付けること	“アッラーはカツラを着用する者と、それを他人に付ける者、また自らに刺青を施す者、それを他者に施す者を呪われている。”
26	ムスリム同士の関係を断絶すること	✸″ムスリムが別のムスリムと3日間以上に渡って関係を断つことは許されない。″✸ ″誰であれ、自分の兄弟を1年以上避ける者とは、あたかも彼の血をこぼしているようなものである。″
27	異性を模倣する男女	“アッラーの使徒ﷺは男性を模倣する女性と女性を模倣する男性を呪われた。”
28	一度差し出した贈り物を取り戻す者	✸″誰であれ、贈り物を取り返す者は、嘔吐物を食べる犬と同じである。″ ✸″一度贈り物をした後にそれを取り戻すことは認められない。″
29	世俗的知識を追求する者	“誰であれ、アッラーのご満悦を得るためでなく、現世的利益のための知識を追求する者は、復活の日に楽園の芳香を嗅ぐことが出来ないであろう。”
30	合法でないものを見ること	“アッラーは人々が行なうであろう姦通を定められた。それから逃れる術はない。目の姦通とは視覚であり、耳の姦通とは聴覚であり、舌の姦通とは会話であり、手の姦通とは掴みであり、足の姦通とは歩行である。心はそれに憧れ欲求し、陰部はそれを承認、または否定するであろう。”
31	独身女性とふたりきりになること	“男性と女性がふたりきりになった場合、そこには2人以外に３人目として悪魔がいるのだ。”
32	女性の保護者の承諾なしに結婚すること	“保護者の許可なく結婚する女性の結婚は無効である。彼女の結婚は無効である。彼女の結婚は無効である！”
33	結納金なしでお互いの娘を結婚すること	“預言者ﷺはスィガールを禁じられた。” スィガールとは、男性が自分の娘を結婚させることを条件に、その人物の娘と結婚する契約のことであり、結納金が発生しないものです。

34	自分の行為によって(アッラーではなく)人々を満悦させようと望むこと	“アッラーは仰せられた。‘われは自存し、援助する者である。誰であれわれに何者かを配する者は、われは彼との援助関係を去るであろう。’”
35	むせび泣くこと	✸”誰かによりむせび泣かれた者は、それにより復活の日に懲罰を受けるであろう。” ✸アッラーの使徒ﷺは、むせび泣く者と、それを聞く者を呪われています。
36	礼拝で人々を害すること	“誰であれ、タマネギ、ニンニク、ニラを食べた者は私たちのモスクから遠ざかるのだ。実にアダムの息子たちを苛ますものは天使たちを苛ますのである。”
37	アッラー以外の名において誓いを立てること	✸”誰であれ、アッラーの御名以外において誓いを立てる者は、不信仰もしくは偶像崇拝を犯したのだ。” ✸”誰であれ誓いを立てる者は、アッラーの御名においてでなければ沈黙すべきである。”
38	虚偽の証言	“誰であれ、虚偽の証言において誓いを立て、ムスリムの所有を奪う邪悪な者は、アッラーのお怒りの中にかれと出会うだろう。”
39	販売における宣誓	✸”販売において頻繁に誓いを立てることに警戒しなさい。実に、それによる浪費は(祝福の)破壊をもたらすのです。” ✸”宣誓による販売は、商品を売るが祝福を破壊するのだ。”
40	不信仰者の模倣	✸”不信仰者を模倣する者は、彼らの仲間になるのだ。” ✸”誰であれ、私たち以外の模倣をする者は、私たちの仲間ではない。”
41	羨望、嫉妬	“羨望しないよう、用心しなさい。羨望は炎が薪を燃やすように善行を燃やすのだ。”-もしくは“乾燥した草”
42	墓地上の建築	アッラーの使徒ﷺは墓にしっくいを塗ること、墓に座ること、墓の上に何かを築くことを禁じられました。
43	裏切り、策略	“復活の日、アッラーが最初から最後までの全人類を呼び集めるとき、かれはすべての不忠者に旗を立て、こう言われるだろう。‘これは誰々の虚偽である、誰々の息子である。’”
44	墓の上に座ること	“あなたがたのひとりが墓の上に座るよりは、燃える石炭の上に座って衣服を燃やした方がましである。”
45	自ら乞食になること	“私は誓って言うが、これからあなたがたに告げる三つのことに関し、良く覚えておきなさい。アッラーが貧困の扉を開かれない限り、人は自ら乞食の扉を開くことはないのだ。”

46	買う意図が無いにも関わらず、策として高い値段を示すこと	アッラーの使徒ﷺは居住地の人々に対し、ベドウィンに対する販売において(オークションでの値切りとして)、買う意図もなく高い値段を示すことを禁じられました。また、既に取引を終えた兄弟に対して値切ることを禁じられています。
47	モスク内で忘れ物を公表すること	"誰であれ、モスク内で忘れ物が公表されるのを耳にした者は、'アッラーがそれをあなたに戻されませんように。' と言うべきである。モスクはそのような意図で立てられたのではない。"
48	礼拝中の者の前を通ること	"もしも礼拝中の者の前を通る者がその罪を知るのなら、そこで40年間立ち尽くして待った方が良いと思うだろう。"
49	アスルの礼拝の破棄	"誰であれ、アスル (午後)の礼拝を破棄する者は、全ての善行が無効となるのだ。"
50	礼拝の破棄	✸"私たちと彼ら(不信仰者)を区別させる契約とは礼拝であり、誰であれそれを破棄する者は不信仰を犯すのである。" ✸ "人と偶像崇拝の間には礼拝の破棄がある。"
51	デマの宣伝	"誰であれ事実に反することを宣伝する者は、それ自体の罪、そしてそれに従う者たちの罪が全く軽減されることなく課せられるのである。"
52	飲むことにおける禁止事項	✸アッラーの使徒ﷺは、共有の容器から直接何かを飲むことを禁じられました。 ✸アッラーの預言者ﷺは、立った状態で何かを飲む者を叱られました。
53	金や銀の器から飲むこと	"金や銀の容器から飲んではならない。そして絹や刺繍された錦を身に纏ってもならない。これらは彼らにとっては現世のものだが、あなたがたにとっては来世のものなのだ。"
54	左手での飲食	"あなたがたは左手で飲み食いしてはならない。なぜなら悪魔は左手で飲み食いするのだ。"
55	親族との関係断絶	"自分の親族との関係を断絶する者は、楽園に入ることはない。"
56	アッラーの預言者ﷺに挨拶を送らないこと	✸"私の名前を耳にしながら私に挨拶の祈りを送らない者の鼻が挫かれますように。"✸"吝嗇な者とは、私の名前を耳にしながら私に挨拶の祈りを送らない者だ。"
57	自慢する者	"私から最も嫌われ、審判に日においても私から最も遠い者とは口喧しく、自慢屋で、傲慢な者…"

58	犬の所有	“誰であれ、狩猟犬もしくは牧羊犬以外の犬を所有する者は、毎日彼の報奨から2キラートが減らされるのだ。” （1キラートは山の大きさに相当します。）
59	動物虐待	✸”ある女性は、猫を死ぬまで閉じ込めていたために懲罰を受け、火獄に入れられたのである。” ✸”それが何であれ、魂の宿っているものを標的の練習にしてはならない。”
60	利息、高利貸し	✸アッラーの使徒ﷺは利息を取る者、そしてそれを支払った者を呪われました。 ✸”もしも誰かが、1ディルハムであれ、それが利息からのものであると知りつつ使用すれば、彼の罪は36回の姦通よりも重いのである。”
61	酩酊するものへの中毒	“次の5人は楽園に入ることはない。酩酊するもの(酒・麻薬など)の中毒者；魔術を信じる者；親族との関係を断絶する者；占い師；自分自身の善行に頻繁に言及する者.”
62	アッラーの友に対する敵意	“実に、アッラーは仰せられている。‘誰であれ、われの友に敵対する者には、われは戦いを宣言する…’ ”
63	イスラームの地において保護が保障されている人物の殺害	“誰であれ、正当な理由をなしに保護されている者を殺す者は、楽園の芳香が与えらないであろう。実に、その芳香とは100年離れた距離からも確認できるのだ。”
64	他人の相続の略奪	“誰であれ相続を不当に取る者は、アッラーが復活の日に、彼の相続である楽園をお取り上げになるだろう。”
65	現世的諸事を第一に優先する者	“…そして誰であれ、現世的な諸事を第一に優先する者は、アッラーが彼の目前に困窮をもたらし、彼の集中力を散漫させ、彼に定められていること以外には、何も彼にもたらされないであろう。”

永遠への旅

楽園、または火獄への道

墓地:ここは来世への第一の段階です。そこは偽信者にとっては火の穴、そして信仰者にとっては庭園なのです。私たちは複数の伝承により、そこでの懲罰は、以下のような服従行為の数々によるものであると知ります。それらは、尿から適切に清めないこと、人々の間に闘争を広めるために作り話、意図的に義務の礼拝時間を寝過ごすこと、クルアーンの破棄、姦通、同性愛、利息・高利貸し、債務の不履行などです。これらに対する懲罰からの救済とは、アル=ムルク章［67］の朗誦による、アッラーに懲罰からのご加護を求めることによる、アッラーのためのみに真摯に行なわれる善行や、その他の行為が含まれます。これらの懲罰から保護され、直面せずに済む者たちは殉教者、見張り番において死んだ者、金曜日(アル=ジュムア)に死んだ者、そして出産の産に死んだ者などが含まれます。

ラッパの吹かれる日:この巨大なラッパは、復活の日までその指令を待ち続ける大天使、イスラーフィールによって鳴らされます。最初のひと吹きは激震の吹奏と呼ばれています。アッラーは仰せられました。“ラッパの吹かれる日(をかれらに警告しなさい)。アッラーが御好みの者の外は、天にあり地にある凡てのものは恐れ戦き、皆身を低くしてかれ(の御前)に罷り出よう。”(27:87)そしてあらゆるものは破壊されます。40日後になると、ラッパはもう一度吹かれます(復活の吹奏)。アッラーは仰せられています。“ラッパが吹かれると、天にあるものまた地にあるものも、アッラーが御望みになられる者の外は気絶しよう。次にラッパが吹かれると、見よ、かれらは起き上って見まわす。”(39:68)

復活:アッラーは大雨を降らせ、肉体は(尾骨から)芽生え出し、新しい創造として不死の肉体を持つ復活を果たします。それらは割礼のない、裸の状態で復活させられます。彼らは天使やジンを見ることができ、彼らの所業に基づいた状態で復活させられるのです。

大いなる集合:アッラーはすべての生物を、それらの所業の清算のためにお集めになります。それらはまるで麻痺したかのようなショック状態にあり、(地上における)5万年という途方もない長さの1日を過ごします。彼らは地上で過ごした(人生の)期間が、たったの1時間であったかのように感じるのです。太陽は僅か数キロ先まで近づき、人々はそれぞれの所業に基づいて発汗するでしょう。圧制者やそれらに従った弱者は論争し始めます。不信仰者たちはそれぞれ、彼らの後援者である悪魔と言い争い、それに四肢でさえ加わってお互いに罵り合うのです。不正な犯罪者は、後悔の余り両手を噛みちぎります。彼らの目前には天使たちによって7千もの掛け金で業火が引きずられ来られ、それぞれの掛け金を7千の天使たちが支えます。不信仰者たちが業火を目にすると、彼らは懲罰からの自身の身代金の支払いを望むか、(拷問から逃れることが出来れば)塵にでもなれればと思うのです。(信仰者の)不従順な者たちも、ここで懲罰を受けます。例えば義務の喜捨(ザカー)の支払いを拒んだ者は、その支払いを拒んだ金銭によって焼き印を押されます。傲慢な者たちは、蟻のような姿で復活させられて踏みつぶされます。不忠な裏切り者、横領者、強盗はあらわにされます。盗人は、その盗んだものと共に(人々の前に)晒されるのです。すなわち、隠蔽されていたものすべては、大衆の面前で明白にされるのです。誠実な者たちに関しては、この日恐れることがなく、まるでズフルの礼拝のような時間が過ぎるのです。

執り成し(シャファーア):その日は預言者ムハンマドﷺによって、すべての生物に対する特別な執り成しが求められ、そこでの大きな試練が取り除かれるよう、執り成された後、清算の開始が始められます。また、諸預言者によって求められる執り成しも存在し、それによって不信仰者を火獄から取り出し、楽園の住人の段階が上げられます。

清算(ヒサーブ):人々は集団で、主の御前に呼び出され、所業がすべて明らかにされ、質問を受けます。人々はそれぞれの人生、子供、富、知識と責任、授かった祝福、視覚、聴覚、知能(いかにそれぞれが役立たされ、使用されたか)を質問されます。不信仰者と偽信者は同様に、譴責のためにすべての人々の目前に呼ばれて清算され、彼らの罪を証明され、人々、地球、日夜、富、諸天使、そして彼ら自身の四肢はすべて彼らに対して証言するのです。彼らは自分たちの罪を認めます。信仰者たちに関しては、個別の清算が行なわれ、彼らはアッラーに対して自分たちの罪を認め、自分たちが破滅するのではないかという程までそれが続くと、'われはそれらを世界から覆い隠し、今日、あなたを赦そう。'と仰せられるのです。一番先に清算が行なわれる人々とは、ムハンマドﷺの追従者です。そして最初に清算される崇拝行為とは、義務の礼拝です。また最初に清算済みとなる論争は、血液の流出に関するものと言われています。

所業の開示:次に、人々の所業が記された巻物が開示されます。これらの記録は"細大漏らされることなく、数えられる"のです。信仰者は自身の記録を右手に渡され、不信仰者や偽信者は背後から左手に渡されます。

天秤(ミーザーン):各々の所業は天秤によって量られ、それに基づいた報奨を受けます。この天秤は、2つの皿を持った実際の計測器具であり、アッラーのためのみに真摯に行なわれた行為、そしてイスラーム法に則った行為が重きをなします。そしてそれらよりもさらに重きをなす行為の一部として、'ラー・イラーハ・イッラッラー'(アッラー以外に崇拝に値する神はなし)と言うこと、'アルハムドゥリッラー'(アッラーこそに称えあれ)、'スブハーナッラー・ワ・ビハムディヒ'(アッラーに讃美と称賛あれ)、そして'スブハーナッラーヒル=アズィーム'(偉大なるアッラーに称えあれ)という言葉に代表されるアッラーの想念が含まれています。アッラーは人生において悪行を働いた一部の人々の善行・悪行を取り、他者に与えることもされるのです。

貯水地(ハウド):そして信仰者たちは貯水地に辿り着きます。誰であれ、ここの水を飲む者は、それ以降二度と渇きを経験することがないとされます。それぞれの預言者には別々の貯水地があり、最も大きなものは預言者ムハンマドﷺのものです。そこの水は乳よりも白く、蜜よりも甘く、麝香よりも芳しいとされます。そこの容器は金と銀で作られており、星の数ほど多いとされ、長さはパレスチナのエルサレムから、イエメンのアデンまでとされます。ここの水は、"アル=カウサル"と呼ばれる楽園の泉から湧き出しているとされています。

信仰者への試練:集合の日の終わりに、不信仰者たちは彼らが崇めていた神々や偶像の後をついて行きます。彼らはまるで羊の群のように歩きながら、または足を引かれて地面に顔を引きずられながら、それらの神々や偶像によって集団で火獄に連れて行かれます。そして信仰者と(彼らの仲間を装う)偽信者のみがその場に残されますが、アッラーは彼らの前に現れてこう仰せられます。"あなたがたは何を待つのか?"彼らはこう答えます。"私たちは、私たちの主を待っています。"かれはご自分の脛(アッ=サーク:約束された兆候)をあらわにし、偽信者を除いて、彼らはその前に平伏すのです。アッラーは仰せられています。"脛が、現わにされる日(を思いなさい)。彼らはサジダするよう求められる。だが彼らには出来ないであろう。"そして彼らはかれについて行き、火獄の上には橋(スィラート)が架けられ、アッラーは信仰者に光を授け、偽信者には闇をもたらします。

橋(スィラート):これは信仰者が楽園へ行くために渡らなければならない、火獄の上に架けられる橋です。預言者ﷺはこの橋に関し、こう述べられています。"それは人を狼狽させ、足元をふらつかせ、躓かせる。そこには鋲と、サアダーンの木のような留め金が付いている…橋は毛髪よりも細く、剣の刃よりも鋭い…"(ムスリム)信仰者は、その所業に基づいて光を授けられます。最も大きなものは山ほどあり、最も小さなものは指先ほどしかありません。これらにより、彼らの道は照らされ、彼らは各々の所業に基づいてそこを渡ります。信仰者はまばたきする間もなく、または一瞬にし

て、または風や鳥、競走馬、乗り物(もしくは徒歩か這いつくばって)に乗ったかのように渡ります。“一部の者は無事に渡り切るが、一部は留め金に引っ掻かれ、一部は火獄のなかに落ちてしまうのだ。”(アル＝ブハーリーとムスリム)偽信者には全く光りが授けられずに黒くなり、彼らと信仰者の間には壁が建てられます。彼らはたとえ橋を渡ろうとしても、火獄のなかに落ちてしまうのです。

火獄:不信仰者、偽信者、そして不従順な信仰者たちは火獄へと入ります。1000人の内、999人は火獄に入るのです。火獄の灼熱は、この世の最も熱いものよりも70倍の熱を持ちます。不信仰者の体は、そこでの拷問がより辛くなるよう、大きくさせられます。彼の肩幅は、まるで３日間の旅路ほども長くなり、彼の臼歯はウフド山ほどの規模になります。彼の皮膚は厚くなり、灼熱の懲罰の苦しみが増すよう、完全に焼かれた後に再び新しいものに入れ替えられます。彼らが飲むのは胃を焼く程の沸騰した水であり、食べるのは過度に苦いザックーム、そして傷から出る流れもの、また火獄の居住者たちの膿です。彼らの内、最も懲罰の軽い者でさえ、燃え盛る石炭が両足の裏に付けられ、それにより脳が沸騰します。火獄の中では鎖や鍵が施された上に皮膚が燃え、溶け、破れます。最も低い火獄の底に辿り着くには７０年間の落下が必要とされます。火獄の燃料は不信仰者と(偶像の)石であり、そこでは毒の風が吹き、日陰でさえも凄まじい熱を帯び、炎の衣服をまとうのです。それらはすべてを焼き尽くし、後には何も残りません。それは皮膚から骨、そして心の奥底にまで達しながら、不気味な唸りと呻き声を上げるのです。

境界:預言者ﷺは言われました。“信仰者はいずれ火獄から取り出され、楽園と火獄の境界(カンタラ)に辿り着く。ここで彼らはお互いに、現世で犯してきた不正と犯罪の償いをする。そして彼らが精錬され、清められると楽園に入ることが認められる。このムハンマドの魂がその御手の中にある者にかけて、あなたがたの内の誰かは、楽園での住処がこの現世での住処よりも良いことを知るだろう。”(アル＝ブハーリー)

楽園(ジャンナ):楽園は信仰者が最終的に辿り着く住処です。そこの煉瓦は金や銀で出来ており、漆喰は麝香から出来ています。そこの小石は真珠であり、砂埃はサフランによるものです。そこには８つの門がありそれぞれの幅は３日間の旅路の長さであるにも関わらず、そこに入る者たちは殺到します。楽園には100の階層があり、それぞれの階層の間はまるで天と地のような差があります。最高層は‘フィルダウス’であり、そこから楽園の川は流れ出て来ます。楽園の屋根は、その恩恵において最も慈悲深いアッラーの玉座です。楽園の川は蜜、乳、果実酒で出来ており、水路なく流れ出て、信仰者たちは望みのままにその流れを操ることが出来ます。楽園の果実は永久であり、近くから容易にもぎ取ることが出来ます。また、そこには真珠による彫刻のテントがあり、その幅は100キロにも及び、信仰者にはそれぞれの隅に配偶者が居ます。男性は成人していますが、若々しく、髭がありません。彼らの若さは決して衰えず、衣服は決してすり切れません。彼らには排尿、排便の必要がなく、全く不純物が排出されません。彼らの櫛は金で出来ており、汗も麝香のようです。楽園の女性は、配偶者と同じ年頃の美しい処女です。楽園に最も早く入る者はムハンマドﷺであり、彼の後に諸預言者が続きます。楽園の居住者の内、最も低い階層の者たちでさえ、彼らの望むものが10倍になって与えられます。彼らの召使いたちは、秘蔵の真珠のような永遠の子供たちです。実に、楽園における至福のなかでも最も素晴しいものとは、私たちの主アッラーﷻと、かれの彼らに対する満悦を目にすること、そして楽園における永久の住処なのです。

清め（ウドゥー）の作法

礼拝（サラー）は事前に清め（ウドゥー）が行なわれていない限り、有効ではありません。ウドゥーでは元来の清浄な状態である水、すなわち海水、井戸水、湧き水、または川の水などが使用されなければなりません。
注意：少量の水は、不浄（ナジャス）な物質が混入することによって不浄であると見なされます。およそ210リットル以上の大量の水は、不浄とされる物質が混入したとしても、その味、色、または匂いが変わらない限り、不浄とは見なされません。

そして鼻の中へ1度水を吸い込んで吹き出す、鼻腔の洗浄（イスティンシャーク）も義務行為です。それが3回行われればなお良いとされます。
注意：ただ単に水を鼻腔に吸い込むことでは事足りません。水は手によってではなく、吹き出すことにより排出されなければなりません。

次に、口の中を1回すすぎます。3回すすぐのであれば、より良いとされます。
注意：口をすすぐということは、ただ単に水を口の中に含むことではありません。水は実際に口の中で渦を巻いてすすがれなければなりません。このとき、スィワーク（歯磨き用の特別な小枝）の使用が奨励されます。

そして鼻の中へ1度水を吸い込んで吹き出す、鼻腔の洗浄（イスティンシャーク）も義務行為です。それが3回行われればなお良いとされます。
注意：ただ単に水を鼻腔に吸い込むことでは事足りません。水は手によってではなく、吹き出すことにより排出されなければなりません。

そして顔を1回、または3回洗浄します。ここで言う顔の範囲とは左右の耳から耳、そして髪の毛の生え際から顎下までのことです。
注意：髭の濃い人の場合、髭の中に指を通して洗うことは義務です。しかし髭が薄い人の場合、それは推奨される行為です。

次に、両手・両腕を、指先から肘まで1回、または3回洗浄します。
注意：右腕を左腕よりも先に洗うことが好まれます。

次に、両耳を含む頭部全体を拭います。両耳の内側は人差し指、外側は親指で1度に拭います。これらは全て、1回だけ行なわれます。
注意：1．頭部を拭う義務範囲として、前髪の生え際から（髪の生え際が終る）うなじまでが含まれます。2．髪の毛が長い場合、髪の毛全体を拭う必要はありません。3．髪の毛が無い場合は頭皮を拭います。4．耳の後ろの髪の毛が生えていない部分も拭われなければなりません。

そして両足をくるぶしの上まで1回、もしくは3回洗います。

注意：1）ウドゥーで洗浄されなければならない部位は4箇所です。a)うがいとインスティンシャークを伴う顔全体； b)両手・両腕； c)頭部と両耳の拭浄； d)両足と両くるぶし。
これらは順番通りに行なわれなければならず、そうでなければウドゥーは有効となりません。
2）身体の各部位は間を置かずに連続的に洗浄されなければなりません。もしも途中である部位の洗浄を遅延し、それ以前の部位が乾いてしまったりしたら、ウドゥーは失効となります。
3）ウドゥーの後は、“アシュハドゥアッラーイラーハイッラッラーフワハダフラーシャリーカラフ、ワアシュハドゥアンナムハンマダンアブドゥフワラスールフ”（唯一で並ぶ者無き御方、アッラー以外に真に崇拝すべきものは無いことを私は証言します。私はムハンマドがアッラーのしもべであり使徒であることを証言します）と言うことが好まれます。

礼拝(サラー)の作法

直立した状態で“アッラーフ　アクバル”（アッラーは偉大なり）と唱えることにより、礼拝が開始されます。イマーム（集団礼拝の先導者）が最初に（そして全てのタクビールで）“アッラーフ　アクバル”と、彼の後ろに並ぶ追従者に聞こえるように声を上げて（追従者は小声で）言います。最初のタクビールでは、両手の指同士を閉じた状態で、肩の位置にまで上げます。追従者は、イマームが言い終えた後に“アッラーフアクバル”と唱えます。

注意：礼拝における必須構成要素であるタクビールル＝イフラームを口に出して唱えること、そして礼拝において唱えるのが義務とされる言葉（その他全てのタクビールなど）を最低限でも礼拝者自身に聞こえるように言うことは義務です。

そして右手で左手首、または左腕を掴み、サジダ（伏礼）で額をつける箇所に視線を固定します。そして真性のハディースで伝えられているドゥアー（祈願の言葉）のいずれかを唱えます。例えば“スブハーナカッラーフンマ　ワ　ビハムディク、ワ　タバーラクアスムク、ワタアーラー　ジャッドゥク、ワ　ラー　イラーハ　ガイルク”（アッラーよ、あなたに賞賛と讃美あれ。あなたの御名は祝福に溢れ、あなたのご偉力は至高です。あなたの他に真に崇拝すべきものはありません）などというものです。次に“アウーズ　ビッラーヒ　ミナッ＝シャイターニッ＝ラジーム”（私はアッラーに呪われし悪魔［シャイターン］からのご加護を求めます）と言い、それから“ビスミッラーヒッ＝ラフマーニッ＝ラヒーム”（慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において）と言います。これらは全て小声で呟かれるべきです。

次にクルアーンのアル＝ファーティハ章を朗誦します。イマームの後ろで礼拝する人々が、声を出す礼拝（マグリブ、イシャー、ファジュル）の際にアル＝ファーティハの朗誦をすることは義務ではありませんが、イマームがアル＝ファーティハを朗誦し終えた後の沈黙の間（もしそれがある場合）、そして声を出さない礼拝（ズフルとアスル）の際、声に出さずに朗誦することは推奨されています。次に、クルアーンの中の望む箇所から朗誦します。イマームはファジュル、マグリブとイシャーの礼拝の最初の2ラクアでは声を出して朗誦します。それ以外の礼拝では声を出さずに静かにクルアーンを読まなければなりません。

注意：クルアーンを朗誦する時は、クルアーンで章が配置されている順序に沿って朗誦するのであればより良く、啓示された順に朗誦することは嫌悪されます。また、章内の節々を異なる順番に朗誦することは禁じられています。

そして“アッラーフ　アクバル”と言い、ルクーウの姿勢に移ります。両手は両膝頭にしっかり乗せ、指の間隔を開け、頭を腰の高さ（それより低くても高くてもいけません）まで下げ、背筋が真っ直ぐ伸びるようにします。そして、“スブハーナ　ラッビヤル＝アズィーム”（“偉大なる私の主に称えあれ”）と3回唱えます。もしも礼拝に遅れて参加した場合、ルクーウに間に合えば、その前の直立姿勢は行なったことと見なされ、礼拝の終了後にそのラクアをやり直す必要はありません。

注意：全てのタクビールとタスミーア（“サミアッラーフ　リマン　ハミダ”［アッラーは、かれを賛美する者の声をお聞きになられる］という言葉）は、実際にその動作を行なっている（動いている）最中に述べるのであり、その前後のいずれでもありません。尚、それらを意図的に遅延させるのであれば、礼拝は無効となります。

そして頭を上げ、“サミアッラーフ　リマン　ハミダ”（“アッラーは、かれを賛美する者の声をお聞きになられる”）と言い、両手を上げて起立の姿勢に戻った後、“ラッバナー　ワ　ラカル＝ハムド”（“私たちの主よ、あなたにこそ賞賛あれ”）と唱え（これを“タハミード”と言います）、それから次の言葉を加えます。“ハムダン　カスィーラン　タイイバン　ムバーラカン　フィーヒ。ミルアッ＝サマーワーティ　ワ　ミルアル＝アルディワ　ミルア　マー　シイタ　ミン　シャイイン　バアドゥ”（“この上なく沢山の、素晴らしい、祝福に溢れた賞賛あれ。あなたへの讃美は天地にあるもの、そしてあなたの望むその他全ての物を満たします”）

注意：“ラッバナー　ワ　ラカル＝ハムド”と述べるのはルクーウから起き上がる動作の最中ではなく、直立姿勢に入ってからです。

そして“アッラーフ　アクバル”と言いながらサジダの姿勢に移ります。サジダの際には頭部の額と鼻、両手のひら、両膝頭、両足の指がキブラの方向を向きつつ地面に着き、腹部と両膝、そして両膝と両ふくらはぎとはお互いに離れているべきです。そしてサジダ中に“スブハーナ　ラッビヤル＝アアラー”（“崇高なる私の主に称えあれ”）と3回唱えます。

注意：サジダでは体の7箇所が着地していなければなりません：つまり両足、両膝頭、両手、そして額と鼻を含む顔面部です。意図的にこれらの部分を地面に着けない場合、正当な理由がある場合を除いて、礼拝は無効となります。

それから頭を上げ、アッラーフ　アクバルと言い、座ります。2つのサジダの間の正しい座り方には2種類あります：1）左脚の上に座りつつ、右足のかかとを立たせて上を向かせ、足の指をキブラに向かせる。2）両足のかかとを立たせ、足の指をキブラに向かせつつ両かかとの上に座る。

そして、“ラッビグフィルリー、ワルハムニー、ワ　ジュブルニー、ワルファアニー、ワ　ルズクニー、ワンスルニー、ワハディニー、ワ　アフアンニー”（“主よ、私を赦し、私にお慈悲をかけ、私を正し、私の位階を上げ、私に恩恵を与え、私を助け、私を導き、私を守って下さい”）と言います。

そして前回と同じようにサジダをし、頭を上げて“アッラーフ　アクバル”と言いながら立ち上がり、最初と同じように2度目のルクーウをします。

注意：アル＝ファーティハの朗誦は直立姿勢でのみ行なわれるため、完全に直立する前に朗誦を始めた場合、朗誦をやり直さない限りは礼拝が無効となります。

2ラクアを終えれば、ふたつのサジダ間のように座り、最初のタシャッフドを行ないます。右腕を右膝の上、左腕を左膝の上に置き、右手で拳を握りつつ、中指と親指で輪を作り、人差し指をキブラの方向に指して、次のように言います。“アッ＝タヒッヤートゥ　リッラーヒ　ワッ＝サラワートゥ　ワッ＝タイイバートゥ、アッ＝サラーム　アライカ　アイユハン＝ナビーユ　ワ　ラフマトゥッラーヒ　ワ　バラカートゥフ、ワッ＝サラーム　アライナー　ワ　アラー　イバーディッラーヒッ＝サーリヒーン。

アシュハドゥ　アッラーイラーハ　イッラッラーフ　ワ　アシュハドゥ　アンナ　ムハンマダン　アブドゥフ　ワ　ラスールフ”

（“全ての讃美と祈りとよき言葉はアッラーに（捧げられます）。預言者よ、あなたの上に平安とアッラーのご慈悲と祝福がありますように。私たちに、そしてアッラーの敬虔なしもべたちに平安あれ。私はアッラー以外に真に崇拝すべきものは無いことを証言します。私はムハンマドがアッラーのしもべであり使徒であることを証言します”）

それから、（マグリブ、イシャー、ズフル、アスルのいずれかの場合）第3、第4ラクアのために立ち上がり、アッラーフ・アクバルと言って両手を上げます。礼拝の残りは、声を出さずにアル＝ファーティハを朗誦すること以外は同じです。

もしも礼拝が3ラクアか4ラクアであれば、最後のタシャッフドとしてタワッルクの姿勢で座ります。タワッルクには次の3つの正しい座り方があります（表参照）：1）膝を曲げた状態で座り、左足を右脛の下から突き出し、右足のかかとを立たせます。2）膝を曲げた状態で座り、左足と右足を左側に寝かせて座ります。3）膝を曲げた状態で座り、左足を右ふくらはぎの上に乗せてふくらはぎと太ももの間にはさみ、右足のかかとを立たせます。

そして最初のタシャッフド（アッ＝タヒーヤートゥリッラーヒ…）を唱え、“アッラーフンマ　サッリ　アラー　ムハンマディン　ワ　アラー　アーリ　ムハンマディン、　カマー　サッライタ　アラー　イブラーヒーマ　ワ　アラー　アーリ　イブラーヒーマ、インナカ　ハミードゥン　マジードゥ。アッラーフンマ　バーリク　アラー　ムハンマディン　ワ　アラー　アーリ　ディン　カマー　バーラクタ　アラー　イブラーヒーマ　ワ　アラー　アーリ　イブラーヒーマ、インナカ　ハミードゥン　マジードゥ”

（“アッラーよ、あなたがイブラーヒームと彼の一族に栄光をお与えになったように、ムハンマドとムハンマドの一族にも栄光をお与え下さい。あなたこそ全ての讃美と栄光の主です。そしてあなたがイブラーヒームと彼の一族を祝福されたように、ムハンマドとムハンマドの一族を祝福して下さい。あなたこそ全ての讃美と栄光の主です”）

と述べます。それから次のような、真性の伝承によって伝えられているドゥアーを捧げることも称賛に値する行為です：“アッラーフンマ　インニー　アウーズ　ビカ　ミン　アザービ　ジャハンナム、ワ　ミン　アザービル＝カブル、ワ　ミン　フィトゥナティル＝マハヤー　ワル＝ママートゥ、ワ　ミン　フィトナタティッ＝ダッジャール”（“アッラーよ、私はあなたに地獄の懲罰、墓の懲罰、生と死の試練、偽メシアの災難からのご加護を願います”）。

それから最初に右側を向いて、“アッ＝サラーム　アライクム　ワ　ラフマトゥッラー”（あなたがたにアッラーの平安とご慈悲がありますように）と言い、次に左側にも同じことを言います。

これらを終えると礼拝の終了であり、それから真性の伝承で伝えられているドゥアーを捧げることも出来ます。

知識に伴った行動

行動を伴わない知識は、アッラー、かれの諸使徒、そして信仰者たちにより咎められる対象です。至高なるアッラーはこう仰せられました："信仰者たちよ、あなた方はなぜ自分が（やると）言ったことをやらないのか。アッラーの前で自分がやりもしないことを言うことは、アッラーがひどく厭われることである。"

また教友アブー・フライラ㊌は言いました："知識を伴わない行動とは、まるでアッラーのために財宝を費やさないようなものである。"またアル＝フダイルはこう言っています："知識を有する者は、その知識に沿った行動を起こさない限り、その知識に関して無知なままなのである。"またマーリク・ブン・ディーナールは言っています。"あなたは、文法上は全く過ちを犯さないものの、その行いは全て誤っているような者に会うだろう。"

ムスリム兄弟姉妹よ。

アッラーはあなたにこの有益な小冊子を読むことを促されています。そして今あなたに残されていることは、これらを履行することによってその実を結ばせることです。

あなたのお手元にあるこの小冊子には、アッラーの書であるクルアーンの節々とその注釈が掲載されています。それゆえ、これらの節々に関しての知識を実践することを心掛けて下さい。預言者㊎の教友たちは、"預言者㊎からクルアーン十節の朗誦を学び、それらの十節に含まれる知識と実践に関して完全に知るまでは、次の十節に関する学習を始めなかった。彼らは言った。「我々は知識と行為を学んだのだ。」"・・・と言及しています。イスラーム法は、知識の実践を推奨しているのです。教友イブン・アッバース㊌は、至高なるアッラーの御言葉。"彼らは、その正しい朗誦の仕方で朗誦した"という意味に関して、こう言いました。"彼らは、その正しい実践法を履行した"。またアル＝フダイルは言いました。"実にクルアーンが啓示されたのは、人々がそれを実践させるためであるが、人々はただその朗誦のみを行動と取り違えてしまったのだ。"

あなたのお手元にあるこの小冊子には、預言者㊎のスンナ（言行録）の一部が紹介されていますが、それらは速やかに善行へと移すべきです。このウンマ（イスラーム共同体）の善良な人々は何事を習うにしても、お互いに競って正しい実践をし、預言者㊎の命令通りに追従するよう、他者に呼びかけたものなのです。"私があなたに何かを命じた時は、可能な限りそれを行ない、そして私が何かを禁じた時にはそれを避けなさい。"（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承）至高なるアッラーは次のように仰っており、彼らはアッラーの懲罰をひどく畏れていました。"それで、かれの命令に違犯する者は試練が下り、または痛ましい懲罰が科せられるから、用心させなさい。"また、スンナを最善を尽くして履行する教友たちの熱意の例は、以下のように沢山あります。

–教友ウンム・ハビーバは、預言者㊎の言葉をこのように伝えています。"誰であれ、日夜に十二ラクアの礼拝をする者には、アッラーが楽園の中に、彼の家をお建てになるでしょう。"（ムスリムの伝承）彼女はこれに関して、こう言いました。"アッラーの使徒㊎からこのことを聞いて以来、私はその行いを継続しています。"

–また教友イブン・ウマル㊌は、預言者㊎の言葉をこのように伝えています。"遺譲する何がしかの物を有するムスリムは、それに関する遺言状をしたためることなく三夜過ごすことはない。"（ムスリムの伝承）そして彼はこの伝承に関して、こう言っています。"アッラーの使徒㊎がこのように仰るのを聞いて以来、私は遺言状なしで一晩も過ごしたことはない。"

–またイマーム・アハマドは、こう言いました。"私は自分で実践したことのない伝承以外は伝えたことがない。預言者㊎はアブー・タイイバにより、吸い玉放血を施してもらい、彼はディーナール（金貨）を支払った。それで私も吸い玉放血をする男のもとへ行った時に

は、彼にディーナールを渡したのだ。”

–またイマーム・アル＝ブハーリーは、こう言っています。“私は陰口が禁じられていることを知って以来、一度も誰かの陰口を言ったことがない。本当に、私は陰口を言うことでかれが私を罰されないまま、アッラーと面会することを望むのだ。”

–またあるハディースにはこうあります。“誰であれ、各義務の礼拝後に玉座の節（クルアーン2：255）を読む者は、その死後に彼が楽園に入るのを妨げるものは何もないだろう。”（アル＝バイハキーの伝承）またイブン・カイイムは言っています。“イブン・タイミーヤはこう言った。‘私は、忘却などによるものでない限り、一度もそれを止めたことがない。”

あなたは知識を得てそれを実践した後、アッラーがあなたに与えられ恩恵を伝道し、そしてあなた自身がその伝道の報奨から阻まれることと、他者がその善徳に授かれないことから阻止しなければなりません。預言者ﷺは言いました。“善徳へと人々を導く者は、それらを（彼から学び、）実践する者と同じような報奨を得るであろう。”また彼ﷺは言いました。“あなた方の中最善の者は、クルアーンを学び、それを教える者である。”（ムスリムの伝承）また彼ﷺはこうも言っています。“例えクルアーンの一節だけであっても、私が言ったことを伝えなさい。”（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承）またあなたが伝える善徳の量に伴い、あなたの報奨は増加し、あなたの善行は現世と来世で増大するということを、預言者ﷺは語っています。“人が死ぬ時、次の三つ以外を除き、彼の行いは彼を益しない。継続的な喜捨、他者に有益な知識、そして彼の為に祈願する敬虔な子供。”（ムスリムの伝承）

啓発

我々はアル＝ファーティハ章(クルアーンの開端章)を毎日17回以上読み、怒りを受けし者、そして正道から迷い去った者たちのようにならないよう、ご加護を求めています。しかし、それでも我々はいまだに彼らの行動を模倣することから抜け出ることが出来ないでいます。つまり我々は知識の習得を放棄し、無知に基づいて行動し、または学習してはいてもそれを行動に移さないのです。　我々は、アッラーがあなたと我々に有益な知識をお授けになるよう求めます。アッラーと彼の使徒が最も良くご存知です。アッラーによる安らぎと祝福が我々の敬愛する指導者ムハンマドと彼の家族、教友たちにありますよう。

アラビア文字の基本文字表

アラビア文字	文字名	転写	他の文字と繋がった場合の形		
			頭字	中字	尾字
٪	Alif	aaまたは Œ	—	—	ا
٠	Baa	b	بـ	ـبـ	ـب
٤	Taa	t	تـ	ـتـ	ـت
٨	Thaa	th	ثـ	ـثـ	ـث
“	Jeem	j	جـ	ـجـ	ـج
أ	haa	h	حـ	ـحـ	ـح
إ	khaa	kh	خـ	ـخـ	ـخ
بـ	daal	d	—	—	ـد
ب	dhaal	dh	—	—	ـذ
تـ	raa	r	—	—	ـر
ت	zaay	z	—	—	ـز
ث	seen	s	س	ـسـ	ـس
ج	sheen	sh	ش	ـشـ	ـش
ح	§aad	§	ص	ـصـ	ـص
خ	dhaad	dh	ض	ـضـ	ـض
لجـ	t‹aa	t<	ط	ـطـ	ـط
محـ	thaa	th	ظ	ـظـ	ـظ
نخ	Ôayn	Ô	عـ	ـعـ	ـع
بن	ghayn	gh	غ	ـغـ	ـغ
بمـ	faa	f	فـ	ـفـ	ـف
جمـ	qaaf	q	قـ	ـقـ	ـق
ممـ	kaaf	k	كـ	ـكـ	ـك
ظ	laam	l	لـ	ـلـ	ـل
ع	meem	m	مـ	ـمـ	ـم
غ	noon	n	نـ	ـنـ	ـن
ف	haa	h	هـ	ـهـ	ـه
ـف	waaw	w	—	—	ـو
ـم 母音として	waaw	´			
ق	yaa	y	يـ	ـيـ	ـي
ل 母音として	yaa	ee			
ك	hamzah	Õ	これは次の三つの形で表されます： 1）線上　2）単独　3）アリフの上		

ـه	ファトハ	a
ي	カスラ	i
ه	ダンマ	u
يـ	シャッダ	子音の重複
و	スクーン	母音の欠如

日本語

www.tafseer.info jap@tafseer.info